

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の生活の実態や本市での暮らしの課題について幅広く把握し、合志市における今後のまちづくりを進めていくために必要な基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査設計

(1) 調査対象地域

合志市内全域

(2) 調査対象

18歳以上の市民 3,000人

(3) 調査対象者の抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

(4) 回収率

44.5% (回収数1336通、内無効票7通)

(5) 調査方法

郵送による配布、回収

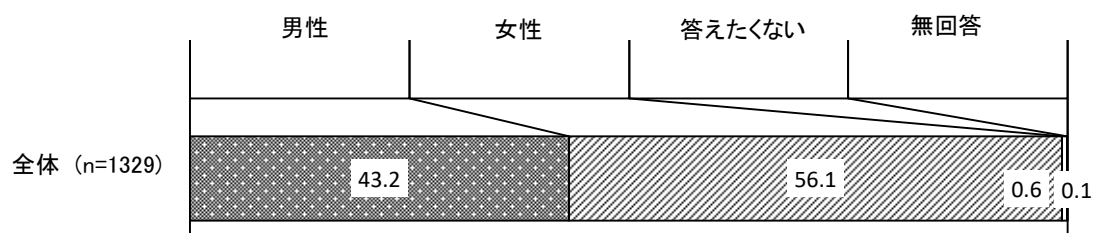
(6) 調査期間

令和2年4月24日～令和2年5月8日

3. 回答者の基本属性

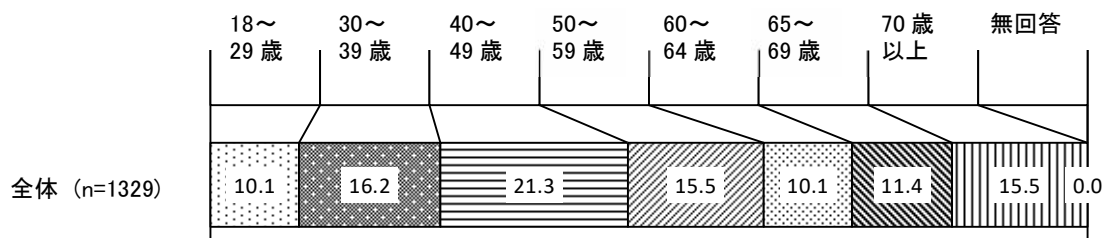
(1) 性別

- 「女性」が半数以上を占め、「男性」は4割と女性が上回っている。



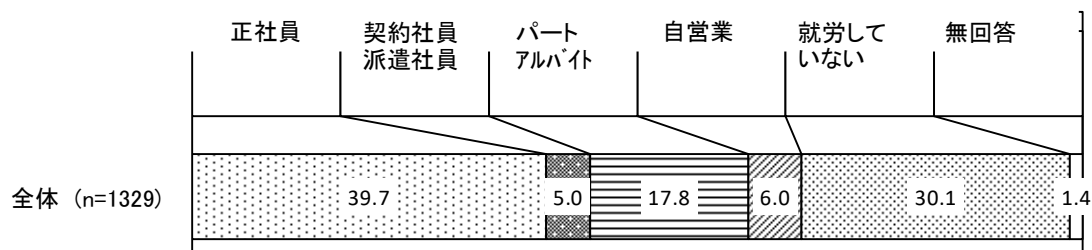
(2) 年齢

- 「40～49歳」が21.3%と最も多く、「30～39歳」が16.2%で続く。平成27年度の国勢調査結果と比較すると40代の割合が高く、20代以下の若い世代と70歳以上の高齢者の割合がやや少ない。



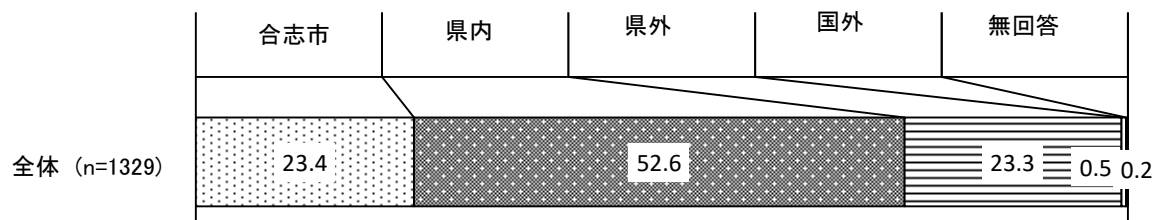
(3) 職業

- 「就労していない」が30.1%と7割弱が就労しており、「正社員」が39.7%、「パート、アルバイト」が17.8%となっている。



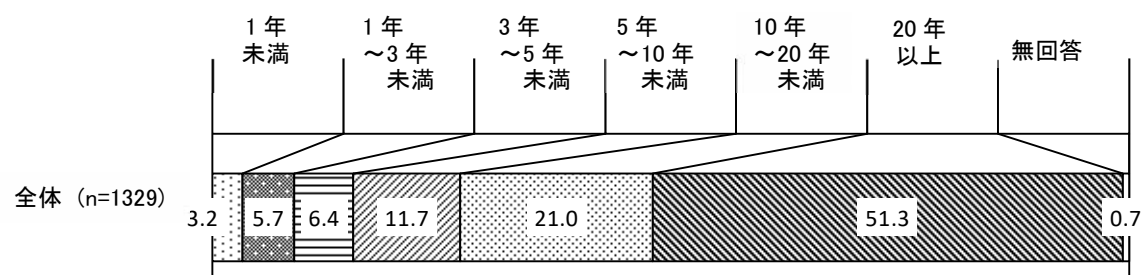
(4) 出身地

- 「県内」が半数を占め、「合志市」、「県外（国内）」出身者は2割である。



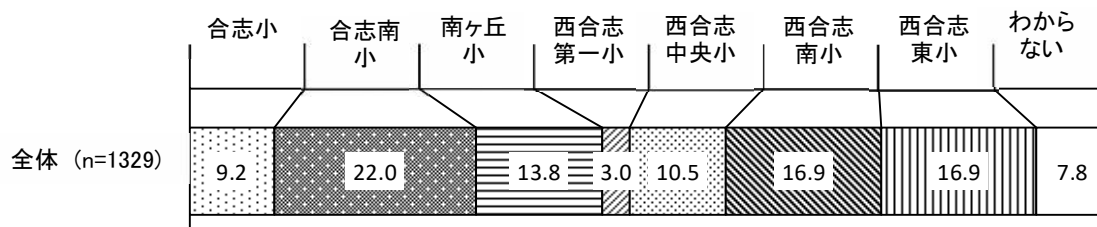
(5) 居住年数

- 「20年以上」が51.3%と半数を占める。



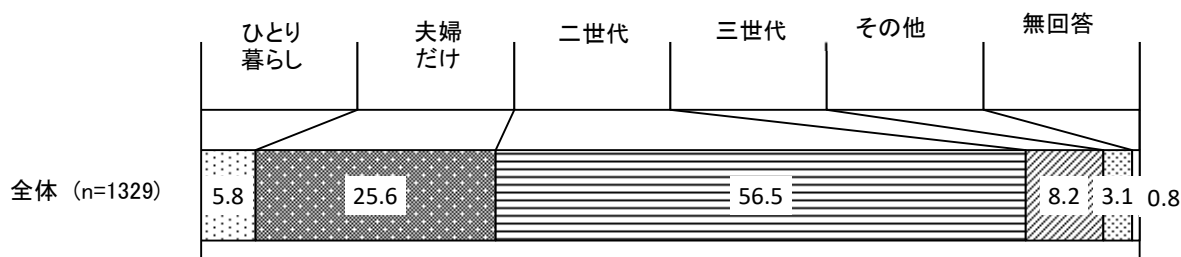
(6) 校区

- 「合志南小」が22.0%と最も多く、「西合志南小」「西合志東小」が16.9%で続く。「南ヶ丘小」は13.8%、「西合志中央小」は10.5%、「合志小」は9.2%となっている。なお「西合志第一小」は3.0%と少ないため、数値を見る際に注意が必要である。



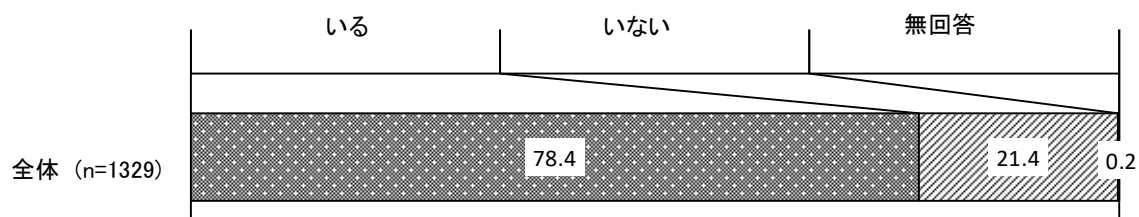
(7) 家族構成

- 「二世世代世帯（親と子）」が56.5%と半数以上を占め、「夫婦だけの世帯」が25.6%と続く。ひとり暮らし世帯は5.8%と少ない。



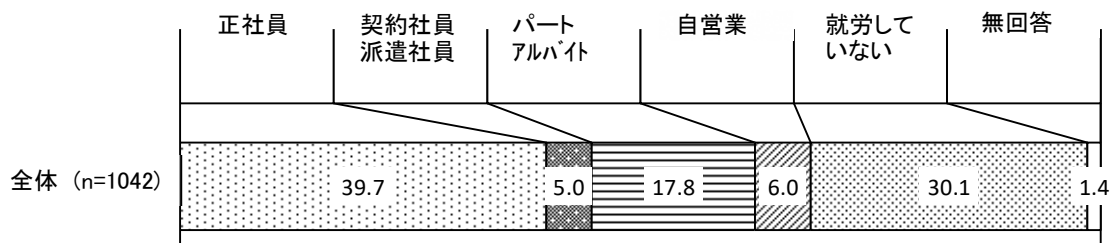
(8) 配偶者有無

- 「配偶者がいる」は78.4%と3分の2を占める。



(9) 配偶者の職業

- 配偶者がいる1042人のうち、配偶者がの職業では「正社員」が39.7%と最も多く、「パート、アルバイト」が17.8%で続く。「就労していない」は30.1%となっている。



<基本属性の比較>

		令和2年度調査 n=1329	平成31年度調査 n=1116	平成30年度調査 n=934	平成29年度調査 n=1135
性別	男	43.2	43.1	40.8	43.5
	女	56.1	56.0	58.0	55.8
	答えたくない	0.6	0.5	0.7	0.4
	無回答	0.1	0.4	0.4	0.3
年齢	18～29歳	10.1	8.6	10.4	8.7
	30～39歳	16.2	15.9	22.1	13.9
	40～49歳	21.3	20.9	24.0	16.7
	50～59歳	15.5	14.2	20.6	12.6
	60～64歳	10.1	12.9	17.9	9.4
	65～69歳	11.4	13.7	4.4	14.0
	70歳以上	15.5	13.5	0.5	24.3
	無回答	0.0	0.3	0.2	0.3
自身の職業	正社員	39.7	36.3	42.9	30.7
	契約・派遣社員	5.0	5.4	5.9	5.2
	パート・アルバイト	17.8	16.8	19.0	13.5
	自営業	6.0	6.6	8.1	8.3
	就労していない	30.1	33.9	22.3	39.4
	無回答	1.4	1.1	1.8	2.9
	合志市	23.4	22.7	24.3	20.9
出身地	県内	52.6	54.9	53.6	54.7
	県外(国内)	23.3	22.0	21.3	23.7
	国外	0.5			
	無回答	0.2	0.4	0.7	0.7
	居住年数	1年未満	3.2	3.4	4.9
1～3年未満		5.7	4.0	7.5	6.1
3～5年未満		6.4	4.7	6.5	4.4
5～10年未満		11.7	9.9	13.1	8.5
10～20年未満		21.0	22.9	20.4	20.1
20年以上		51.3	54.6	47.3	57.4
無回答		0.7	0.4	0.2	0.4
校区	合志小	9.2	8.8	8.4	8.0
	合志南小	22.0	20.5	20.4	22.5
	南ヶ丘小	13.8	14.4	12.3	13.6
	西合志第一小	3.0	2.2	2.0	2.3
	西合志中央小	10.5	11.7	11.3	10.5
	西合志南小	16.9	14.2	15.2	14.9
	西合志東小	16.9	20.1	21.1	17.9
	わからない	7.8	8.1	9.2	10.4
	家族構成	ひとり暮らし	5.8	5.9	4.0
夫婦だけ		25.6	28.1	21.5	27.3
二世帯		56.5	55.1	62.2	50.5
三世帯		8.2	7.6	8.4	10.7
その他		3.1	3.0	3.5	3.9
無回答		0.8	0.2	0.4	1.3
配偶者	いる	78.4	76.0	77.6	75.3
	いない	21.4	23.5	22.1	23.7
	無回答	0.2	0.5	0.3	1.0
配偶者の職業	正社員	40.3	37.7	42.9	32.6
	契約・派遣社員	4.7	5.3	5.9	2.8
	パート・アルバイト	16.6	15.2	19.0	12.2
	自営業	7.9	7.9	8.1	8.7
	就労していない	27.7	30.7	22.3	39.1
	無回答	2.8	3.2	1.8	4.7

※平成30年度は国勢調査結果と比較して、65歳以上の高齢者の割合が4.9%と極端に低く、若い年齢層の回答者が多かったことから、結果を比較する際には注意が必要である。

II 調查結果

◆日常生活について

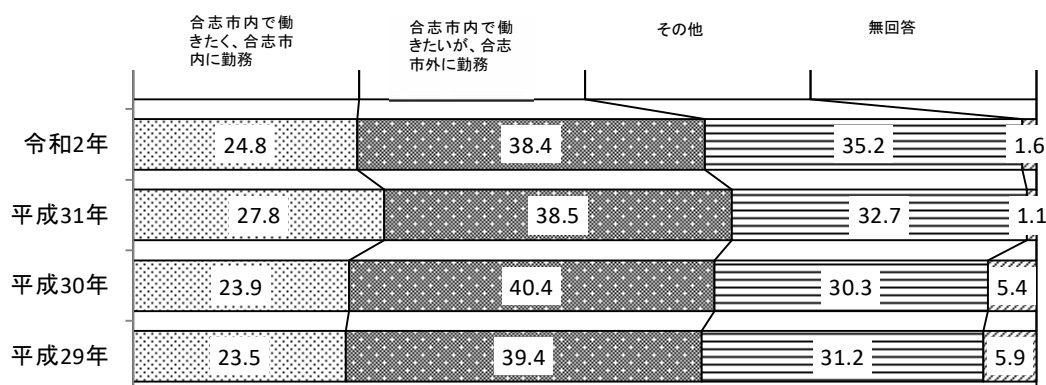
1. 職場について

(1) 働く場所（問10）

あなたは、合志市内で働きたいと思いますか。また合志市内で勤務していますか。

自営業以外で働いている830人について、合志市内での就労意向と実際の勤務状況を見たところ、合志市内で働きたいと思っている人は63.2%と6割以上を占めている。しかしながら実際に市内に勤務している人は、全体の24.8%にとどまり、市内で働きたいと思っている人の半数以下である。

昨年度と比較しても大きな変化はないが、合志市内で働きたいと思っており、市内に勤務している人はやや減少している。

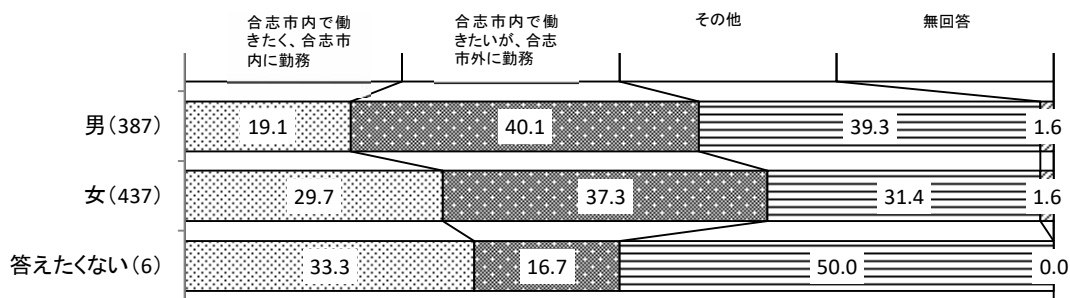


※平成30年調査までは今回の選択肢に加え「合志市内で働きたいと思っていないが、合志市内に勤務している」「合志市内で働きたいとは思ってはならず、合志市外に勤務している」があったが、比較するためにこれらを「その他」としてまとめた。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 合志市内で働きたいと思っており、合志市内に勤務している	206	24.8	181	27.8	151	23.9	132	23.5
2 合志市内で働きたいとは思っているが、合志市外に勤務している	319	38.4	251	38.5	256	40.4	221	39.4
3 その他	292	35.2	213	32.7	192	30.3	175	31.2
4 無回答	13	1.6	7	1.1	34	5.4	33	5.9
合計	830	100.0	652	100.0	633	100.0	561	100.0

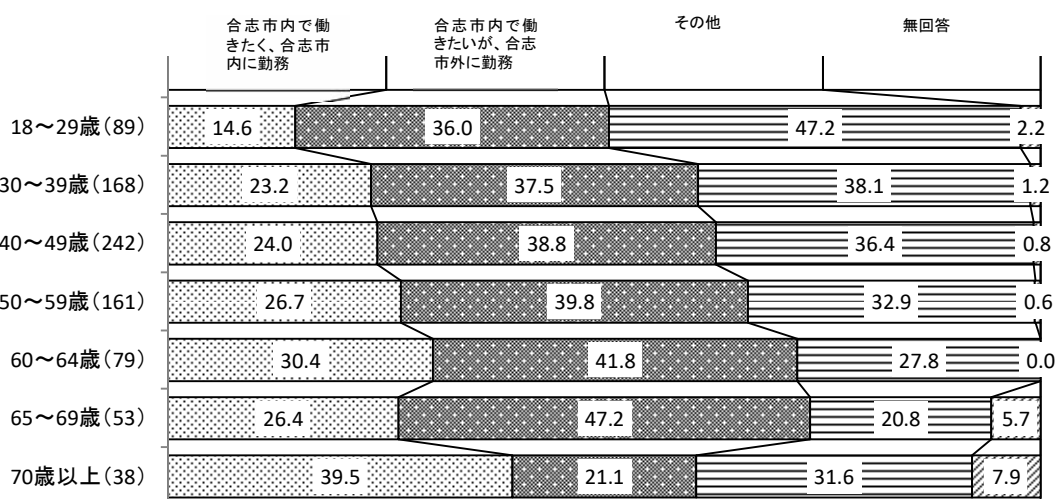
【性別】

- 合志市内で働きたいと思っている人は、男性 59.2%に対し、女性 67.0%と女性の方が高い。
- また実際に合志市内で勤務している割合も男性 19.1%、女性 29.7%と女性の方が高い。
- 合志市内で働きたいが市外に勤務している割合は4割前後と男女であまり差がない。
- 前回調査と大きな違いは見られない。



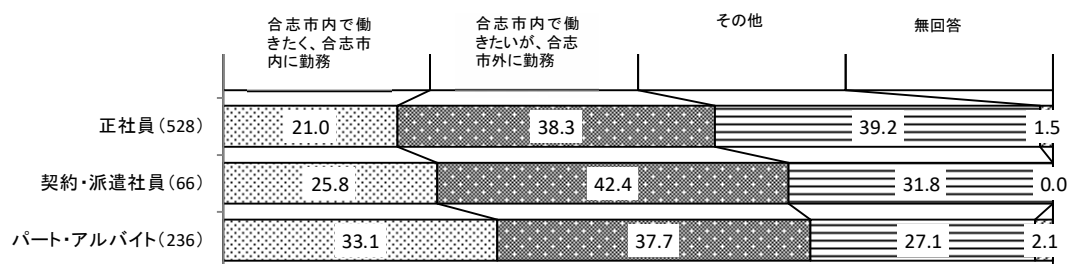
【年齢】

- 年齢が高くなるほど、合志市内で働きたいと考える人は増える傾向が見られ、20代以下の若い層では50.6%だが、30代では60.7%と6割、60歳以上では7割を超えている。
- しかしながら、実際に合志市内で勤務している人は70歳以上で39.5%と高いが、他の年代ではいずれも合志市外で勤務している人が市内で勤務している人を上回っている。



【職業】

- 合志市内で働きたいと思っている割合は、正社員 59.3%、契約・派遣社員 68.2%、パート・アルバイト 70.8%となっており、非正規雇用で働いている人の方が市内で働きたいという意向を持つ人は多い傾向が見られる。
- 実際に合志市内に勤務している割合は、パート・アルバイトが 33.1%と最も高く、契約・派遣社員 25.8%、正社員 21.0%である。
- 市内で働きたいと思っている人の半数以上が市外に勤務している状況となっている。

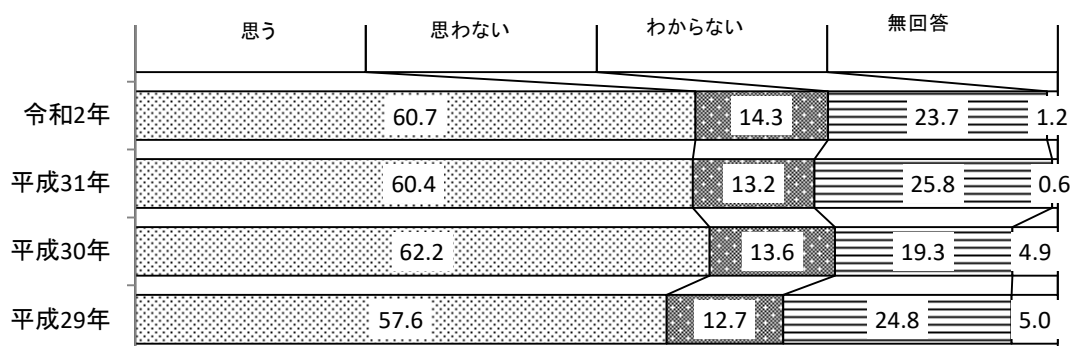


(2) 継続勤務意向 (問 1 1)

あなたは、今の職場で今後も継続して働き続けたいと思いますか？

今後も今の職場で働きたいと思っている人は60.7%と6割を占めている。働きたいと思わない人は14.3%で、わからないが23.7%となっている。

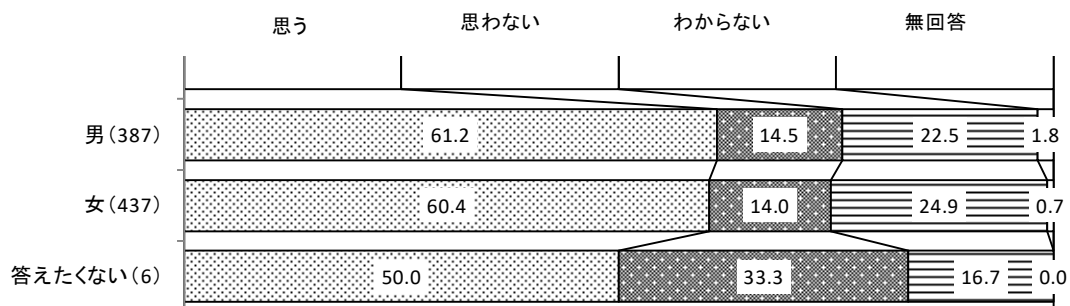
昨年度と比較しても大きな違いはない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 思う	504	60.7	394	60.4	394	62.2	323	57.6
2 思わない	119	14.3	86	13.2	86	13.6	71	12.7
3 わからない	197	23.7	168	25.8	122	19.3	139	24.8
4 無回答	10	1.2	4	0.6	31	4.9	28	5.0
合計	830	100.0	652	100.0	633	100.0	561	100.0

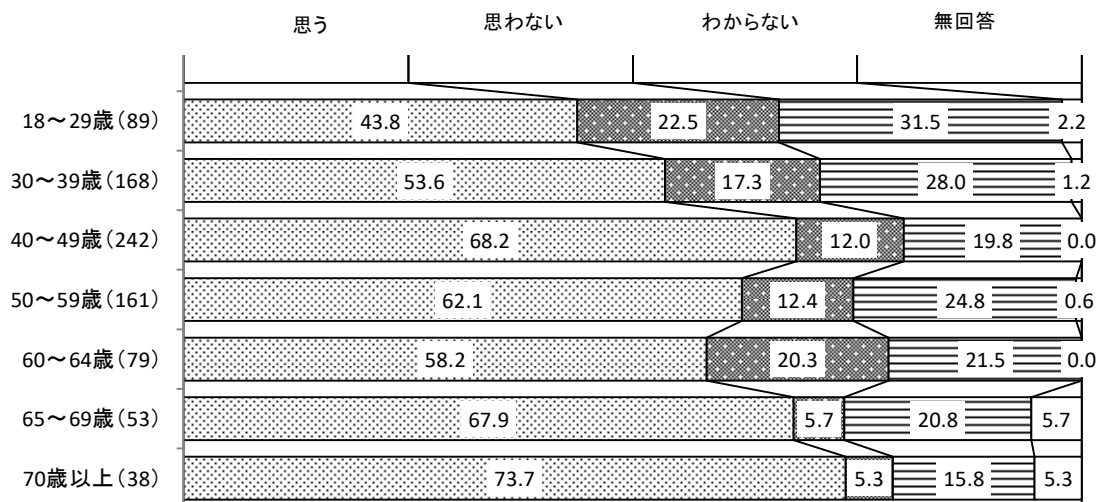
【性別】

●男女で大きな違いは見られない。



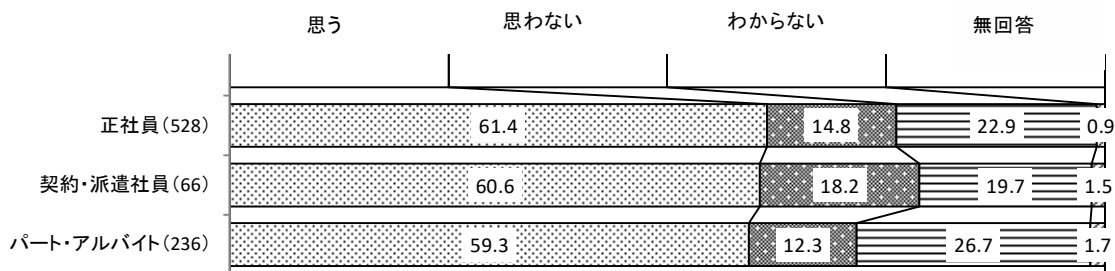
【年齢別】

- 今の職場で働き続けたいという割合は、20代以下の若い層では43.8%と低いが、他の年代では半数以上を占めており、40代以上では6割を超えている。
- 昨年度と比較して、20代以下の若い層で、今の職場で働き続けたいと思っている割合が減少している。一方で65歳以上の高齢者では10ポイント程度高くなっている。



【職業】

- 今の職場で働き続けたいと思っている割合は、職業によって大きな違いは見られないが、思わない割合は契約・派遣社員で若干高い。

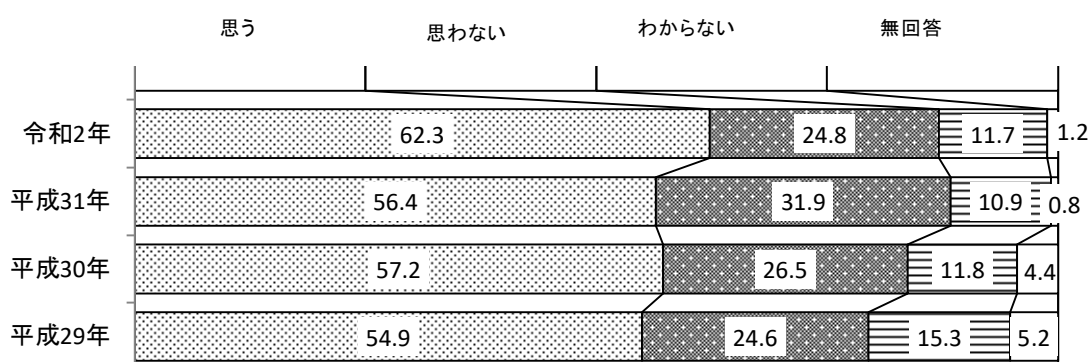


(3) 福利厚生（問12）

あなたの職場の福利厚生は、十分だと思いますか？

職場の福利厚生が十分だと「思う」割合は62.3%と6割を超え、「思わない」は24.8%となっている。

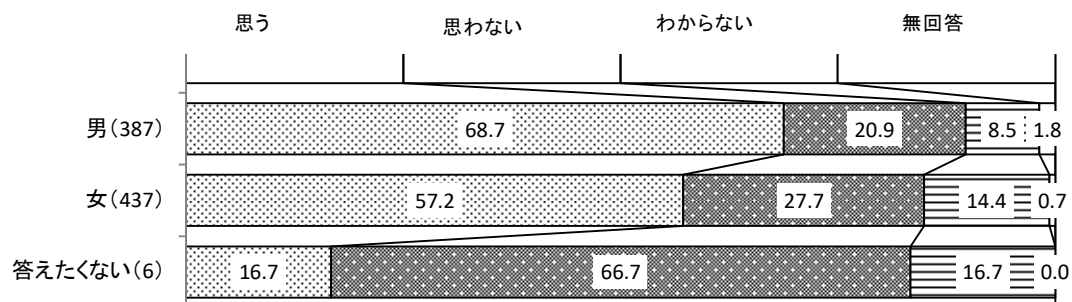
昨年度と比較して「思う」という割合は6ポイント増えている。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 思う	517	62.3	368	56.4	362	57.2	308	54.9
2 思わない	206	24.8	208	31.9	168	26.5	138	24.6
3 わからない	97	11.7	71	10.9	75	11.8	86	15.3
4 無回答	10	1.2	5	0.8	28	4.4	29	5.2
合計	830	100.0	652	100.0	633	100.0	561	100.0

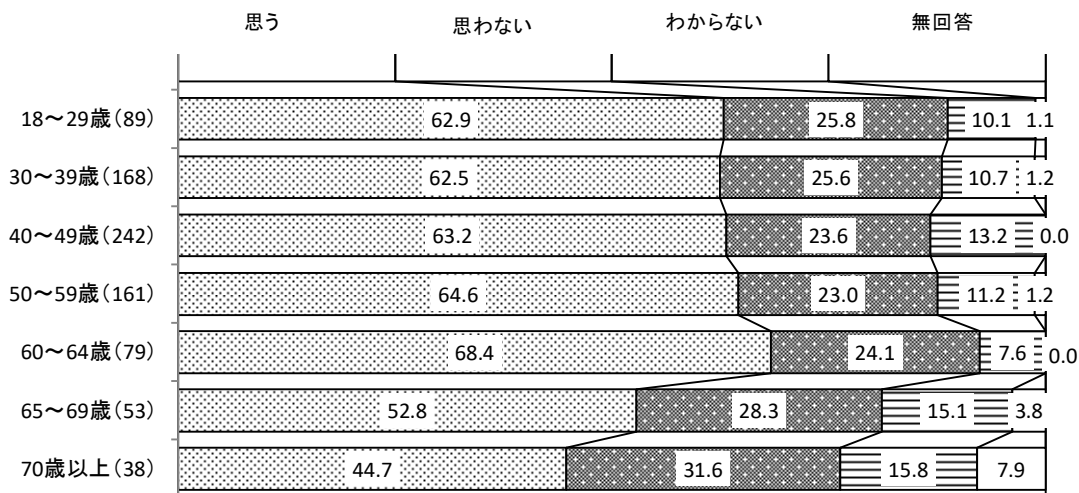
【性別】

- 現在の職場の福利厚生が十分だと思っている割合は、男性7割弱、女性6割弱と男性の方が高い傾向が見られる。女性では3割弱が十分だと思っていない。



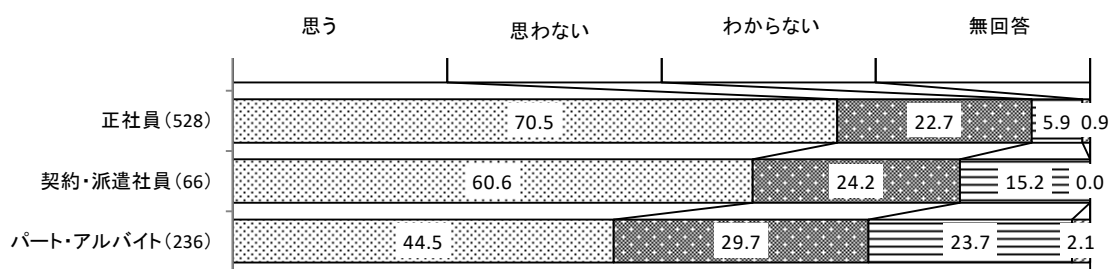
【年齢別】

- 64 歳以下では 6 割以上が現在の職場の福利厚生が十分だと思っているが、65 歳以上の高齢者では半数前後とやや低い。これは高齢者では正社員の割合が低いことによると考えられる。



【職業】

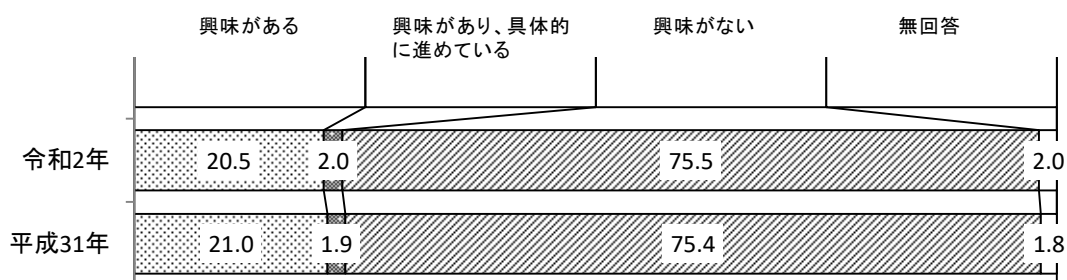
- 正社員では 7 割、契約・派遣社員では 6 割が、現在の職場の福利厚生は十分だと思っているが、パート・アルバイトでは 44.5%と低い。しかしながら、昨年度と比較するとパート・アルバイトで十分だと思っている割合は 10 ポイント増加している。



(4) 起業について (問9)

あなたは、起業に興味がありますか。

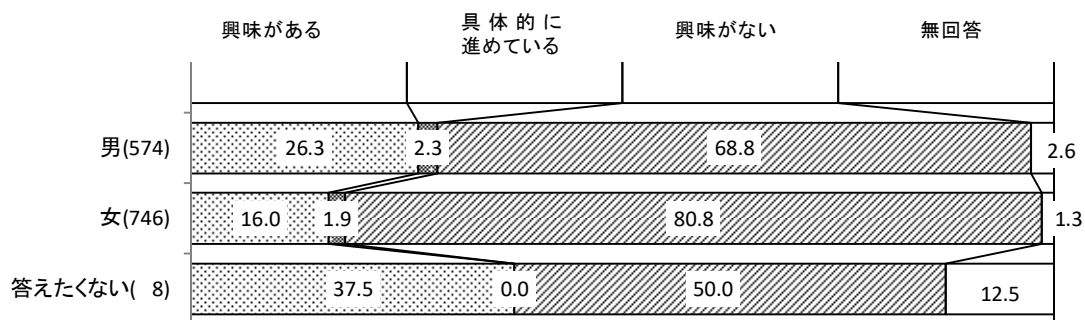
起業に興味がある人は、全体の22.5%となっており、興味がないが4分の3を占めている。興味があり具体的に進めているという人は2.0%にとどまり、昨年度とほとんど変わっていない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 起業に興味がある	273	20.5	234	21.0
2 起業に興味があり、具体的に進めている	27	2.0	21	1.9
3 起業に興味がない	1003	75.5	841	75.4
4 無回答	26	2.0	20	1.8
合計	1329	100.0	1116	100.0

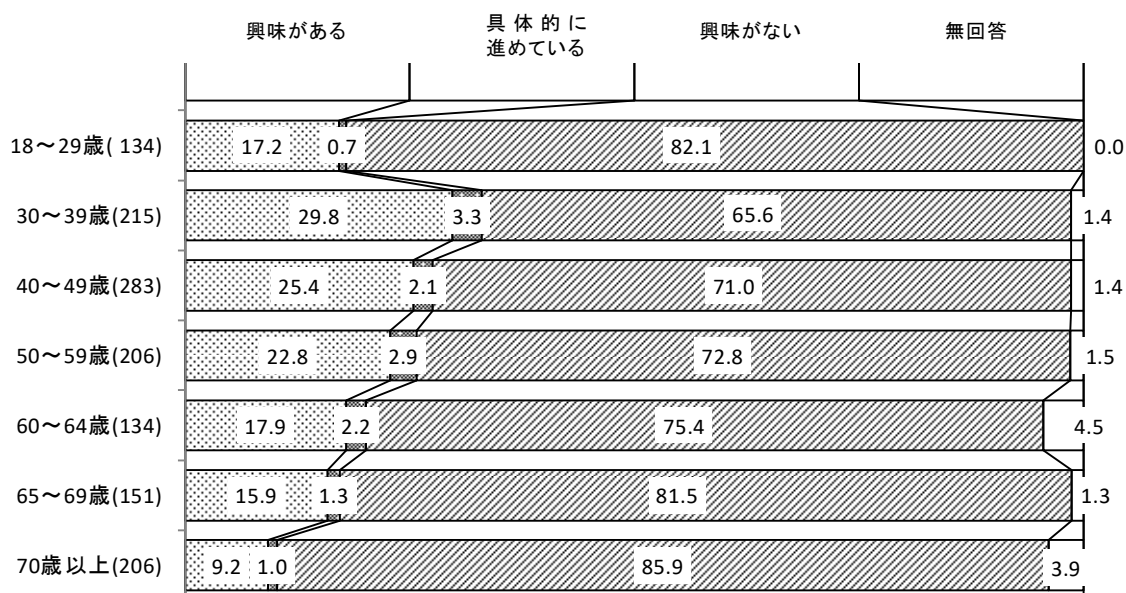
【性別】

- 起業に興味がある人の割合は男性の方が高く、男性では28.6%と女性の17.9%を上回っている。具体的に進めている割合は、男性2.3%に対し、女性1.9%である。
- 昨年度からほとんど変わっていない。



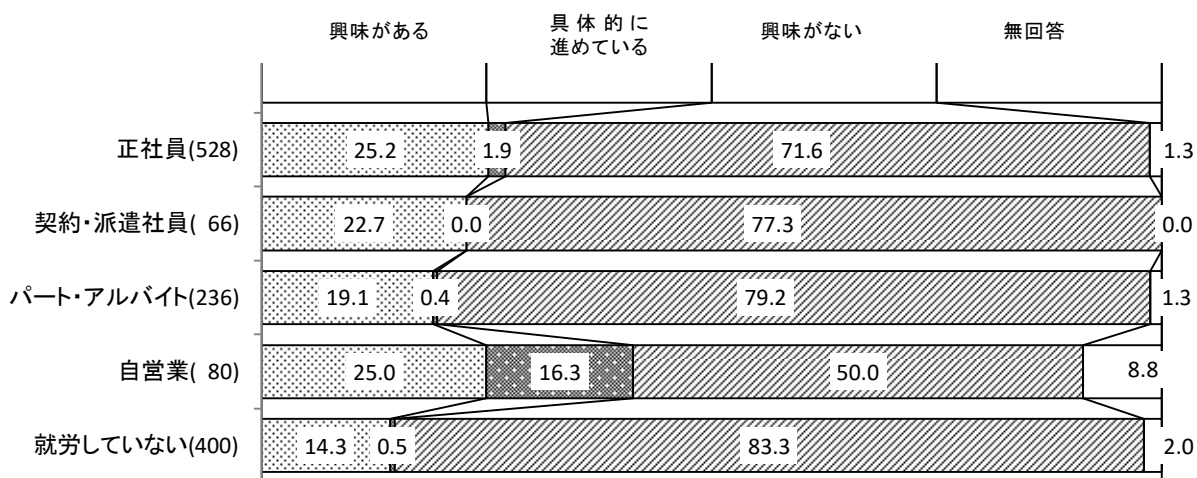
【年齢別】

- 起業に興味がある人の割合は、30代で33.1%と最も高く、40代27.5%、50代25.7%と年齢とともに減少する傾向となっている。
- 昨年度と比較して30代では興味がある人の割合は若干増加している。



【職業別】

- 起業への関心は就労している人の方が高く、自営業では41.3%、正社員では27.1%が関心を持っている。特に自営業では具体的に進めているという割合も16.3%見られた。



2. 地域活動等への参加について

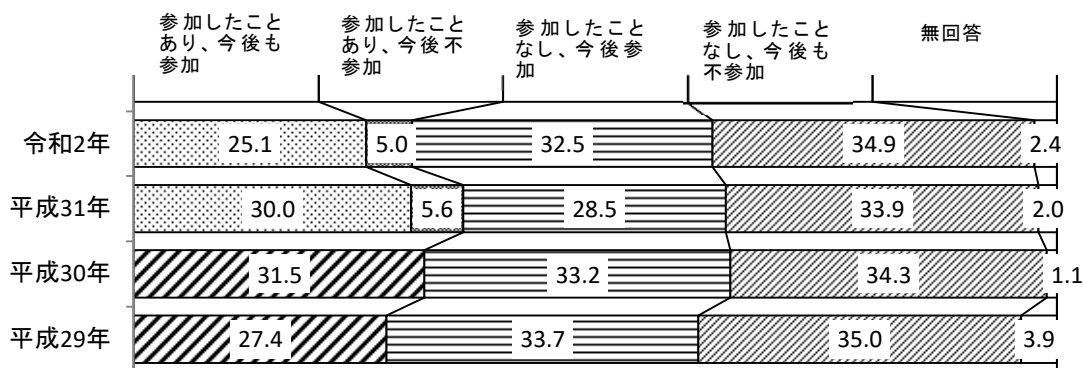
(1) 地域活動への参加（問16）

あなたは過去1年以内に、地域の活動やボランティア活動、NPO活動などに参加しましたか？また、今後参加したいと思いますか？

過去1年以内に、地域の活動やボランティア活動、NPO活動などに参加した人（「参加したことがあり、今後も参加したい」＋「参加したことはあるが、今後は参加しない」）は30.1%となっており、参加したことがないという人（参加したことはないが、今後は参加したい）＋「参加したこともなく、今後も参加したくない」が67.4%と7割弱を占めている。

しかしながら、今後参加したいと考えている人（「参加したことがあり、今後も参加したい」＋「参加したことはないが、今後は参加したい」）は57.6%と参加意向がない人（「参加したことはあるが、今後は参加しない」＋「参加したこともなく、今後も参加したくない」）の39.9%を上回っている。

昨年度までと比較して参加経験者はやや減少しているものの、今後参加したいと考えている割合に変化はない。

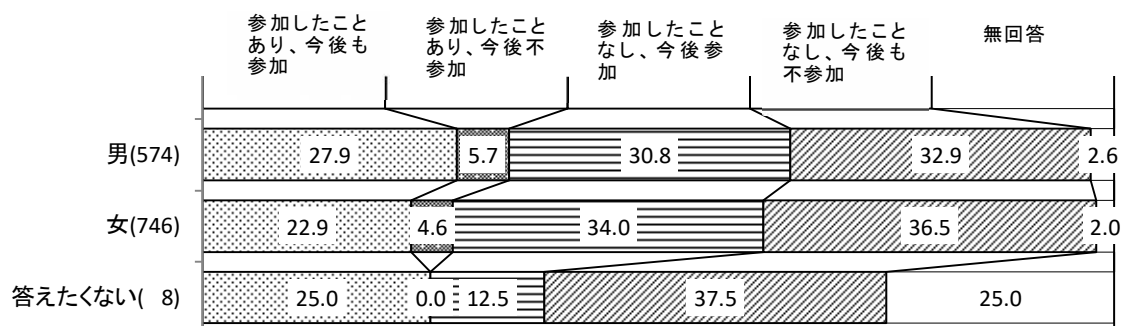


※平成30年までの選択肢は「参加したことがある、または現在参加している」「参加したことはないが、今後参加したい」「参加したこともなく、今後も参加したくない」であったため、今後の参加意向については比較に注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 参加したことがあり、今後も参加したい	334	25.1	335	30.0	294	31.5	311	27.4
2 参加したことはあるが、今後は参加しない	67	5.0	63	5.6				
3 参加したことはないが、今後は参加したい	432	32.5	318	28.5	310	33.2	383	33.7
4 参加したこともなく、今後も参加したくない	464	34.9	378	33.9	320	34.3	397	35.0
5 無回答	32	2.4	22	2.0	10	1.1	44	3.9
	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

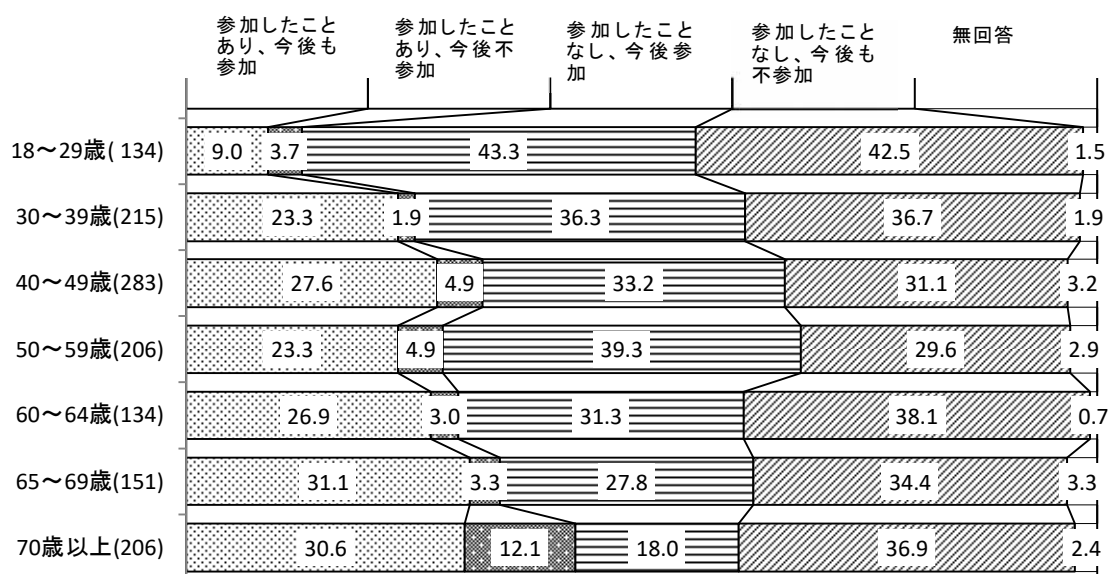
【性別】

- 参加したことがある人は、男性 33.6%、女性 27.5%と男性の方がやや多い。男女ともに前回よりやや減少している。
- 今後の参加意向がある人は、男性 58.7%、女性 56.9%とほぼ同率となっており、前回から変わっていない。



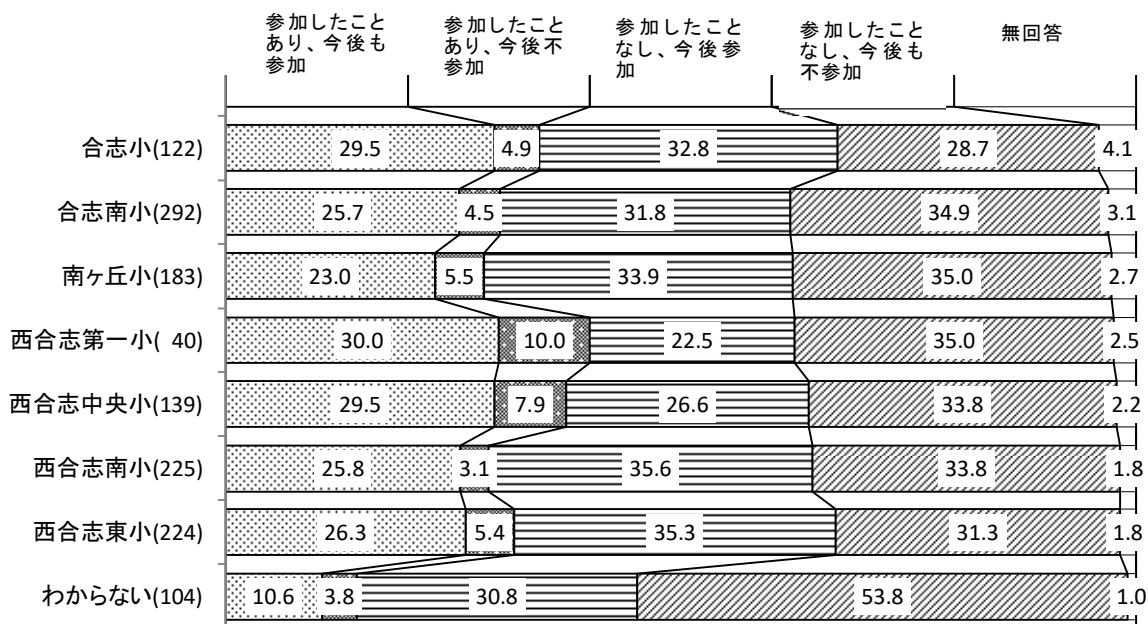
【年齢別】

- 参加経験者は年齢とともに増える傾向が見られる。20代以下では 12.7%だが、40代及び65歳以上の高齢者では3割を超えている。
- 今後の参加意向については、30代～50代では6割が参加したいと考えており、参加経験が低かった20代以下の若い層でも52.3%と半数を超えている。



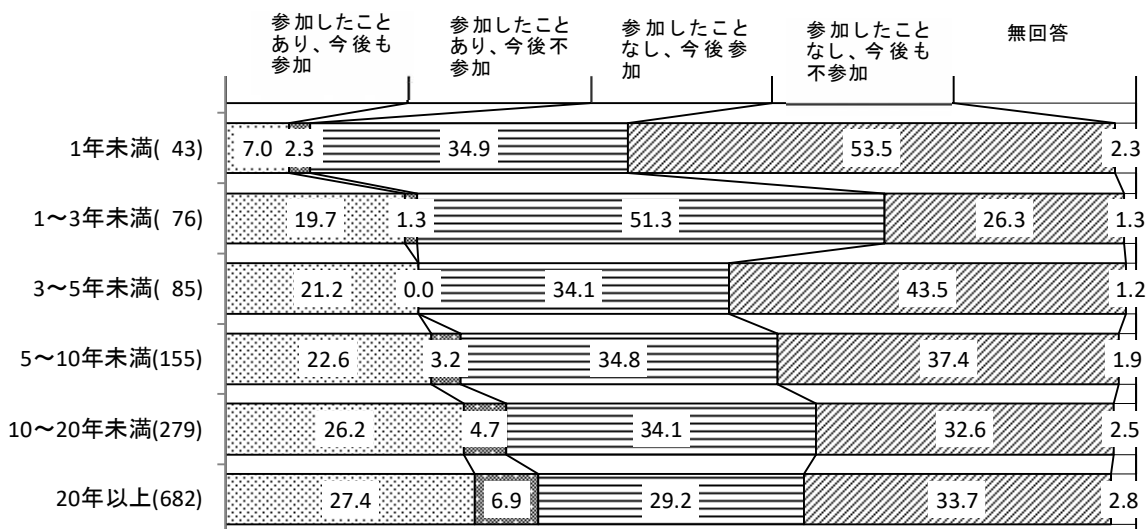
【校区别】

- 参加経験者の割合は、西合志第一小 40.0%、西合志中央小 37.4%と高く、他の校区も3割前後を占めている。(西合志第一小は回答者数が他よりも少ないので注意が必要)
- 今後の参加意向がある人はすべての校区で半数以上を占め、合志小、西合志南小、西合志東小では6割を超えている。



【居住年数別】

- 居住年数が高いほど参加経験者は増える傾向となっており、20年以上では34.3%となっている。
- 今後の参加意向については、1年以上では半数以上が参加したいとしている。



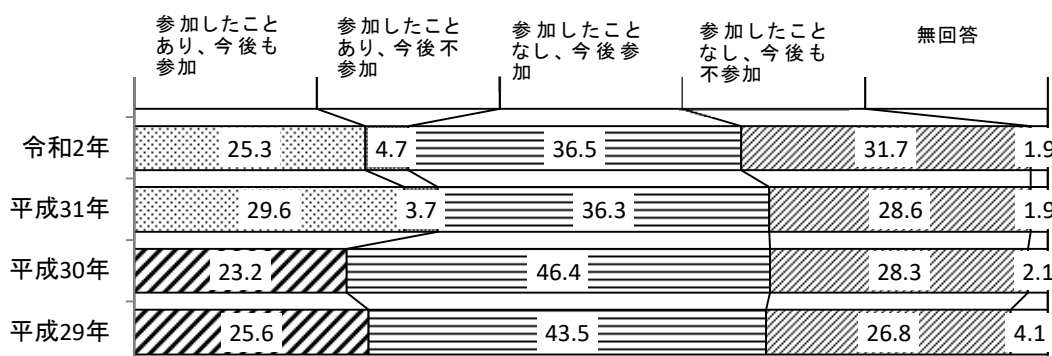
(2) 市のイベント等への参加（問17）

あなたは過去1年以内に、市が行う説明会や行事、イベントなどに参加しましたか？また、今後参加したいと思いますか？

過去1年以内に、市が行う説明会や行事、イベントなどに参加した人（「参加したことがあります、今後も参加したい」＋「参加したことはあるが、今後は参加しない」）は30.0%となっており、参加したことがないという人（参加したことはないが、今後は参加したい）＋「参加したこともなく、今後も参加したくない」が68.2%と7割弱を占めている。

しかしながら、今後参加したいと考えている人（「参加したことがあります、今後も参加したい」＋「参加したことはないが、今後は参加したい」）は61.8%と参加意向がない人（「参加したことはあるが、今後は参加しない」＋「参加したこともなく、今後も参加したくない」）の36.4%を上回っている。

昨年度と比較して参加経験者はやや減少しているものの、今後の参加意向は変わらない。

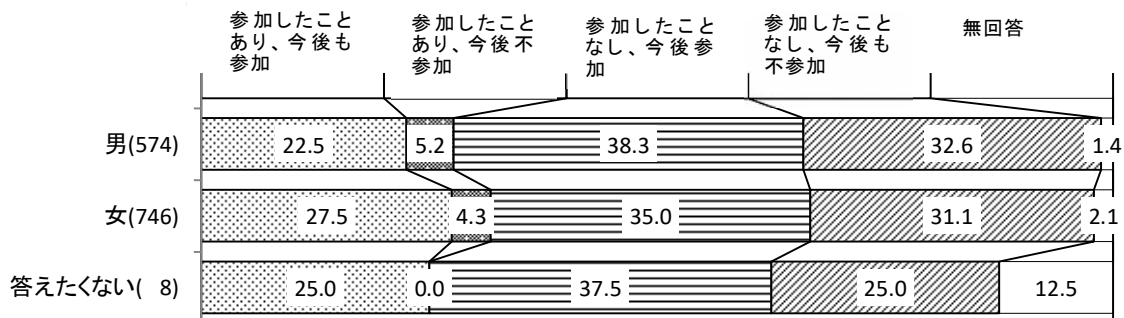


※昨年までの選択肢は「参加したことがある、または現在参加している」「参加したことはないが、今後参加したい」「参加したこともなく、今後も参加したくない」であったため、今後の参加意向については比較に注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 参加したことがあります、今後も参加したい	336	25.3	330	29.6	217	23.2	291	25.6
2 参加したことはあるが、今後は参加しない	62	4.7	41	3.7				
3 参加したことはないが、今後は参加したい	485	36.5	405	36.3	433	46.4	494	43.5
4 参加したこともなく、今後も参加したくない	421	31.7	319	28.6	264	28.3	304	26.8
5 無回答	25	1.9	21	1.9	20	2.1	46	4.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

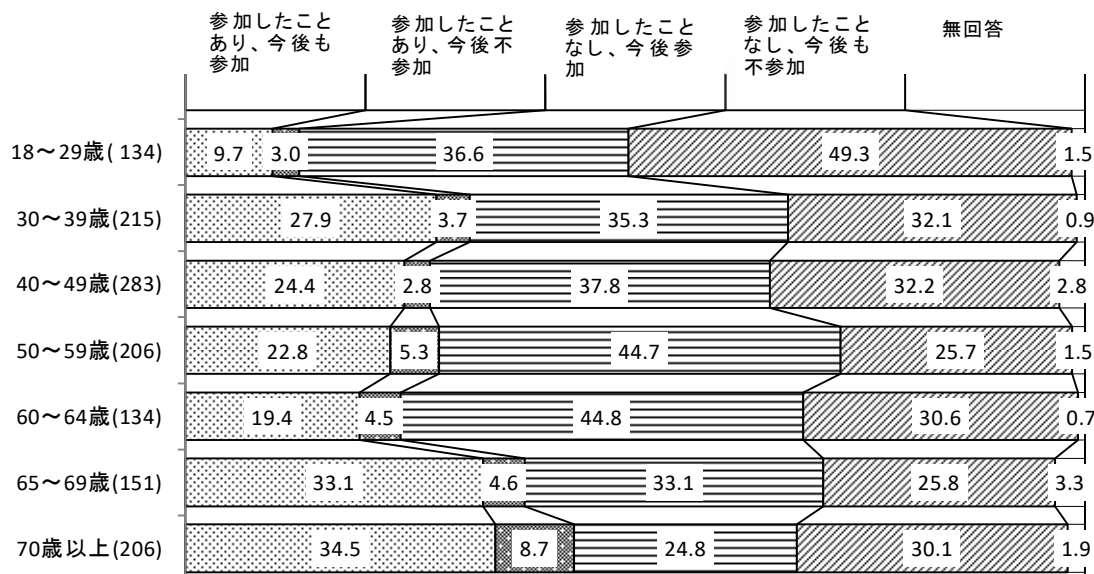
【性別】

- 参加したことがある人は、男性 27.7%、女性 31.8%と女性の方がやや多い。男女ともに前回よりやや減少している。
- 今後の参加意向がある人は、男性 60.8%、女性 62.5%と前回よりやや減少している。



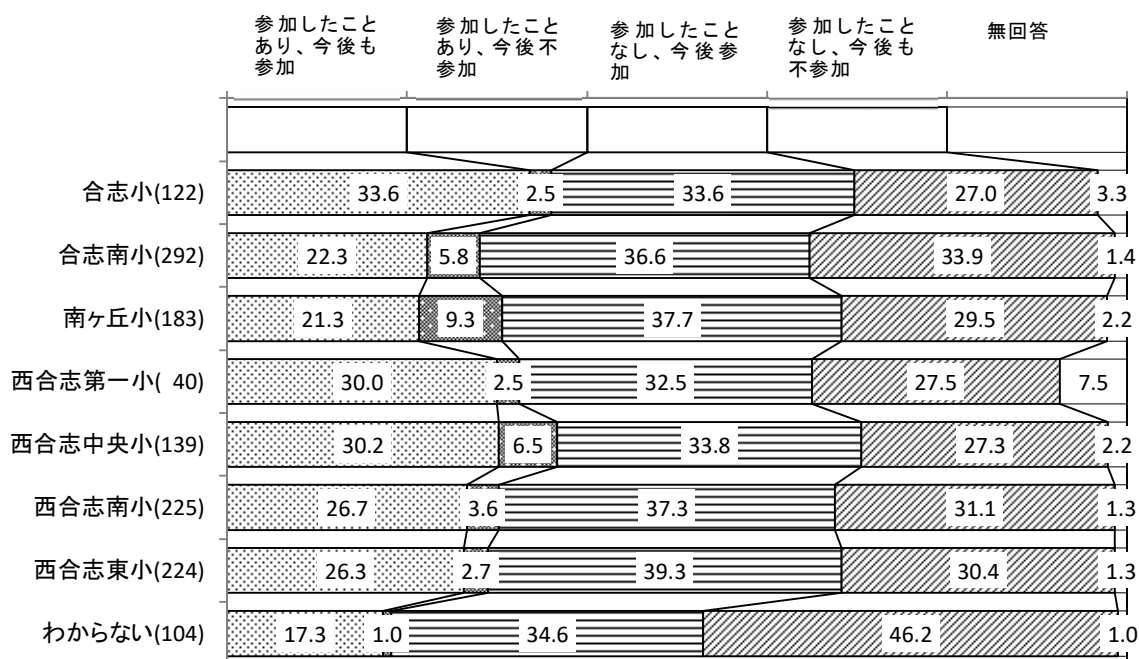
【年齢別】

- 参加したことがある人は 20 代以下の若い層では 1 割と低く、30 代～50 代までは 3 割前後となっている。65 歳以上の高齢者では 4 割前後に参加経験がある。
- 今後の参加意向がある人は、最も低い 20 代以下の若い層では 46.3%となっており、他の年代では 6 割前後と高い。
- 前回と比較して、ほとんどすべての年代で参加経験者はやや減少しており、今後の参加意向についても減少傾向が見られる。



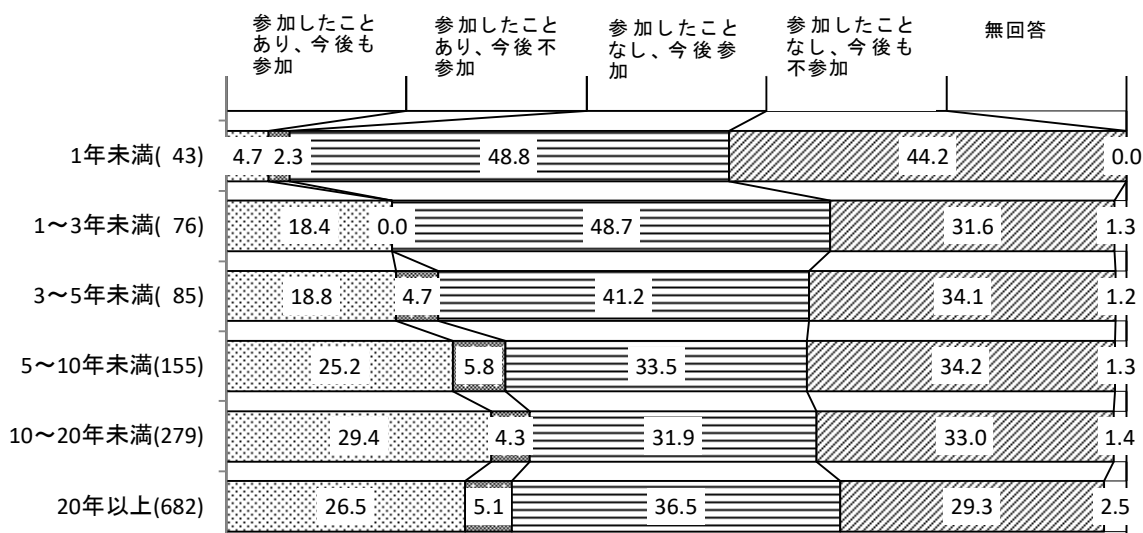
【校區別】

- 参加経験者はいずれの校区でも3割前後となっている。(ただし西合志第一小は回答者数が他よりも少ないので注意が必要)
- 今後の参加意向については、いずれの校区についても参加意向がある人が6割を占めている。



【居住年数別】

- 参加経験者は居住年数が長くなるにしたがって増える傾向が見られ、5年以上では3割を超えている。
- 今後の参加意向がある人の割合は、居住年数に関係なく、半数以上となっている。



3. 子育てについて

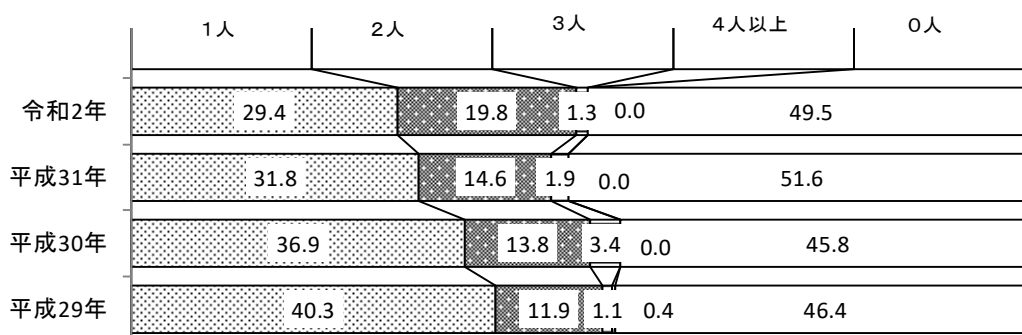
(1) 子どもの数 (問13)

中学生以下のお子様は何人いますか？

中学生以下の子どもがいる394人のうち、就学前の子どもがいる人は50.5%、そのうち「1人」が29.4%。小学生の子どもがいる人は58.0%、そのうち「1人」が38.1%。中学生の子どもがいる人は27.2%、そのうち「1人」が24.4%である。

昨年度と比較すると、中学生の子どもがいる割合が5.9ポイント低い。

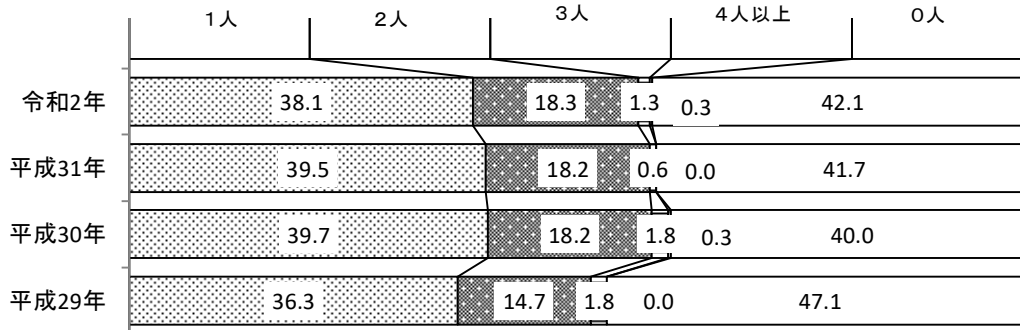
<就学前の子ども>



【就学前】

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 0人	195	49.5	162	51.6	149	45.8	129	46.4
2 1人	116	29.4	100	31.8	120	36.9	112	40.3
3 2人	78	19.8	46	14.6	45	13.8	33	11.9
4 3人	5	1.3	6	1.9	11	3.4	3	1.1
5 4人以上	-	-	-	-	-	-	1	0.4
6 無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	394	100.0	314	100.0	325	100.0	278	100.0

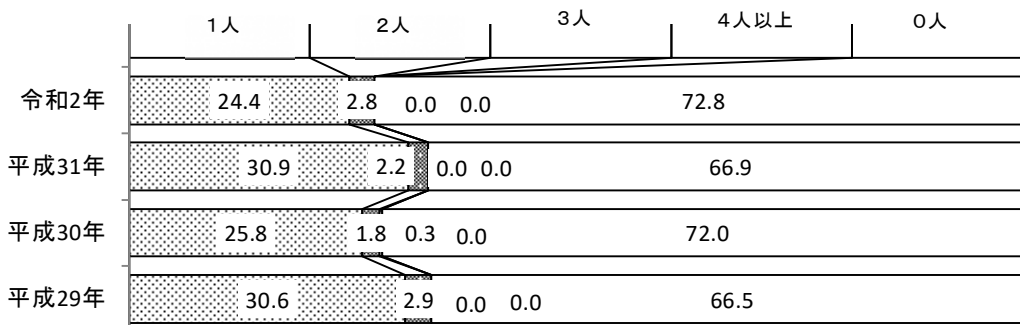
<小学生の子ども>



【小学生】

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 0人	166	42.1	131	41.7	130	40.0	131	47.1
2 1人	150	38.1	124	39.5	129	39.7	101	36.3
3 2人	72	18.3	57	18.2	59	18.2	41	14.7
4 3人	5	1.3	2	0.6	6	1.8	5	1.8
5 4人以上	1	0.3	-	-	1	0.3	-	-
6 無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	394	100.0	314	100.0	325	100.0	278	100.0

<中学生の子ども>



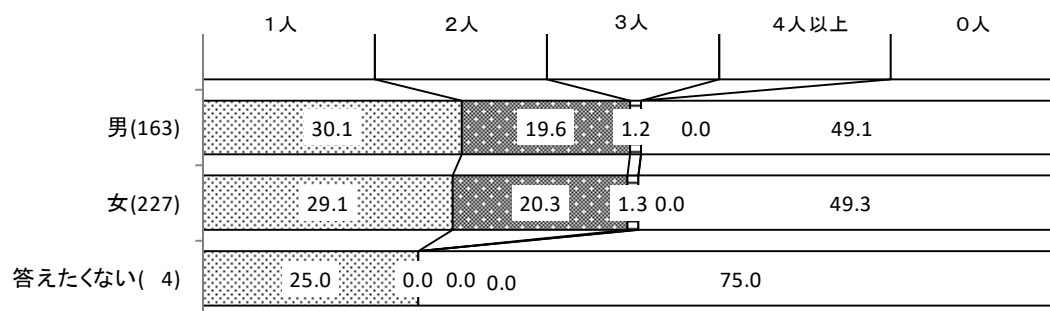
【中学生】

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 0人	287	72.8	210	66.9	234	72.0	185	66.5
2 1人	96	24.4	97	30.9	84	25.8	85	30.6
3 2人	11	2.8	7	2.2	6	1.8	8	2.9
4 3人	-	-	-	-	1	0.3	-	-
5 4人以上	-	-	-	-	-	-	-	-
6 無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	394	100.0	314	100.0	325	100.0	278	100.0

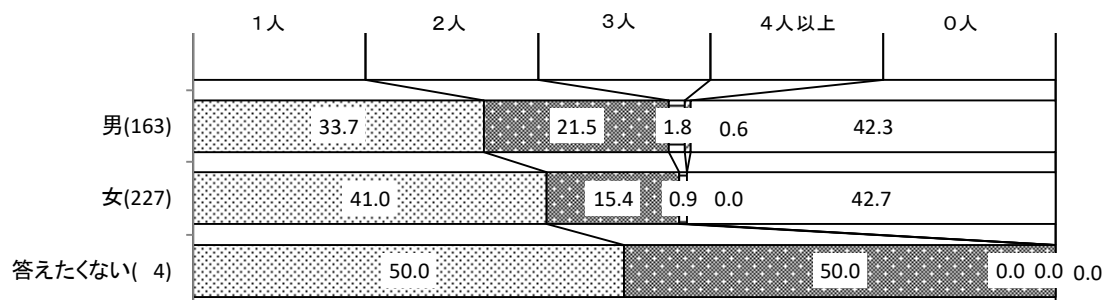
【性別】

●男女で大きな差は見られない。

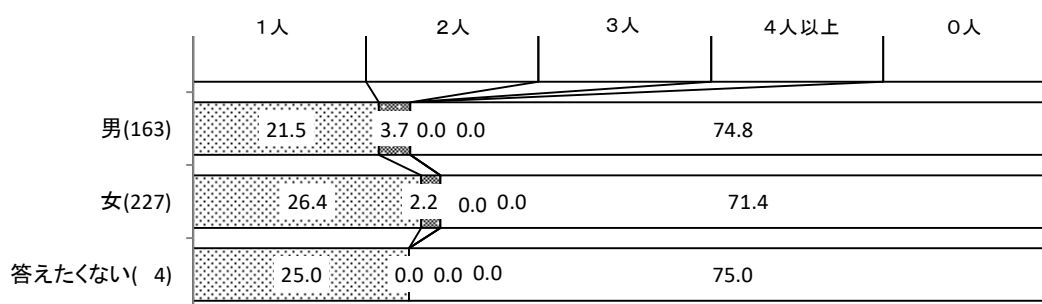
<就学前の子ども>



<小学生の子ども>



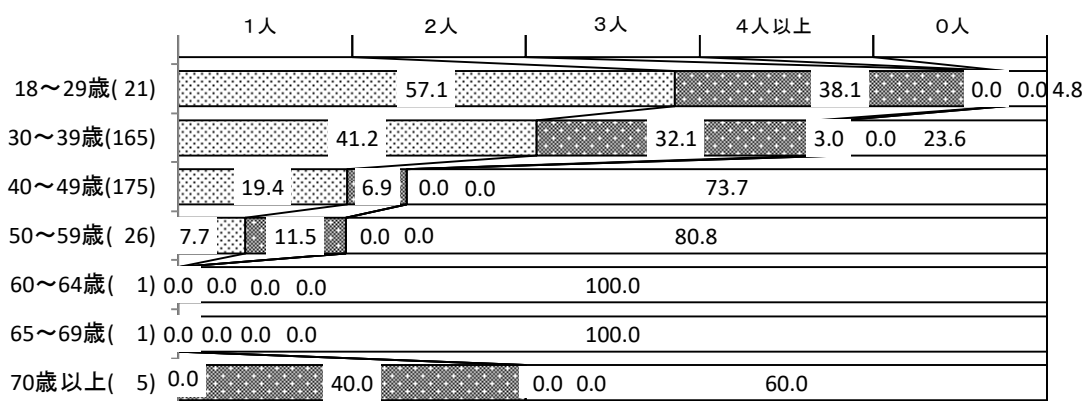
<中学生の子ども>



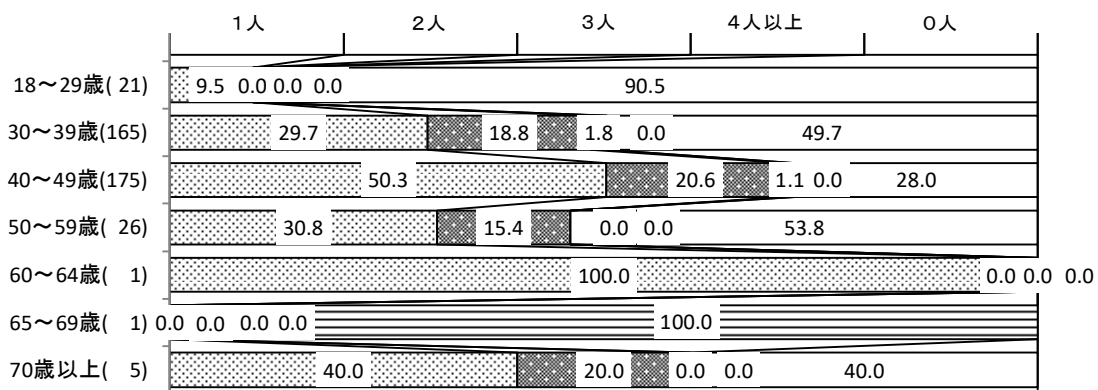
【年齢別】

- 就学前の子どもがいるのは20代、30代が多く、20代の95.2%、30代の73.3%となっている。
- 小学生の子どもがいるのは40代が70.6%と最も多く、30代48.5%、50代46.2%も多く見られる。
- 中学生の子どもは50代が57.7%と最も多く、40代も41.1%と多い。

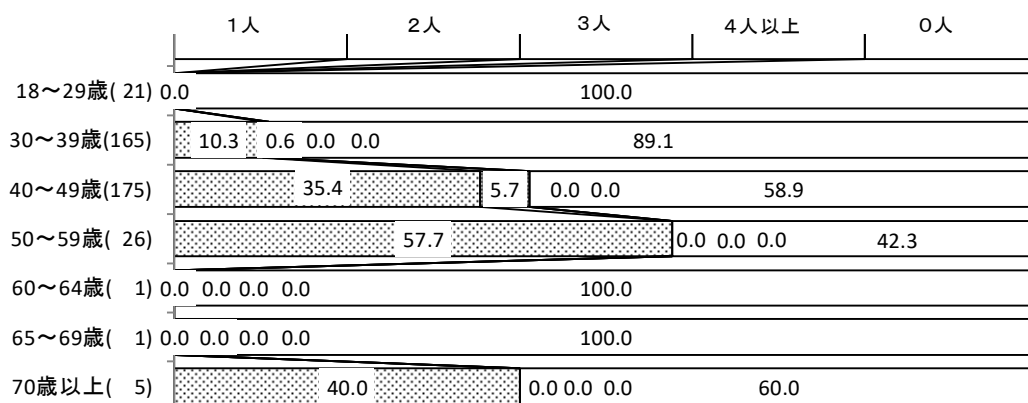
<就学前の子ども>



<小学生の子ども>



<中学生の子ども>



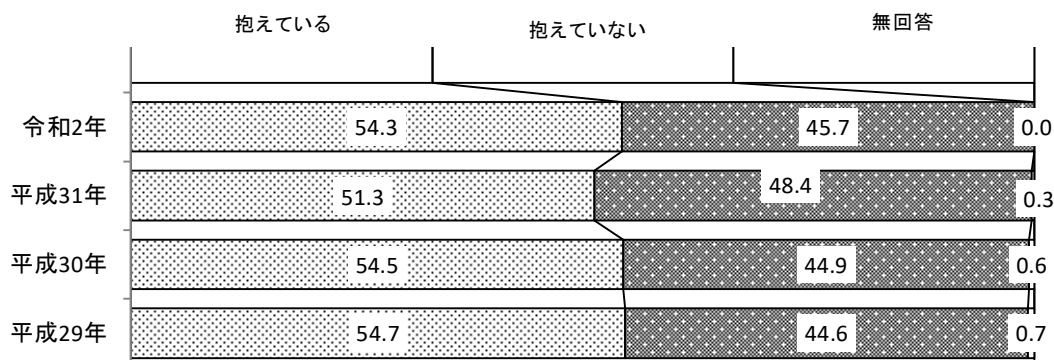
(2) 子育ての悩み (問14)

①悩みの有無

あなたは、子育てに関する悩みを抱えていますか。

中学生以下の子どもがいる人で、子育ての悩みを抱えている人は54.3%と半数を占め、抱えていない人は45.7%である。

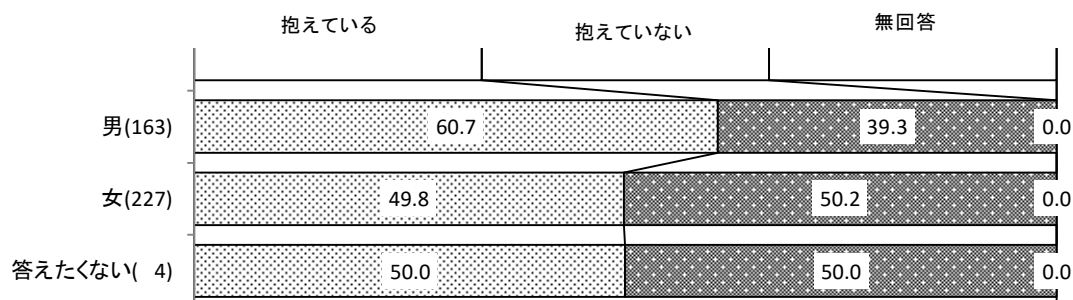
昨年度から大きな変化は見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 抱えている	214	54.3	161	51.3	177	54.5	152	54.7
2 抱えていない	180	45.7	152	48.4	146	44.9	124	44.6
3 無回答	-	-	1	0.3	2	0.6	2	0.7
合計	394	100.0	314	100.0	325	100.0	278	100.0

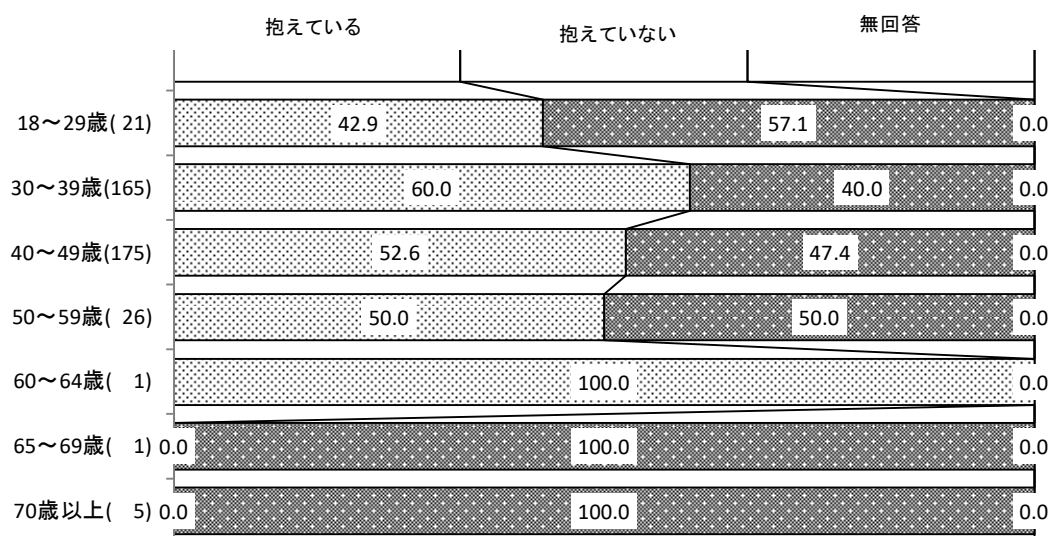
【性別】

- 悩みを抱えている割合は男性60.7%、女性49.8%と男性がやや上回っており、男性は昨年よりも10ポイント高くなっている。



【年齢別】

- 就学前や小学生の子どもがいる割合の高い30代では、悩みを抱えている割合が60.0%とやや高い傾向が見られる。他方、就学前の子どもがいる割合の高い20代では悩みを抱えている割合は42.9%とやや低い傾向が見られる。
- 昨年度と比較すると30代、40代で悩みを抱えている割合が若干増加している。



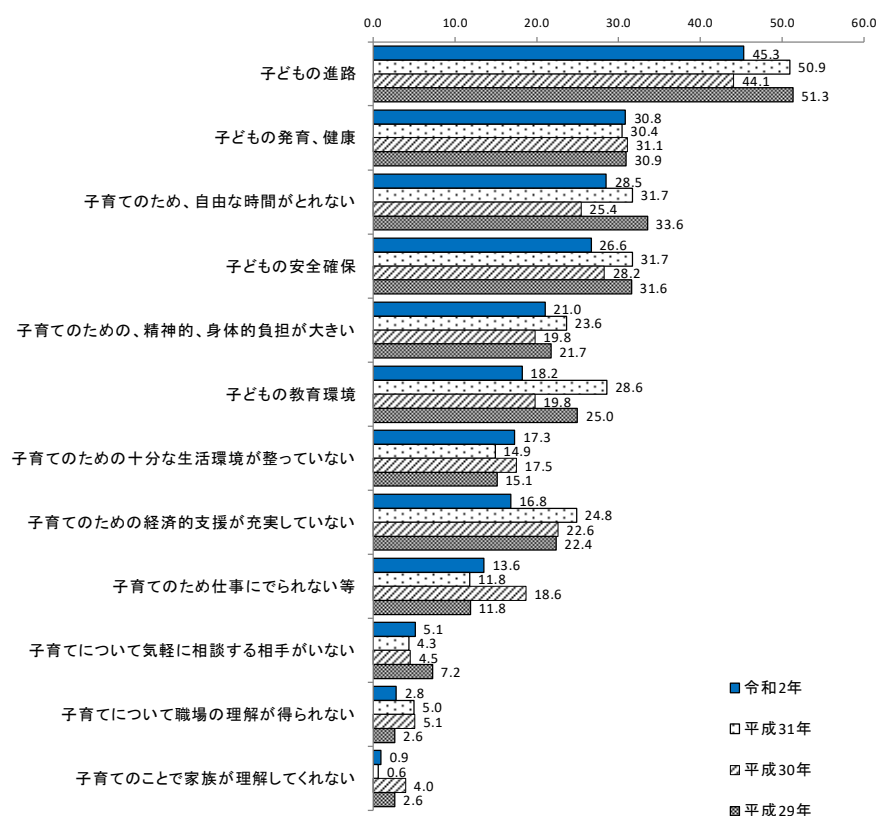
②具体的な悩み(問15)

問14で「1.抱えている」と答えた方にお尋ねします。

あなたが子育ての上で特に不安に思っていること、悩んでいることは何ですか。

子育ての悩みを抱えている214人の具体的な悩みとしては、「子どもの進路」が45.3%と最も多く、次いで「子どもの発育、健康」30.8%、「子育てのため、自由な時間がとれない」28.5%、「子どもの安全確保」26.6%、「子育てのための精神的、身体的負担が大きい」21.0%と続く。

昨年度と比較すると上位にあげられる項目に大きな変化はないが、「子どもの教育環境」をあげる人は前回よりも減少している。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	n=214		n=161		n=177		n=152	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 子育てのための経済的支援が充実していない	36	16.8	40	24.8	40	22.6	34	22.4
2 子育てのための、精神的、身体的負担が大きい	45	21.0	38	23.6	35	19.8	33	21.7
3 子育てのため、自由な時間がとれない(趣味や学習活動、外出、遊興など)	61	28.5	51	31.7	45	25.4	51	33.6
4 子育てのため仕事にでられない、希望する仕事につけない、家業が思うようにできない	29	13.6	19	11.8	33	18.6	18	11.8
5 子育てのことで家族が理解してくれない	2	0.9	1	0.6	7	4.0	4	2.6
6 子育てのための十分な生活環境が整っていない(住居、遊び場、交通など)	37	17.3	24	14.9	31	17.5	23	15.1
7 子育てについて職場の理解が得られない	6	2.8	8	5.0	9	5.1	4	2.6
8 子育てについて気軽に相談する相手がいない	11	5.1	7	4.3	8	4.5	11	7.2
9 子どもの進路(進学、就職など)	97	45.3	82	50.9	78	44.1	78	51.3
10 子どもの発育、健康	66	30.8	49	30.4	55	31.1	47	30.9
11 子どもの安全確保(犯罪、事件、事故など)	57	26.6	51	31.7	50	28.2	48	31.6
12 子どもの教育環境(いじめ、非行など)	39	18.2	46	28.6	35	19.8	38	25.0

【性別】

- 男女ともに「子どもの進路」「子どもの発育、健康」「子どもの安全確保」「自由な時間がとれない」が上位にあげられている。特に男性では「子どもの進路」への不安を半数以上があげている。
- 男性の場合は、女性よりも「経済的支援」に不安を抱いている割合が高い。
- 女性の場合は、「精神的、身体的負担」「仕事に与えられない等」といった子育てに伴う自身の負担をあげる割合が男性よりも多い傾向が見られる。

男(n=99)		女(n=113)	
子どもの進路	55.6	子どもの進路	35.4
自由な時間がとれない	27.3	子どもの発育、健康	35.4
子どもの発育、健康	26.3	自由な時間がとれない	30.1
子どもの安全確保	26.3	子どもの安全確保	26.5
経済的支援が充実していない	25.3	精神的、身体的負担	24.8
精神的、身体的負担	17.2	仕事に与えられない等	19.5
十分な生活環境が整っていない	17.2	子どもの教育環境	19.5
子どもの教育環境	17.2	十分な生活環境が整っていない	15.9
仕事に与えられない等	7.1	経済的支援が充実していない	9.7
気軽に相談する相手がいない	5.1	気軽に相談する相手がいない	4.4
職場の理解	3.0	職場の理解	1.8
家族が理解してくれない	1.0	家族が理解してくれない	0.9

【年齢別】

- 悩みを抱えている人が少ないものの、20代以下の若い年齢層では、「子育てのため自由な時間がとれない」をあげる人が最も多い。
- 30代では、「子どもの進路」「子どもの安全確保」「子育てのため自由な時間がとれない」「子どもの教育環境」が上位にあげられているほか、「子供の発育、健康」「経済的支援」もあげる人が多く、不安は多岐にわたっている。
- 40代では6割以上が「子どもの進路」を上げており、「子どもの発育、健康」も他の年代よりもあげる割合は高い傾向がみられる。
- 50代で悩みを抱えている人は少ないものの、半数以上が「子どもの進路」「子どもの発育、健康」をあげている。

18～29歳(n=9)		30～39歳(n=99)		40～49歳(n=92)		50～59歳(n=13)	
自由な時間がとれない	37.5	子どもの進路	41.4	子どもの進路	64.2	子どもの進路	66.7
経済的支援が充実していない	25.0	子どもの安全確保	37.1	子どもの発育、健康	32.8	子どもの発育、健康	53.3
精神的、身体的負担	25.0	自由な時間がとれない	35.7	自由な時間がとれない	29.9	精神的、身体的負担	40.0
仕事に与えられない等	25.0	子どもの教育環境	34.3	子どもの安全確保	29.9	子どもの教育環境	33.3
十分な生活環境が整っていない	25.0	精神的、身体的負担	27.1	子どもの教育環境	23.9	経済的支援が充実していない	26.7
子どもの安全確保	25.0	子どもの発育、健康	27.1	経済的支援が充実していない	22.4	自由な時間がとれない	20.0
職場の理解	12.5	経済的支援が充実していない	25.7	精神的、身体的負担	16.4	仕事に与えられない等	20.0
子どもの教育環境	12.5	十分な生活環境が整っていない	12.9	十分な生活環境が整っていない	16.4	子どもの安全確保	20.0
家族が理解してくれない	-	仕事に与えられない等	10.0	仕事に与えられない等	10.4	十分な生活環境が整っていない	13.3
気軽に相談する相手がいない	-	職場の理解	4.3	気軽に相談する相手がいない	6.0	職場の理解	6.7
子どもの進路	-	気軽に相談する相手がいない	2.9	職場の理解	4.5	気軽に相談する相手がいない	6.7
子どもの発育、健康	-	家族が理解してくれない	1.4	家族が理解してくれない	-	家族が理解してくれない	-

【子どもの年齢別】

- 就学前の子どもがいる場合、「子育てのため自由な時間がとれない」「子どもの発育、健康」に不安を抱いている人が3割以上と高い。また「精神的、身体的負担」をあげる人が多い。
- 小学生の子どもがいる場合、「子どもの進路」に不安を抱いている人が半数以上おり、「自由な時間がとれない」「子どもの発育、健康」にも不安を抱いている人が3割以上見られる。
- 中学生の子どもがいる場合、「子どもの進路」に不安を抱いている人は71.4%と高く、「子どもの発育、健康」のほか、「経済的支援が充実していない」「子どもの安全確保」にも不安を抱いている。

就学前(n=110)		小学生(n=128)		中学生(n=56)	
自由な時間がとれない	35.5	子どもの進路	50.8	子どもの進路	71.4
子どもの発育、健康	31.8	自由な時間がとれない	30.5	子どもの発育、健康	30.4
精神的、身体的負担	28.2	子どもの発育、健康	30.5	経済的支援が充実していない	25.0
子どもの進路	27.3	子どもの安全確保	27.3	子どもの安全確保	25.0
子どもの安全確保	26.4	子どもの教育環境	23.4	自由な時間がとれない	21.4
仕事にでられない等	19.1	精神的、身体的負担	15.6	子どもの教育環境	19.6
十分な生活環境が整っていない	18.2	十分な生活環境が整っていない	15.6	十分な生活環境が整っていない	17.9
子どもの教育環境	15.5	経済的支援が充実していない	13.3	精神的、身体的負担	14.3
経済的支援が充実していない	10.9	仕事にでられない等	12.5	仕事にでられない等	8.9
気軽に相談する相手がいない	6.4	気軽に相談する相手がいない	5.5	気軽に相談する相手がいない	3.6
職場の理解	3.6	職場の理解	1.6	職場の理解	1.8
家族が理解してくれない	1.8	家族が理解してくれない	-	家族が理解してくれない	-

◆健康づくりについて

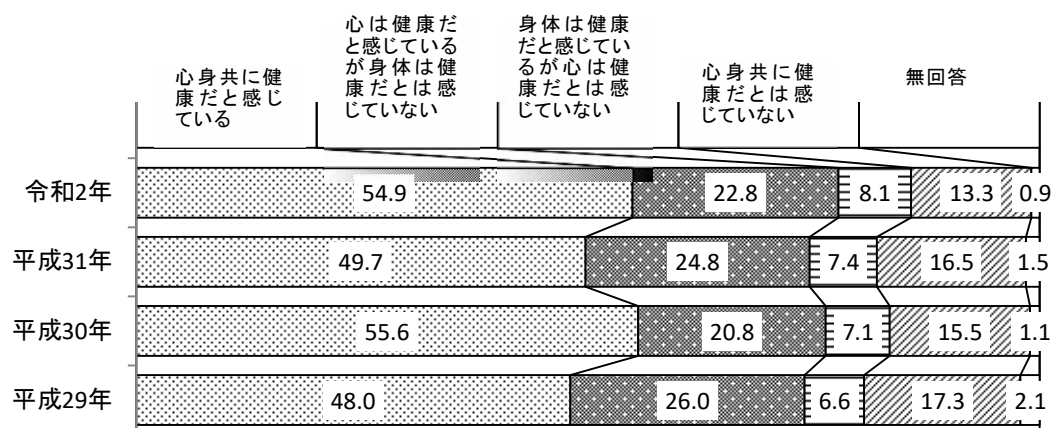
1. 自身の健康状態（問18）

あなたは、心身ともに健康だと感じていますか。

「心身ともに健康だと感じている」という割合は54.9%と半数を超え、「心は健康だが、身体は健康とは感じていない」が22.8%と続く。

身体が健康だと感じている人は全体の63.0%、心は健康だと感じている人は全体の77.7%となっている。「心身ともに健康だとは感じていない」人は13.3%である。

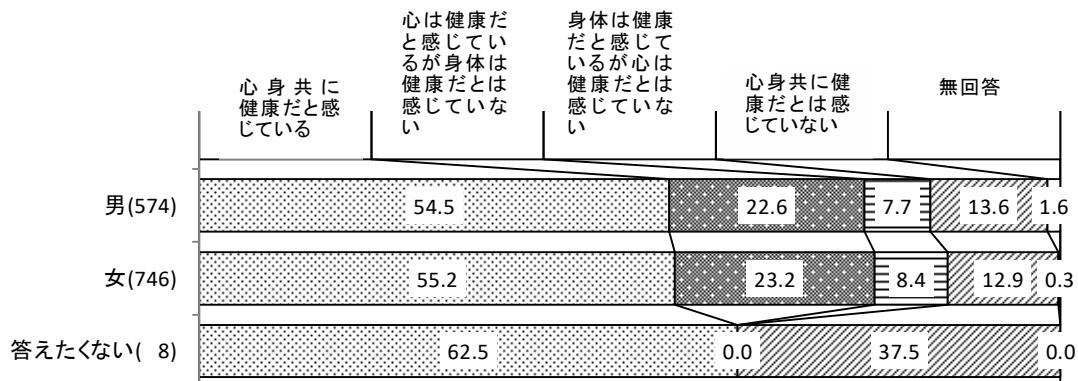
昨年度と比較して、身体が健康だと感じている人は5.9ポイント、心は健康だと感じている人は3.2ポイント増加している。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 心身共に健康だと感じている	730	54.9	555	49.7	519	55.6	545	48.0
2 心は健康だと感じているが、体は健康とは感じていない	303	22.8	277	24.8	194	20.8	295	26.0
3 体は健康だと感じているが、心は健康とは感じていない	107	8.1	83	7.4	66	7.1	75	6.6
4 心身共に健康だとは感じていない	177	13.3	184	16.5	145	15.5	196	17.3
5 無回答	12	0.9	17	1.5	10	1.1	24	2.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

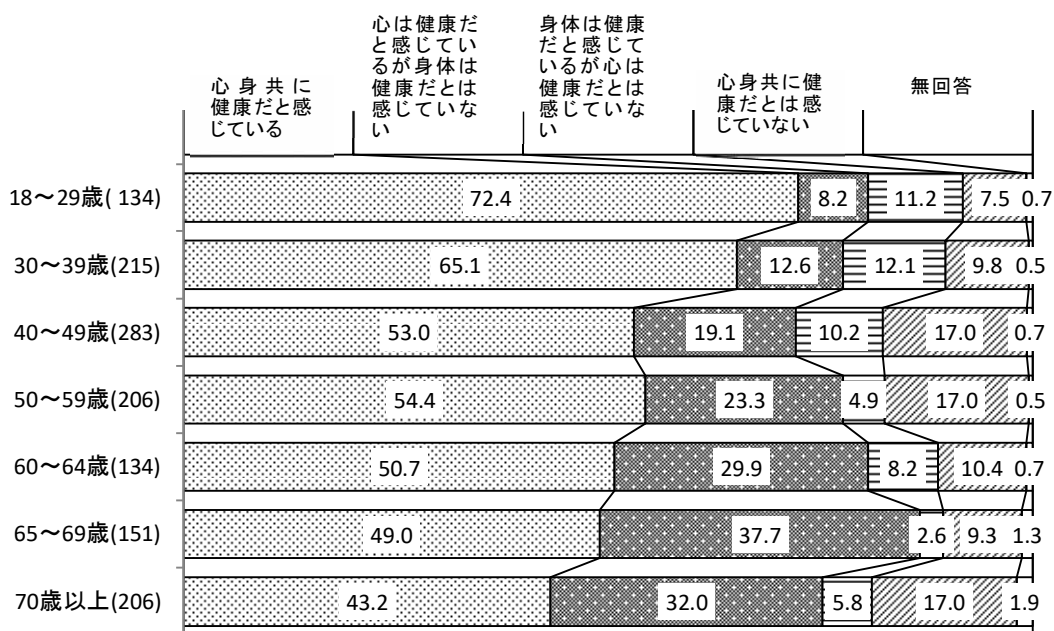
【性別】

●男女で大きな違いは見られない。



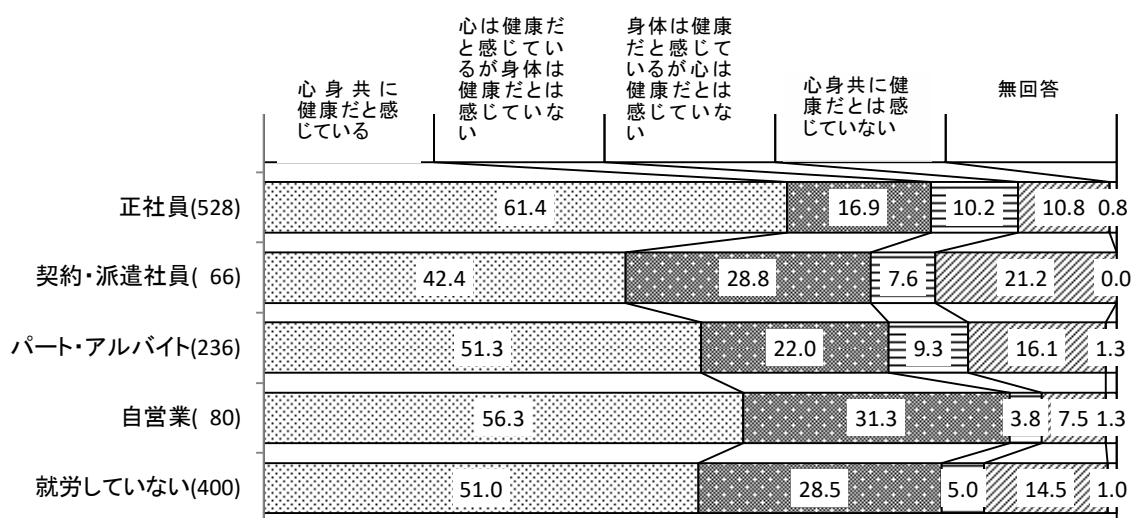
【年齢別】

- 「心身ともに健康だと感じている」割合は年齢が若いほど高く、20代以下では7割を占めるが、65歳以上では半数を切る。「心は健康だが、身体は健康とは感じていない」という割合も60代以上ではほぼ3割を超えている。
- 「心身ともに健康だとは感じていない」という割合は、40代、50代、70代以上では2割弱見られた。



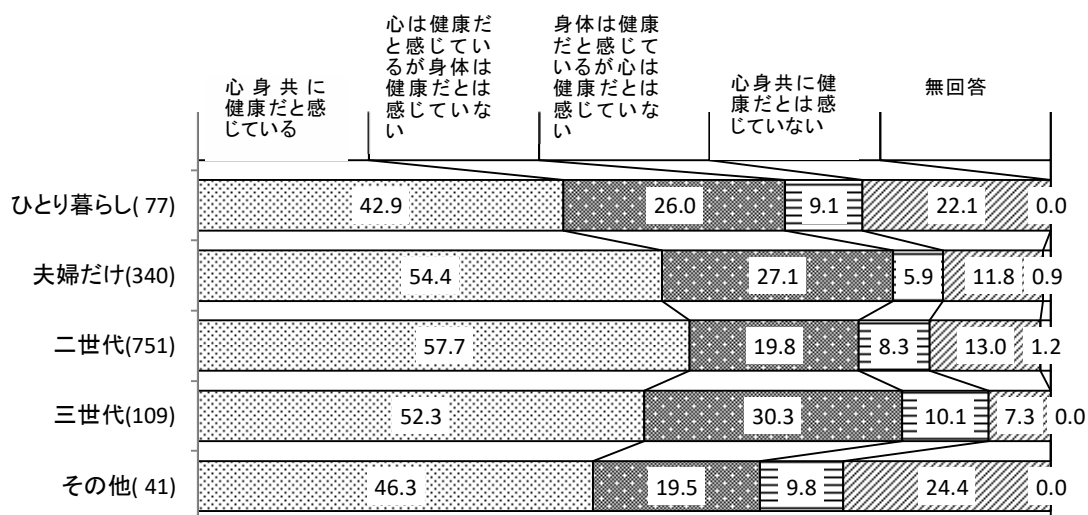
【職業別】

- 「心身ともに健康だと感じている」人は、正社員では6割以上と高いが、契約・派遣社員では4割にとどまる。
- 「心は健康だが、身体は健康とは感じていない」人は自営業や契約・派遣社員、就労していない場合に3割前後と高い。また「心身ともに健康だと感じていない」という割合は、契約・派遣社員やパート・アルバイトといった非正規では2割前後とやや高い傾向となっている。



【家族構成別】

- ひとり暮らしの場合、「心身ともに健康だと感じている」人は42.9%と他の家族構成よりも低いものの、昨年度より8.1ポイント増加している。他方、「心身ともに健康ではない」は22.1%と昨年度から変わっておらず、他の家族構成よりも高い傾向となっている。



2. 健康づくりの取組みについて

(1) 健康づくりへの取組み状況

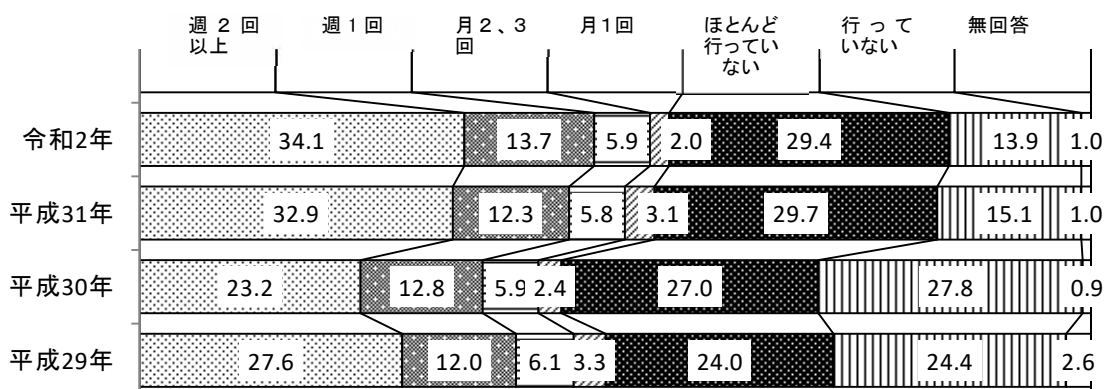
①健康づくりの取組み頻度(問19)

あなたは、日頃から、体を動かすことに取り組んでいますか。

日頃から体を動かすことに取り組んでいる人は全体の55.7%と半数を超え、取り組んでいない(「ほとんど行っていない」+「行っていない」)人は43.3%となっている。

取り組んでいる場合の頻度では、「週2回以上」34.1%、「週1回」13.7%と比較的頻度が高い人が多い。

昨年度から大きな変化は見られない。

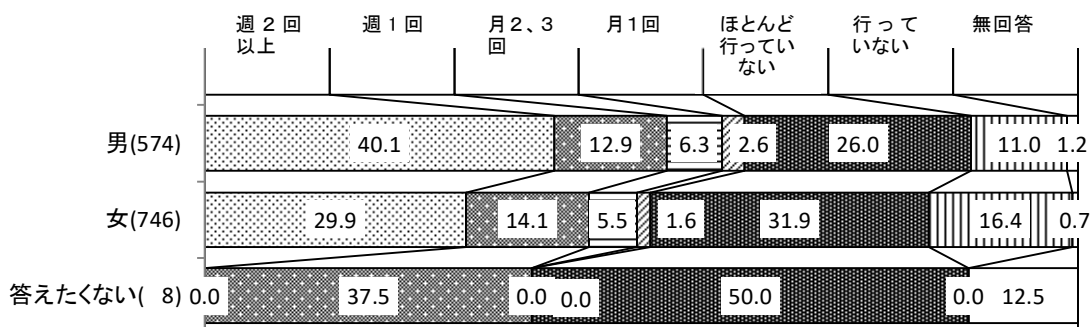


※平成30年までは「健康づくりに取り組んでいるか」という設問であったので、比較するには注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 週2回以上行っている	453	34.1	367	32.9	217	23.2	313	27.6
2 週に1回行っている	182	13.7	137	12.3	120	12.8	136	12.0
3 月に2、3回行っている	78	5.9	65	5.8	55	5.9	69	6.1
4 月に1回行っている	27	2.0	35	3.1	22	2.4	38	3.3
5 ほとんど行っていない	391	29.4	332	29.7	252	27.0	272	24.0
6 行っていない	185	13.9	169	15.1	260	27.8	277	24.4
7 無回答	13	1.0	11	1.0	8	0.9	30	2.6
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

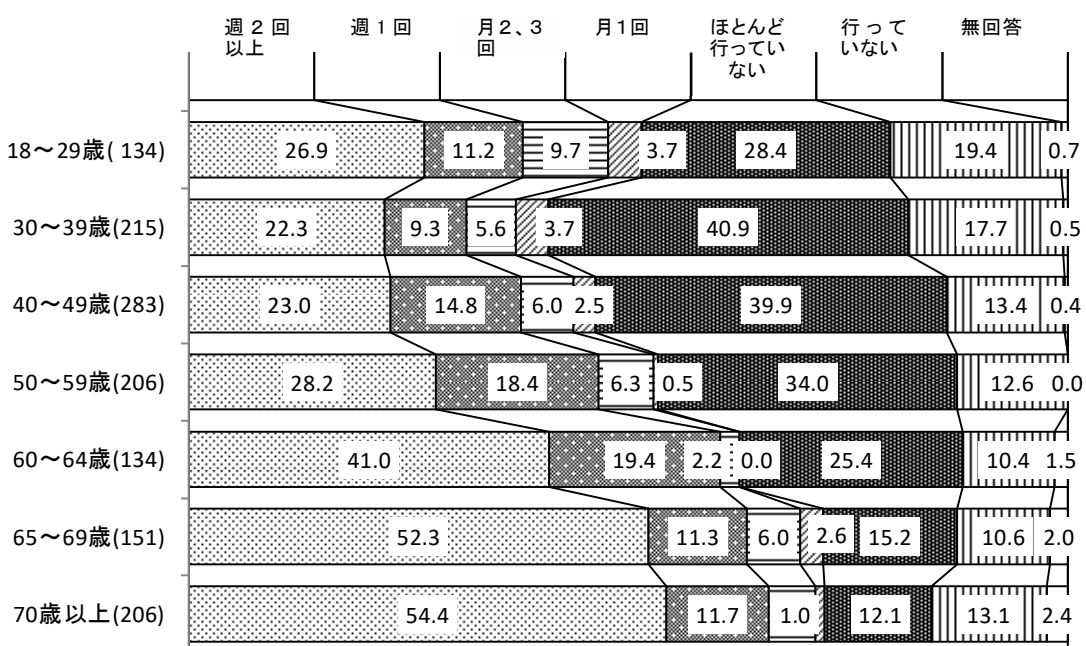
【性別】

- 日頃から体を動かしている割合は、男性 61.9%、女性 51.1%と男性が女性を上回っている。特に男性は「週2回以上」が 40.1%を占め、「週1回」12.9%と合わせると半数以上が高頻度で行っている。
- 一方、女性の場合は 48.3%が体を動かすことを行っていない。



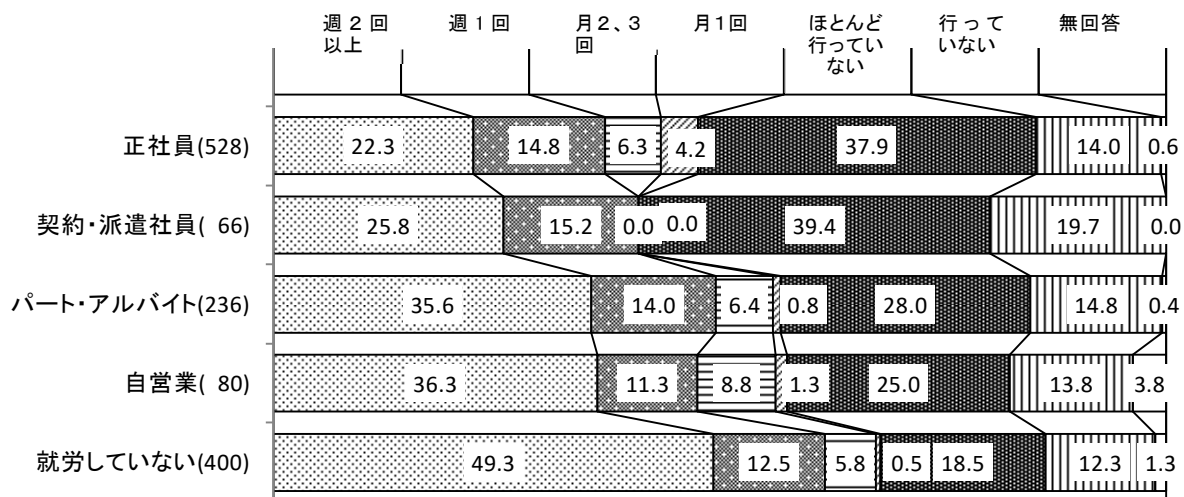
【年齢別】

- 体を動かすことに取り組んでいる割合は、20代以下の若い年齢層では半数を占めるが、30代は 40.9%と低下、その後は年齢とともに取り組む人は増え、50代以上では半数を超え、65歳以上では7割を超える。特に65歳以上の高齢者では半数以上が週2回以上の高頻度で行っている。



【職業別】

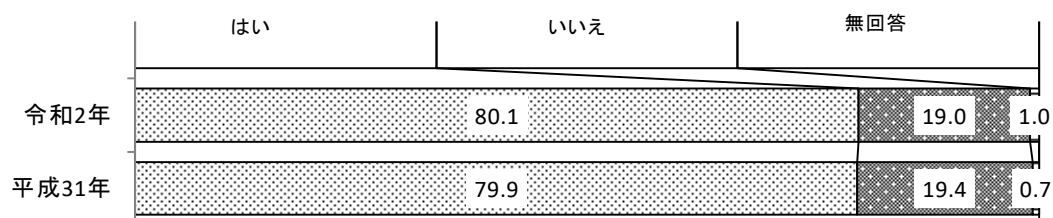
- 正社員や契約・派遣社員では、日頃から体を動かしている割合は、半数以下となっている。就労していない場合は日頃から体を動かしている人は 68.1%を占め、自営業 57.7%、パート・アルバイト 56.8%と半数を超えている。
- 特に就労していない場合は半数近くが週2回以上の高頻度で実施している。



(2) ストレス解消法 (問20)

自分なりのストレス解消法を持っていますか。

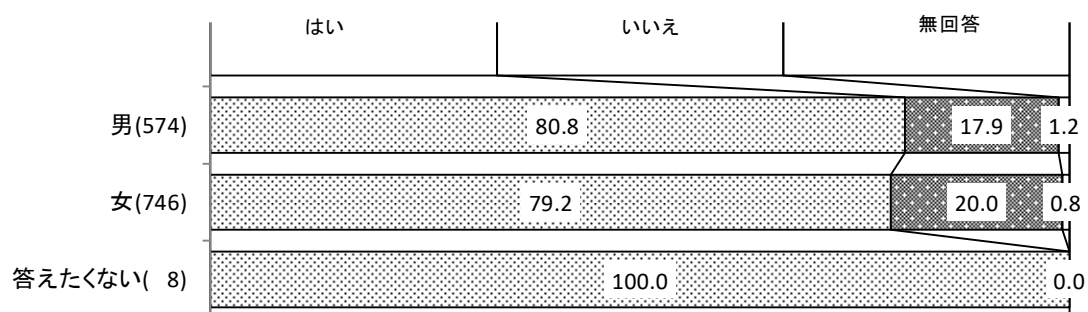
自分なりのストレス解消法を持っている人は、全体の80.1%となっており、多くは自分なりのストレス解消法をもっている。
昨年から変わっていない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 はい	1064	80.1	892	79.9
2 いいえ	252	19.0	216	19.4
3 無回答	13	1.0	8	0.7
合計	1329	100.0	1116	100.0

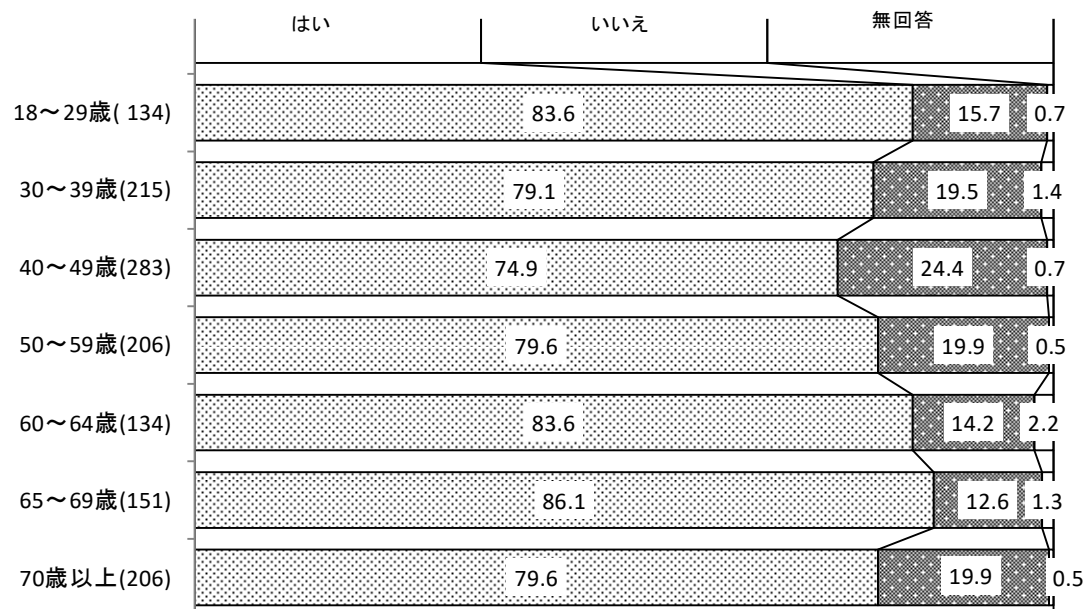
【性別】

- ストレス解消法を持っている人は、男性80.8%、女性79.2%と男女で大きな違いは見られない。



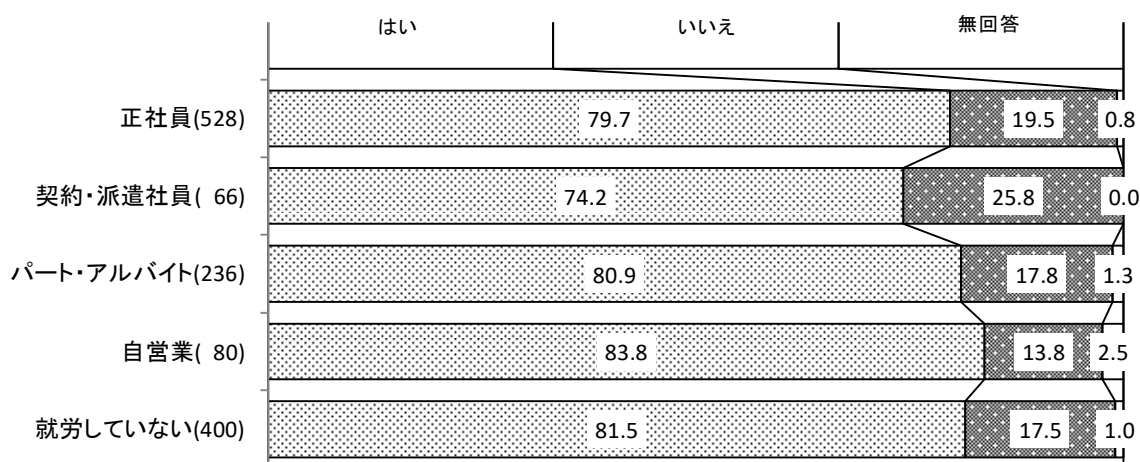
【年齢別】

- ストレス解消法を持っている人は、40代で74.9%とやや低いものの、そのほかの年代では8割前後と高い。



【職業別】

- パート・アルバイトといった非正規の雇用形態でストレス解消法を持っている割合が74.2%とやや低いものの、大きな差は見られない。



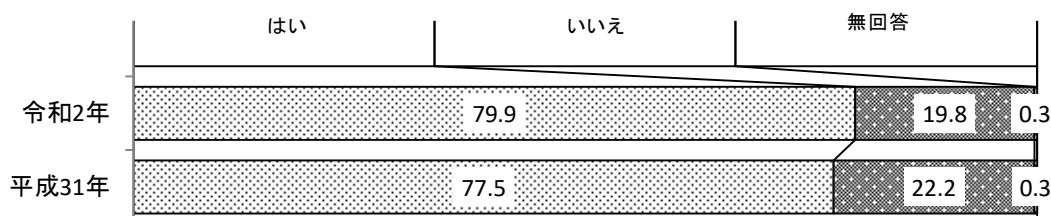
(3) 規則正しい食生活 (問 2 1)

食事は1日3回(朝・昼・晩)規則正しく食べていますか。

食事を1日3回規則正しく食べている人は、全体の79.9%を占め、規則正しい食生活を送っていないという人は2割となっている。

昨年からほとんど変化していない。

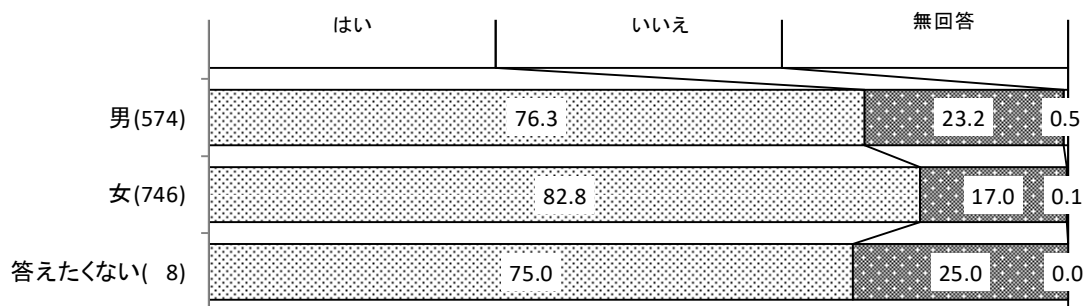
6



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 はい	1062	79.9	865	77.5
2 いいえ	263	19.8	248	22.2
3 無回答	4	0.3	3	0.3
合計	1329	100.0	1116	100.0

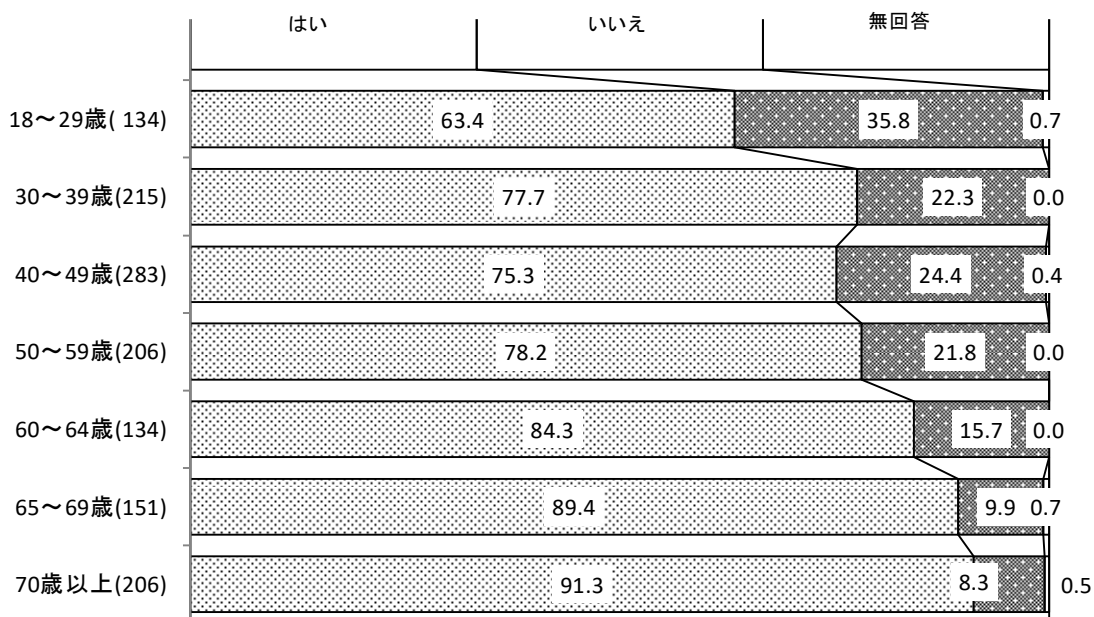
【性別】

- 規則正しい食事を行っている人は、男性76.3%に対し、女性82.8%と女性がやや上回っている。男性では4人に1人が規則正しい食生活を送っていない状況となっている。



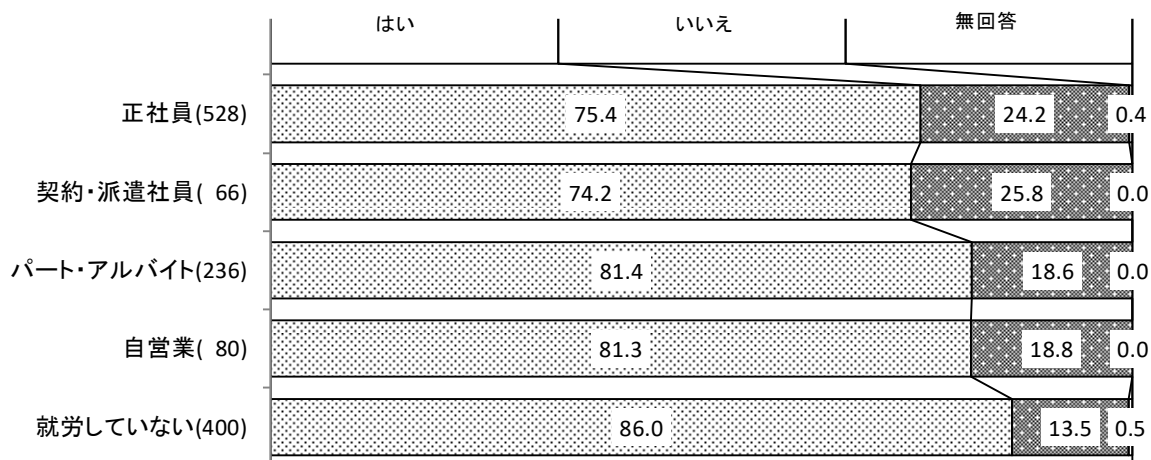
【年齢別】

- 20代では規則正しい食事を行っている割合が63.4%と7割を切っているが、それ以外の年代では7割以上が1日3回規則正しく食事をとっている。特に60歳以上の高齢者では8割以上と高い。



【職業別】

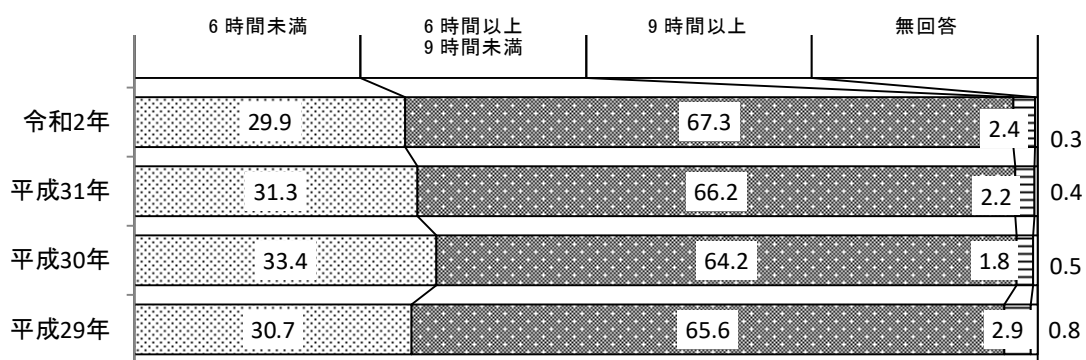
- 正社員や契約・派遣社員では他よりも規則正しく食事をとっているという割合はやや低く、4分の1が不規則な食生活を送っている。



(4) 睡眠時間(問22)

昼寝を含めて1日の睡眠時間は何時間くらいですか

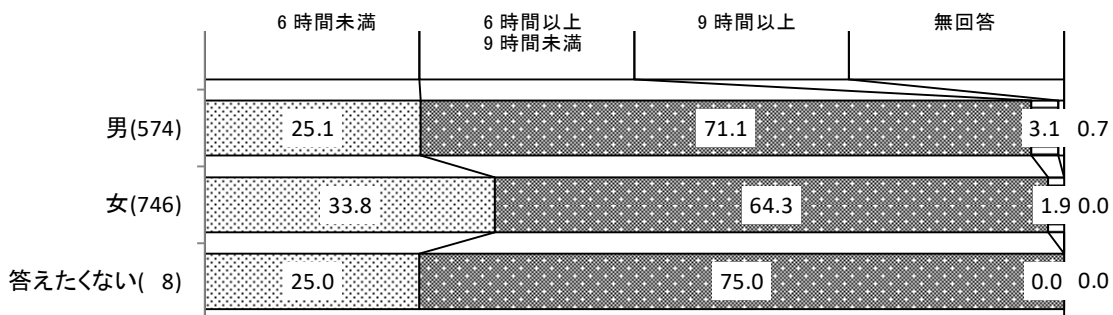
1日の睡眠時間は昼寝を含めて「6時間以上9時間未満」が67.3%と最も多く、次いで「6時間未満」29.9%となっている。
この傾向は昨年度と違いはない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 6時間未満	398	29.9	349	31.3	312	33.4	348	30.7
2 6時間以上9時間未満	895	67.3	739	66.2	600	64.2	745	65.6
3 9時間以上	32	2.4	24	2.2	17	1.8	33	2.9
4 無回答	4	0.3	4	0.4	5	0.5	9	0.8
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

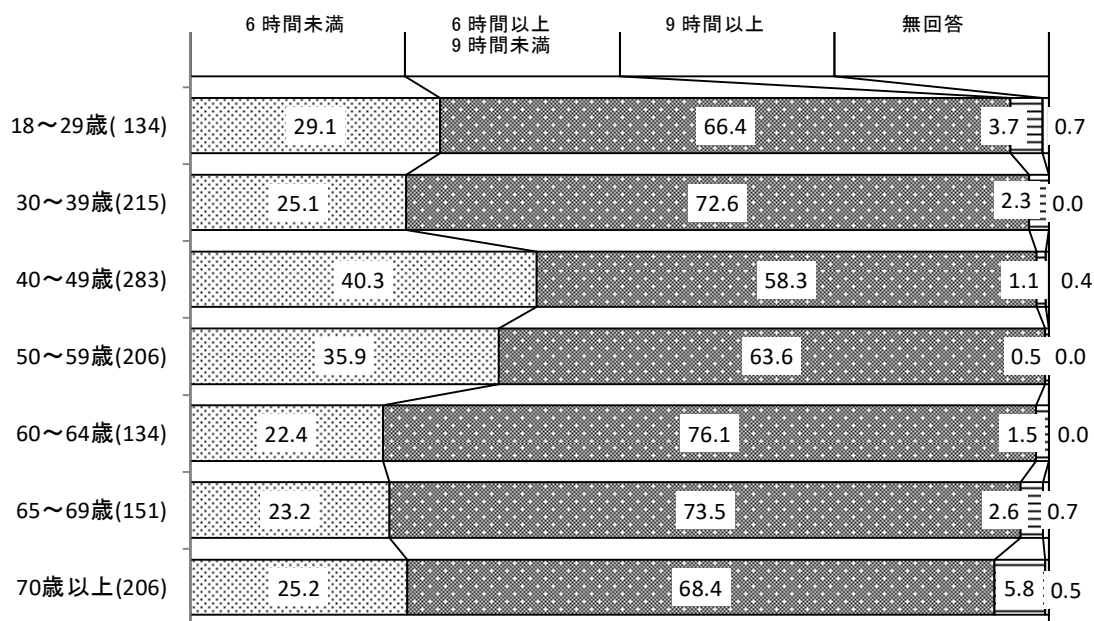
【性別】

- 睡眠時間「6時間未満」は女性 33.8%、男性 25.1%と女性がやや上回っており、男性よりも女性の方が睡眠時間が若干短い傾向が見られる。



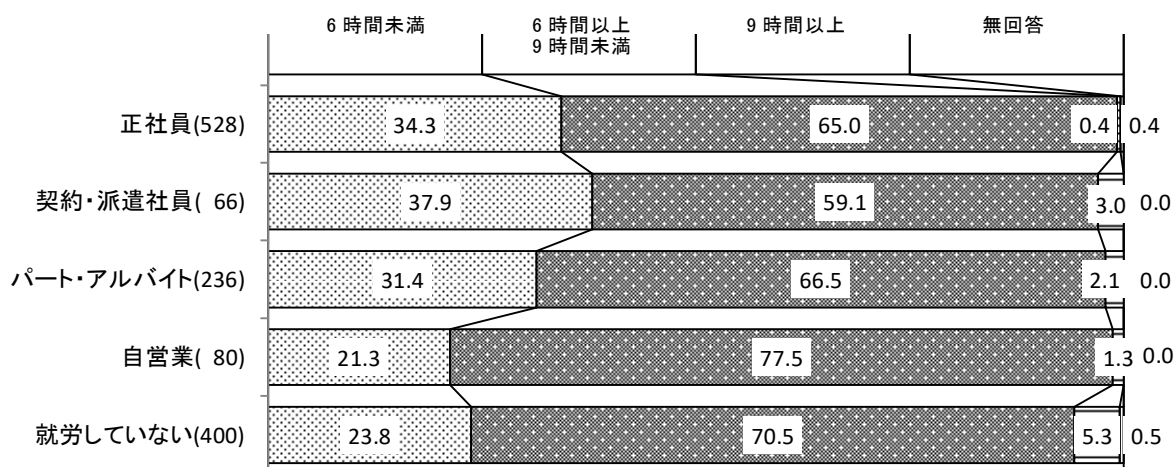
【年齢別】

- 働き盛りの40代、50代では睡眠時間が短い傾向が見られ、「6時間未満」が4割前後となっている。



【職業別】

- 正社員や契約・派遣社員では「6時間未満」が35%前後と高く、睡眠時間がやや短い傾向が見られる。

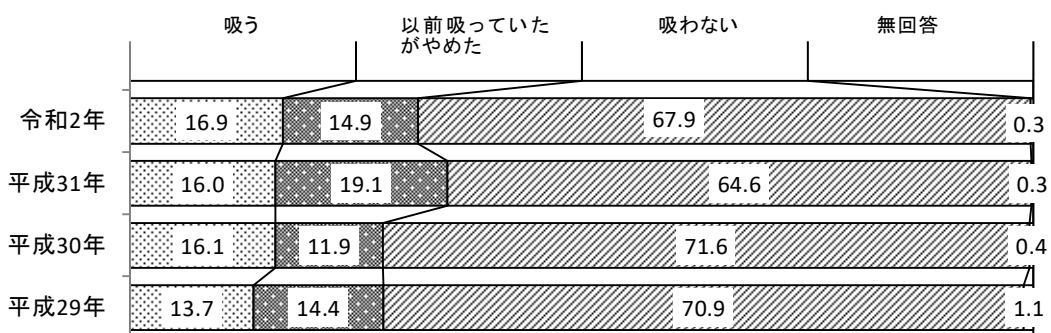


(3) 喫煙（問23）

タバコを吸いますか。

タバコを吸わない人が67.9%と最も多く、以前吸っていたがやめた人14.9%と合わせると非喫煙者が82.8%と8割以上を占める。喫煙者は16.9%となっている。

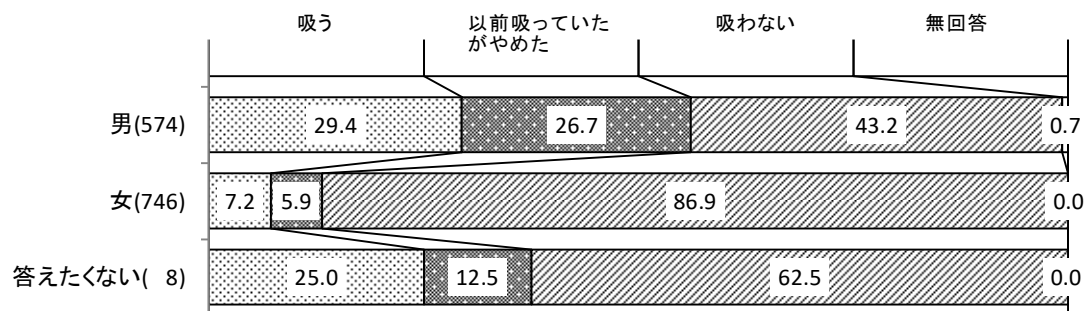
昨年度と比較して、喫煙者の割合については変化ない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 吸う	225	16.9	179	16.0	150	16.1	155	13.7
2 以前吸っていたがやめた	198	14.9	213	19.1	111	11.9	163	14.4
3 吸わない	902	67.9	721	64.6	669	71.6	805	70.9
4 無回答	4	0.3	3	0.3	4	0.4	12	1.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

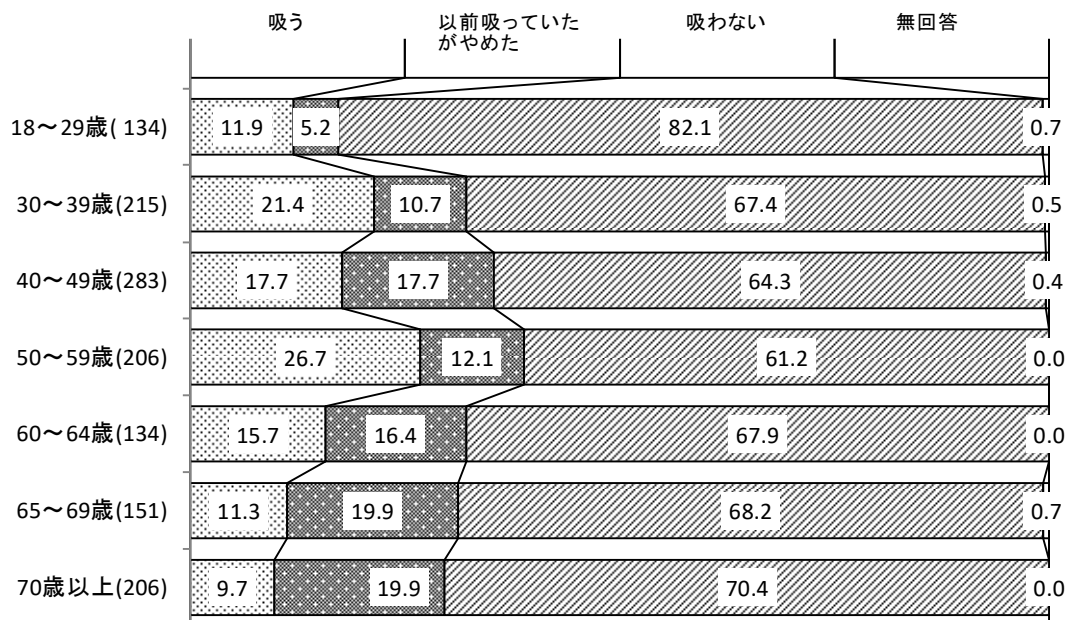
【性別】

- 男性の喫煙者は29.4%、女性の喫煙者は7.2%となっている。
- 男性では「以前吸っていたがやめた」という人が26.7%と高い。



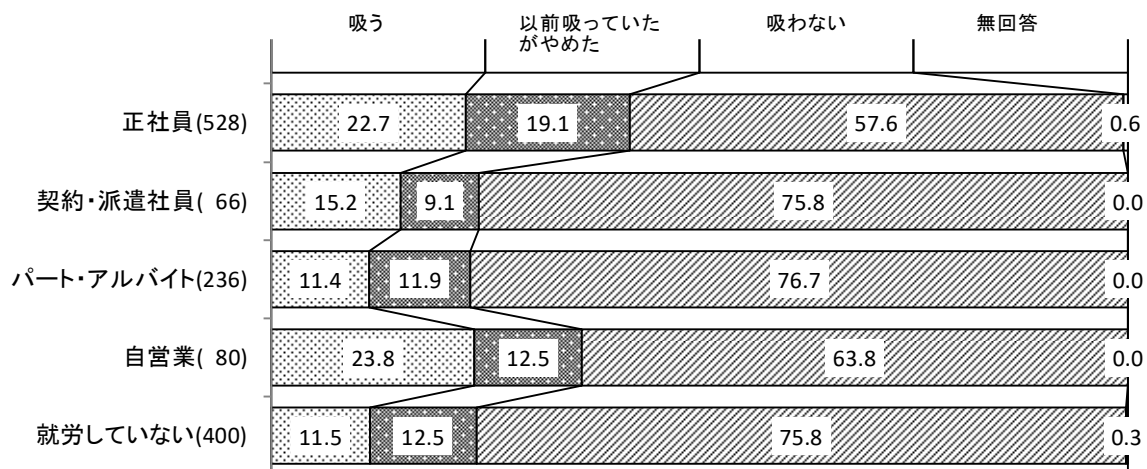
【年齢別】

- 働き盛りの30代～50代では喫煙者が2割前後とやや高い。
- 65歳以上の高齢層では2割が「以前吸っていたがやめた」としている。



【職業別】

- 正社員、自営業では喫煙者が2割強を占め、他の職業よりもやや高い傾向が見られる。

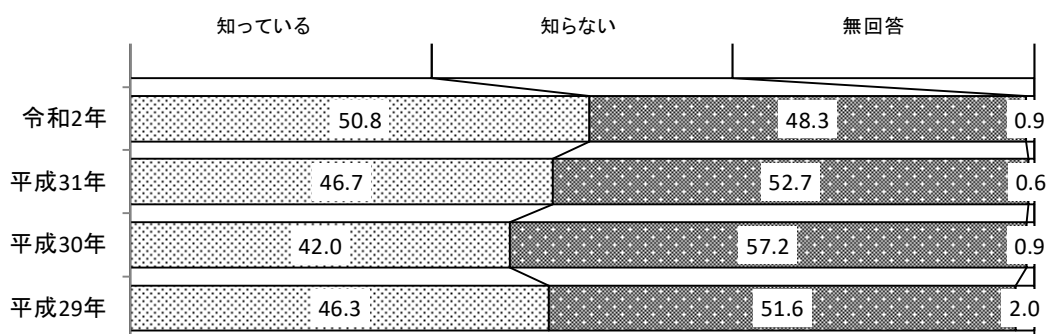


3. 健康知識について

(1) 飲酒量(問24)

生活習慣病のリスクを高める飲酒量を知っていますか

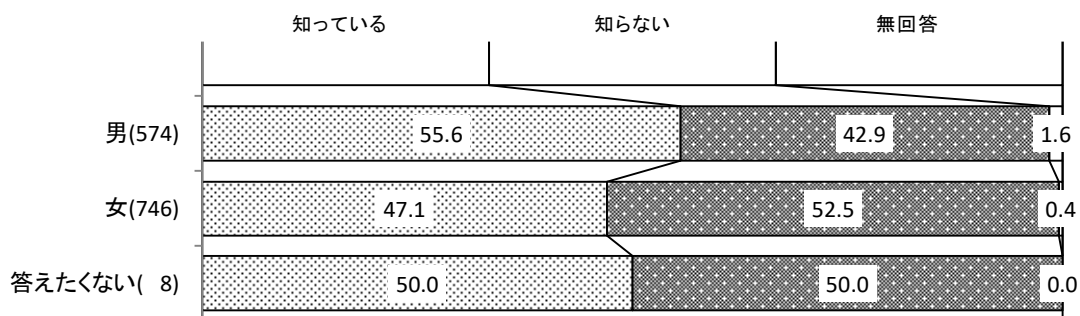
生活習慣病のリスクを高める飲酒量を「知っている」人は50.8%となっており、ほぼ半数を占めている。
 「知っている」割合は平成30年から若干の増加傾向にある。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 知っている	675	50.8	521	46.7	392	42.0	526	46.3
2 知らない(今回の調査で初めて聞いた)	642	48.3	588	52.7	534	57.2	586	51.6
3 無回答	12	0.9	7	0.6	8	0.9	23	2.0
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

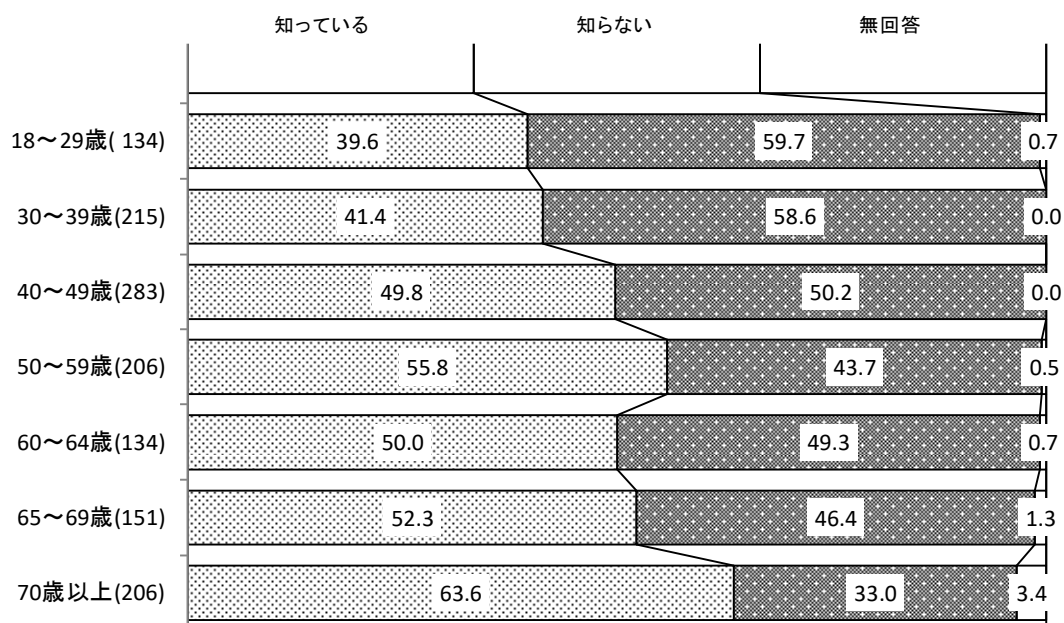
【性別】

- 生活習慣病のリスクを高める飲酒量については、女性よりも男性で認知が進んでおり、男性では55.6%が「知っている」が、女性では47.1%とやや低い。



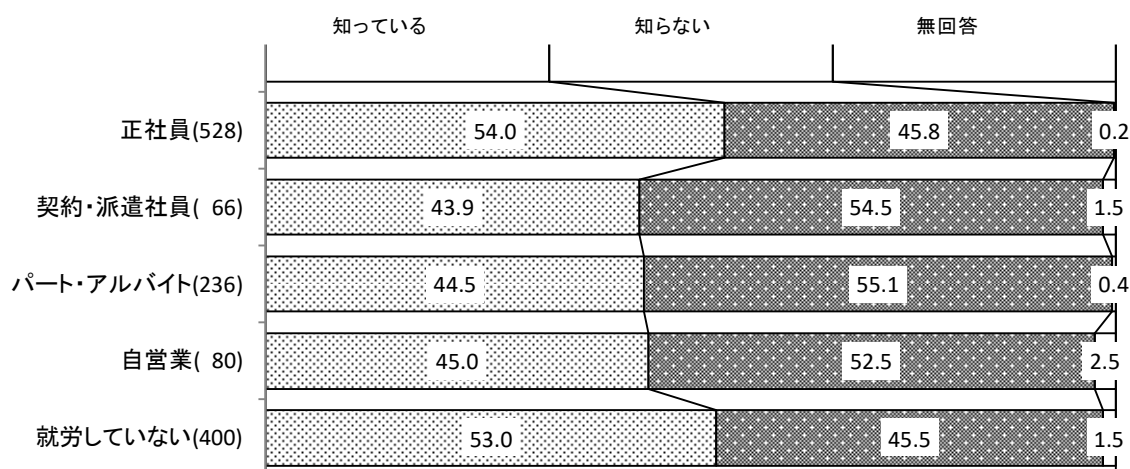
【年齢別】

- 40代以下では半数以上が「知らない」としているが、この割合は平成30年以降、減少傾向にあり、認知が進んできていることがうかがえる。



【職業別】

- 正社員や就労していない場合は「知っている」が半数を超えているが、他の職業では「知らない」人が上回っている。

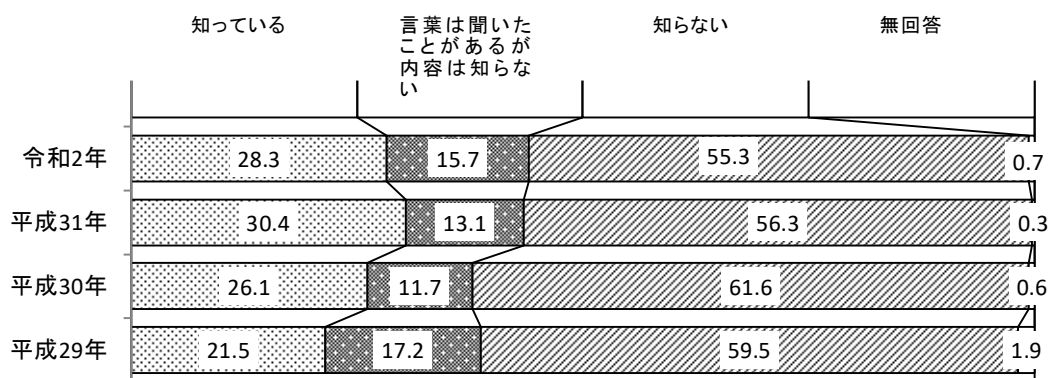


(2) COPD (問25)

COPDを知っていますか

COPDを今回の調査で初めて聞いたという「知らない」人は55.3%と半数以上であった。「知っている」は28.3%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は15.7%となっている。

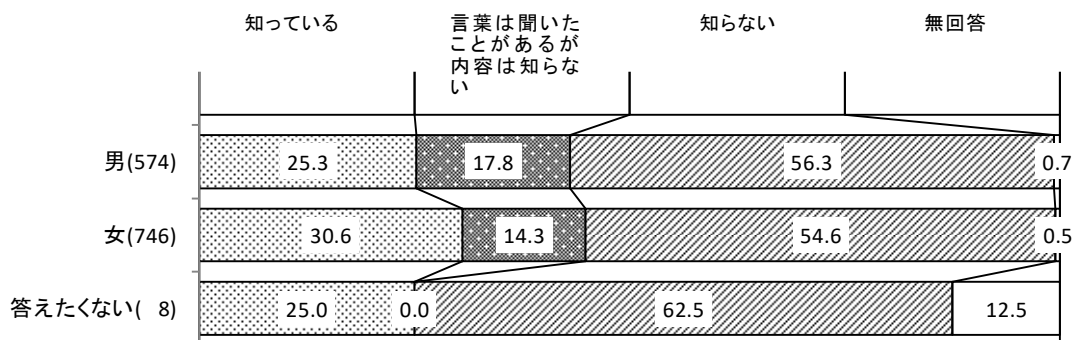
昨年度からあまり変化していない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 知っている	376	28.3	339	30.4	244	26.1	244	21.5
2 言葉は聞いたことあるが内容は知らない	209	15.7	146	13.1	109	11.7	195	17.2
3 知らない(今回の調査で初めて聞いた)	735	55.3	628	56.3	575	61.6	675	59.5
4 無回答	9	0.7	3	0.3	6	0.6	21	1.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

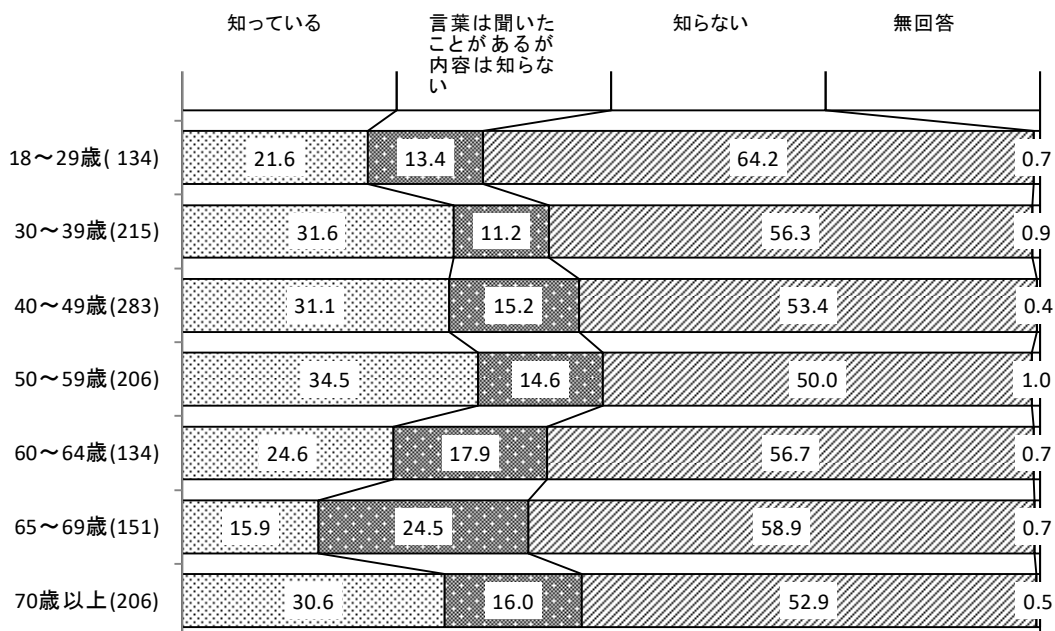
【性別】

- 男性より女性の方が「知っている」割合は高く、女性 30.6%に対し男性 25.3%となっている。しかしながら、知らない割合は男女ともに半数を超えている。



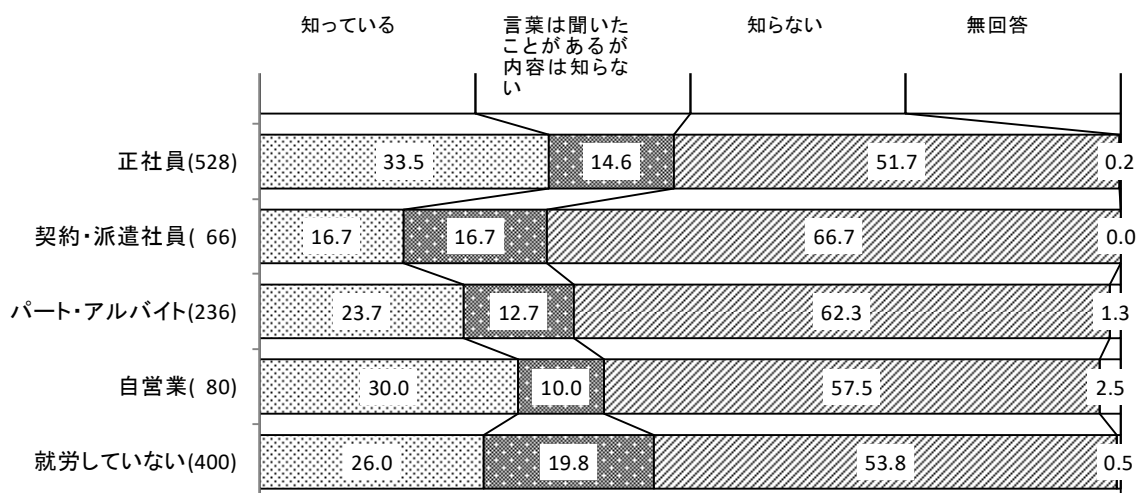
【年齢別】

- 30代～50代の働き盛りの年齢層では「知っている」という割合は3割以上とやや高い傾向となっている。



【職業別】

- いずれの職業でも半数以上が「知らない」としている。「知っている」割合は、最も高い正社員で33.5%、最も低い契約・派遣社員で16.7%となっている。

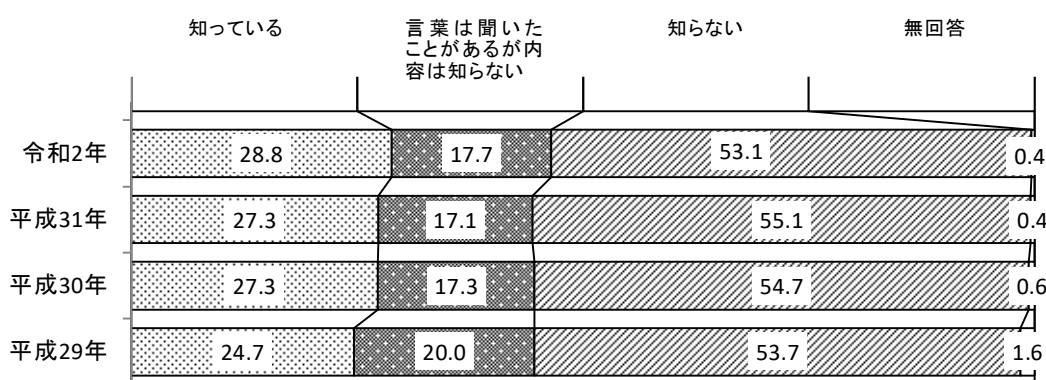


(3) ロコモティブシンドローム(問26)

ロコモティブシンドロームを知っていますか

ロコモティブシンドロームを今回の調査で初めて聞いたという「知らない」人が53.1%と半数を占めた。「知っている」は28.8%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は17.7%となっている。

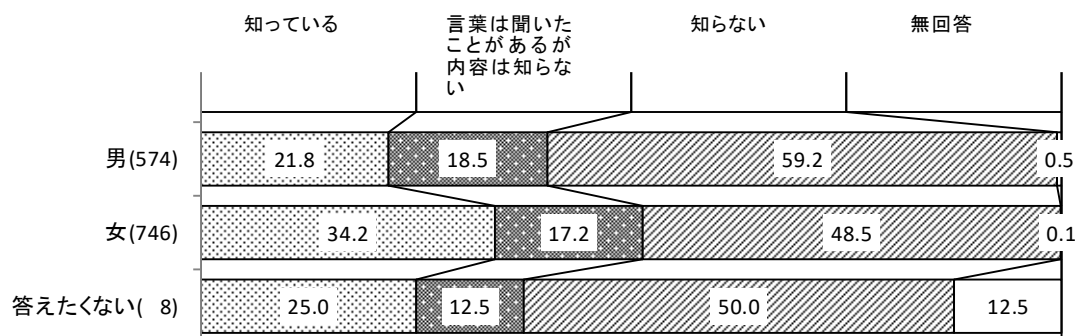
昨年度と大きな違いはなく、理解はあまり進んでいない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 知っている	383	28.8	305	27.3	255	27.3	280	24.7
2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	235	17.7	191	17.1	162	17.3	227	20.0
3 知らない(今回の調査で初めて聞いた)	706	53.1	615	55.1	511	54.7	610	53.7
4 無回答	5	0.4	5	0.4	6	0.6	18	1.6
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

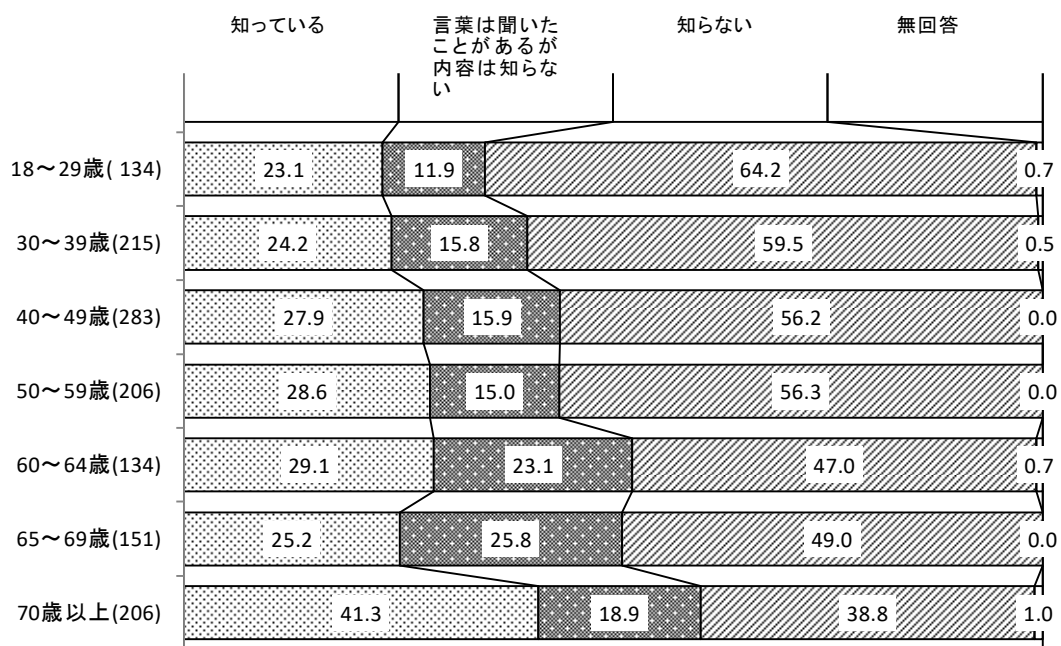
【性別】

- 「知っている」割合は、女性では34.2%、男性で21.8%と、女性の方が理解は進んでいる。
- 男性では6割が今回の調査で初めて知ったとしている。
- いずれも昨年度から変わっていない。



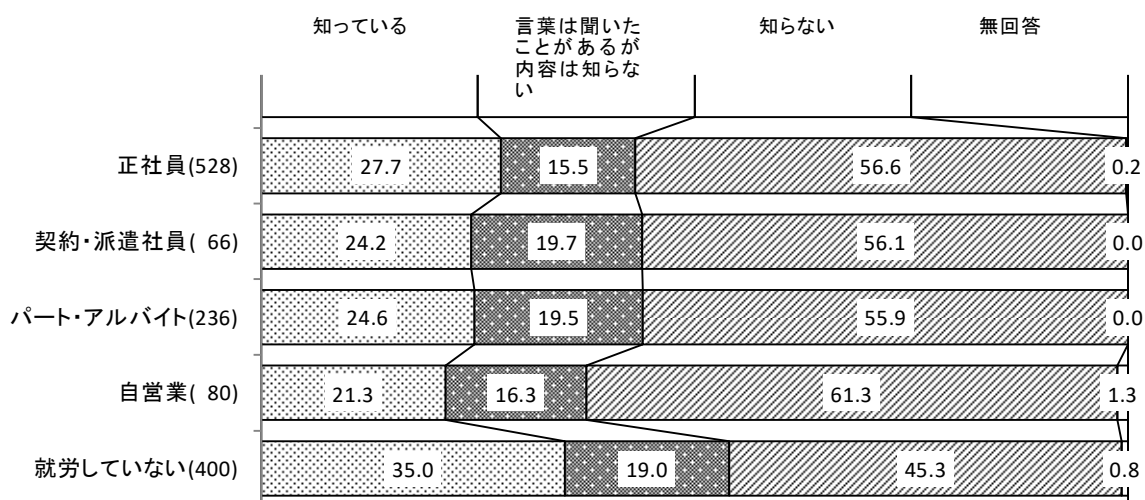
【年齢別】

- 70歳以上の高齢者では4割が「知っている」としており、昨年度よりも10ポイント以上認知が進んでいる。



【職業別】

- 就労していない場合は「知っている」が3割を超えているが、他の職業では25%前後にとどまり、半数以上が知らない状況となっている。特に自営業では「知っている」は21.3%と低い傾向となっている。

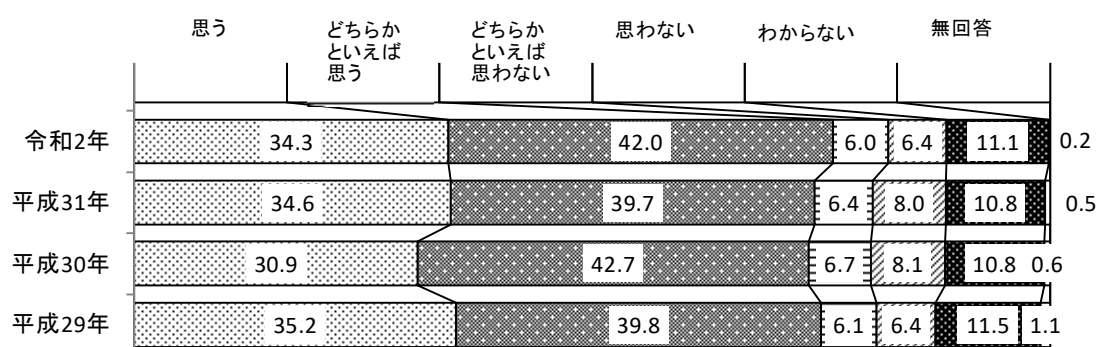


4. 生涯学習等について

(1) 生きがいを持った生活(問28)

あなたは、生きがいを持って生活していると思いますか？

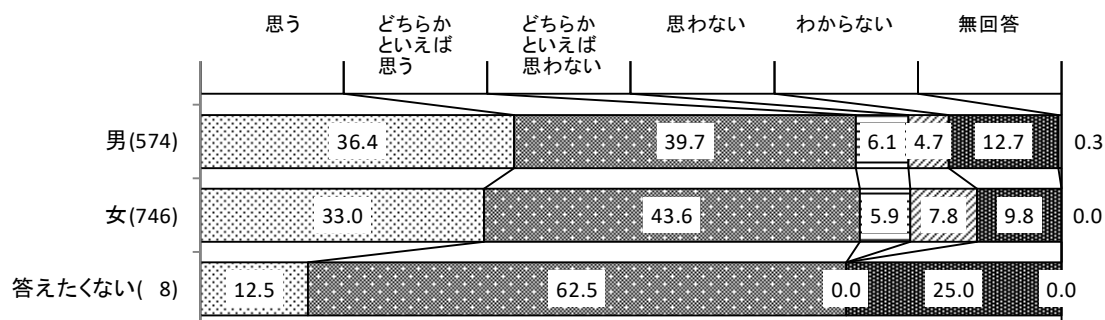
生きがいを持って生活していると思う人(「思う」+「どちらかといえば思う」)は76.3%と7割以上を占める。思わない人(「思わない」+「どちらかといえば思わない」)は12.4%、「わからない」は11.1%となっている。
昨年度と大きな違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 思う	456	34.3	386	34.6	289	30.9	399	35.2
2 どちらかといえば思う	558	42.0	443	39.7	399	42.7	452	39.8
3 どちらかといえば思わない	80	6.0	71	6.4	63	6.7	69	6.1
4 思わない	85	6.4	89	8.0	76	8.1	73	6.4
5 わからない	148	11.1	121	10.8	101	10.8	130	11.5
6 無回答	2	0.2	6	0.5	6	0.6	12	1.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

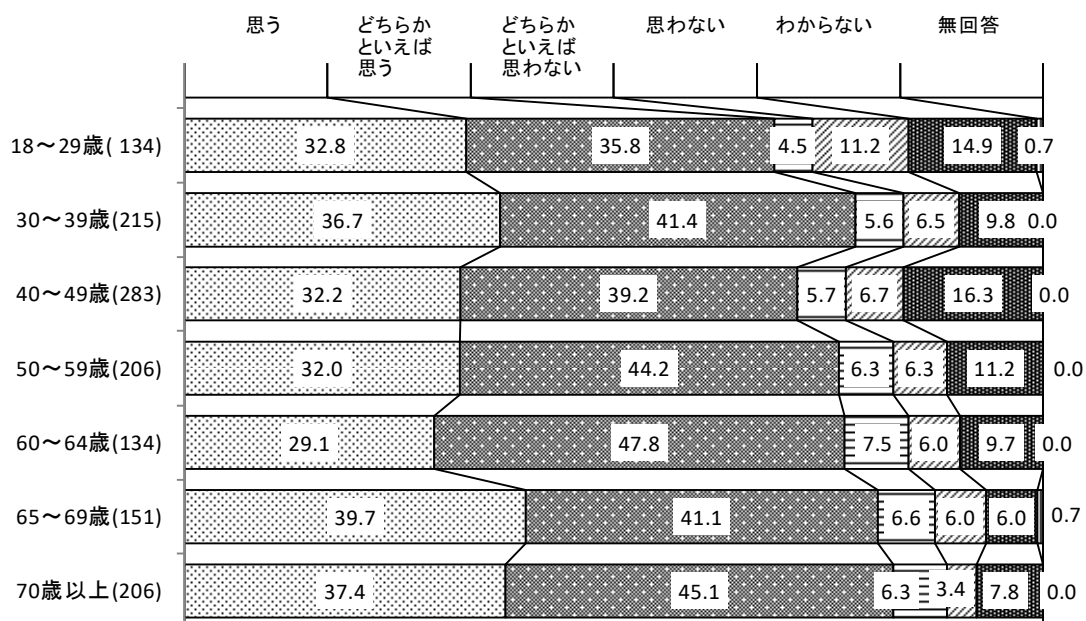
【性別】

●男女で大きな違いは見られない。



【年齢別】

●生きがいをもって生活していると思う人(「思う」+「どちらかといえば思う」)の割合は、いずれの年代でも7割前後と高く、特に65歳以上の高齢者では8割を超えている。

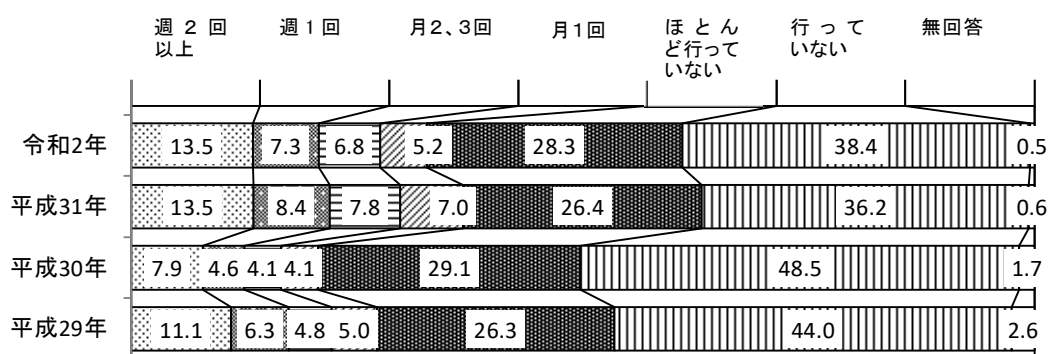


(2) 生涯学習について

①生涯学習の実施（問29）

あなたは、生涯学習（学び：文化活動、趣味、レクリエーション活動など）をどのくらい行っていますか。

生涯学習を行っている人は32.8%となっており、「ほとんど行っていない」28.3%、「行っていない」38.4%を合わせると6割強の人は行っていない。
 なお、行っている人の頻度では、「週2回以上」が13.5%と最も高い。
 昨年と比較して大きな違いは見られない。

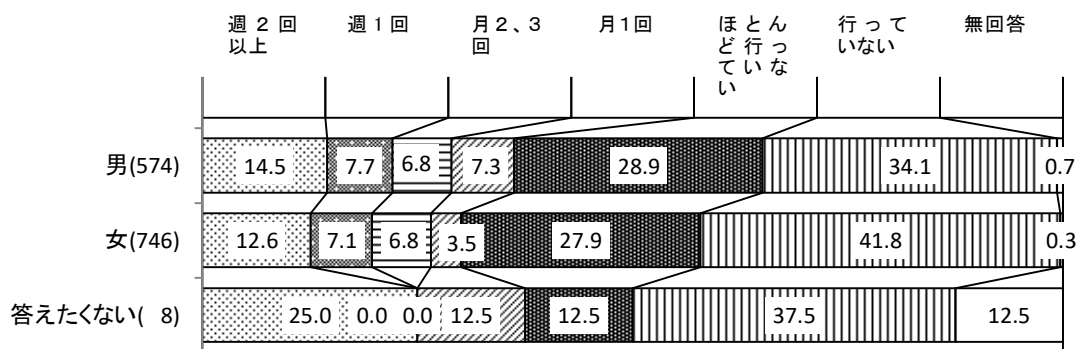


※平成30年度までは「目標・目的を持って生涯学習を行っているか」との設問であったため比較には注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 週2回以上行っている	179	13.5	151	13.5	74	7.9	126	11.1
2 週1回行っている	97	7.3	94	8.4	43	4.6	72	6.3
3 月2、3回行っている	90	6.8	87	7.8	38	4.1	54	4.8
4 月1回行っている	69	5.2	78	7.0	38	4.1	57	5.0
5 ほとんど行っていない	376	28.3	295	26.4	272	29.1	298	26.3
6 行っていない	511	38.4	404	36.2	453	48.5	499	44.0
7 無回答	7	0.5	7	0.6	16	1.7	29	2.6
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

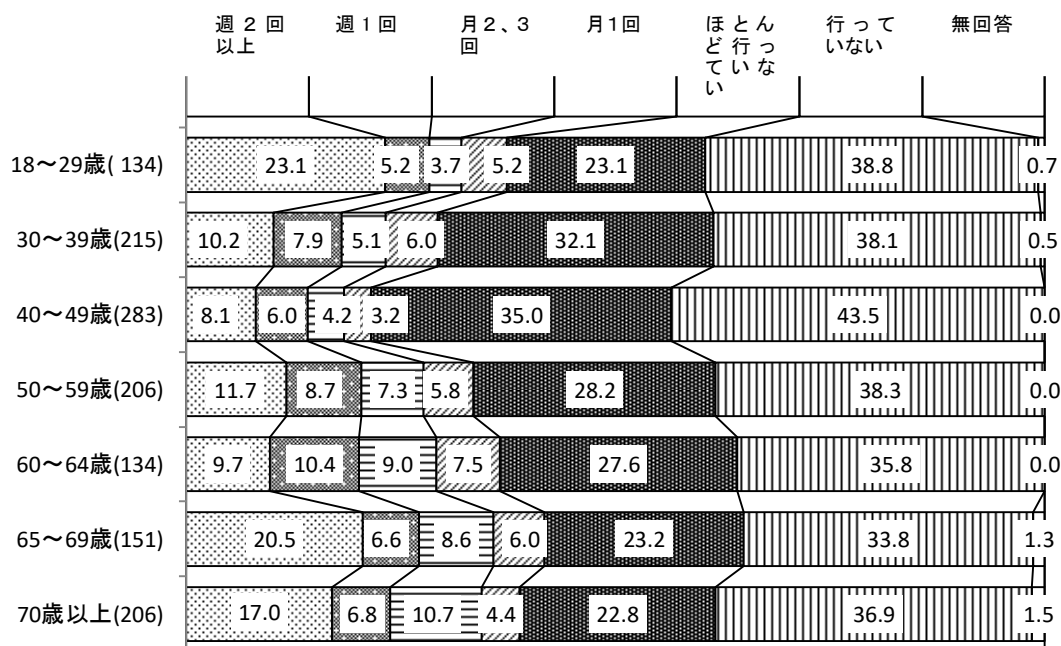
【性別】

- 男女別にみると、生涯学習を行っている人の割合は、男性 36.3%、女性 30.0%とやや男性の方が多い。昨年度と比較して、行っている割合は男女ともにわずかに減っている。



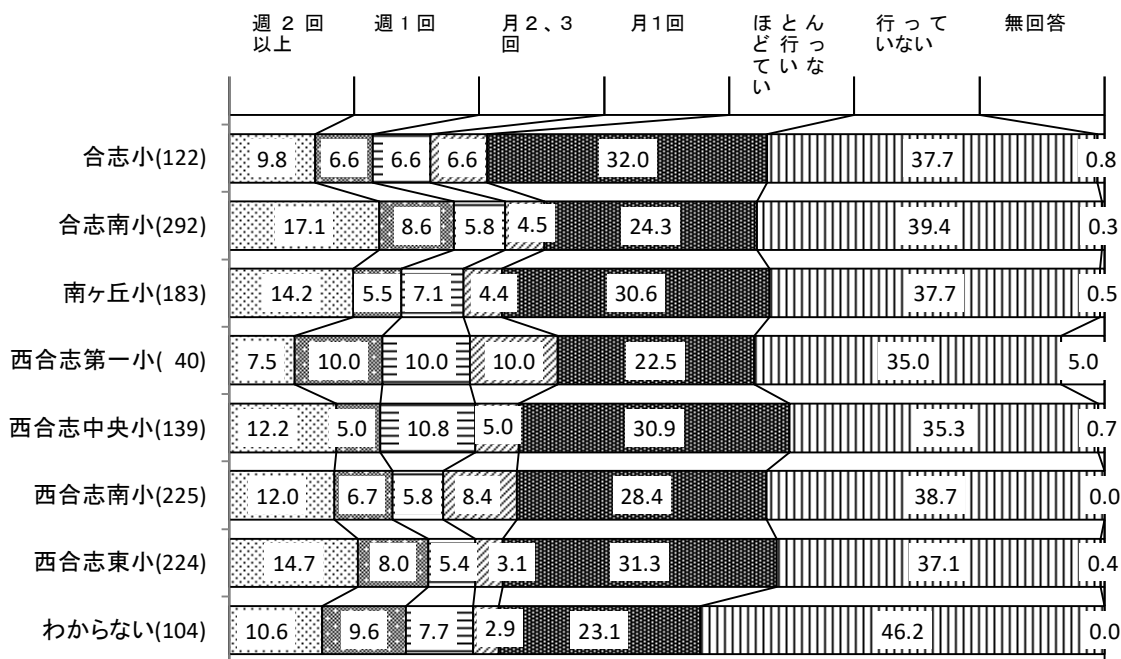
【年齢別】

- 生涯学習を行っている割合は、子育て、働き盛り世代の30代 29.2%、40代 21.5%とやや低い。
- 他方、20代以下の若い年齢層、65歳以上の高齢者層では4割前後が行っている。



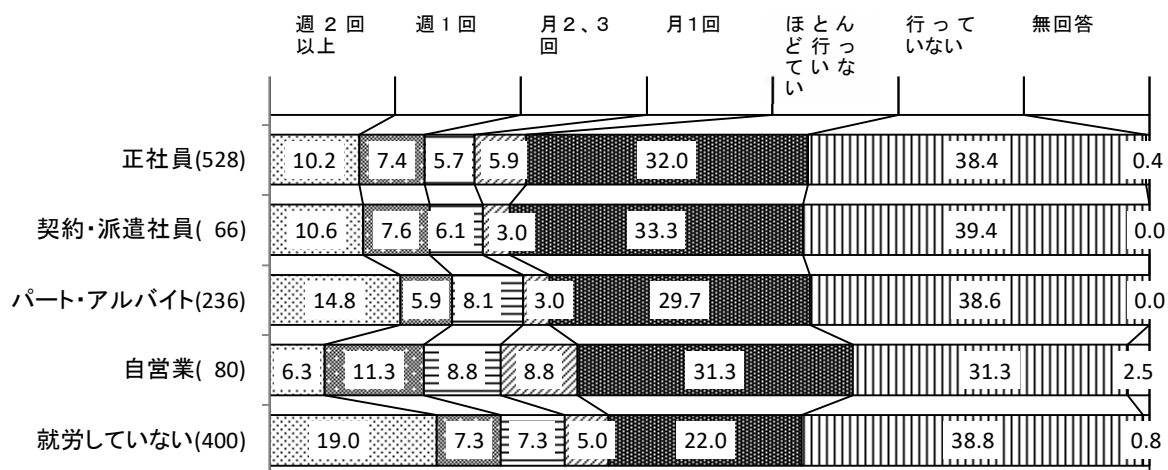
【校區別】

- 合志小校区では生涯学習を行っている人は29.6%と他校区よりもやや低い傾向がみられるものの、校区による大きな差は見られない。



【職業別】

- 生涯学習を行っている割合は、自営業や就労していない場合4割弱とやや高い。
- 正社員、契約・派遣社員、パート・アルバイトでは7割前後が行っていない。



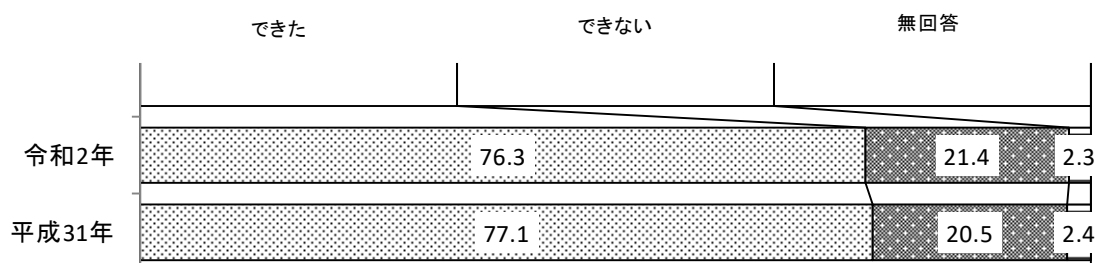
②生涯学習を通じた仲間づくり（問30）

問29で1～4と答えた方に。

あなたは、生涯学習を通じて仲間ができましたか。

生涯学習を行っている435人に生涯学習を通じて仲間ができたかを尋ねたところ、76.3%が「できた」としている。

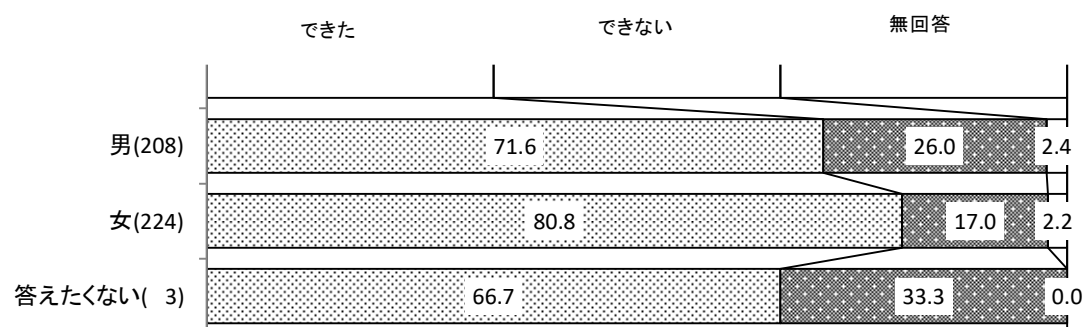
昨年度と違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 できた	332	76.3	316	77.1
2 できない	93	21.4	84	20.5
3 無回答	10	2.3	10	2.4
合計	435	100.0	410	100.0

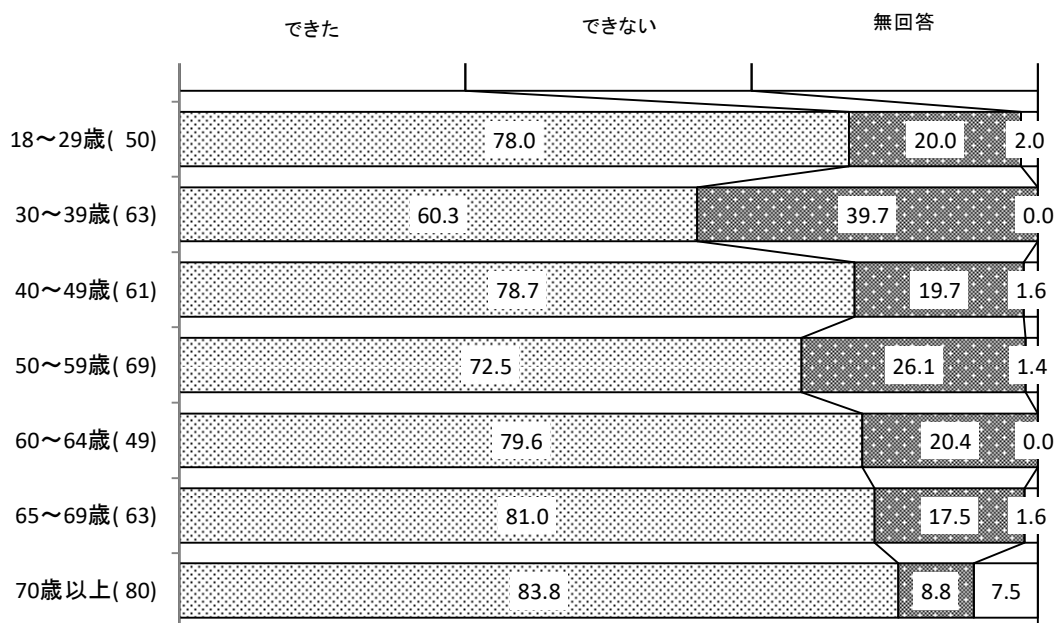
【性別】

- 男女別にみると、仲間ができたという割合は、女性80.8%、男性71.6%と女性が上回っている。



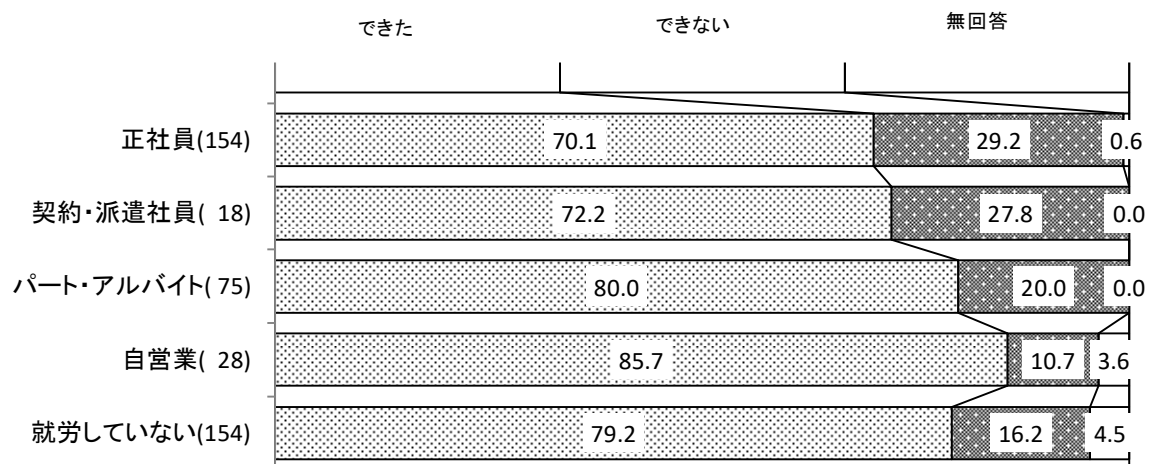
【年齢別】

● 仲間ができたという割合は、60歳以上の高齢者では8割以上と高い。



【職業別】

● 仲間ができたという割合は正社員や契約・派遣社員では7割だが、それ以外では8割前後ができたとしている。

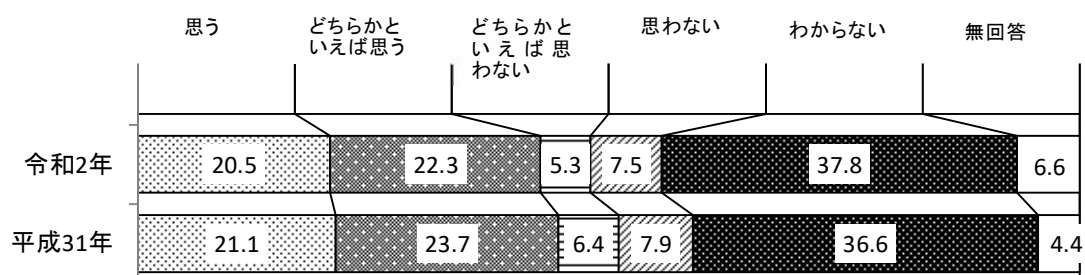


③生涯学習の機会（問31）

あなたは、合志市には生涯学習に親しむ機会があると思いますか。

生涯学習に親しむ機会があると思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）は42.8%と、思わない（「思わない」＋「どちらかといえば思わない」）12.8%を上回っている。なお「わからない」は37.8%となっている。

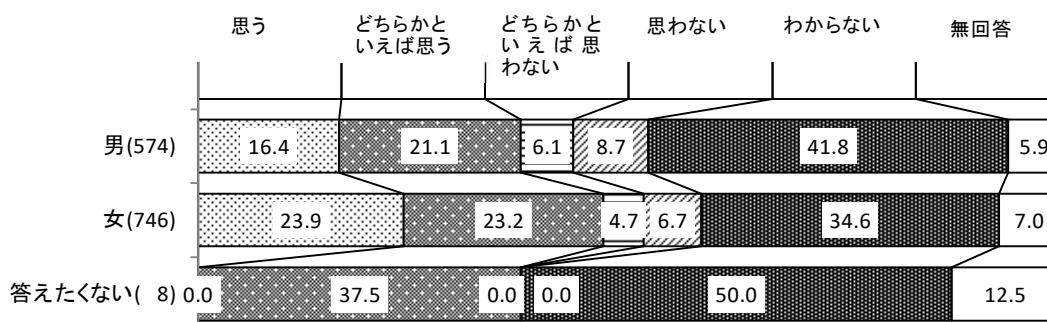
昨年度から変わっていない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 思う	272	20.5	235	21.1
2 どちらかといえば思う	297	22.3	264	23.7
3 どちらかといえば思わない	70	5.3	71	6.4
4 思わない	100	7.5	88	7.9
5 わからない	502	37.8	409	36.6
6 無回答	88	6.6	49	4.4
合計	1329	100.0	1116	100.0

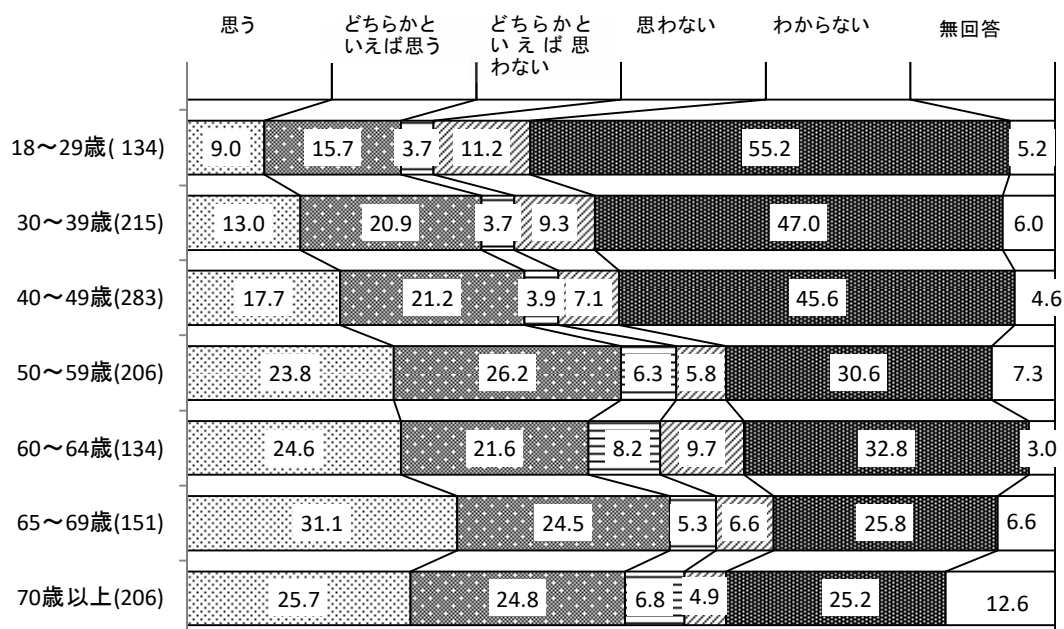
【性別】

- 生涯学習に親しむ機会があると思う割合は、男性37.5%、女性47.1%と女性が上回っている。この傾向は昨年度から変わっていない。



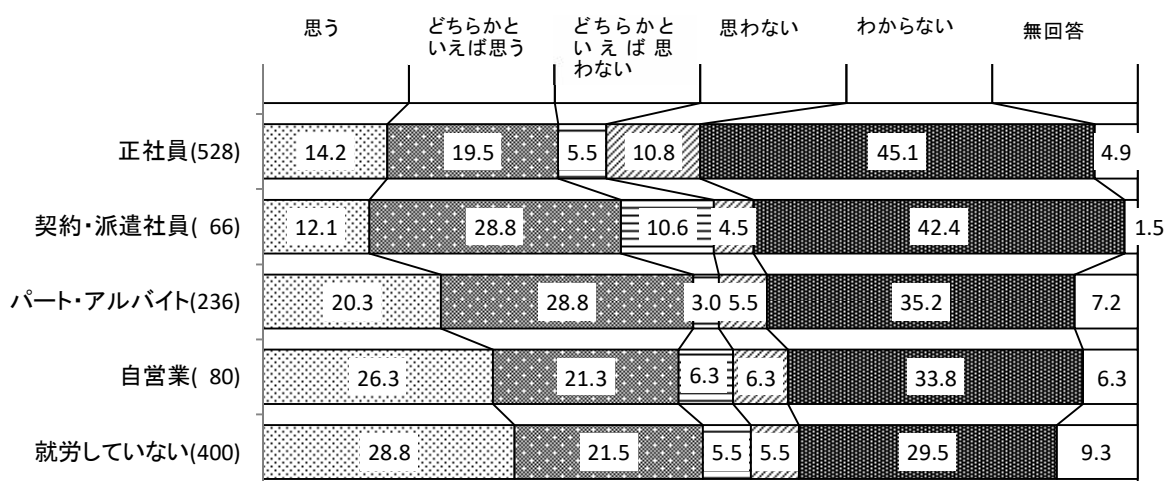
【年齢別】

- 生涯学習に親しむ機会があると思う人の割合は、年齢とともに高くなる傾向が見られ、20代以下では24.7%だが、50代以上ではほぼ半数を占めている。



【職業別】

- 生涯学習に親しむ機会があると思う人の割合は、正社員が最も低く33.7%にとどまる。



(3) スポーツについて

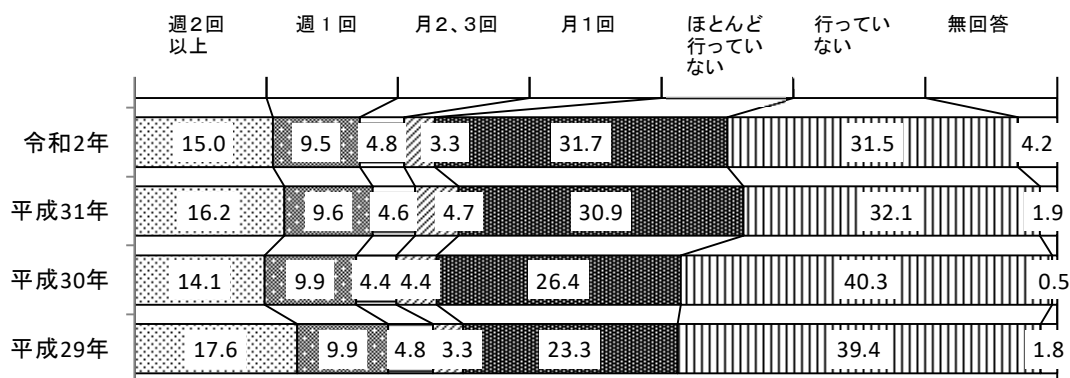
①スポーツの実施（問32）

あなたは、スポーツをどのくらい行っていますか。

スポーツを行っている人は28.2%となっており、「ほとんど行っていない」31.7%、「行っていない」31.5%を合わせると6割の人はスポーツを行っていない。

なお、行っている人の頻度では、「週2回以上」が15.0%と最も高い。

昨年度と比較してスポーツを行っている人の割合はやや減少している。

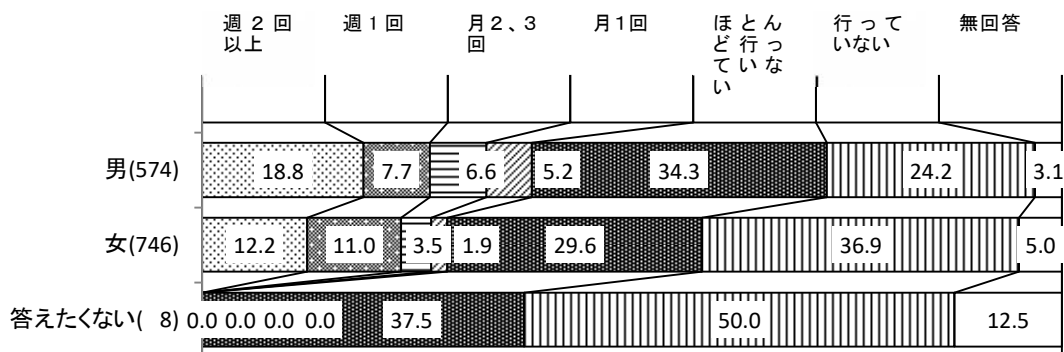


※平成30年度までは「目標・目的を持ってスポーツを行っているか」との設問であったため比較には注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 週2回以上行っている	199	15.0	181	16.2	132	14.1	200	17.6
2 週1回行っている	126	9.5	107	9.6	92	9.9	112	9.9
3 月2、3回行っている	64	4.8	51	4.6	41	4.4	55	4.8
4 月1回行っている	44	3.3	53	4.7	41	4.4	37	3.3
5 ほとんど行っていない	421	31.7	345	30.9	247	26.4	264	23.3
6 行っていない	419	31.5	358	32.1	376	40.3	447	39.4
7 無回答	56	4.2	21	1.9	5	0.5	20	1.8
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

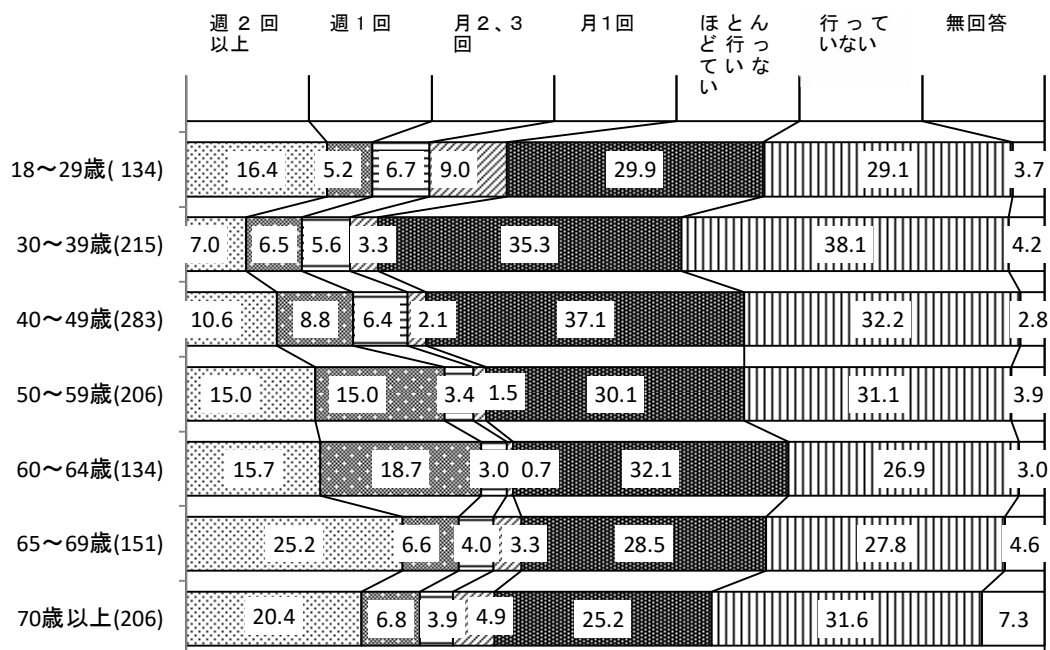
【性別】

- 男女別にみると、スポーツを行っている人の割合は、男性 38.3%、女性 28.6%と男性が上回っている。特に男性は「週2回以上」の高頻度の割合が 18.8%を占める。



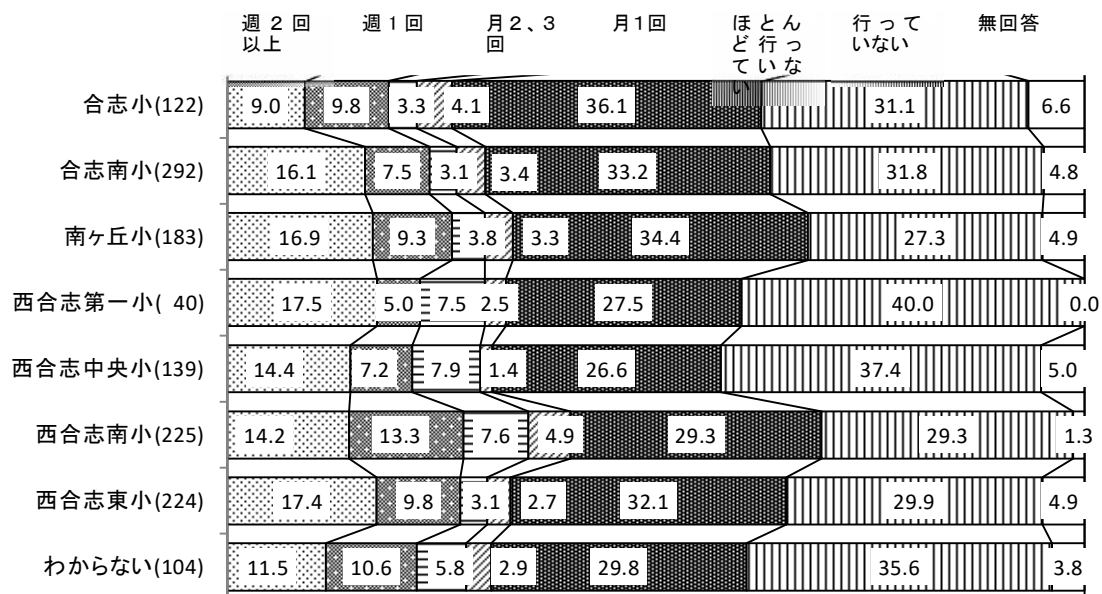
【年齢別】

- スポーツを行っている割合は、20代以下の若い年齢層では 37.3%と高いが、30代で 22.4%に減少、その後は年齢とともに増加傾向となり、70歳以上では 4割弱となる。
- 30代、40代の子育て世代では 7割がスポーツを行っていない状況となっている。



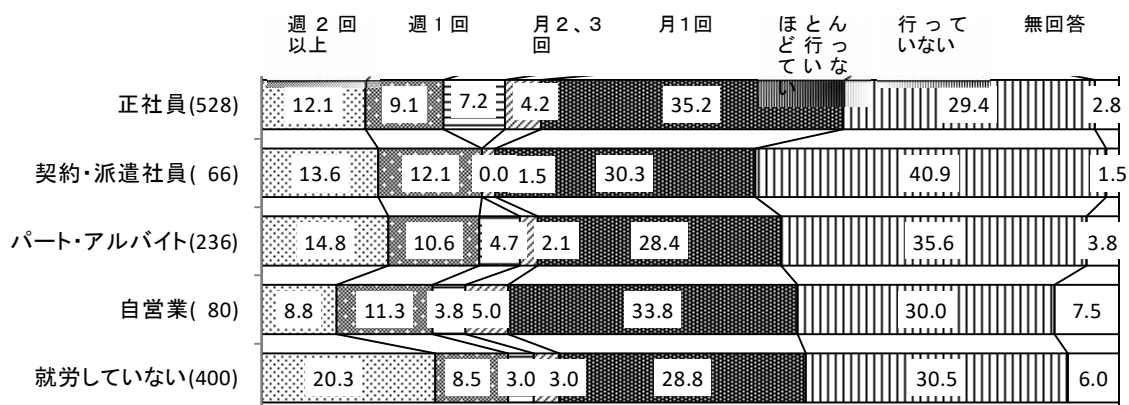
【校區別】

- 西合志南小では、スポーツを行っている割合が4割と他の校区に比べて高い。



【職業別】

- 契約・派遣社員の場合、でスポーツを行っている割合が3割未満とやや低い傾向となっている。

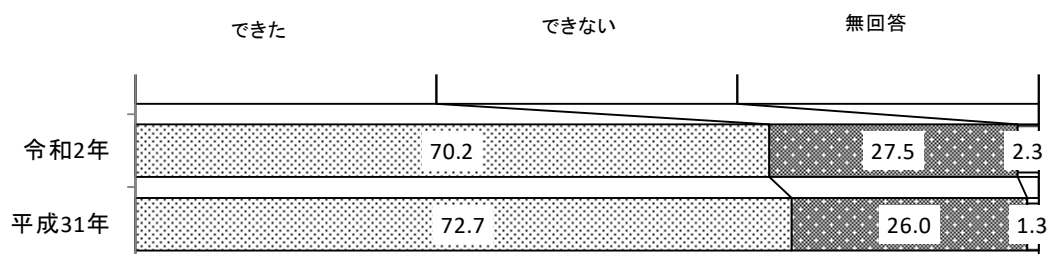


②スポーツを通じた仲間づくり（問33）

問32で1～4と答えた方に。

あなたは、スポーツを通じて仲間ができましたか。

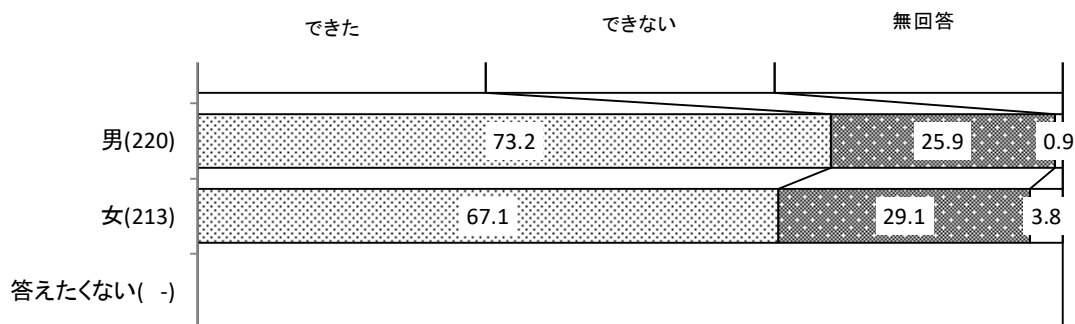
スポーツを行っている433人について、スポーツを通じて仲間ができたかを尋ねたところ、70.2%が「できた」としている。
昨年度と違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 できた	304	70.2	285	72.7
2 できない	119	27.5	102	26.0
3 無回答	10	2.3	5	1.3
合計	433	100.0	392	100.0

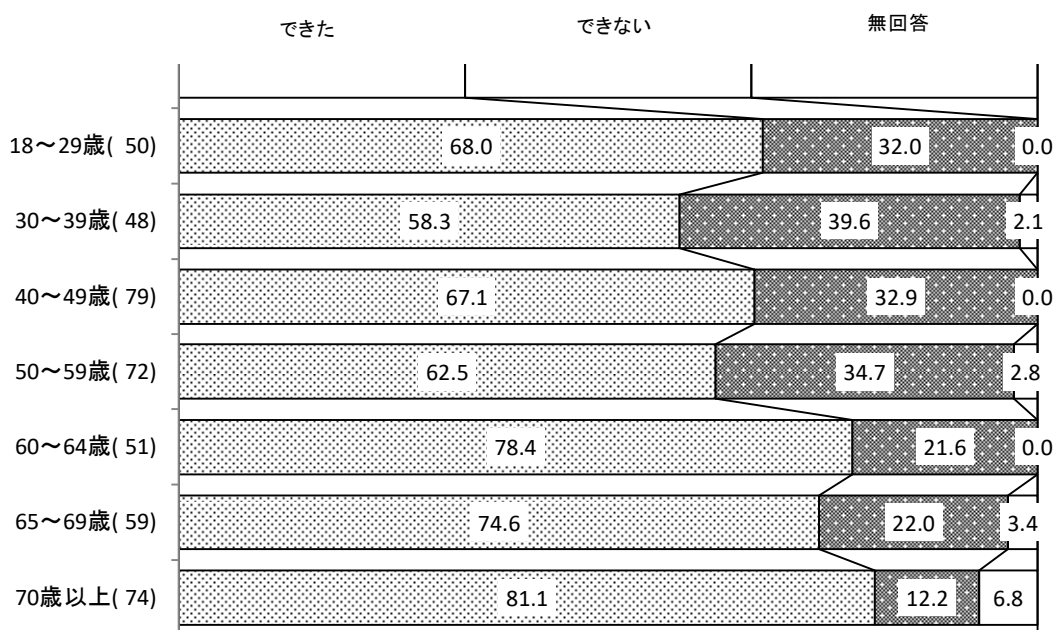
【性別】

- 男女別にみると、仲間ができたという割合は、男性73.2%に対し、女性67.1%と男性が上回っている。



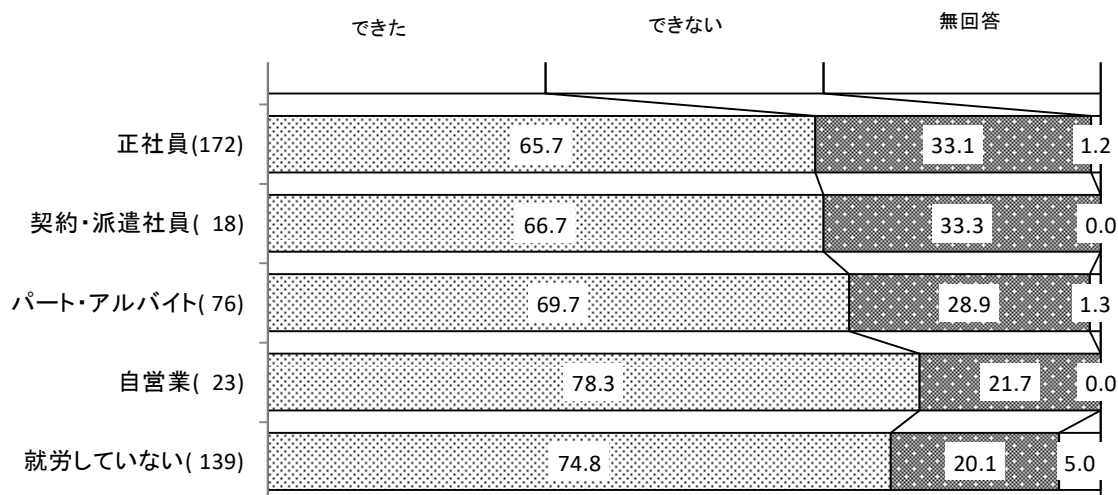
【年齢別】

● 仲間ができたという割合は、60歳以上の高齢者では8割前後と高い傾向が見られる。



【職業別】

● 自営業や就労していない場合に仲間ができたという割合がやや高い傾向が見られる。

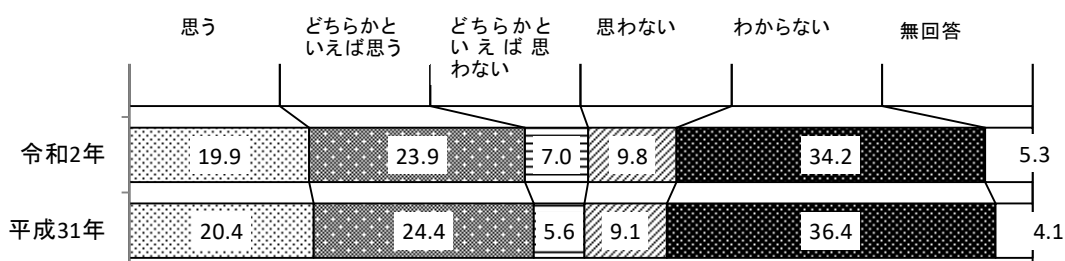


③スポーツの機会（問34）

あなたは、合志市にはスポーツに親しむ機会があると思いますか。

スポーツに親しむ機会があると思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）は43.8%と、思わない（「思わない」＋「どちらかといえば思わない」）16.8%を上回っている。なお「わからない」は34.2%となっている。

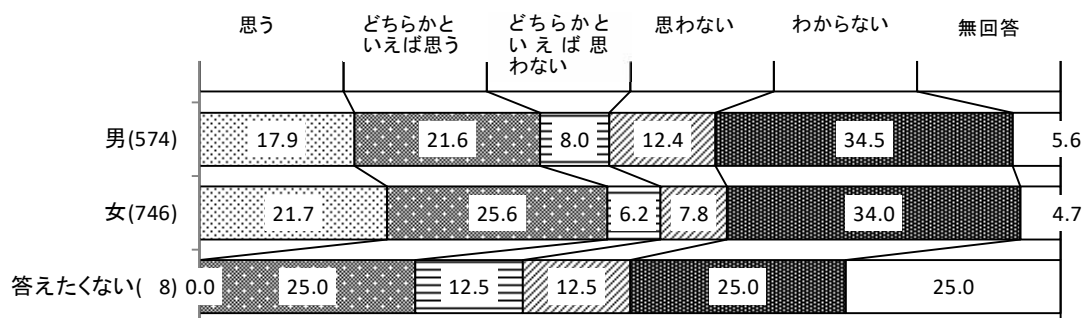
昨年度からほとんど変わっていない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 思う	265	19.9	228	20.4
2 どちらかといえば思う	317	23.9	272	24.4
3 どちらかといえば思わない	93	7.0	62	5.6
4 思わない	130	9.8	102	9.1
5 わからない	454	34.2	406	36.4
6 無回答	70	5.3	46	4.1
合計	1329	100.0	1116	100.0

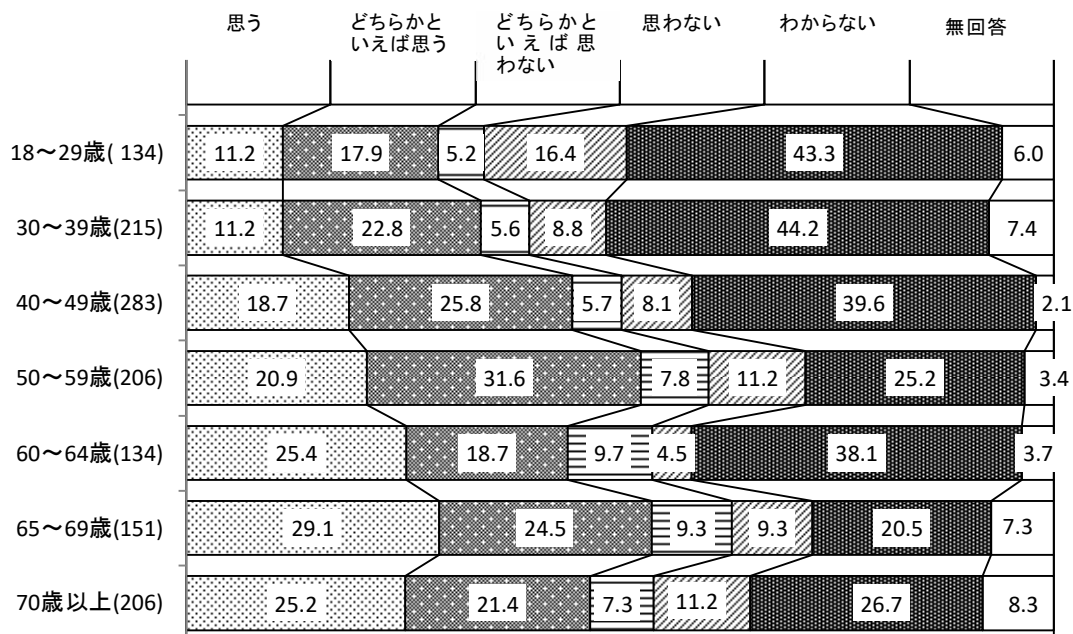
【性別】

- スポーツに親しむ機会があると思う割合は、男性39.5%、女性47.3%と女性が上回っている。



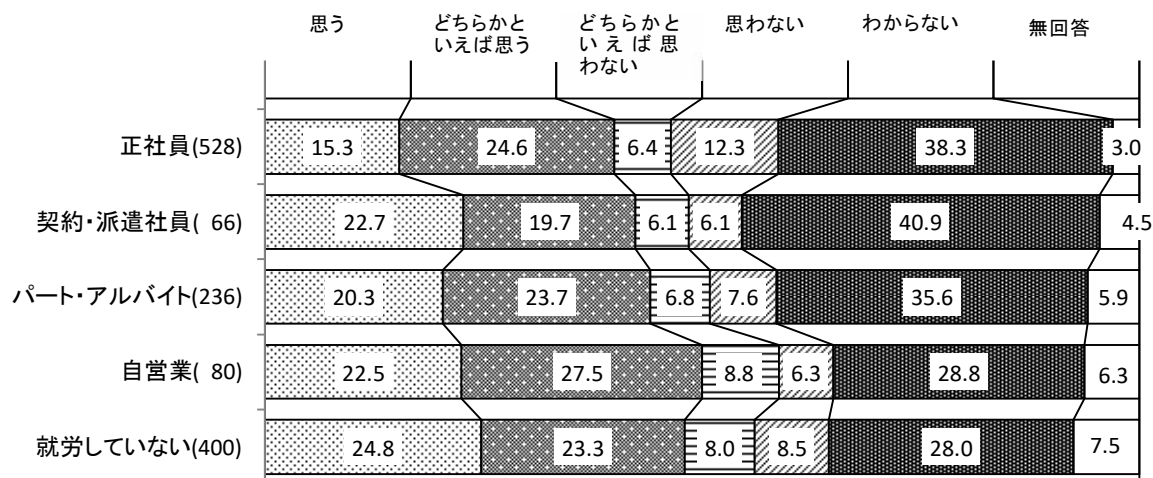
【年齢別】

- スポーツに親しむ機会があると思う人の割合は、年齢とともに高くなる傾向が見られ、20代以下の若い層では29.1%だが、50代以上では半数前後となっている。



【職業別】

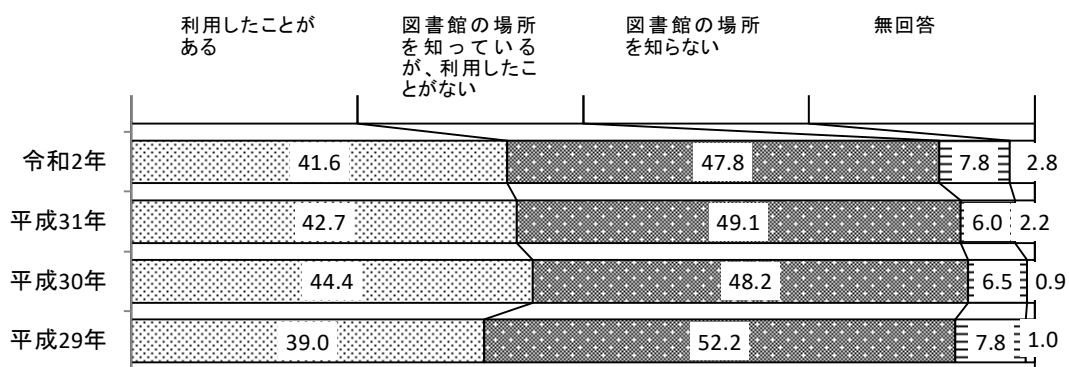
- 正社員でスポーツに親しむ機会があると思う割合が39.9%とやや低く、2割弱の人が思わないとしている。



(4) 図書館の利用(問35)

あなたは、過去1年間に図書館を利用したことがありますか？

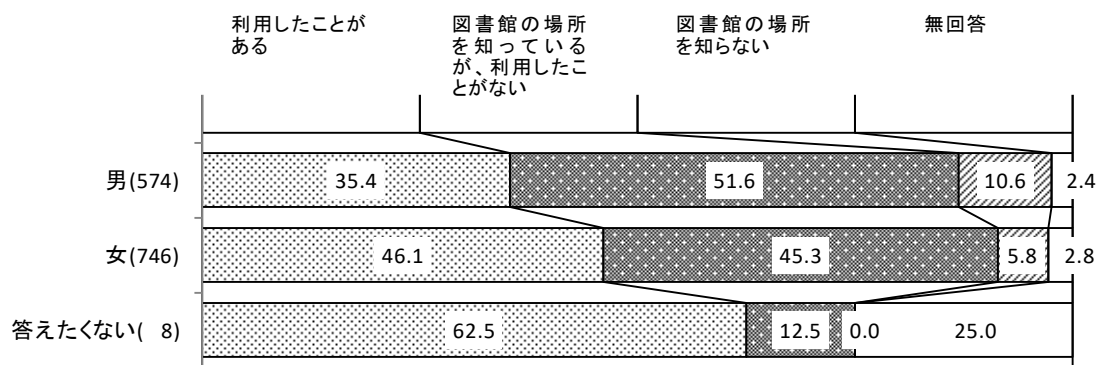
過去1年間に図書館を利用した人は41.6%である。利用したことはないものの場所を知っている人は47.8%、「図書館の場所を知らない」人は7.8%となっている。
昨年度から大きな変化はない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 利用したことがある	553	41.6	476	42.7	415	44.4	443	39.0
2 図書館の場所は知っているが利用したことがない	635	47.8	548	49.1	450	48.2	592	52.2
3 図書館の場所を知らない	104	7.8	67	6.0	61	6.5	89	7.8
4 無回答	37	2.8	25	2.2	8	0.9	11	1.0
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

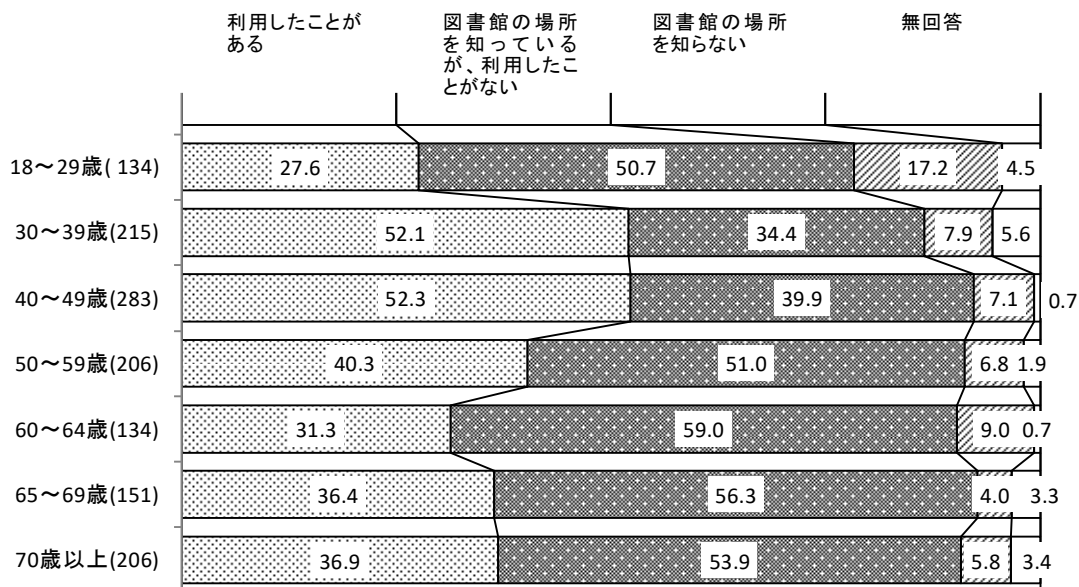
【性別】

●女性では「利用したことがある」が46.1%と男性の35.4%を上回っている。この傾向は昨年度から変わっていない。



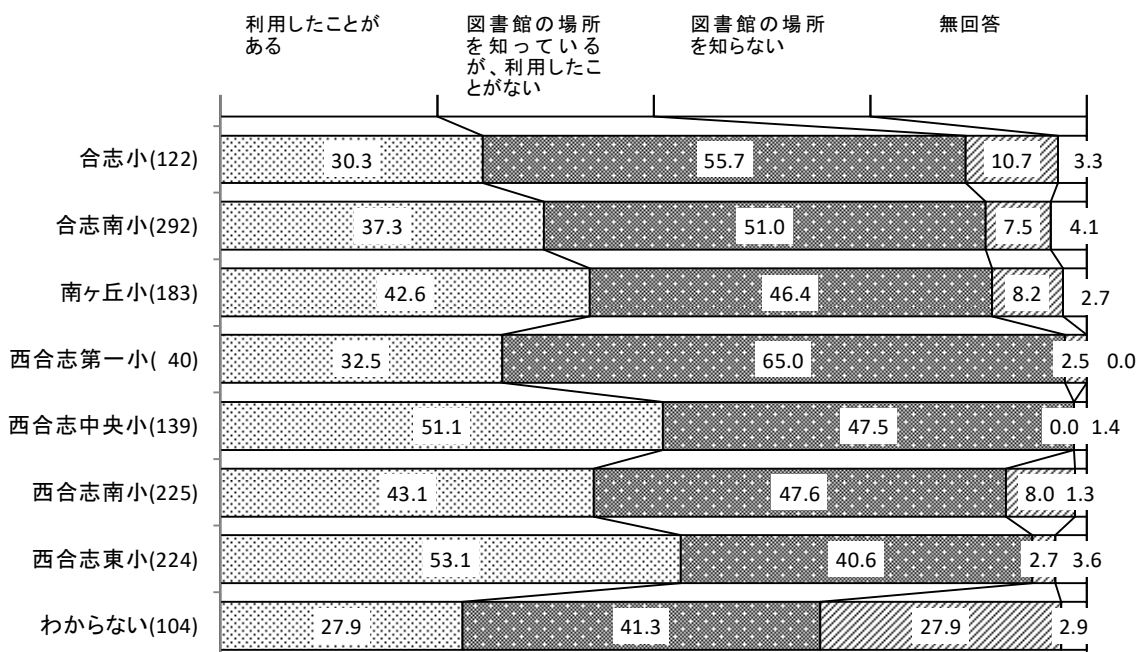
【年齢別】

- 「利用したことがある」割合は30代、40代の子育て世代で半数を超え、高い傾向となっている。
- 昨年度と比較して、20代以下の若い層の利用者が減少しており、50代の利用者がやや増加している。



【校區別】

- 「利用したことがある」割合は、合志小、西合志第一小で3割とやや低く、西合志中央小、西合志東小は利用者が半数を超え、高い傾向となっている。
- ※西合志第一小は回答数が少ないため、注意が必要である。



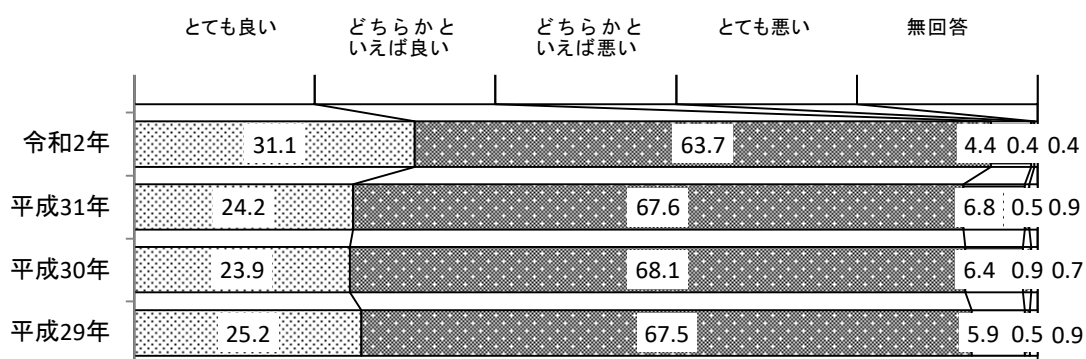
◆生活環境について

1. 住環境の評価

(1) 住環境評価（問48）

あなたが住んでいるところは、良い住環境だと思いますか？

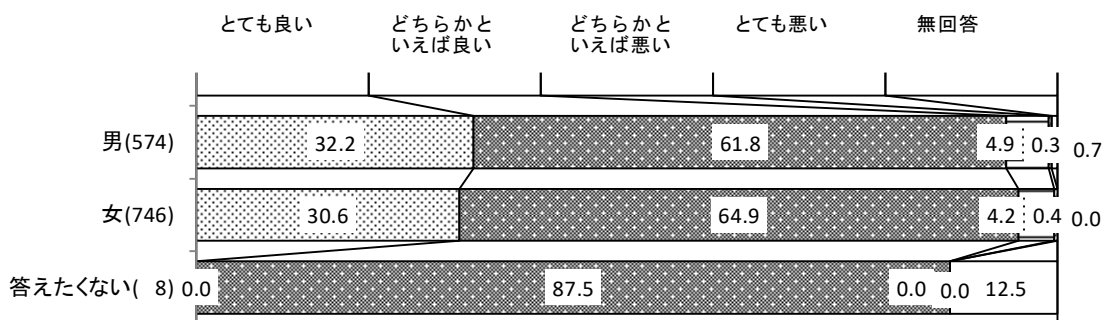
住環境について、「とても良い」31.1%、「どちらかといえば良い」63.7%を合わせると9割以上の方が良いと評価しており、悪いという評価は4.8%にとどまる。
昨年度と比較して、「とても良い」と評価する人は多くなっている。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 とても良いと思う	413	31.1	270	24.2	223	23.9	286	25.2
2 どちらかといえば良いと思う	847	63.7	754	67.6	636	68.1	766	67.5
3 どちらかといえば悪いと思う	59	4.4	76	6.8	60	6.4	67	5.9
4 とても悪いと思う	5	0.4	6	0.5	8	0.9	6	0.5
5 無回答	5	0.4	10	0.9	7	0.7	10	0.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

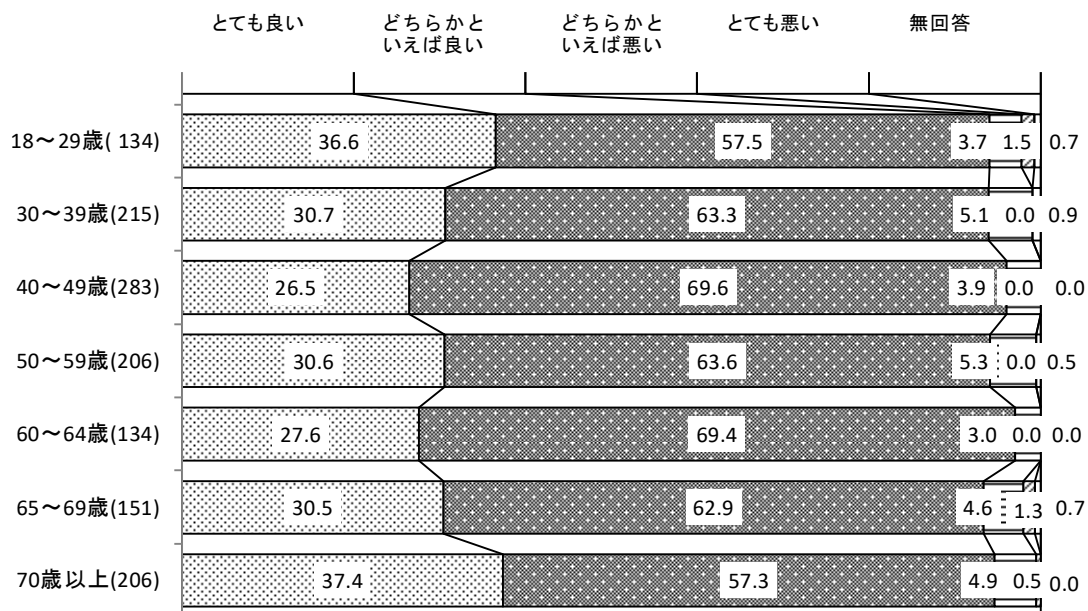
【性別】

●男女で大きな違いは見られない。



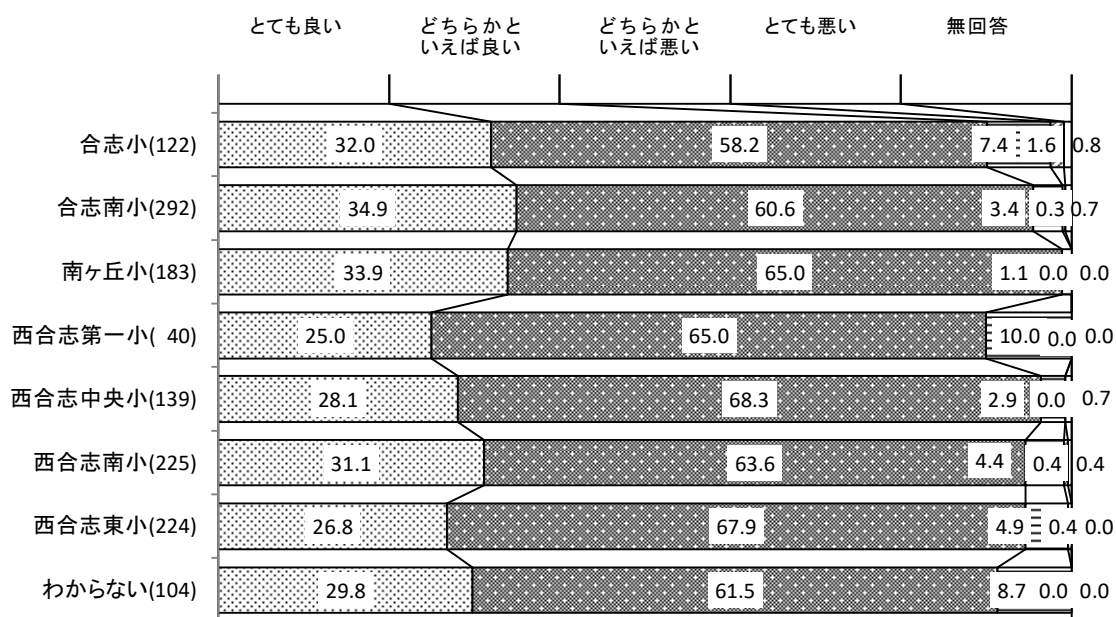
【年齢別】

- 年齢別にみても特に大きな違いはみられないが、20代以下の若い年齢層と70歳以上の高齢者層で「とても良い」が35%以上とやや評価が高い。



【校區別】

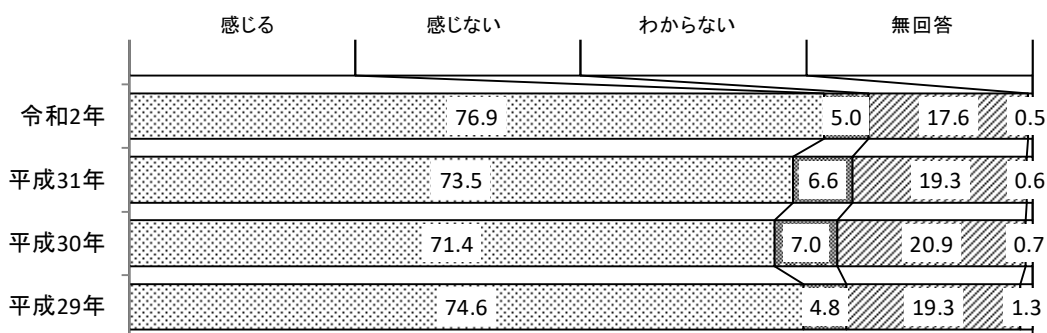
- 住環境を良いと評価する割合は、校区に関係なく高い。中でも南ヶ丘小ではほとんどの人が良いと評価している。



(2) 住み慣れた地域 (問 27)

あなたは、住み慣れた地域で生活できていると感じますか？

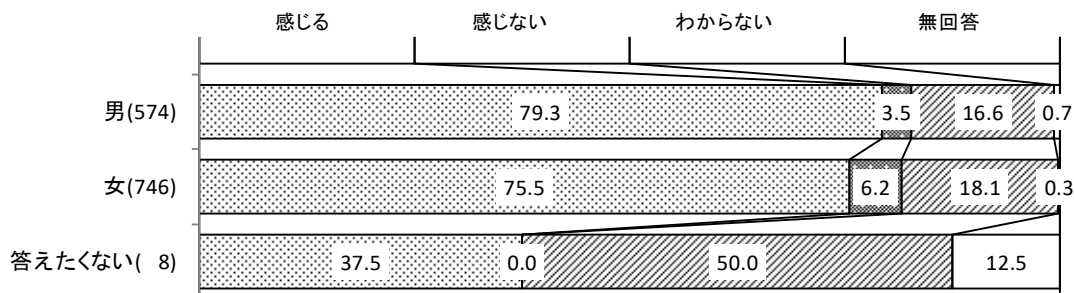
住み慣れた地域で生活できていると「感じる」人は76.9%と7割以上を占め、「感じない」は5.0%にとどまる。「わからない」は17.6%となっている。
平成30年から「感じる」割合は微増している。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 感じる	1022	76.9	820	73.5	667	71.4	847	74.6
2 感じない	66	5.0	74	6.6	65	7.0	54	4.8
3 わからない	234	17.6	215	19.3	195	20.9	219	19.3
4 無回答	7	0.5	7	0.6	7	0.7	15	1.3
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

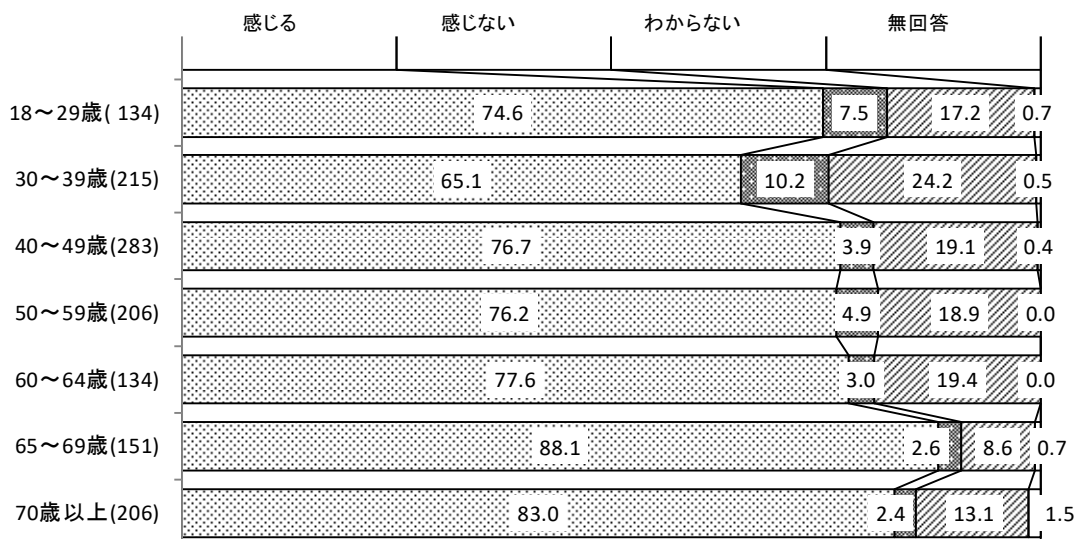
【性別】

●男女で大きな違いは見られない。



【年齢別】

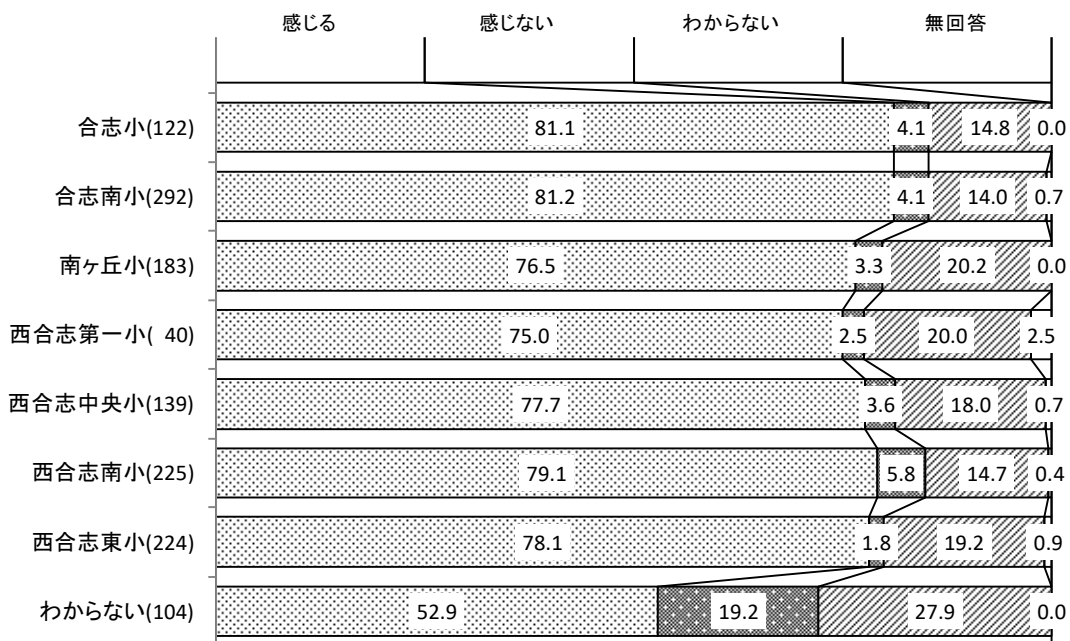
●30代で「感じる」割合が65.1%とやや低いものの、他の年代は8割前後と高い。



【校區別】

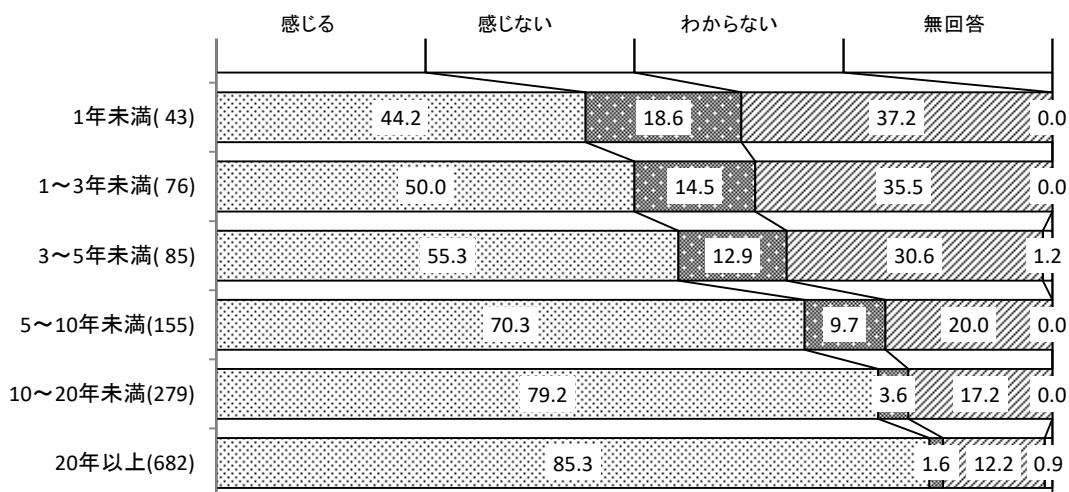
●校區別にみても大きな違いは見られないものの、住み慣れた地域で暮らしていると「感じる」割合は、合志小、合志南小では8割を超えている。

※西合志第一小は回答数が少ないため、注意が必要である。



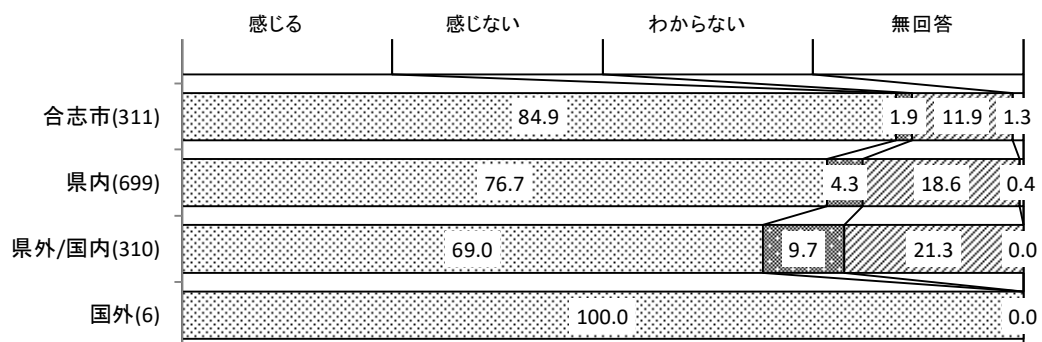
【居住年数別】

- 居住年数が長くなるほど、住み慣れた地域で生活できていると感じる割合は高くなる傾向が見られ、1年を境に半数が住み慣れた地域と感じている。



【出身地別】

- 合志市出身者は84.9%が住み慣れた地域で暮らしていると感じている。県内出身者では76.7%、県外出身者では69.0%となっている。なお、回答者が少ないものの、国外出身者は全員が住み慣れた地域で暮らしていると感じている。

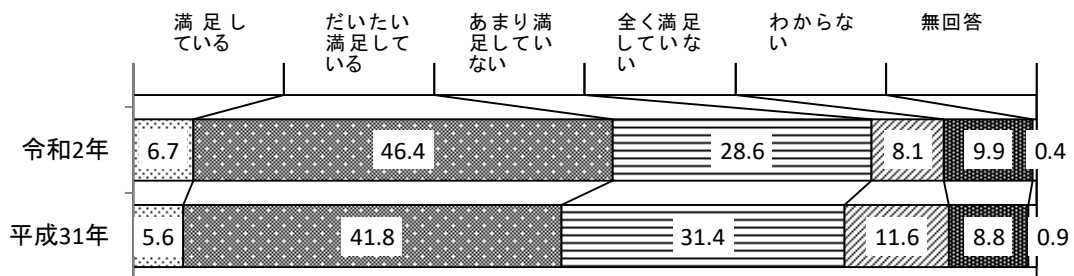


2. 交通について

(1) 道路移動の満足度 (問50)

あなたは、合志市内の道路の利用に満足していますか？

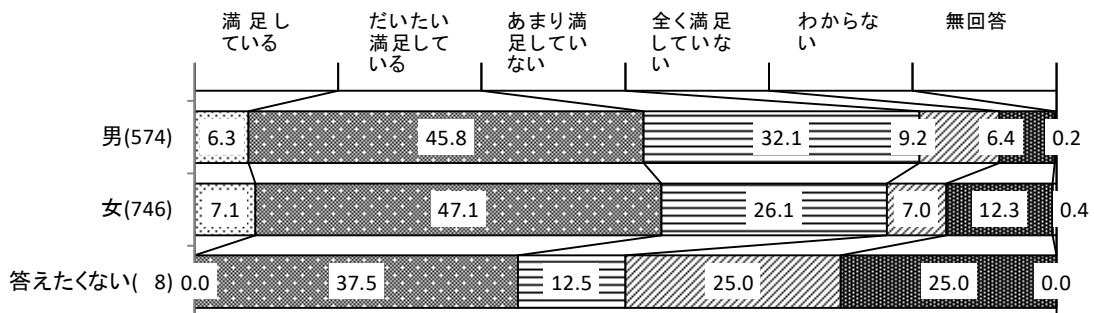
合志市内の道路の利用に満足している（「満足している」＋「だいたい満足している」）は53.1%と半数を超え、満足していない（「全く満足していない」＋「あまり満足していない」）36.7%を上回っている。
 昨年度よりも満足している割合は増加している。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 満足している	89	6.7	62	5.6
2 だいたい満足している	617	46.4	467	41.8
3 あまり満足していない	380	28.6	350	31.4
4 全く満足していない	107	8.1	129	11.6
5 わからない	131	9.9	98	8.8
6 無回答	5	0.4	10	0.9
合計	1329	100.0	1116	100.0

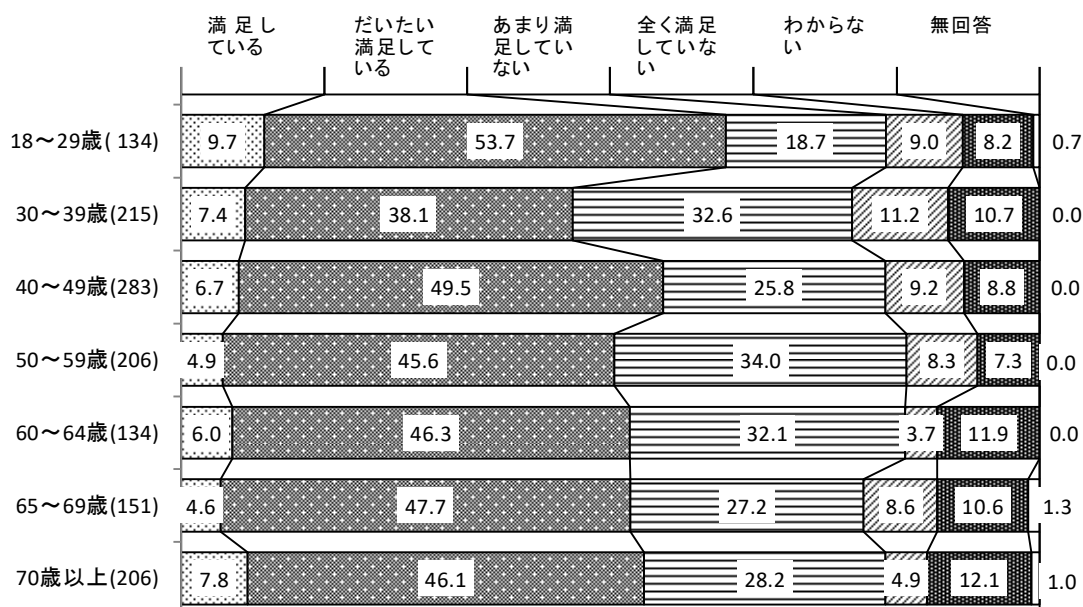
【性別】

- 男女ともに半数以上が満足している。昨年度と比較して男女ともに満足している人は増えている。



【年齢別】

- 30代で満足している割合が45.5%とやや低いが、他の年代はいずれも半数以上が満足している。

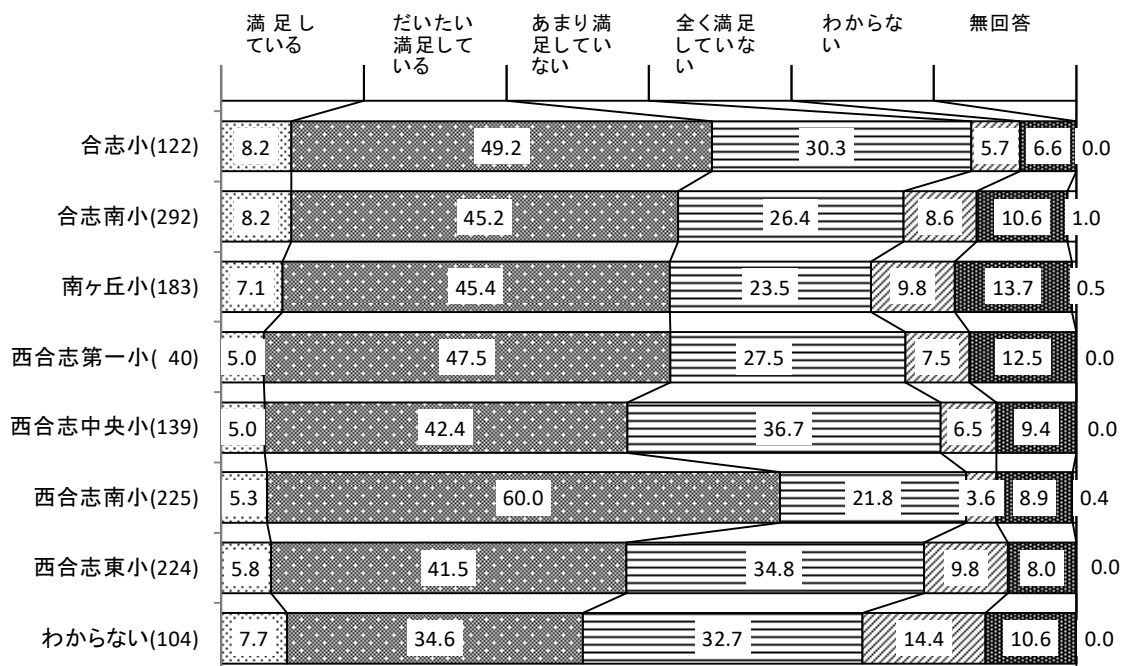


【校区别】

- 校区别に見ると西合志中央小、西合志東小では満足している割合が半数以下と他の校区よりも低い傾向が見られる。

- 他方、西合志南小では満足している人は65.3%と非常に多い。

※西合志第一小は回答数が少ないため、注意が必要である。



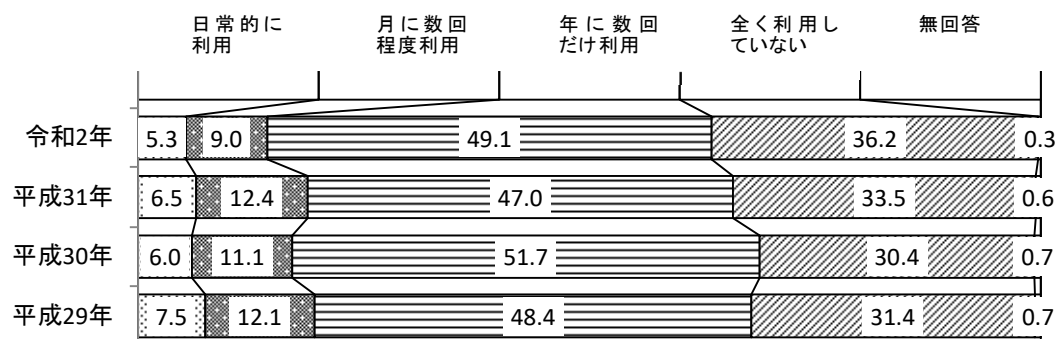
(2) 公共交通の利用について

①公共交通の利用状況(問5 1)

あなたは、どの程度公共交通機関（JR、バス、電車）を利用していますか？

公共交通機関を「日常的に利用している」人は5.3%にとどまり、「年に数回だけ利用している」という人が49.1%で最も多い。「全く利用していない」という人は36.2%となっており、3割の人は公共交通機関を利用していない。

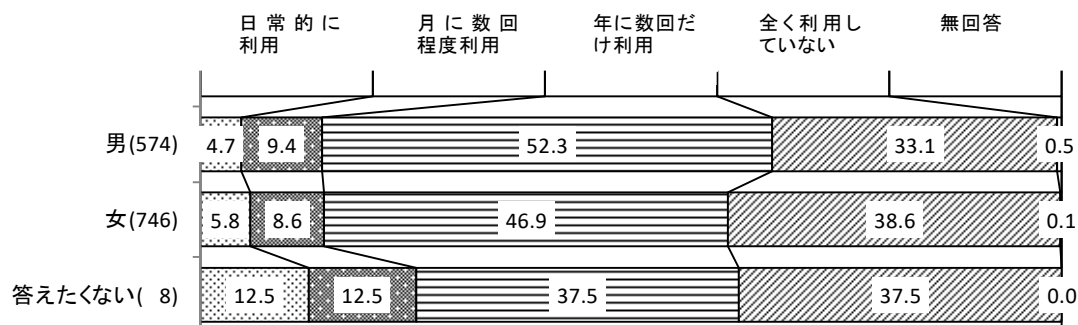
昨年度と比較して公共交通機関の利用者はやや減少傾向にある。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 日常的に利用している	71	5.3	72	6.5	56	6.0	85	7.5
2 月に数回程度利用している	120	9.0	138	12.4	104	11.1	137	12.1
3 年に数回だけ利用している	653	49.1	525	47.0	483	51.7	549	48.4
4 全く利用していない	481	36.2	374	33.5	284	30.4	356	31.4
5 無回答	4	0.3	7	0.6	7	0.7	8	0.7
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

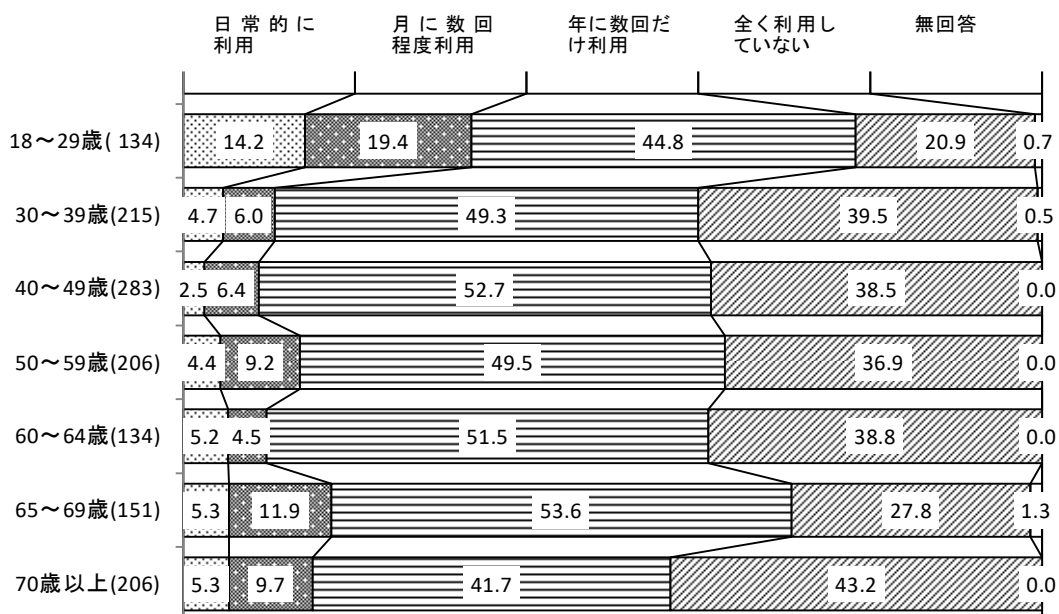
【性別】

- 公共交通機関を利用している割合は、男性 66.4%、女性 61.3%とやや男性の方が高い傾向が見られる。



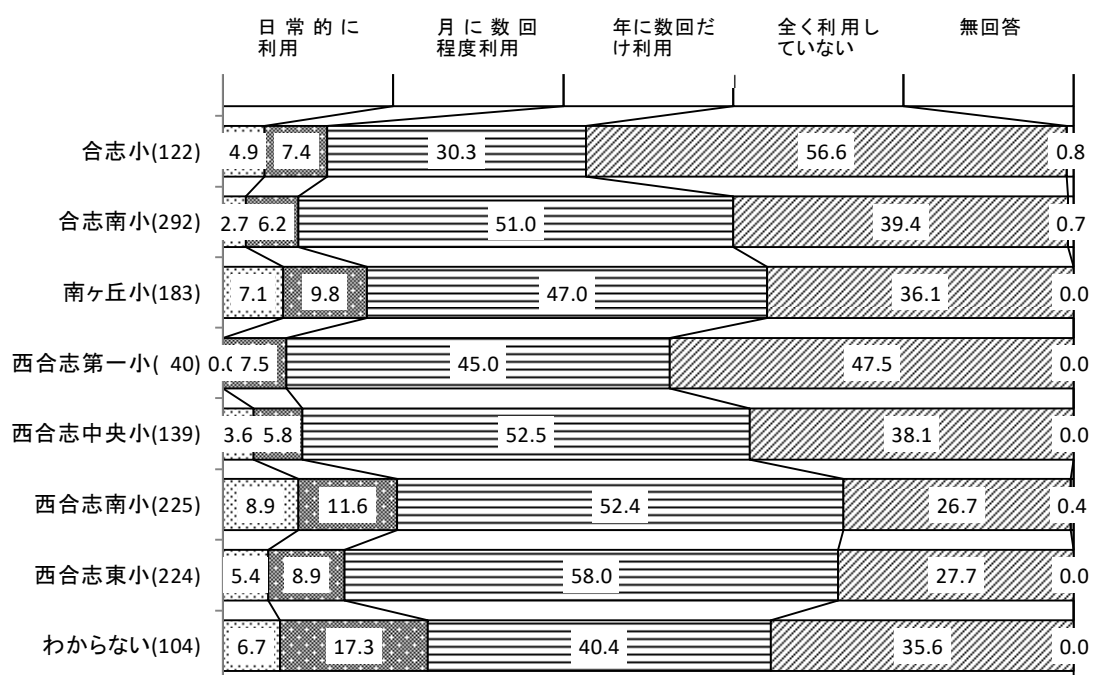
【年齢別】

- 20代以下の若い年齢層では、日常的に利用している割合が14.2%、月数回程度利用も19.4%と他の年代よりも利用している人の頻度がやや高い。



【校区別】

- 西合志南小、西合志東小では公共交通を利用している人の割合が7割以上と他の校区よりも高い。
- 一方、合志小では半数以上が全く利用していない。

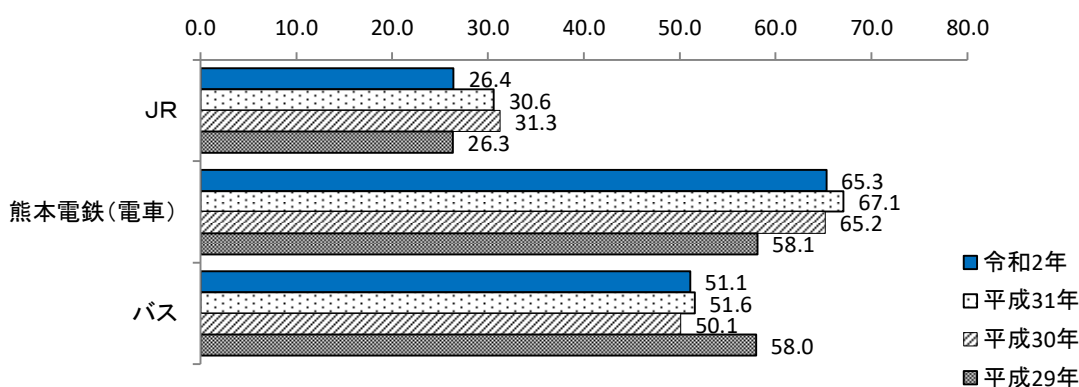


②利用機関（問52）

問51で1～3と答えた方にお尋ねします。

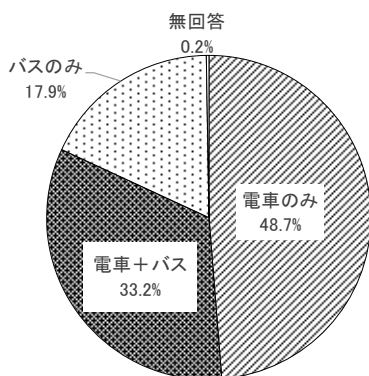
あなたは、どの公共交通機関を利用していますか？

公共交通機関を利用している844人が利用している交通機関としては、「熊本電鉄（電車）」が65.3%、「バス」51.1%、「JR」26.4%となっている。
昨年度と比較しても大きな違いは見られない。



	令和2年度 n=844		平成31年度 n=735		平成30年度 n=643		平成29年度 n=771	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 JR	223	26.4	225	30.6	201	31.3	203	26.3
2 熊本電鉄(電車)	551	65.3	493	67.1	419	65.2	448	58.1
3 バス	431	51.1	379	51.6	322	50.1	447	58.0

（参考）利用公共交通機関の組み合わせ



参考までに844人の公共交通機関の利用組み合わせを見ると、JRや熊本電鉄の「電車のみ」を利用している人は48.7%と最も多く、「電車とバス」を利用している人は33.2%、「バスのみ」を利用している人は17.9%となっている。昨年度とほとんど変わらない。

【性別】

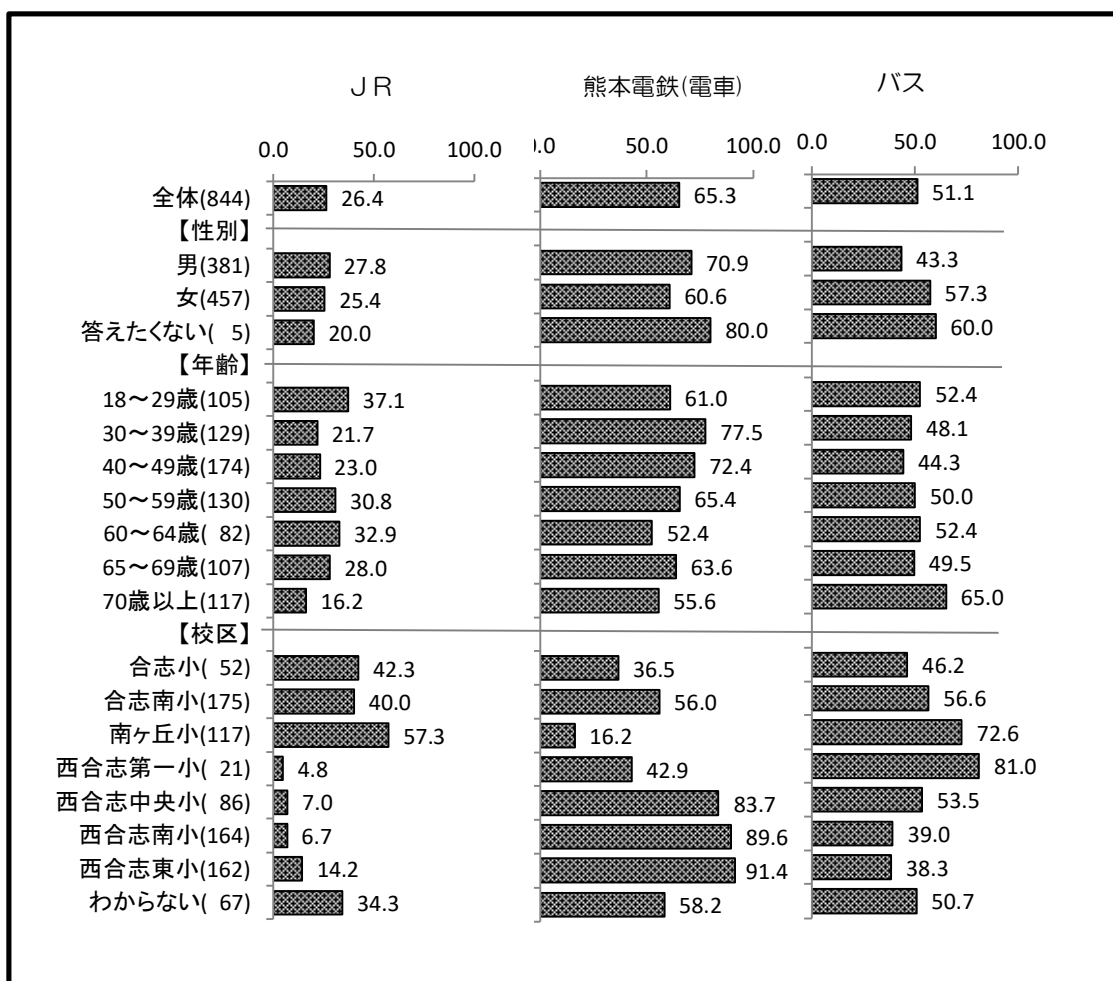
- 男性は熊本電鉄（電車）を利用している人が70.9%と女性よりも多い。女性はバスを利用している人が57.3%と男性を10ポイント以上上回っている。

【年齢別】

- 年齢別にみると、70歳以上の高齢者はバスの利用は多いものの、JRの利用は少ない。
- 30～40代では、熊本電鉄の利用が7割以上と多く、バスの利用は他の年代よりもやや低い傾向となっている。

【校区别】

- 校区别では、「JR」は南ヶ丘小で57.3%と高く、合志小、合志南小でも4割が利用している。「熊本電鉄」は西合志中央小、西合志東小、西合志南小で8割以上が利用している。「バス」は合志南小、南ヶ丘小、西合志第一小、西合志中央小で半数以上が利用しているが、西合志南小、西合志東小では利用者は3割台と少ない。



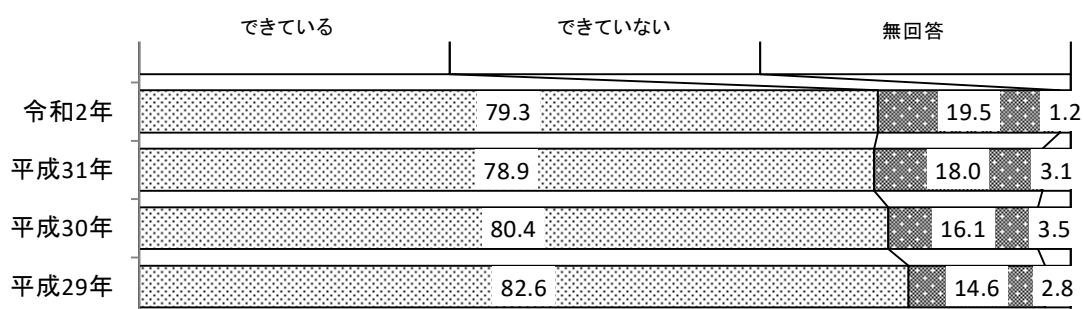
③電車での円滑移動(問53)

問53で「1.JRを利用している」「2.熊本電鉄(電車)を利用している」と回答した方にお尋ねします。

あなたは、電車を使って円滑に移動できていますか？

JRまたは熊本電鉄を利用している691人に電車での移動が円滑にできているかを尋ねたところ、「円滑にできている」が79.3%と高く、「できていない」は19.5%となっている。

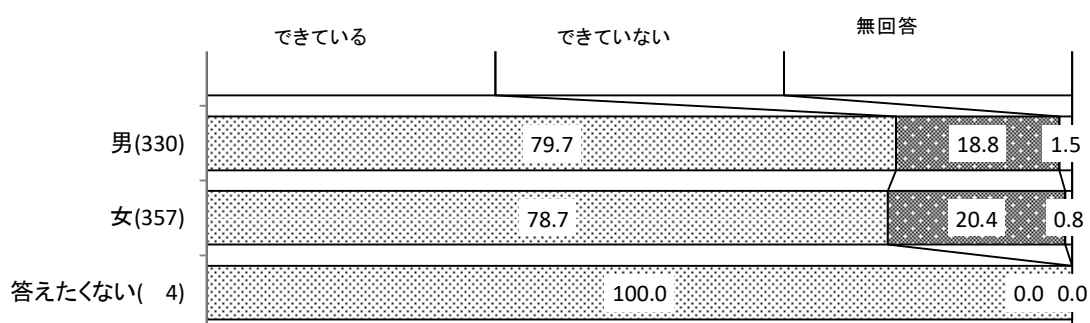
昨年度と比較して違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 できている	548	79.3	490	78.9	435	80.4	476	82.6
2 できていない	135	19.5	112	18.0	87	16.1	84	14.6
3 無回答	8	1.2	19	3.1	19	3.5	16	2.8
合計	691	100.0	621	100.0	541	100.0	576	100.0

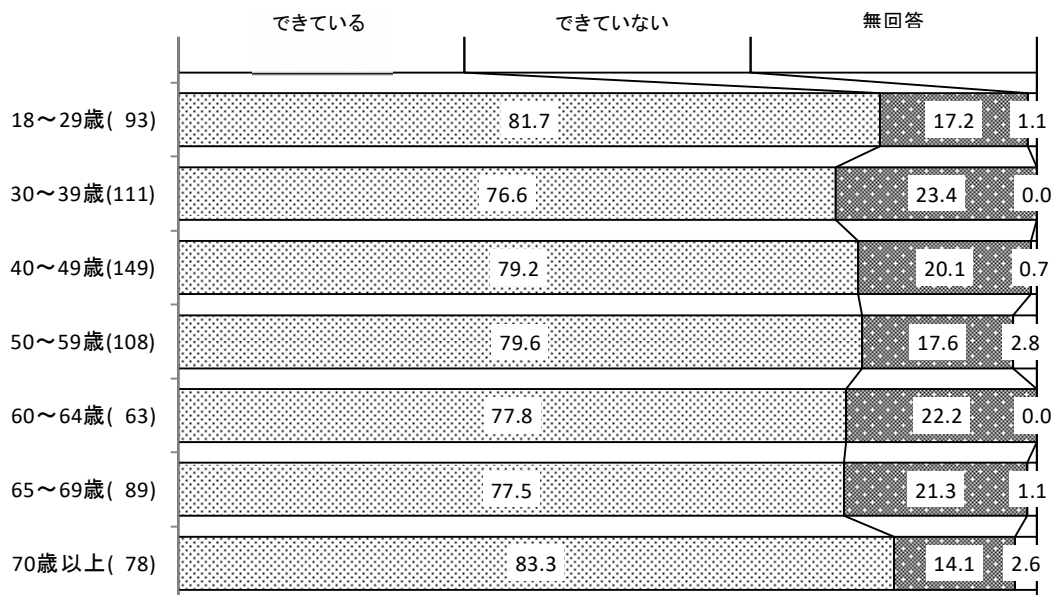
【性別】

- 電車でも円滑に移動できている割合に男女で大きな違いは見られない。



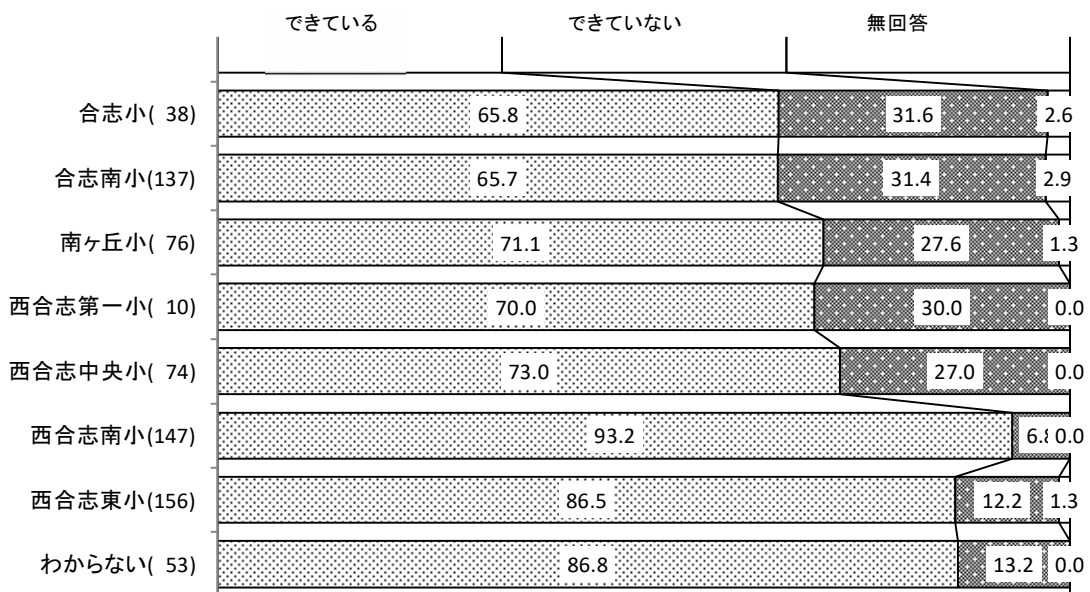
【年齢別】

- 20代以下の若い年齢層と70歳以上の高齢者層で8割以上が円滑に移動できていると評価が高いものの、年齢による大きな違いは見られない。



【校区別】

- 熊本電鉄の利用が多かった西合志南小、西合志東小では9割前後が円滑に移動できおり、他の校区よりも高い傾向が見られる。

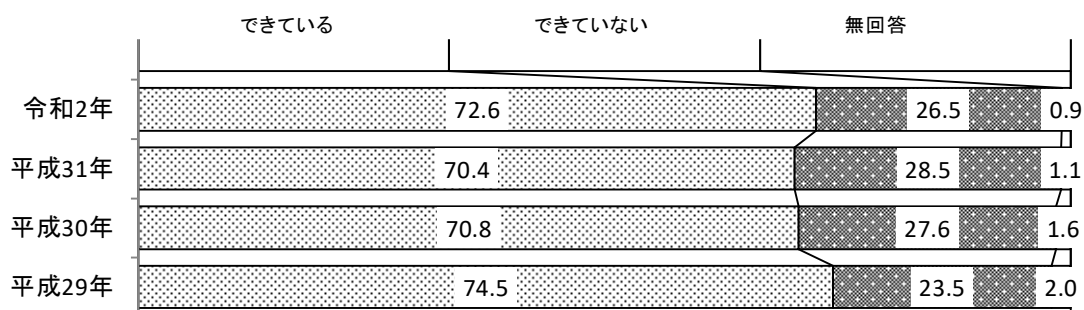


④バスでの円滑移動(問54)

問52で「3.バスを利用している」と回答した方にお尋ねします。

あなたは、バスを使って円滑に移動できていますか？

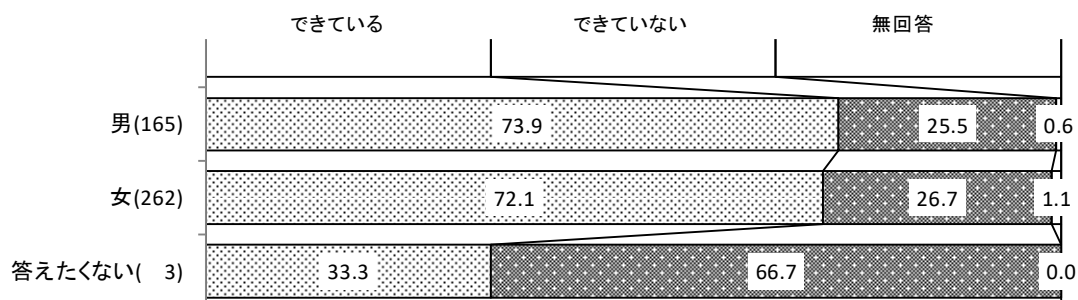
バスを利用している431人にバスでの移動が円滑にできているかを尋ねたところ、「円滑にできている」が72.6%と7割を占めたものの、「できていない」も26.5%見られた。
昨年度と比較して大きな違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 できている	313	72.6	267	70.4	228	70.8	333	74.5
2 できていない	114	26.5	108	28.5	89	27.6	105	23.5
3 無回答	4	0.9	4	1.1	5	1.6	9	2.0
合計	431	100.0	379	100.0	322	100.0	447	100.0

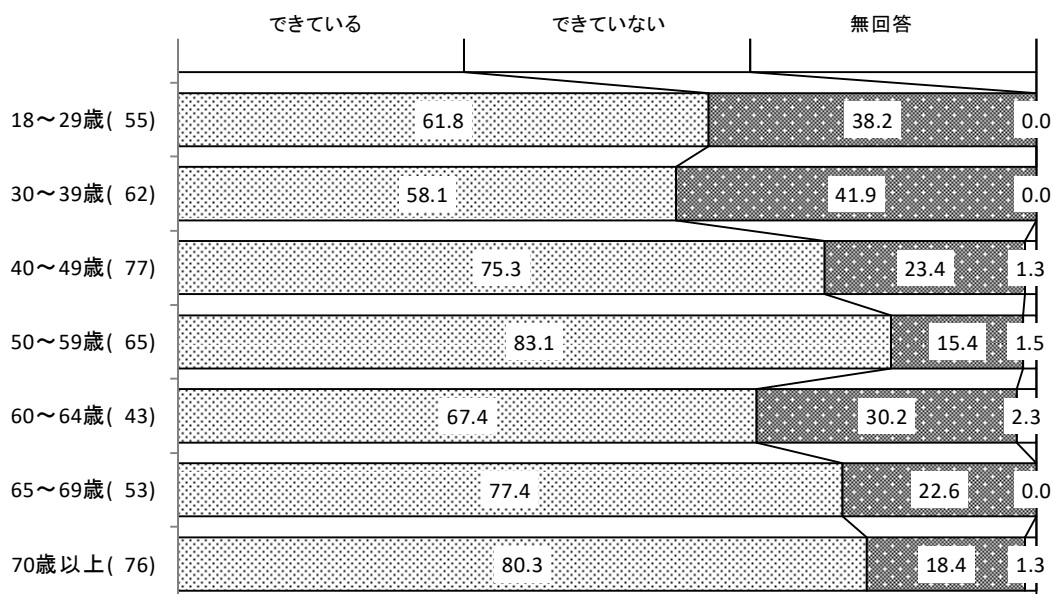
【性別】

●バスで円滑に移動できている割合に男女で差は見られない。



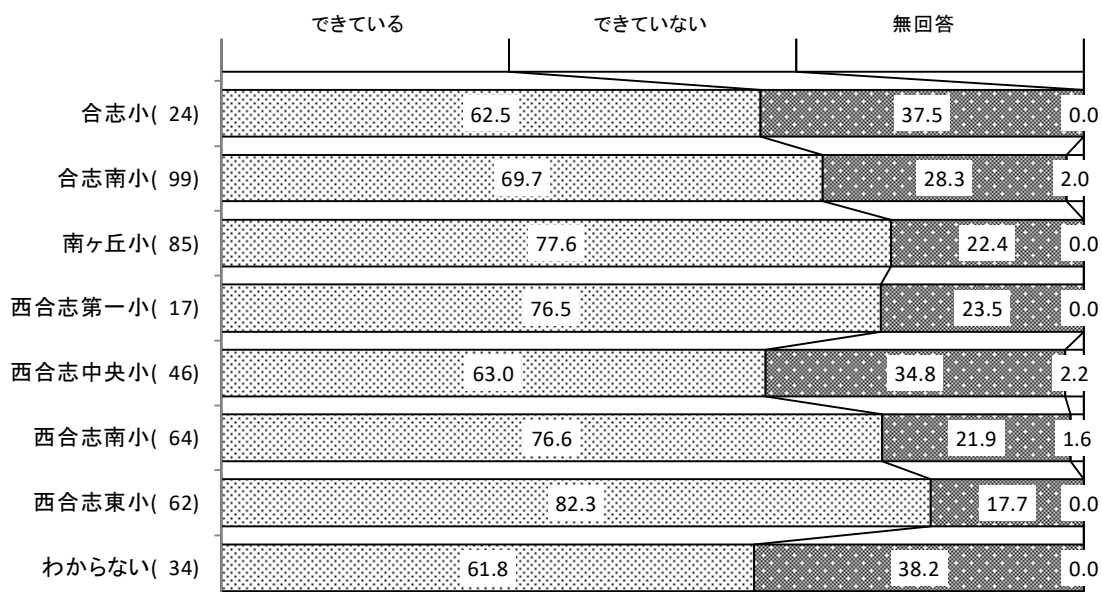
【年齢別】

- バスの利用が多かった70代以上の高齢者では80.3%が円滑に移動できていると評価が高い。
- 他方、「円滑に移動できていない」という割合は、30代以下の若い年齢層で4割前後とやや高い。



【校区別】

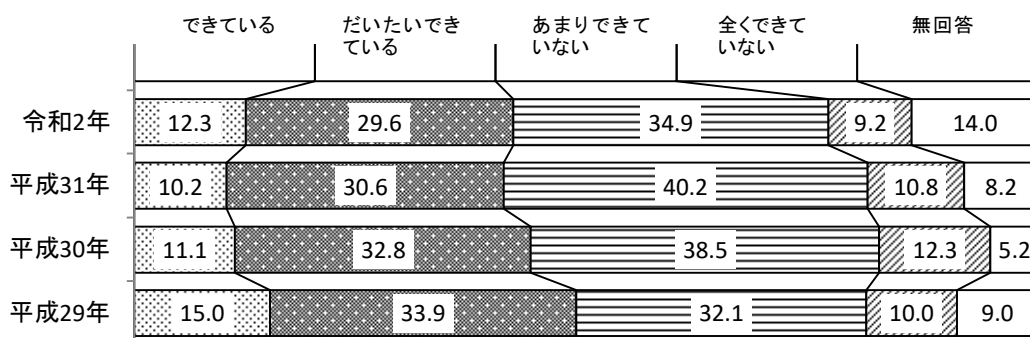
- 合志小、西合志中央小では円滑に移動できているという割合は6割と他校区に比較して低い。



⑤公共交通の乗り継ぎの評価（問55）

あなたは、公共交通機関を使った合志市内外への乗り換え、乗り継ぎが円滑にできていると思いますか？

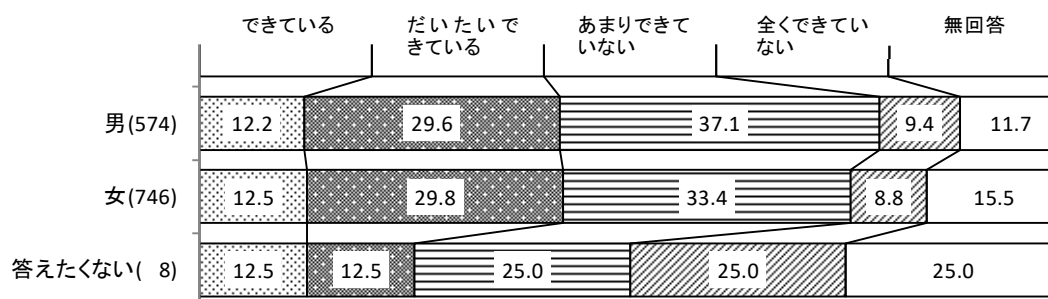
公共交通機関での乗り換え、乗り継ぎが円滑にできている（「できている」+「だいたいできている」）という人は41.9%となっており、「あまりできていない」は34.9%、「全くできていない」は9.2%と評価はほぼ同率となっている。
 昨年度に比べ円滑にできていないという割合は減少傾向にある。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 できていると思う	164	12.3	114	10.2	104	11.1	170	15.0
2 だいたいできていると思う	393	29.6	342	30.6	306	32.8	385	33.9
3 あまりできていないと思う	464	34.9	449	40.2	360	38.5	364	32.1
4 全くできていないと思う	122	9.2	120	10.8	115	12.3	114	10.0
5 無回答	186	14.0	91	8.2	49	5.2	102	9.0
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

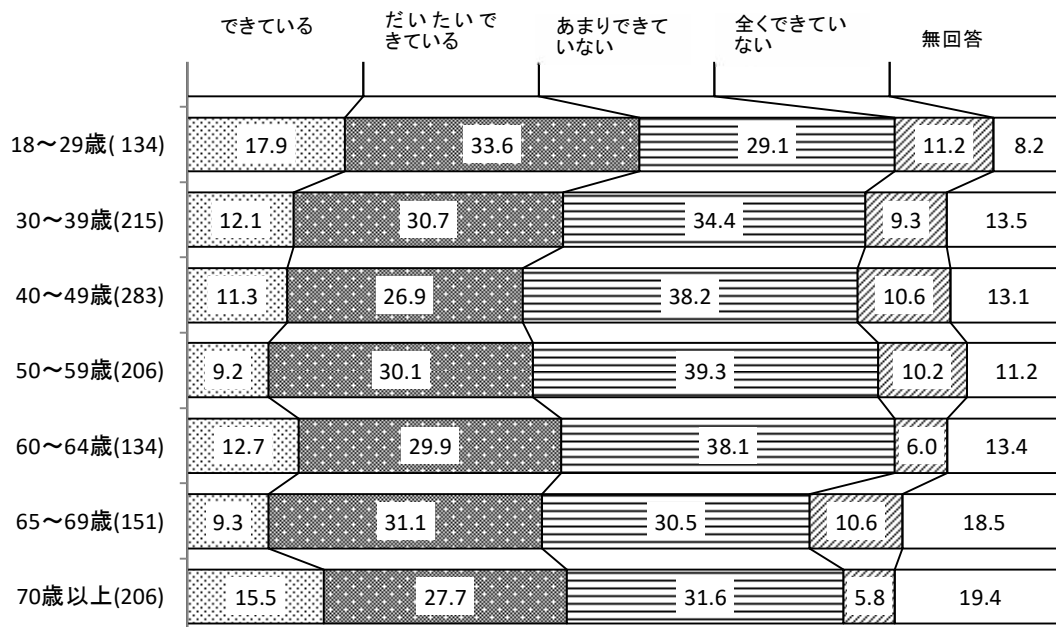
【性別】

- できている割合は男女で大きな違いはないものの、できていないという評価が男性の方が女性よりも多い。



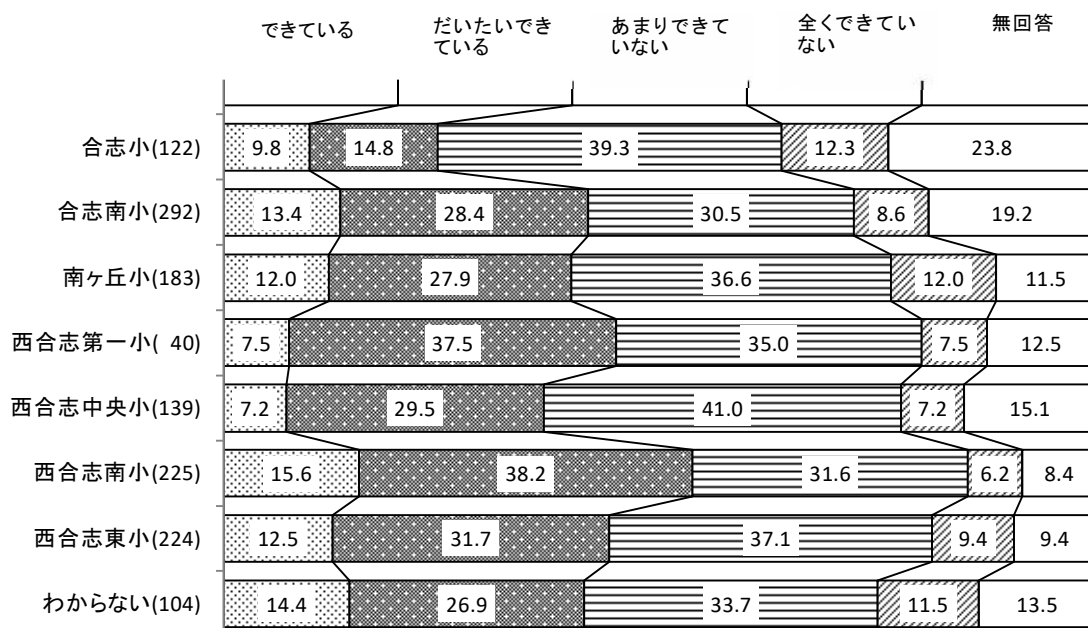
【年齢別】

- 円滑に移動できていると感じている割合は 20 代以下の若い年齢層では半数を占めているが、他の年代では 4 割前後となっている。



【校別】

- 西合志南小では半数以上が円滑に乗り継ぎ、乗り換えができていているとしている。一方、合志小では半数以上が円滑にできていないと評価している。この傾向は昨年度から変わっていない。

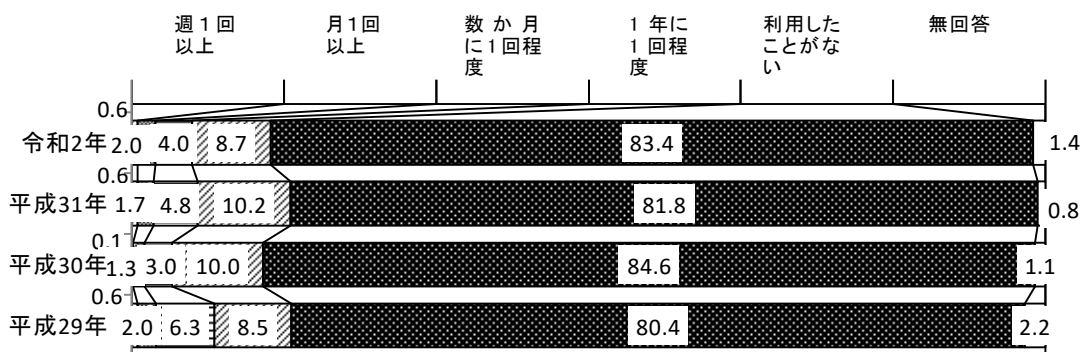


(3) 合志市が委託しているバスについて

①利用経験（問56）

あなたは、合志市が委託しているバス（レターバス、循環バス）や乗り合いタクシーのいずれかを利用したことがありますか？

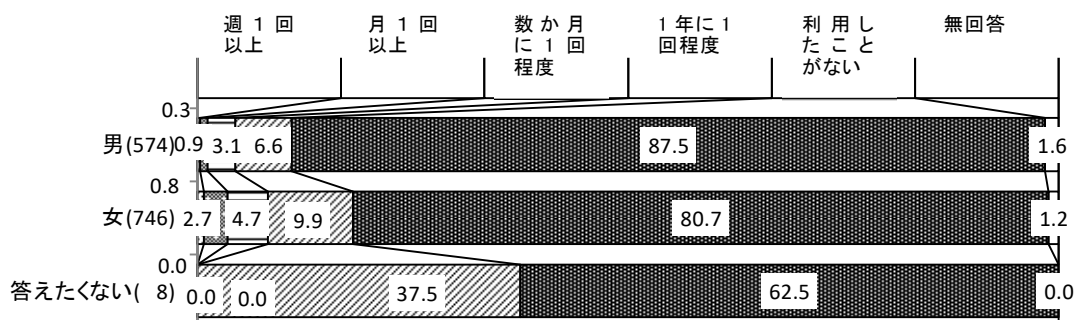
レターバスや循環バス、乗り合いタクシーを利用したことがある人は15.3%にとどまり、8割以上の方は「利用したことがない」としている。
昨年度と比較して大きな違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 週に1回以上利用する	8	0.6	7	0.6	1	0.1	7	0.6
2 月に1回以上利用する	26	2.0	19	1.7	12	1.3	23	2.0
3 数か月に1回程度、利用する	53	4.0	54	4.8	28	3.0	72	6.3
4 1年に1回程度利用する	115	8.7	114	10.2	93	10.0	96	8.5
5 利用したことがない	1109	83.4	913	81.8	790	84.6	912	80.4
6 無回答	18	1.4	9	0.8	10	1.1	25	2.2
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

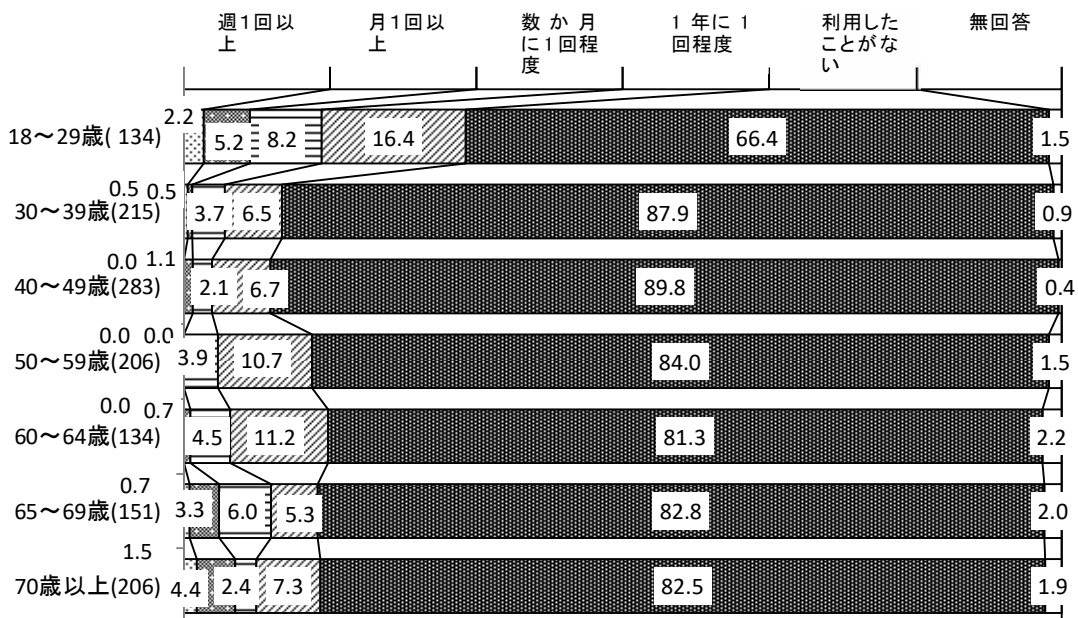
【性別】

- レターバスや循環バス、乗り合いタクシーを利用している割合は女性 18.1%、男性 10.9%とやや女性が多くなっている。



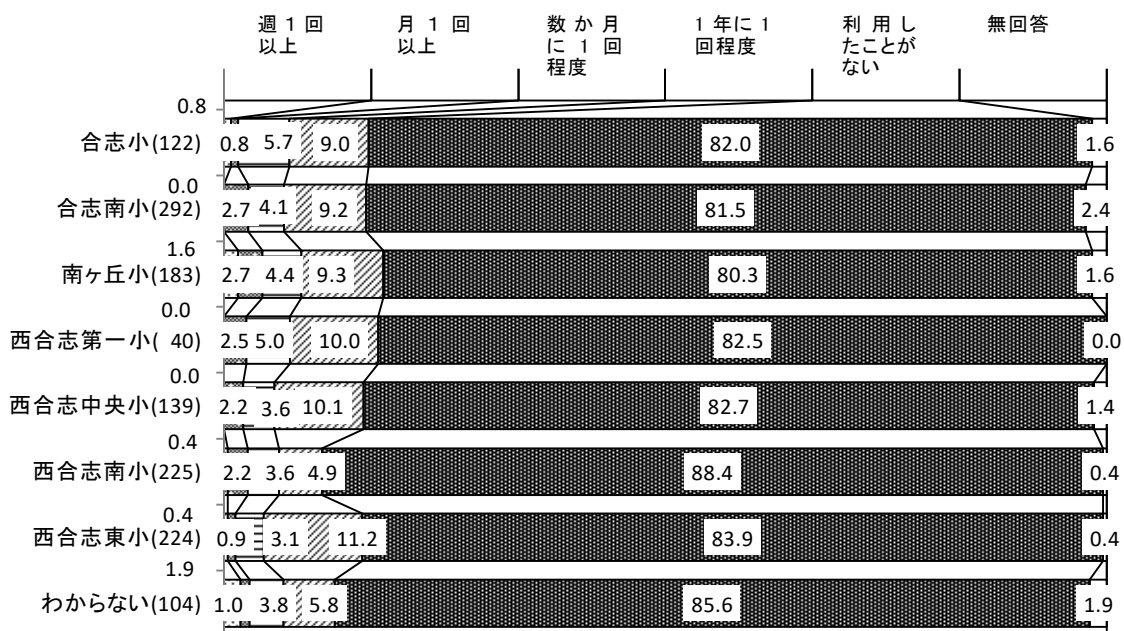
【年齢別】

- 20代以下の若い年齢層では32.0%が利用している。
- 子育て世代の30代、40代では利用している人は1割前後と低い。



【校區別】

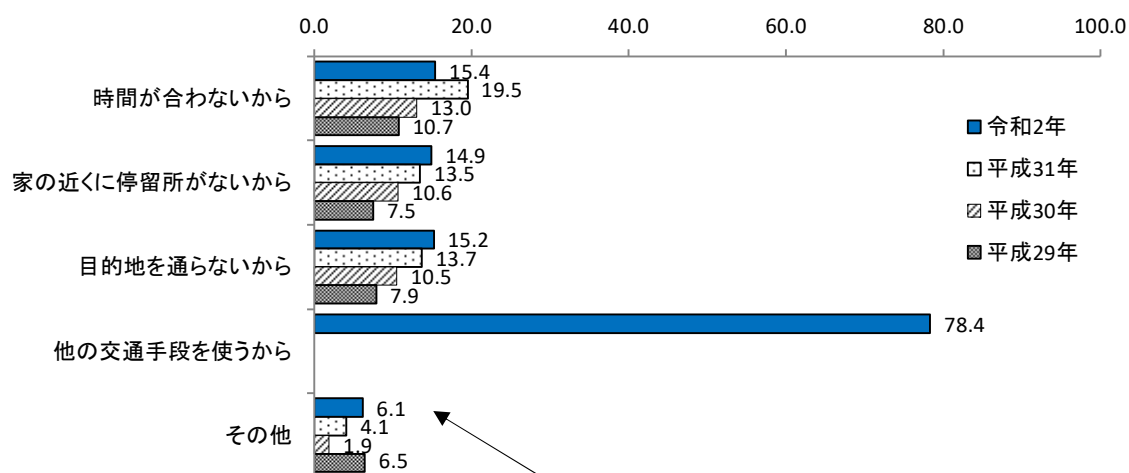
- 校区で利用者割合に大きな違いは見られない。



②利用しない理由（問57）

問56で「5.利用したことがない」と答えた方にお尋ねします。
それはなぜですか？

レターバスや循環バス、乗り合いタクシーを利用したことがないという1109人に利用しない理由を尋ねたところ、「他の交通手段を使うから」が78.4%と最も多く、次いで「時間が合わないから」15.0%、「目的地を通らないから」15.2%、「家の近くに停留所がないから」14.9%となっている。



- よく知らない(12)
- 引っ越してきたばかりだから(3)
- 目的地まで時間がかかるから(4)
- 路線・停留所が分からない(7)
- 利用の仕方がわからない(3)
- 地理が良くわからない。
- 必要な日(土日祝)は運行がない
- 時間が自由にならない(自家用車なら自由になる)
- バスの本数が少なすぎる(3)
- 時間がわからない
- 車に酔うから
- 自家用車を使うから(4)
- 利用する機会がない。(5)
- 高齢者限定と思っているから(3)
- 徒歩で移動 など

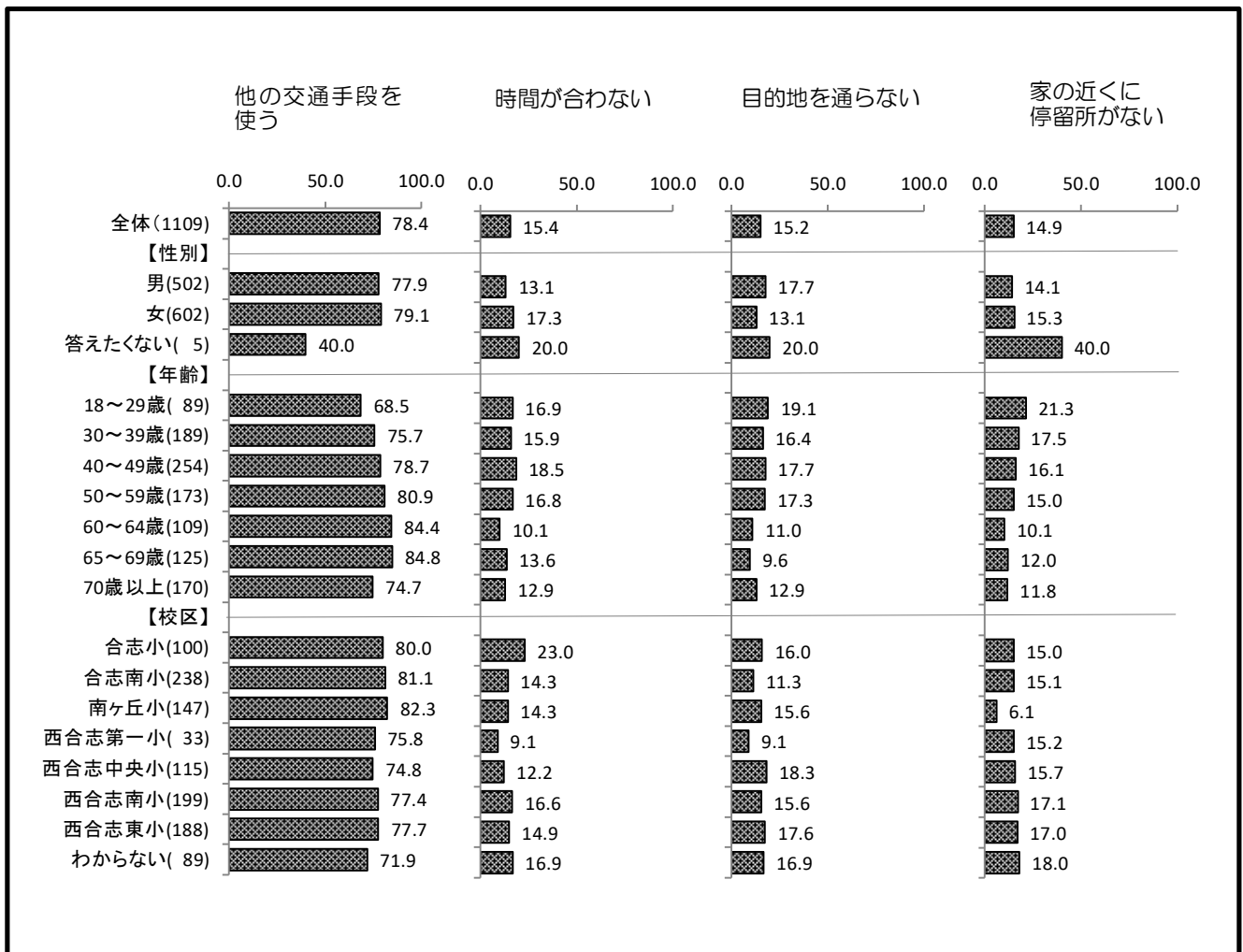
	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	n=1109		n=913		n=790		n=912	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 時間が合わないから	171	15.4	178	19.5	103	13.0	98	10.7
2 家の近くに停留所がないから	165	14.9	123	13.5	84	10.6	68	7.5
3 目的地を通らないから	169	15.2	125	13.7	83	10.5	72	7.9
4 他の交通手段を使うから	869	78.4						
5 その他	68	6.1	37	4.1	15	1.9	59	6.5

※参考

自転車を利用するから			38	4.2	24	3.0	37	4.1
自分で自動車やバイクを運転するから			709	77.7	592	74.9	670	73.5
家族が送迎してくれるから			71	7.8				
レターバス、循環バス、乗り合いタクシーがあるのを知らなかった			35	3.8	26	3.3	23	2.5

【性別、年齢別、校区别】

- 性別にみても大きな違いは見られない。
- 年齢別に見ると、20代以下の若い層では「家の近くに停留所がない」を2割があげている。
- 校区别にみると南ヶ丘小では「家の近くに停留所がない」をあげる割合が他よりも低い。

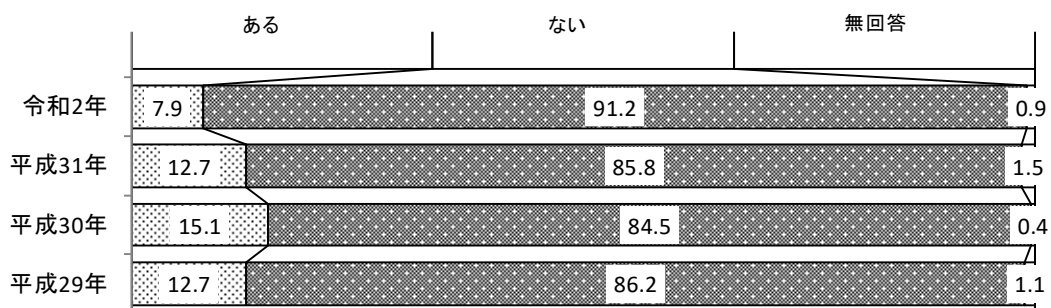


3. 人権侵害について

(1) 人権が侵害された経験 (問36)

あなた、は、過去1年間で自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか？

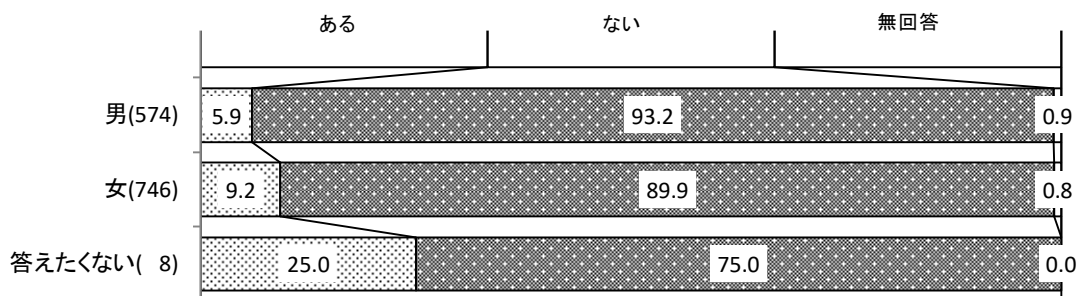
過去1年間で自分の人権が侵害されたことが「ある」という人は7.9%である。
昨年度と比較して「ある」という人はやや減少している。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 ある	105	7.9	142	12.7	141	15.1	144	12.7
2 ない	1212	91.2	957	85.8	789	84.5	978	86.2
3 無回答	12	0.9	17	1.5	4	0.4	13	1.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

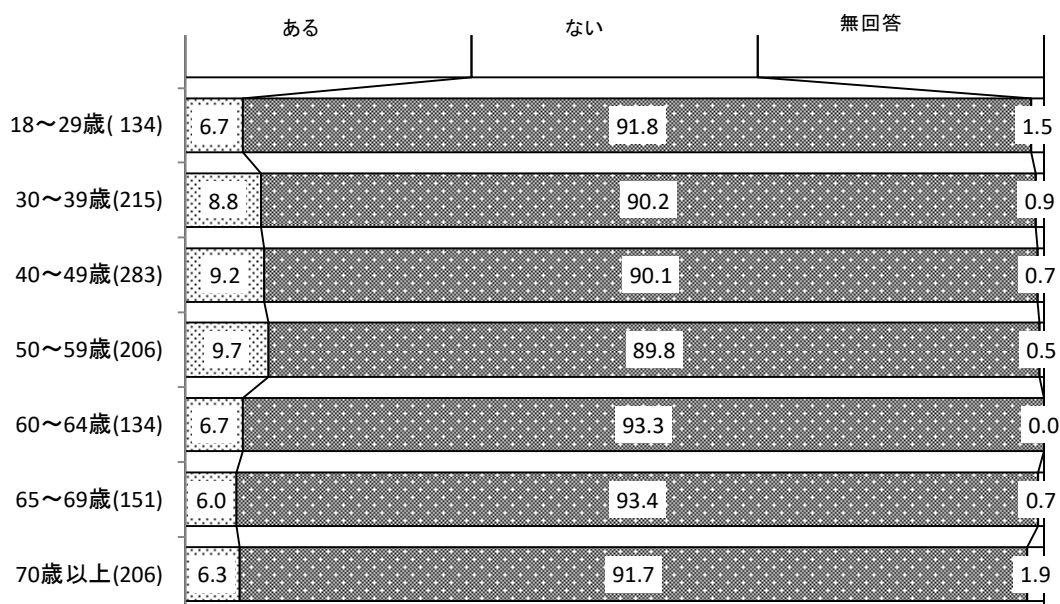
【性別】

- 人権が侵害されたことが「ある」という割合は、女性9.2%、男性5.9%とやや女性が多い傾向が見られる。
- 昨年度と比較して男女とも「ある」という割合は減少している。



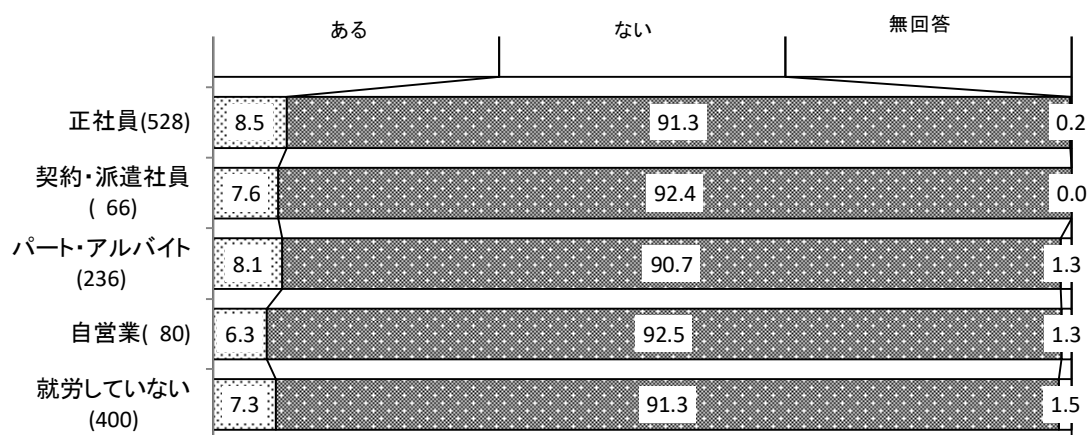
【年齢別】

●いずれの年代でも人権を侵害された人は1割未満である。



【職業別】

●いずれの職業でも人権を侵害された人は1割未満である。

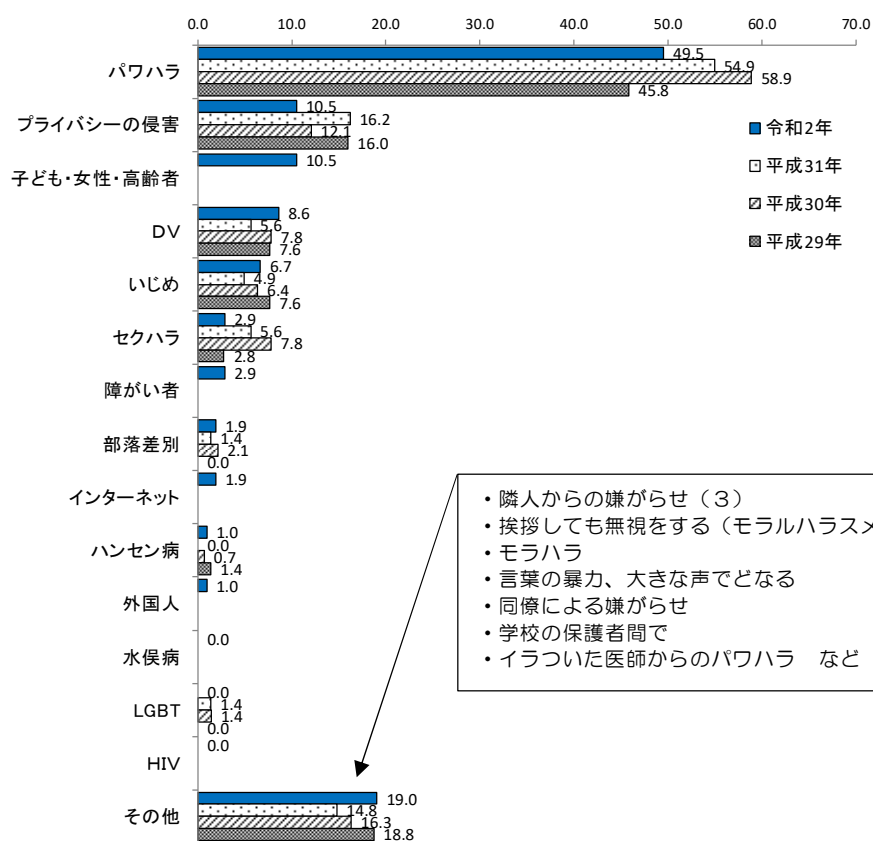


(2) 侵害された内容(問37)

問36で「1.ある」と答えた方にお尋ねします。

それはどのような場合ですか？差支えなければお聞かせください。

この1年間に人権が侵害されたことがあるという105人の侵害された具体的な内容としては、「パワハラ」が49.5%と最も多く、次いで「プライバシーの侵害」「子ども、女性、高齢者」10.5%となっている。



- ・隣人からの嫌がらせ (3)
- ・挨拶しても無視をする (モラルハラスメント) (2)
- ・モラハラ
- ・言葉の暴力、大きな声でどなる
- ・同僚による嫌がらせ
- ・学校の保護者間で
- ・いらついた医師からのパワハラ など

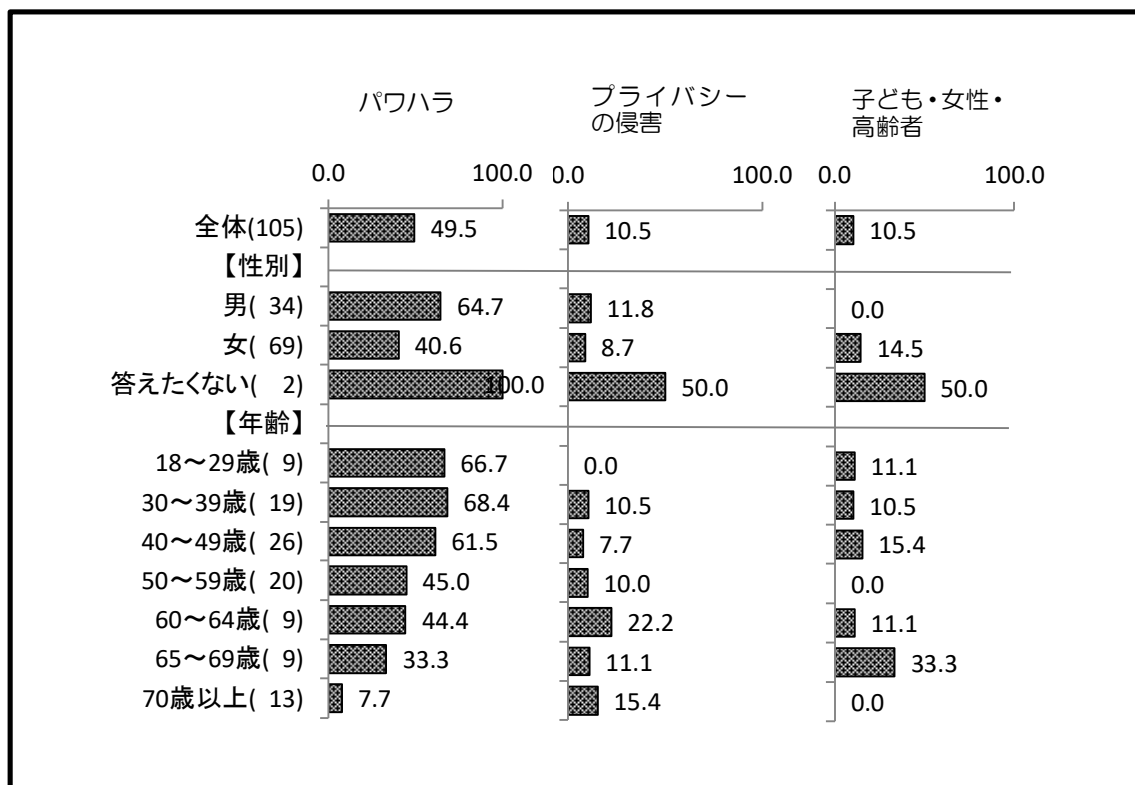
	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	n=105		n=142		n=141		n=144	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 同和問題	2	1.9	2	1.4	3	2.1	0	0.0
2 ハンセン病問題	1	1.0	0	0.0	1	0.7	2	1.4
3 水俣病	-	-						
4 LGBT	-	-	2	1.4	2	1.4		
5 子ども・女性・高齢者	11	10.5						
6 障がい者	3	2.9						
7 インターネット	2	1.9						
8 外国人	1	1.0						
9 HIV	-	-						
10 DV(ドメスティックバイオレンス)	9	8.6	8	5.6	11	7.8	11	7.6
11 セクハラ(セクシャルハラスメント)	3	2.9	8	5.6	11	7.8	4	2.8
12 パワハラ(パワーハラスメント)	52	49.5	78	54.9	83	58.9	66	45.8
13 いじめ	7	6.7	7	4.9	9	6.4	11	7.6
14 プライバシーの侵害	11	10.5	23	16.2	17	12.1	23	16.0
15 その他	20	19.0	21	14.8	23	16.3	27	18.8

【性別】

- 人権を侵害された内容について、男女別にみるとパワハラは男性があげる割合が高い傾向が見られる。

【年齢別】

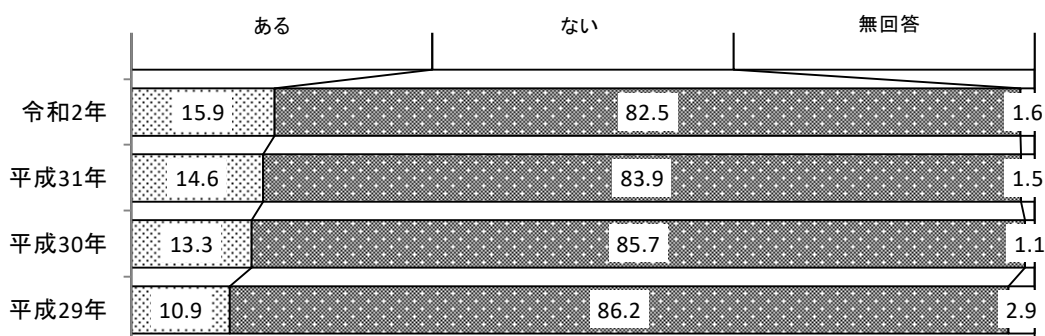
- 「パワハラ」は40代以下の年齢層で6割以上があげている。



(3) 人権問題研修会への参加（問38）

過去1年間で人権問題（同和問題、ハンセン病問題、男女差別、子ども・高齢者・障がい者虐待、DV、セクハラ、パワハラ、その他）の研修会、学習会等へ参加したことがありますか？

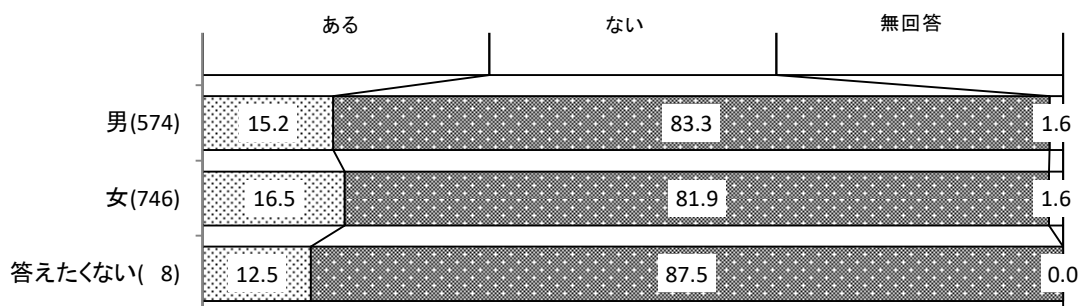
過去1年間に人権問題についての研修会に参加したことがある人は15.9%となっている。
平成29年度から微増傾向となっている。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 ある	211	15.9	163	14.6	124	13.3	124	10.9
2 ない	1097	82.5	936	83.9	800	85.7	978	86.2
3 無回答	21	1.6	17	1.5	10	1.1	33	2.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

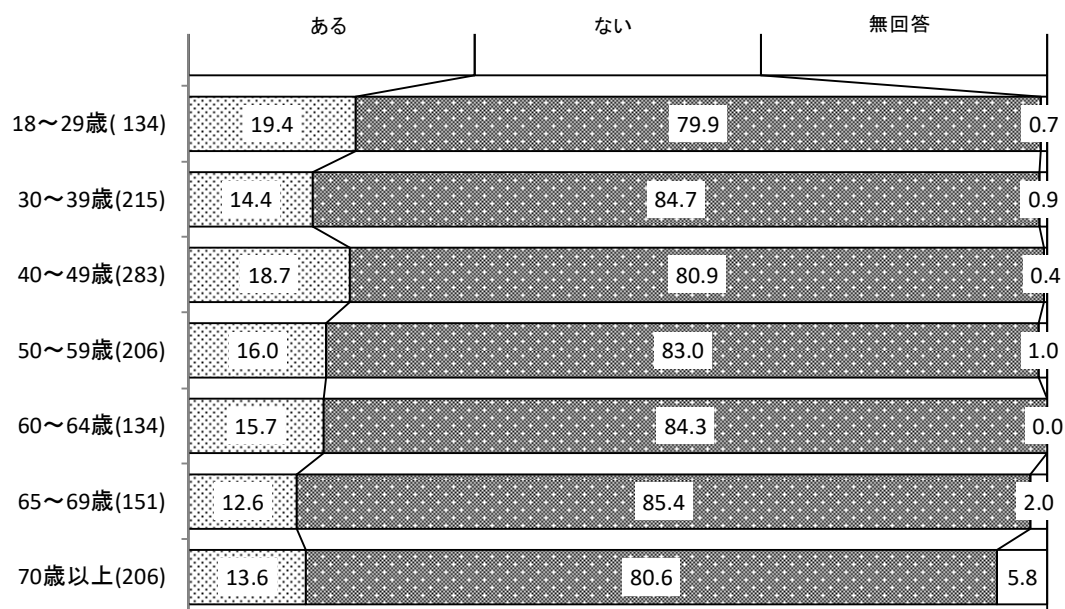
【性別】

●人権研修会に参加したことがあるという割合は、男女で違いは見られない。



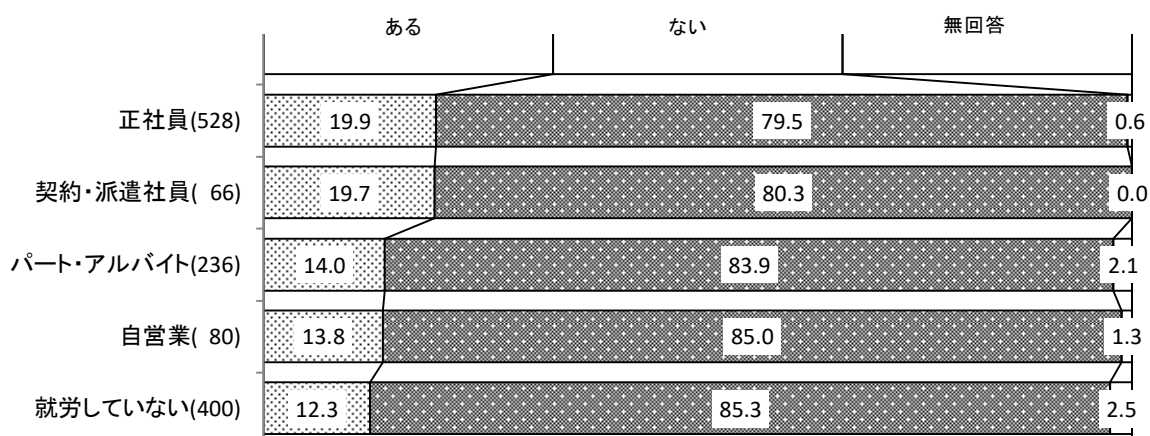
【年齢別】

●人権研修会への参加経験は、年代で大きな違いは見られない。



【職業別】

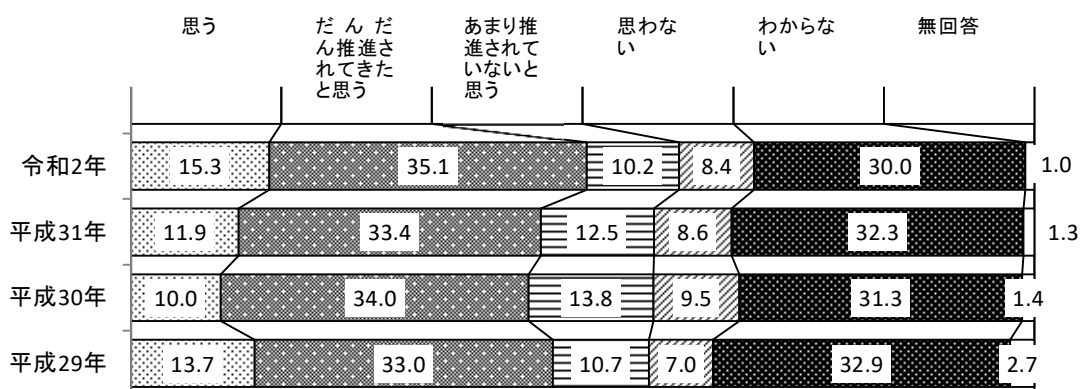
●人権研修会に参加したことがあるという割合は正社員や契約・派遣社員では2割弱と他の職業よりもやや高い傾向となっている。



4. 男女共同参画社会の推進について（問39）

あなたは、男女共同参画社会（性別に関係なく、相手のことを思いやる気持ちを持ち、喜びも責任もわかちあいながら、家庭・地域・職場へ参画できる社会）が推進されてきたと思いますか？

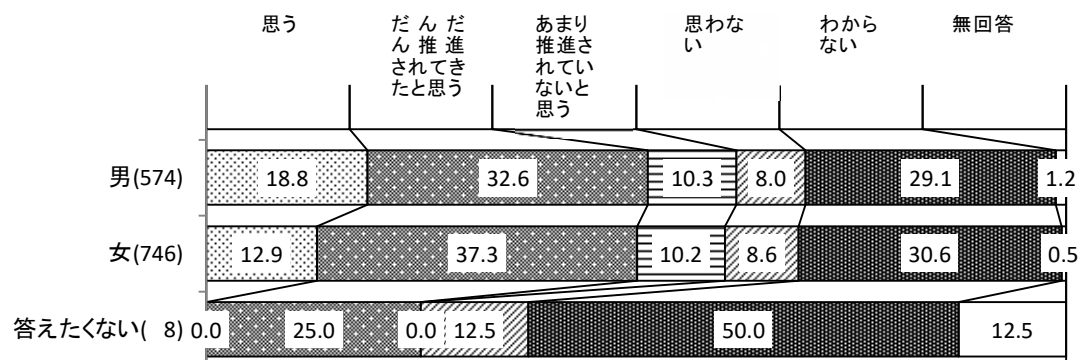
男女共同参画社会が推進されてきたと思う（「思う」+「だんだん推進されてきたと思う」）割合は50.4%と半数を占め、思わない「あまり推進されていないと思う」+「思わない」は18.6%となっている。なお、「わからない」は30.0%。。
昨年度と比較して、推進されてきたと思う割合がやや増加している。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 思う	204	15.3	133	11.9	93	10.0	155	13.7
2 だんだん推進されてきたと思う	467	35.1	373	33.4	318	34.0	375	33.0
3 あまり推進されていないと思う	135	10.2	140	12.5	129	13.8	121	10.7
4 思わない	111	8.4	96	8.6	89	9.5	80	7.0
5 わからない	399	30.0	360	32.3	292	31.3	373	32.9
6 無回答	13	1.0	14	1.3	13	1.4	31	2.7
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

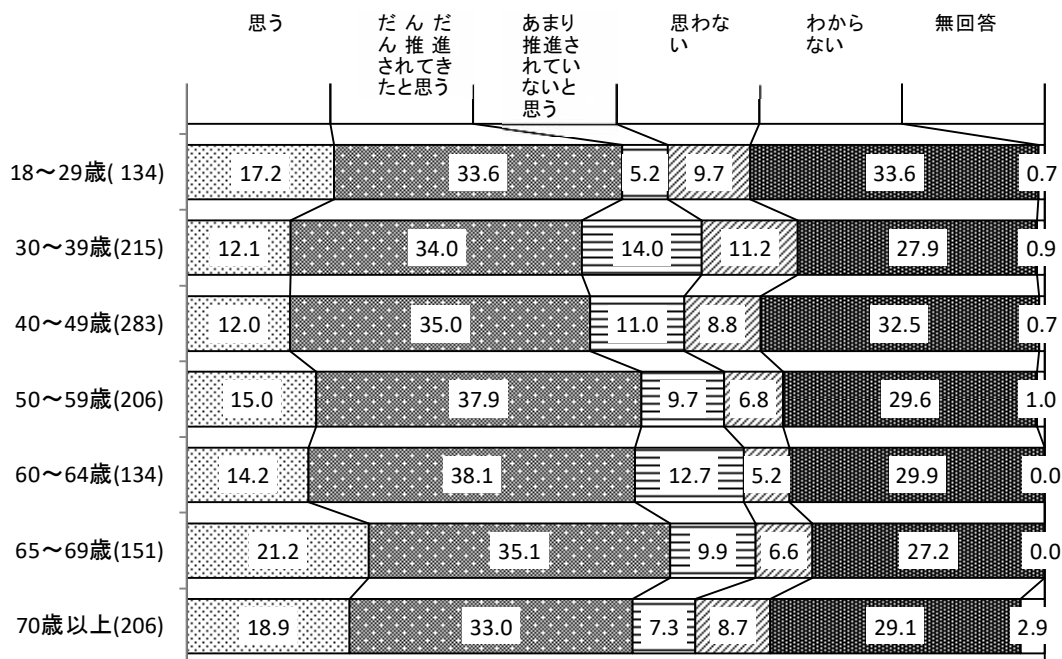
【性別】

- 男女共同参画社会が推進されてきたと思う割合は、男性 51.4%、女性 50.2%と大きな違いは見られない。



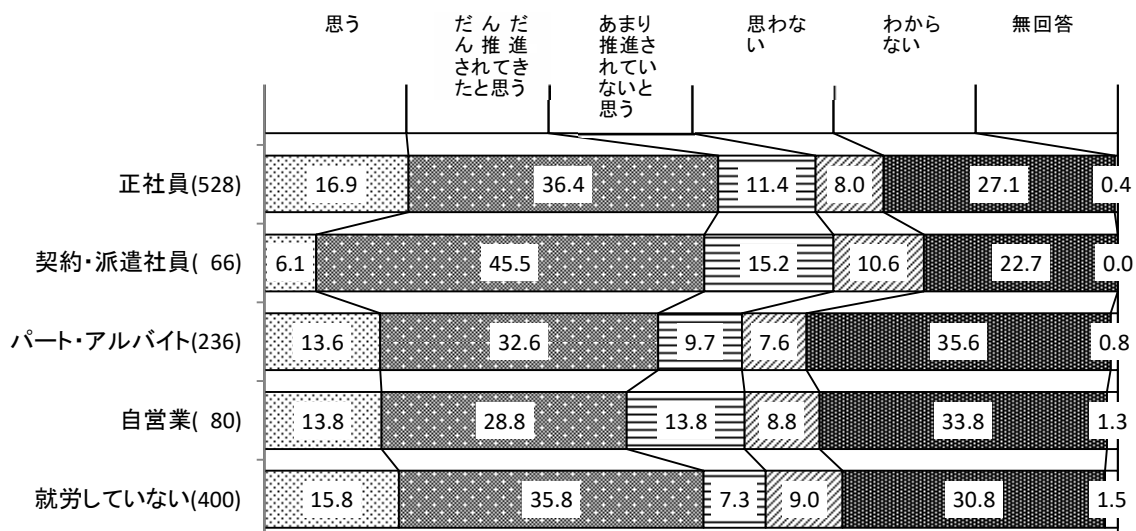
【年齢別】

- 推進されてきたと「思う」割合は、30代、40代では半数以下となっており、他の年代よりもやや低い傾向が見られ、「思わない」が2割前後見られる。



【職業別】

- 自営業やパート・アルバイトでは、男女共同参画社会が推進されてきたと思う割合は半数以下となっている。
- 契約・派遣社員では25.8%が思わないとしており、やや高い傾向となっている。



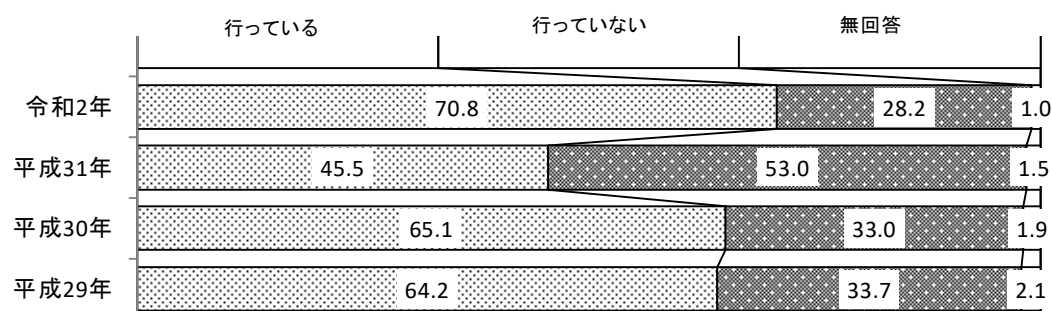
◆危機管理について

1. 健康危機への備え（問44）

あなたは、新型インフルエンザ等に関して、日頃から情報収集を行っていますか。

新型インフルエンザなどの健康危機に備え、日頃から情報収集を「行っている」人は70.8%、「行っていない」が28.2%となっている。

今回の調査が新型コロナウイルスで緊急事態宣言が出された時期であったため、昨年度に比べ、情報収集を行っている人は大幅に増加している。

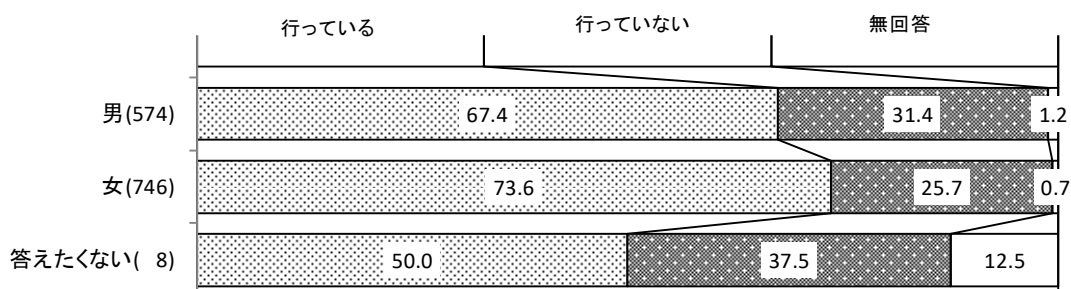


※平成30年までは、「健康危機に備えて日頃からメディアなどを通じて情報収集に努めているか」という設問であったため、比較には注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 行っている	941	70.8	508	45.5	608	65.1	729	64.2
2 行っていない	375	28.2	591	53.0	308	33.0	382	33.7
3 無回答	13	1.0	17	1.5	18	1.9	24	2.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

【性別】

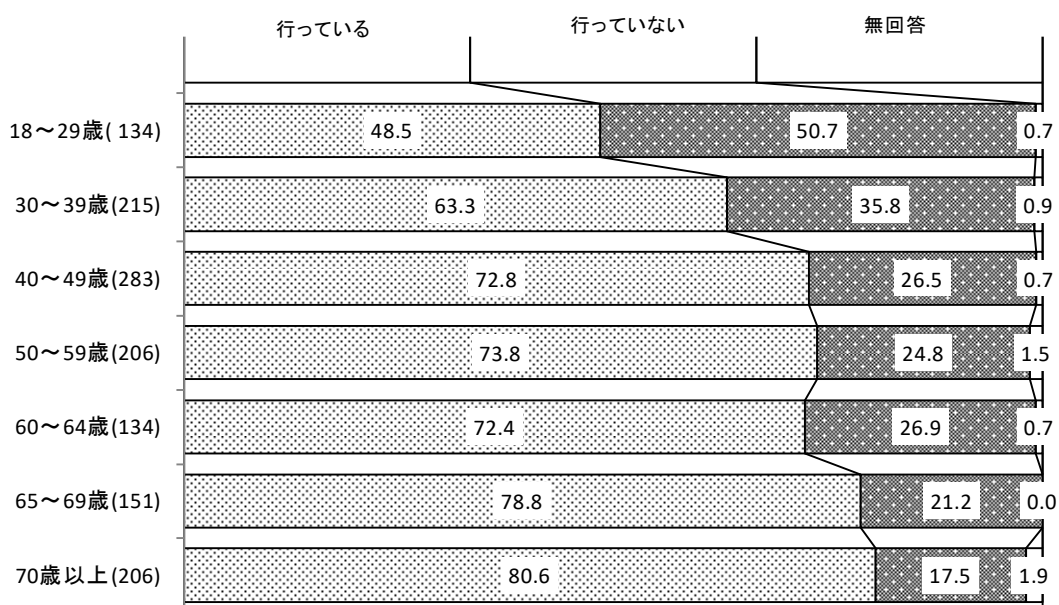
●日頃から情報収集を行っている割合は、男性 67.4%、女性 73.6%と女性の方がやや多い。



【年齢別】

●年齢とともに情報収集を行っている割合は高くなる傾向が見られ、40代以上では7割以上となっている。いずれの年代でも昨年よりも情報収集は行われている。

●そのような中、20代以下の若い層では、行っている割合は48.5%と行っていない人のほうがやや多く、やや意識が低い結果となっている。

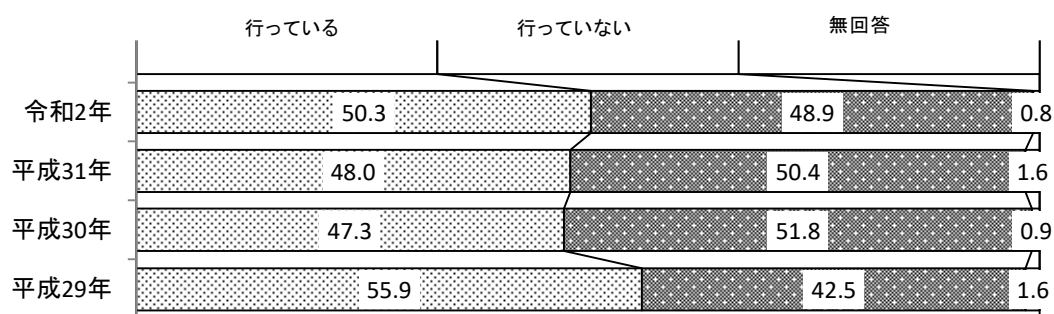


2. 防災の取組み

(1) 家庭内防災（問45）

あなたは、家庭内で防災に対する取組み（非常持ち出し袋の準備、家族での話し合い等）を行っていますか？

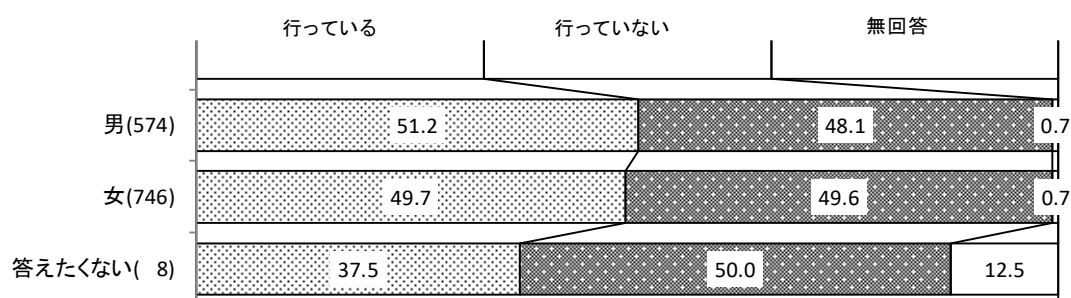
家庭内で防災に対する取組みを「行っている」割合は50.3%となっており、「行っていない」48.9%とほぼ同率となっている。
昨年度と大きな違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 行っている	669	50.3	536	48.0	442	47.3	635	55.9
2 行っていない	650	48.9	562	50.4	484	51.8	482	42.5
3 無回答	10	0.8	18	1.6	8	0.9	18	1.6
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

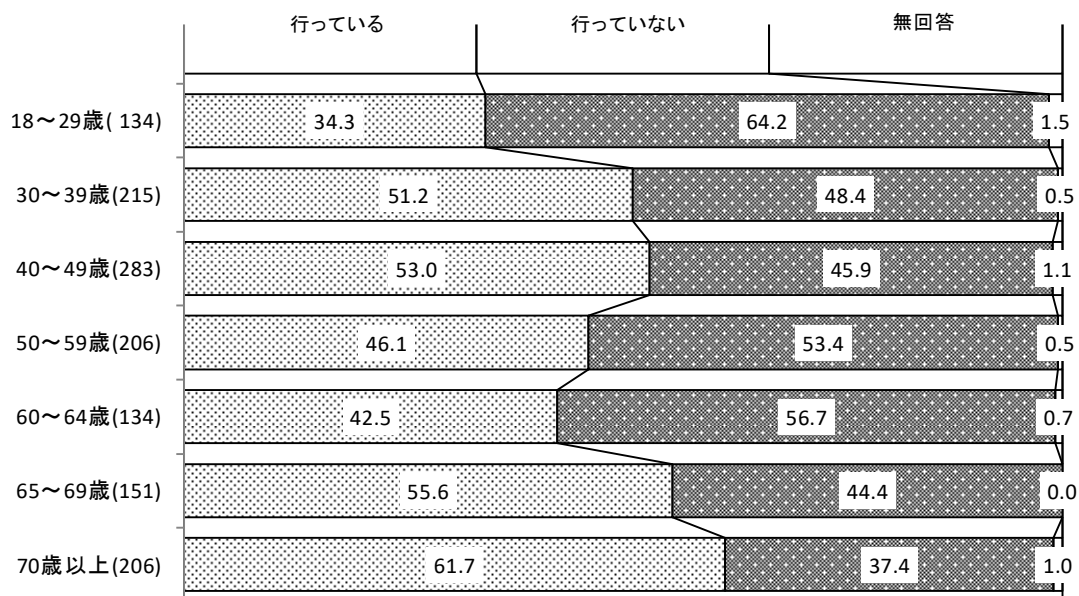
【性別】

●取組みを「行っている」割合は、男性51.2%、女性49.7%とほぼ同率となっている。



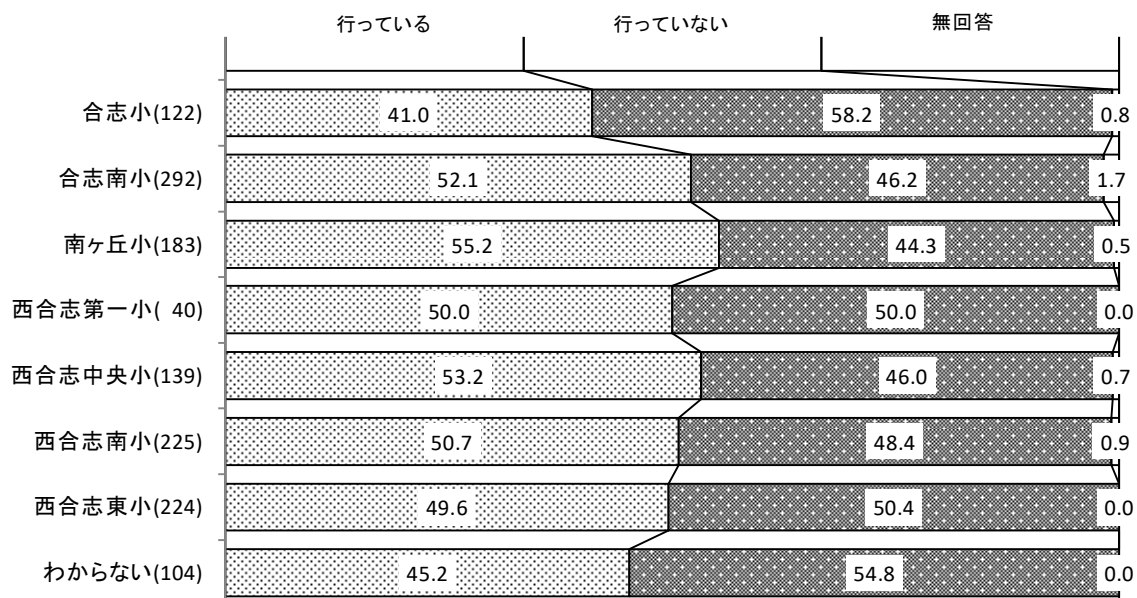
【年齢別】

- 子育て世代の30代、40代及び65歳以上の高齢者では半数以上が家庭内で防災の取り組みを行っているが、20代以下の若者層では3割にとどまる。
- 50代、60代前半は、昨年度よりも取り組んでいる割合はやや減少している。



【校區別】

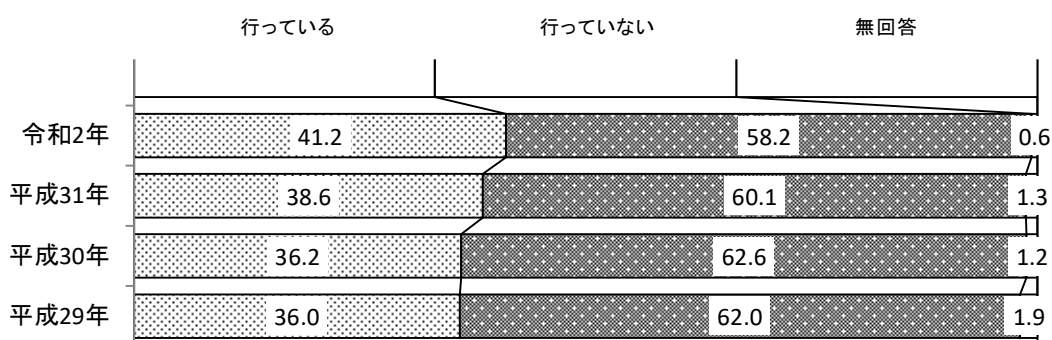
- 合志小では取り組んでいる割合が4割と他の校区に比べ低い。
- なお、合志小、合志南小は昨年より取り組んでいる割合は10ポイント弱減少している。



(2) 地域防災 (問 4 6)

あなたは、地域・職場内で防災に対する取り組み（防災訓練の参加、自主防災組織・消防団への参加等）を行っていますか？

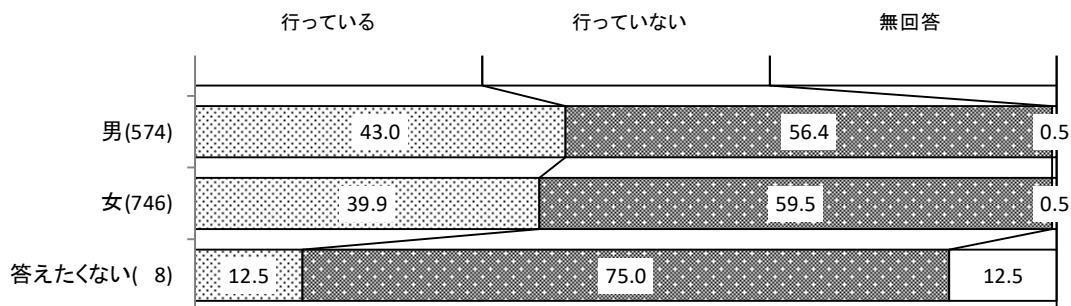
地域・職場内での防災に対する取り組みを「行っている」は41.2%となっており、「行っていない」がほぼ6割を占めている。
昨年度とほとんど変わっていない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 行っている	547	41.2	431	38.6	338	36.2	409	36.0
2 行っていない	774	58.2	671	60.1	585	62.6	704	62.0
3 無回答	8	0.6	14	1.3	11	1.2	22	1.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

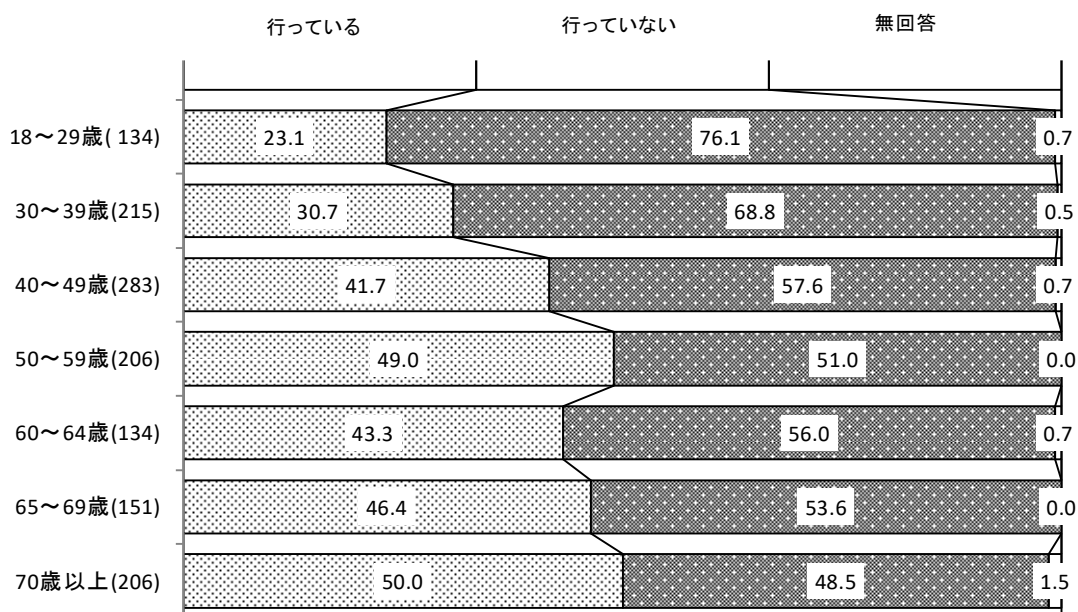
【性別】

- 地域・職場内で防災に対する取り組みを「行っている」割合は、男性 43.0%、女性 39.9%と男性の方がやや高い傾向が見られる。



【年齢別】

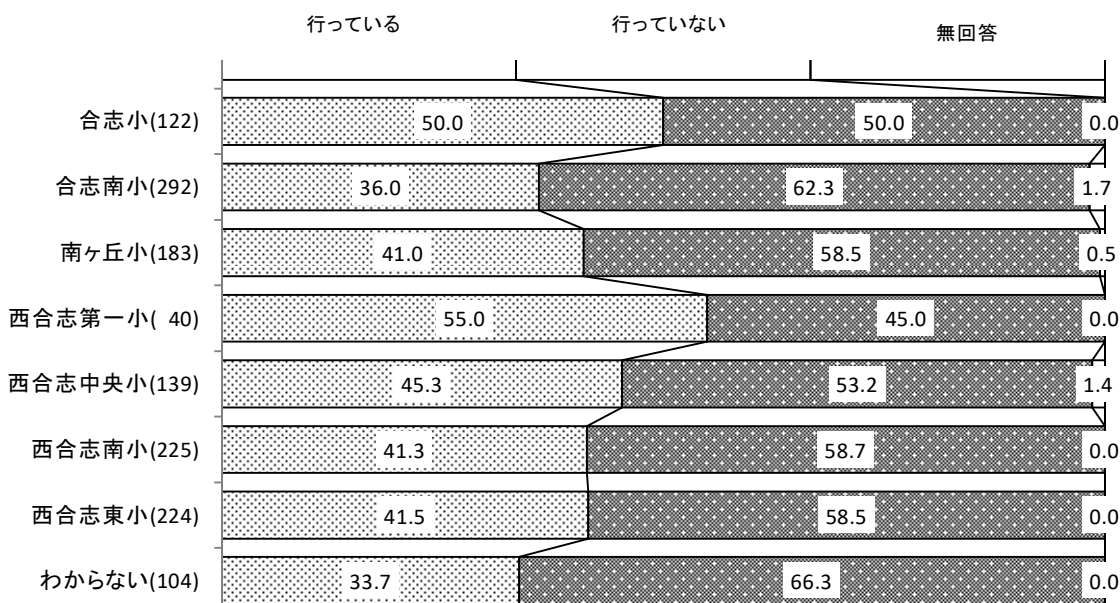
- 地域・職場で防災に取り組んでいる割合は、年齢が高くなるほど取り組んでいる割合が高くなる傾向が見られるものの、半数以上は取り組んでいない。特に30代以下の若い年齢層では7割が取り組んでいない。



【校區別】

- 家庭で取り組んでいる割合が低かった合志小では、地域・職場で防災に取り組んでいる割合は50.0%と他よりも高い。

※西合志第一小は回答者数が少ないため注意が必要

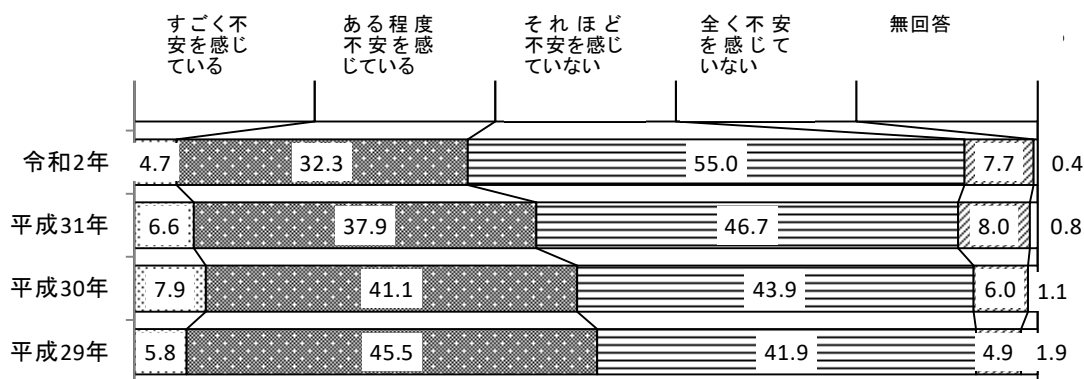


3. 犯罪被害に合う不安(問47)

あなたやあなたの家族が、合志市内において犯罪被害(詐欺、窃盗、痴漢等)などに不安を感じていますか。

合志市内で犯罪被害にあう不安を感じている(「すごく不安を感じている」+「ある程度不安を感じている」)割合は37.0%となっており、不安を感じていない(「全く不安を感じていない」+「それほど不安を感じていない」)が62.7%と6割を超えている。

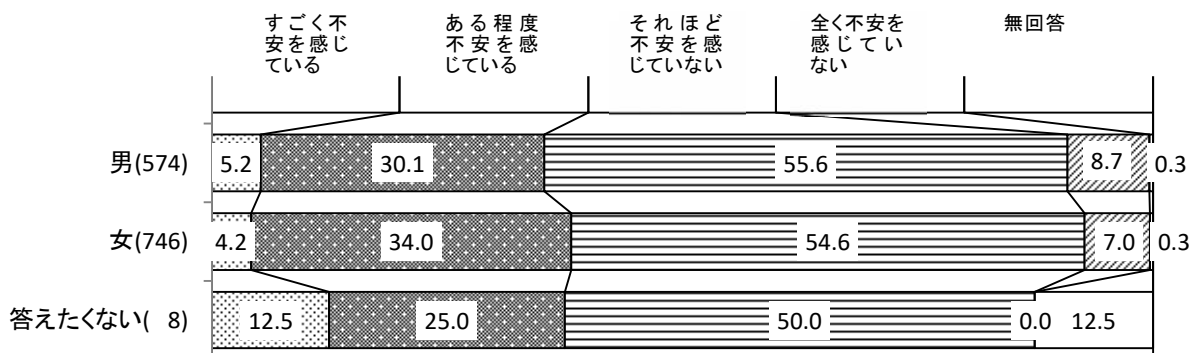
昨年度と比較して不安を感じている割合は減少、不安を感じていない割合は8ポイント増えている。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 すごく不安を感じている	62	4.7	74	6.6	74	7.9	66	5.8
2 ある程度不安を感じている	429	32.3	423	37.9	384	41.1	516	45.5
3 それほど不安を感じていない	731	55.0	521	46.7	410	43.9	476	41.9
4 全く不安を感じていない	102	7.7	89	8.0	56	6.0	56	4.9
5 無回答	5	0.4	9	0.8	10	1.1	21	1.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

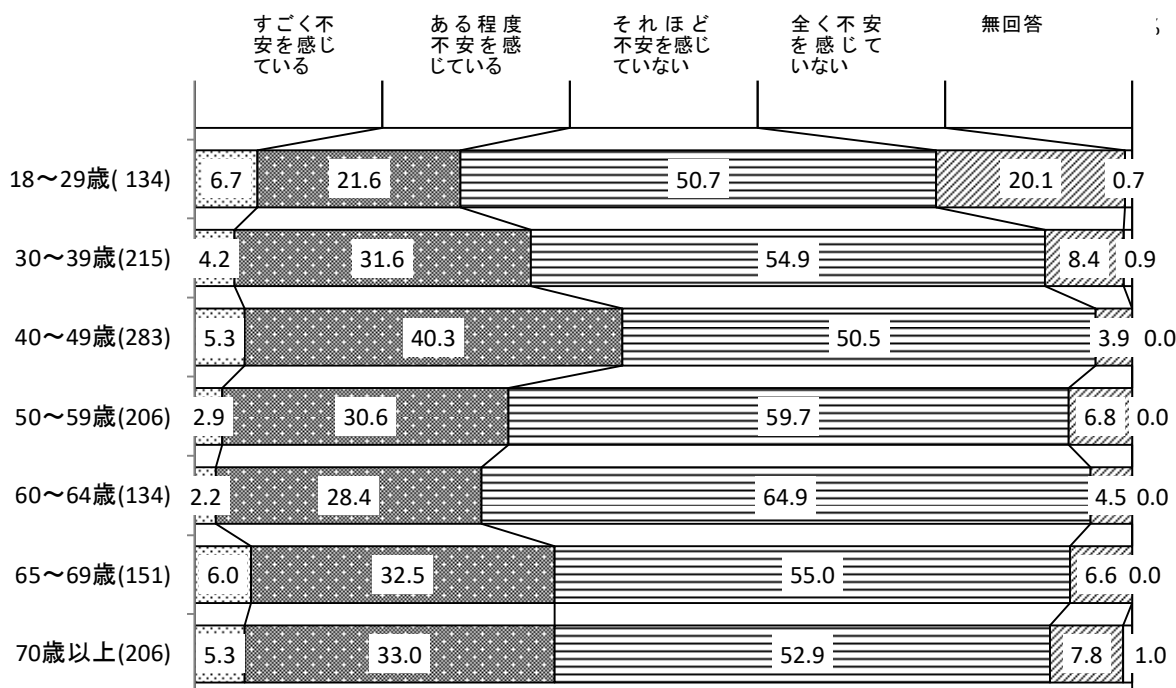
【性別】

- 犯罪被害にあう不安を感じている割合は、男性 35.3%に対し、女性 38.2%と女性の方がやや高い。男女ともに昨年度よりも不安を感じている割合は減少している。



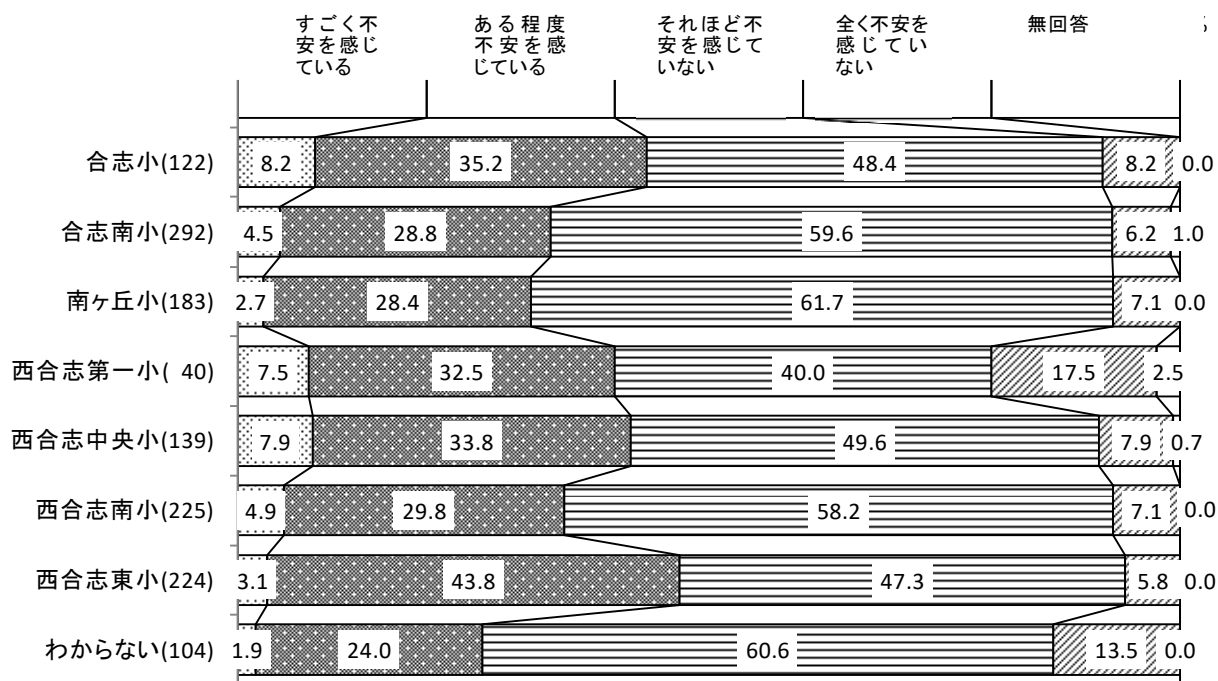
【年齢別】

- 小中学生の子どもがいる割合の高い 40 代の子育て世代では、犯罪被害にあう不安を感じている割合が 45.6%と他の年代よりも高い。
- また、20 代以下の若い年齢層と 60 代前半では不安を感じていない人が 7 割前後を占めている。



【校區別】

- すべての校区で不安を感じていないという割合が半数を超えており、特に南ヶ丘小では68.8%と高い。
- しかしながら、西合志東小では不安を感じている割合も46.9%と他よりもやや高い傾向となっている。

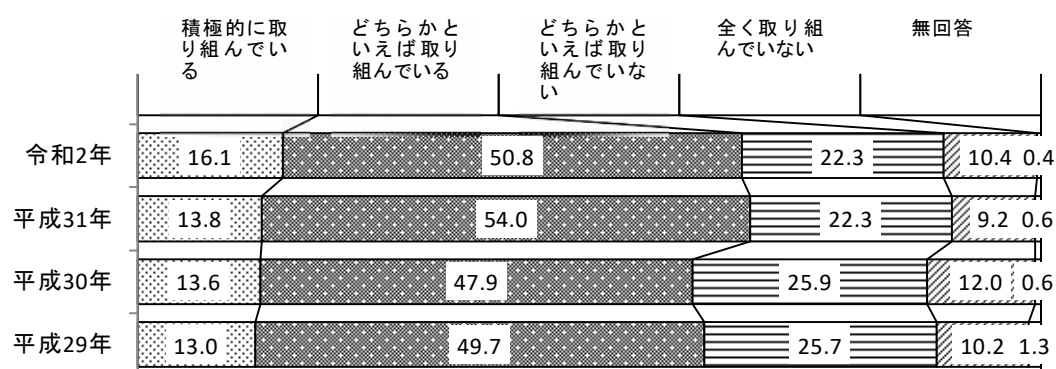


4. 地球温暖化防止への取組み(問49)

あなたの世帯では、何らかの地球温暖化防止対策(太陽光発電、太陽熱温水器、低燃費車両、LED化等の省エネ家電、節電等)に取り組んでいますか。

地球温暖化防止対策に取り組んでいる(「積極的に取り組んでいる」+「どちらかといえば取り組んでいる」)割合は66.7%を占め、取り組んでいない(「全く取り組んでいない」+「どちらかといえば取り組んでいない」)という32.7%を上回っている。

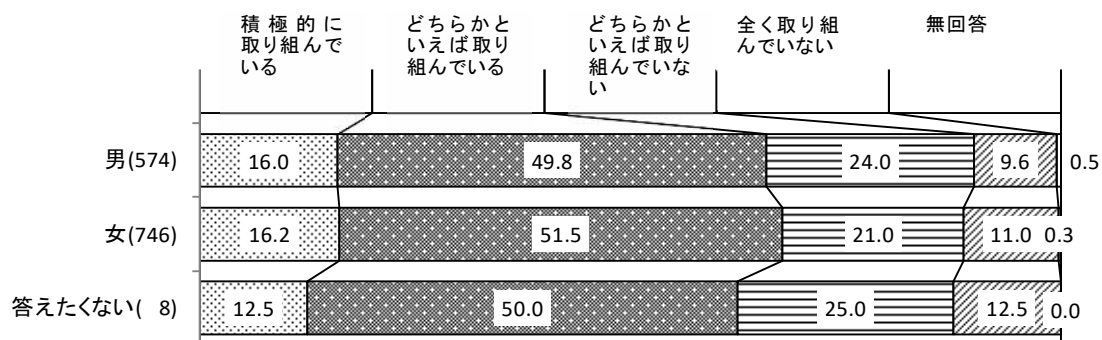
昨年度からあまり大きな変化は見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 積極的に取り組んでいる	214	16.1	154	13.8	127	13.6	148	13.0
2 どちらかといえば取り組んでいる	675	50.8	603	54.0	447	47.9	564	49.7
3 どちらかといえば取り組んでいない	297	22.3	249	22.3	242	25.9	292	25.7
4 全く取り組んでいない	138	10.4	103	9.2	112	12.0	116	10.2
5 無回答	5	0.4	7	0.6	6	0.6	15	1.3
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

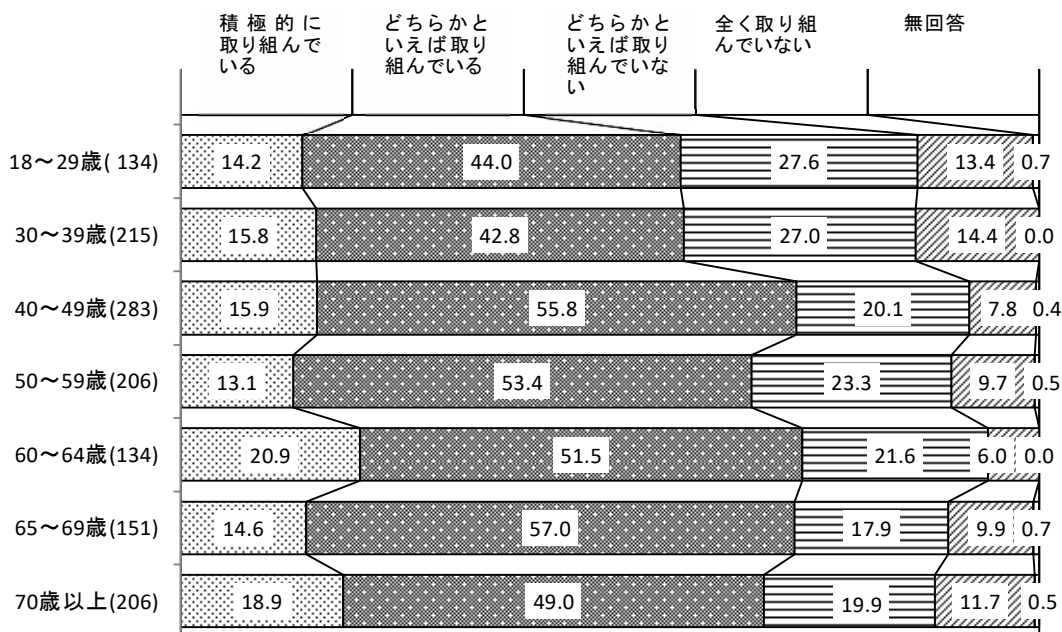
【性別】

- 地球温暖化防止対策に取り組んでいる割合は、男性 65.8%、女性 67.7%とほぼ同率となっている。



【年齢別】

- 年齢に関係なく、取り組んでいる割合は半数を超えており、特に 40 代、60 代では 7 割以上となっている。
- 20 代以下、30 代の若い年齢層では取り組んでいる割合が 5 割強と他の年齢よりもやや低く、昨年度よりも 5 ポイント前後減少している。



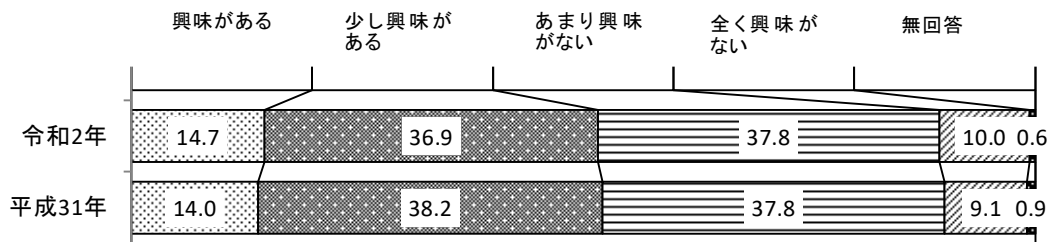
◆郷土意識について

1. 合志市の歴史・伝統文化への関心（問40）

あなたは、合志の歴史・伝統文化に興味がありますか。

合志の歴史・伝統文化に興味がある人（「興味がある」＋「少し興味がある」）は51.6%となっており、興味がない人（「まったく興味がない」＋「あまり興味がない」）47.8%を若干上回っている。

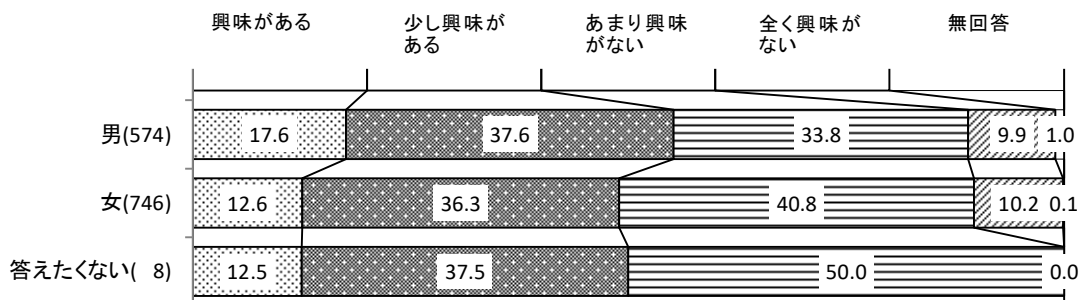
昨年度からほとんど変わっていない。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 興味がある	196	14.7	156	14.0
2 少し興味がある	490	36.9	426	38.2
3 あまり興味がない	502	37.8	422	37.8
4 まったく興味がない	133	10.0	102	9.1
5 無回答	8	0.6	10	0.9
合計	1329	100.0	1116	100.0

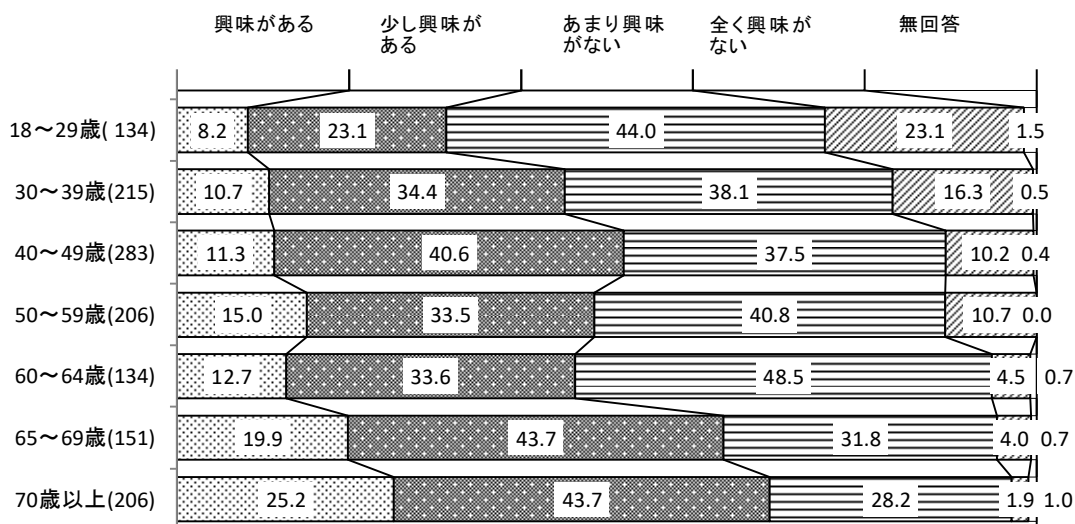
【性別】

●興味があるという割合は男性 55.2%、女性 48.9%とやや男性の方が高い。



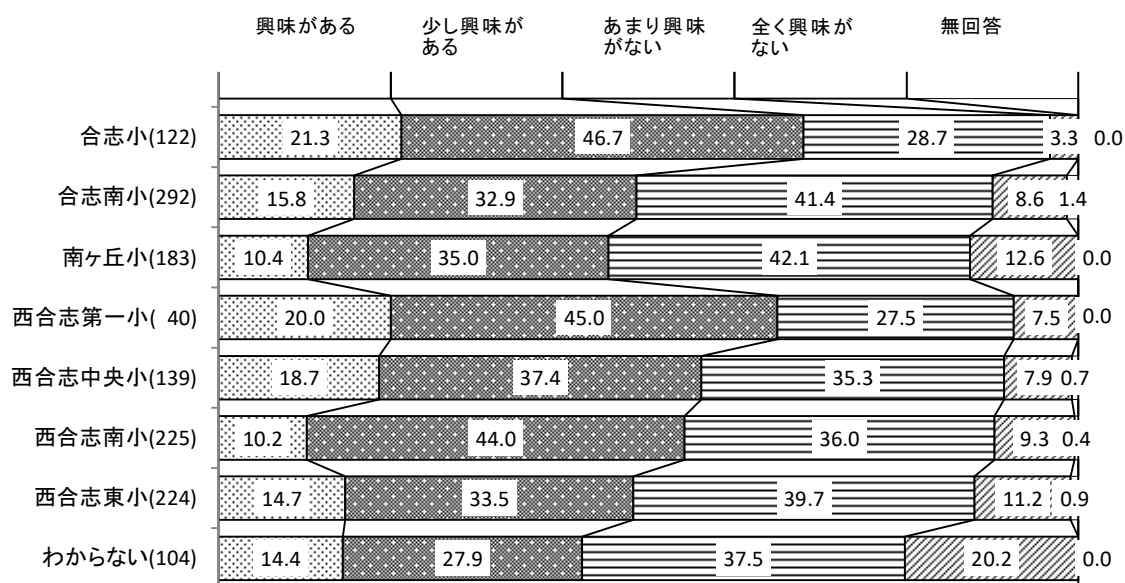
【年齢別】

- 合志の歴史・伝統文化に興味があるという割合は、65歳以上の高齢者では6割を超えているのに対し、20代以下の若者では3割と低い。
- 昨年度と比較して20代以下の若者で興味がある割合は10ポイント以上減少している。



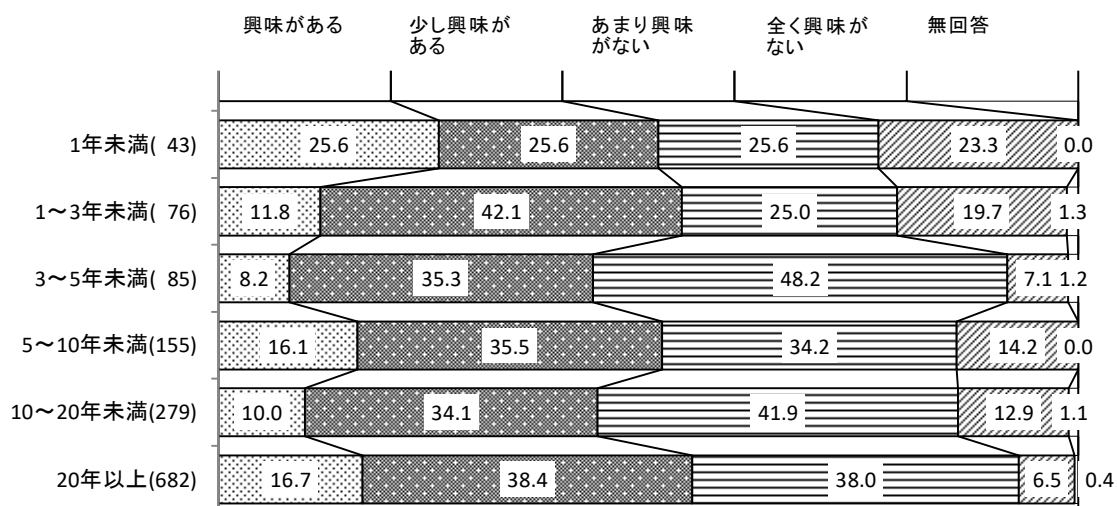
【校区別】

- 合志の歴史・伝統文化に興味があるという割合は、最も高い合志小では68.0%を占めている。一方、南ヶ丘小、合志南小、西合志東小では半数以下となっている。



【居住年数別】

- 居住年数が20年以上では興味がある割合は55.1%と高い。
- 3～5年未満、10～20年未満で興味がある割合が低い、3～5年未満では高齢者の割合が低いこと、10～20年未満では若者の割合が高いことによると考えられる。



2. 郷土としての合志市への意識

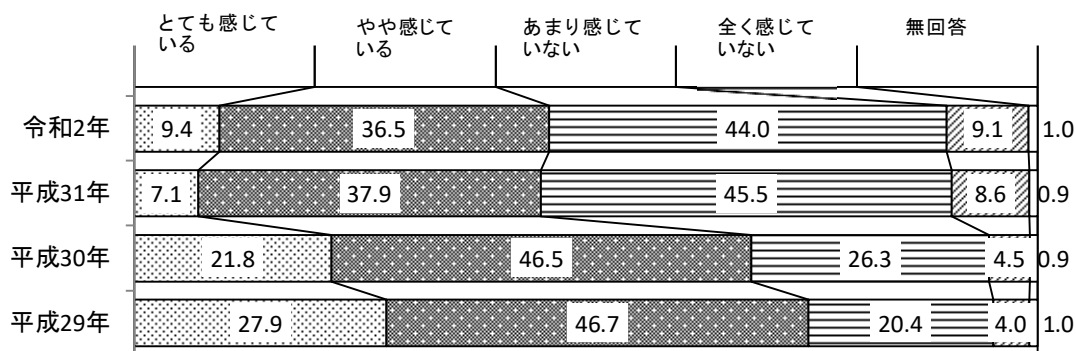
(1) 愛着 (問41)

あなたは、歴史、伝統文化を通して合志市に愛着を感じていますか

歴史、伝統文化を通して合志市に愛着を「とても感じている」は9.4%、「やや感じている」は36.5%と愛着を感じている人は45.9%となっている。

「あまり感じていない」は44.0%、「全く感じていない」は9.1%となっている。

昨年度からほとんど変わっていない。

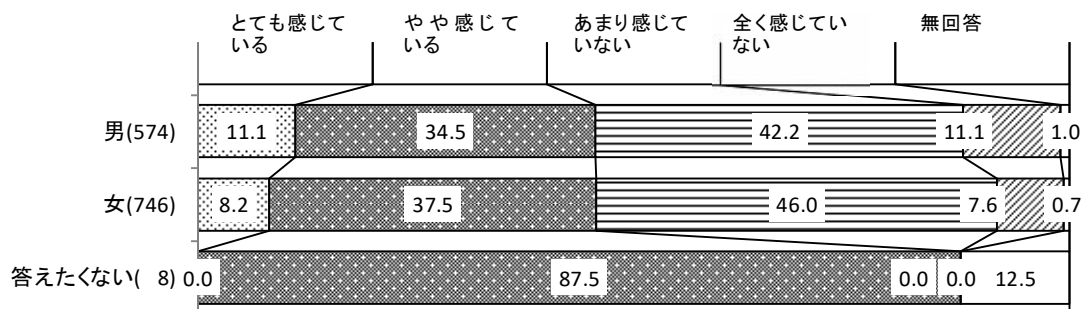


※平成30年度までは「郷土としての合志市に愛着を感じるか」という設問であったため、比較には注意が必要である。

	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 とても感じている	125	9.4	79	7.1	204	21.8	317	27.9
2 やや感じている	485	36.5	423	37.9	434	46.5	530	46.7
3 あまり感じていない	585	44.0	508	45.5	246	26.3	232	20.4
4 全く感じていない	121	9.1	96	8.6	42	4.5	45	4.0
5 無回答	13	1.0	10	0.9	8	0.9	11	1.0
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

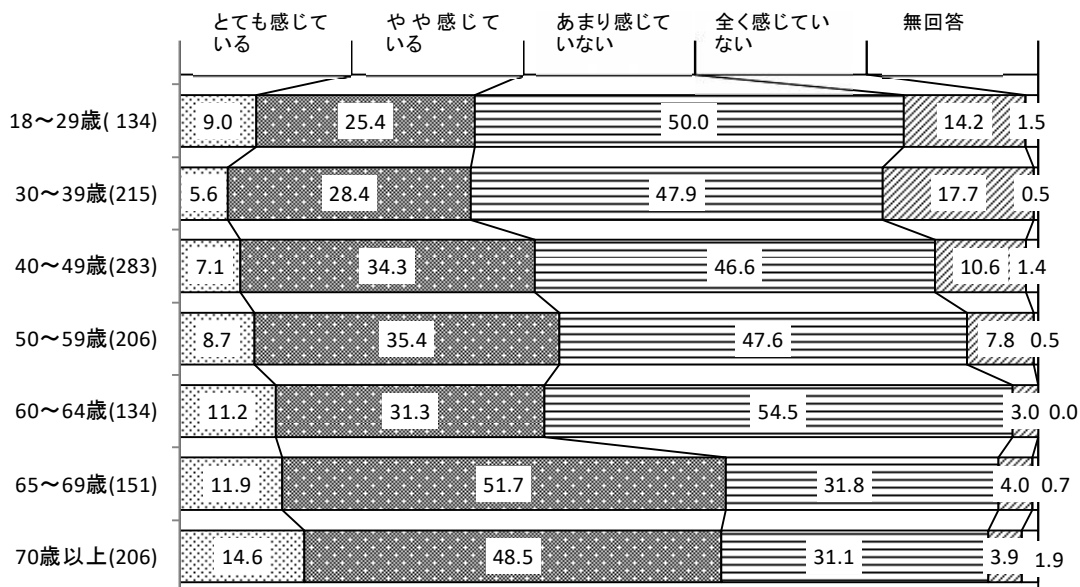
【性別】

- 愛着を感じている割合は男性 45.6%、女性 45.7%と男女でほとんど違いはない。



【年齢別】

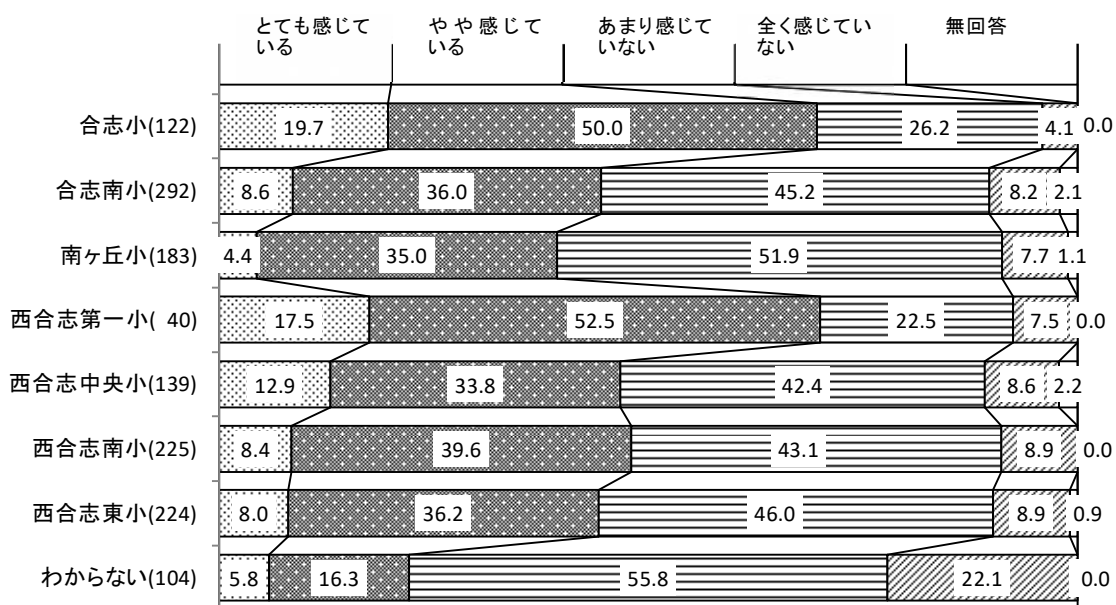
- 年齢が高くなるほど、愛着を感じる割合は高くなる傾向が見られ、30代以下の若い層では3割程度だが、65歳以上の高齢者では6割を超えている。



【校区別】

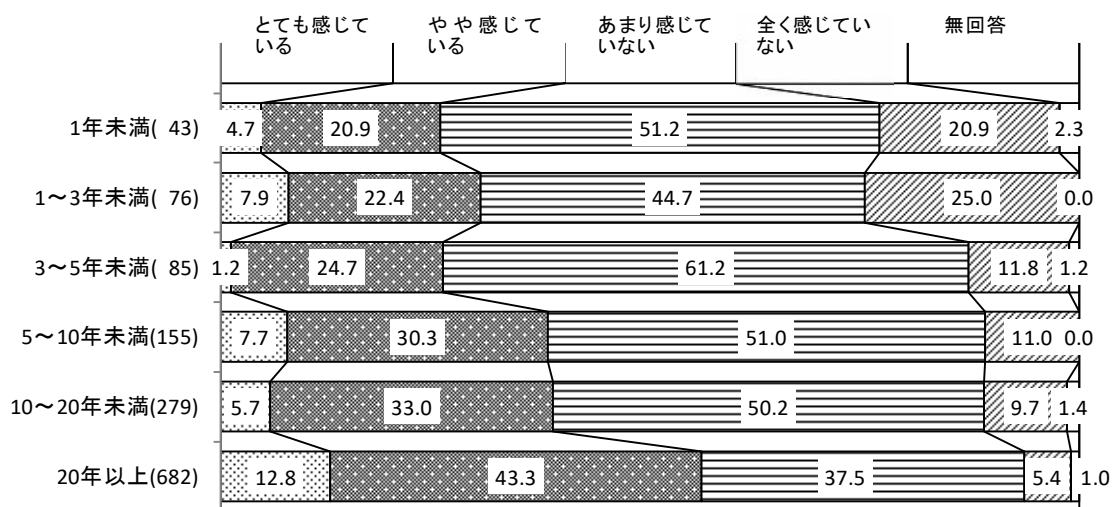
●愛着を感じている人は、西合志第一小 70.0%、合志小 69.7%と他の校区よりも大幅に多い。

※西合志第一小は回答者数が少ないため注意が必要



【居住年数別】

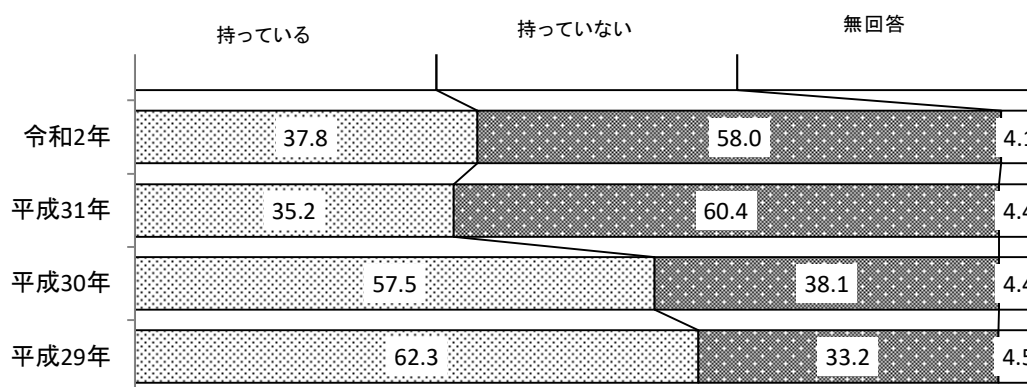
●居住年数が長くなるほど、愛着を感じている割合は高くなる傾向が見られ、5年未満では3割以下だが、20年以上では半数を超えている。



(2) 誇り (問42)

あなたは、歴史、伝統文化を通して合志市に誇りを持っていますか。

歴史、伝統文化を通して合志市に誇りを「持っている」割合は37.8%となっており、「持っていない」が58.0%と半数以上を占める。
昨年度からほとんど変わっていない

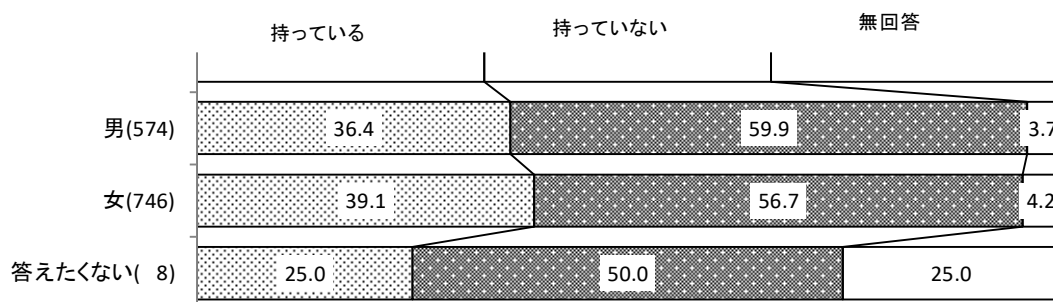


	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 持っている	503	37.8	393	35.2	537	57.5	707	62.3
2 持っていない	771	58.0	674	60.4	356	38.1	377	33.2
3 無回答	55	4.1	49	4.4	41	4.4	51	4.5
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

※平成30年度までは「郷土としての合志市に誇りを持っているか」という設問であったため、比較には注意が必要である。

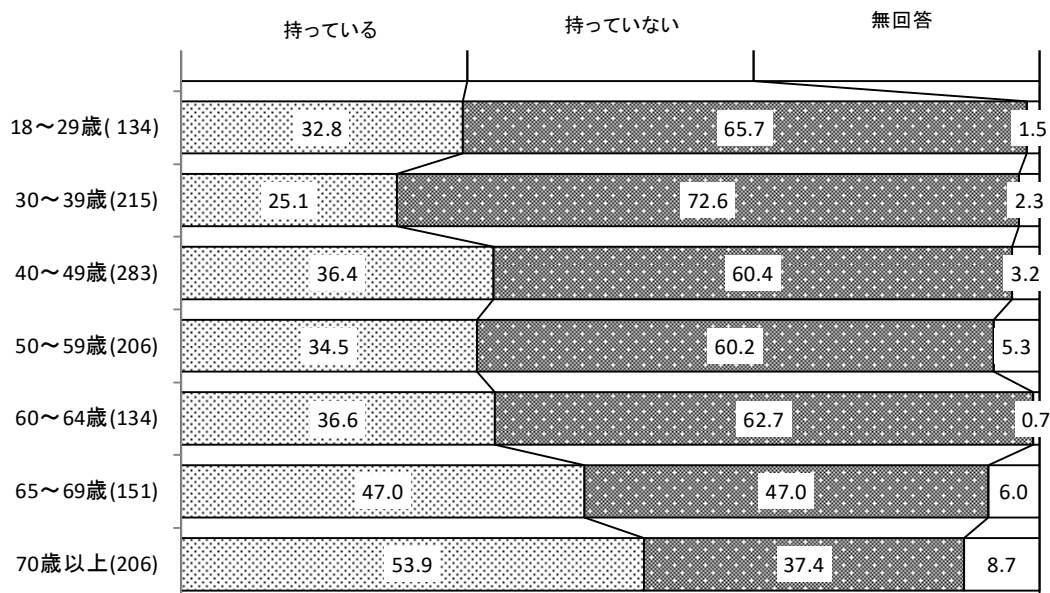
【性別】

●誇りを持っている割合は男性36.4%、女性39.1%と大きな違いはない。



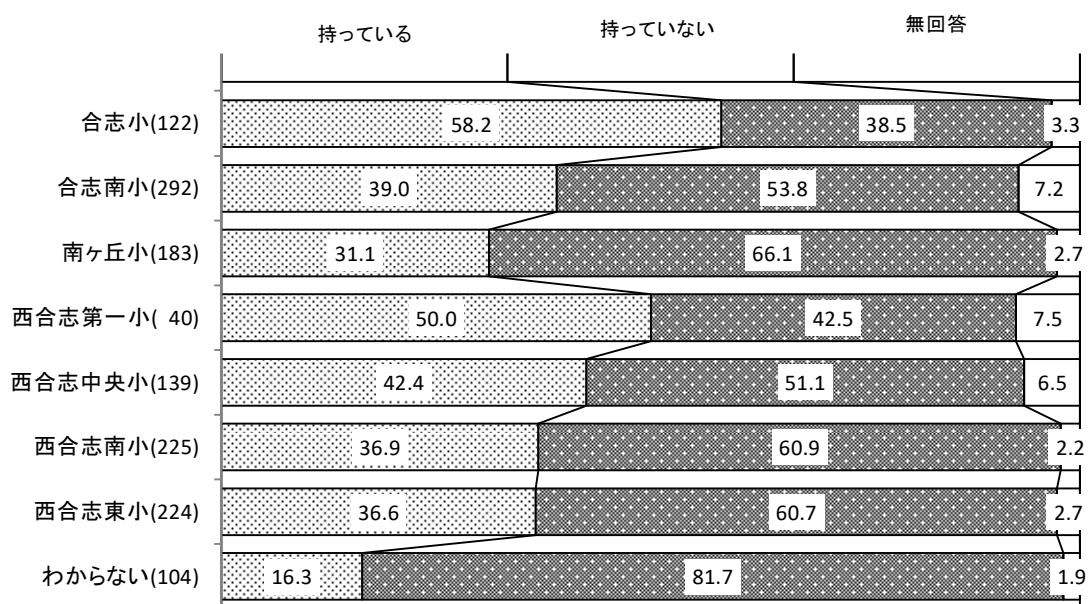
【年齢別】

- 誇りを持っている割合は、60代前半までは3割台であるが、70歳以上の高齢者では53.9%と半数を超えている。



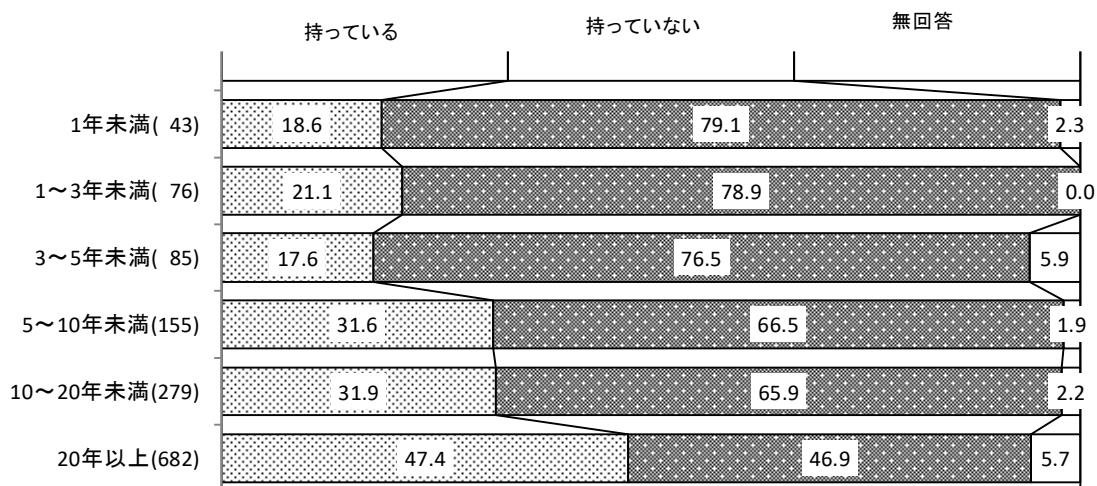
【校区別】

- 合志小、西合志第一小では誇りを持っている割合が半数を超えており、西合志中央小、合志南小は4割前後となっている。他の校区では3割台にとどまる。



【居住年数別】

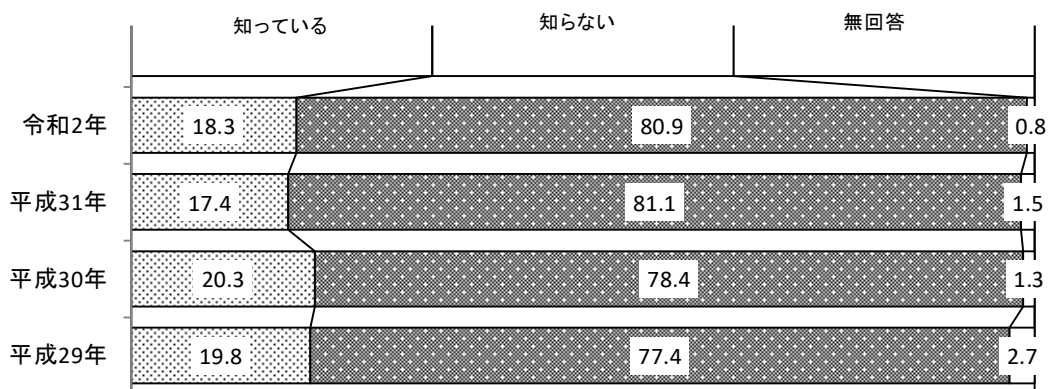
- 居住年数が5年を境に誇りを持っている割合は高くなる傾向が見られ、5年未満では2割前後だが、5年以上では3割、20年以上では半数近くになっている。



3. 合志市ブランド認証品の認知（問43）

あなたは、合志市のブランド認証品を知っていますか？

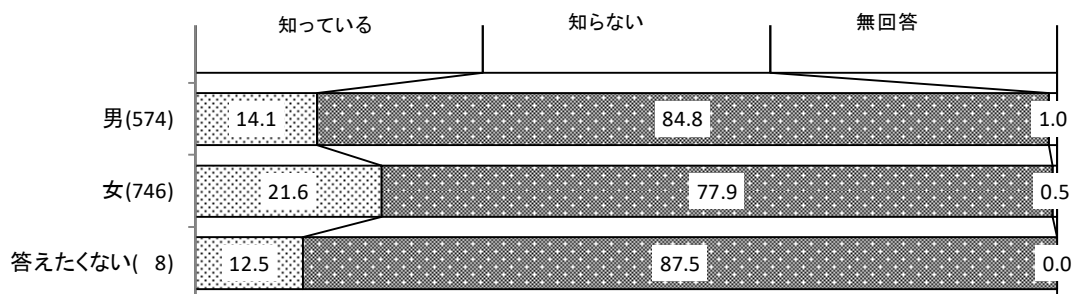
合志市のブランド認証品を「知っている」は18.3%にとどまり、80.9%は「知らない」としている。
昨年度からほとんど変わっていない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 知っている	243	18.3	194	17.4	190	20.3	225	19.8
2 知らない	1075	80.9	905	81.1	732	78.4	879	77.4
3 無回答	11	0.8	17	1.5	12	1.3	31	2.7
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

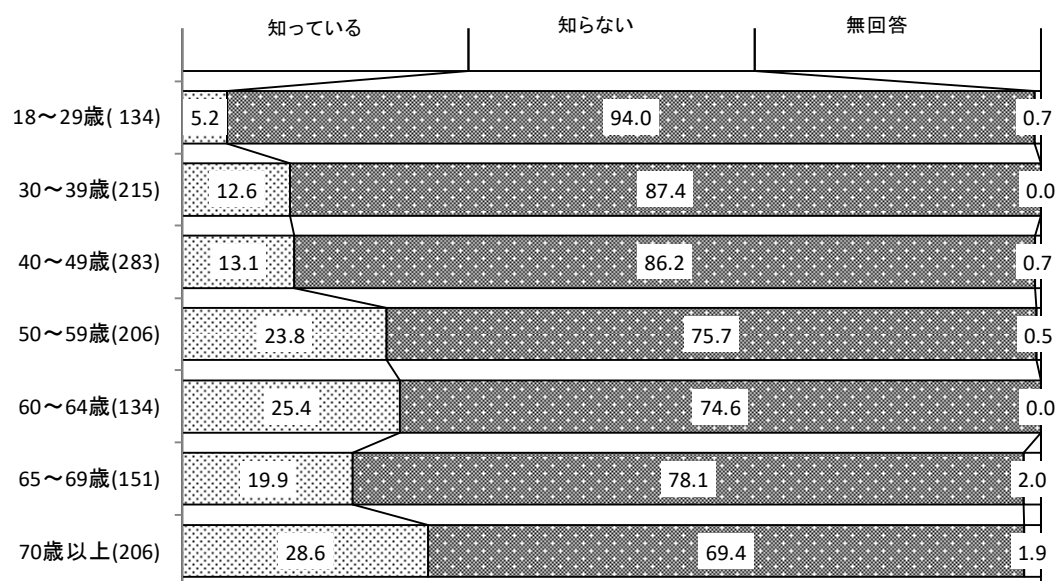
【性別】

- 合志市ブランド認証品を「知っている」割合は、女性が21.6%と男性の14.1%をやや上回っている。



【年齢別】

- 20代以下の若い年齢層では合志市のブランド認証品を「知っている」割合は5.2%と他の年代に比べ低く、昨年度から半減している。
- 「知っている」割合は50歳以上になると2割を超えており、70歳以上では28.6%となっている。



◆市政について

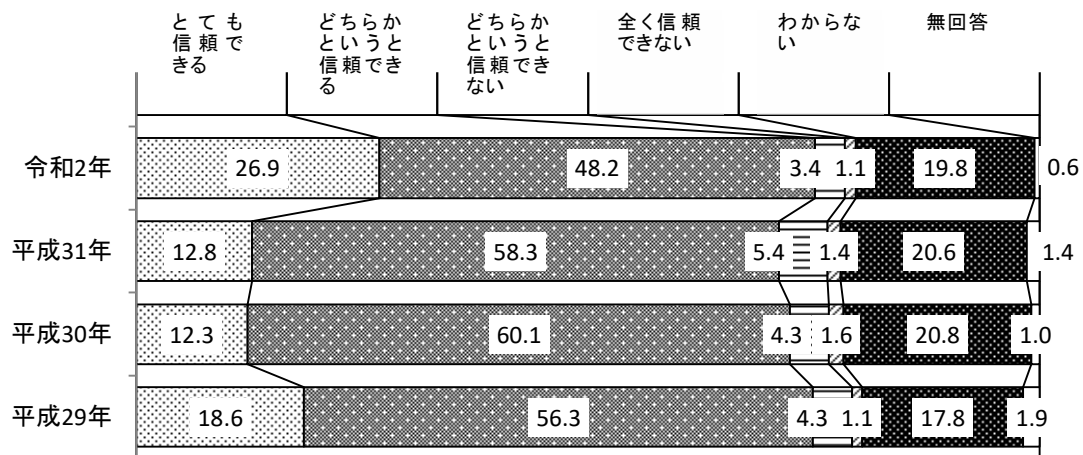
1. 市役所について

(1) 市役所への信頼（問58）

あなたにとって市役所は信頼できる存在ですか？

市役所が信頼できる（「とても信頼できる」+「どちらかという信頼できる」）という人は76.1%と全体の4分の3を占め、信頼できない（「全く信頼できない」+「どちらかという信頼できない」）は4.5%となっている。

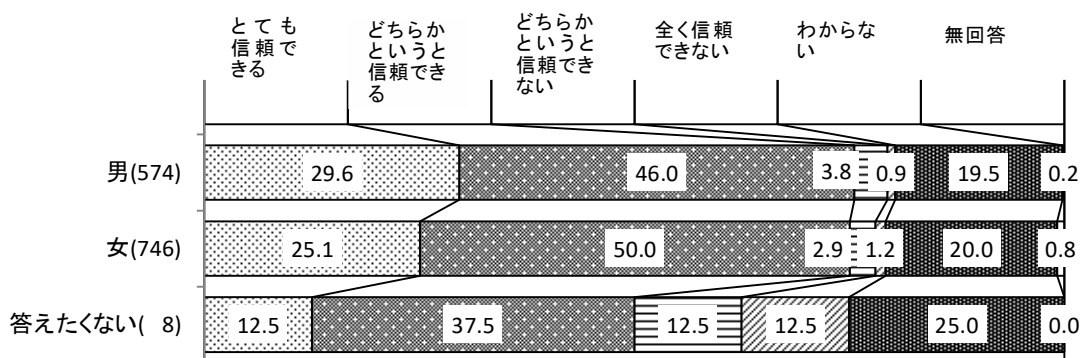
昨年度より信頼できるとする割合は高まっている。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 とても信頼できる	358	26.9	143	12.8	115	12.3	211	18.6
2 どちらかという信頼できる	640	48.2	651	58.3	561	60.1	639	56.3
3 どちらかという信頼できない	45	3.4	60	5.4	40	4.3	49	4.3
4 全く信頼できない	15	1.1	16	1.4	15	1.6	13	1.1
5 わからない	263	19.8	230	20.6	194	20.8	202	17.8
6 無回答	8	0.6	16	1.4	9	1.0	21	1.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

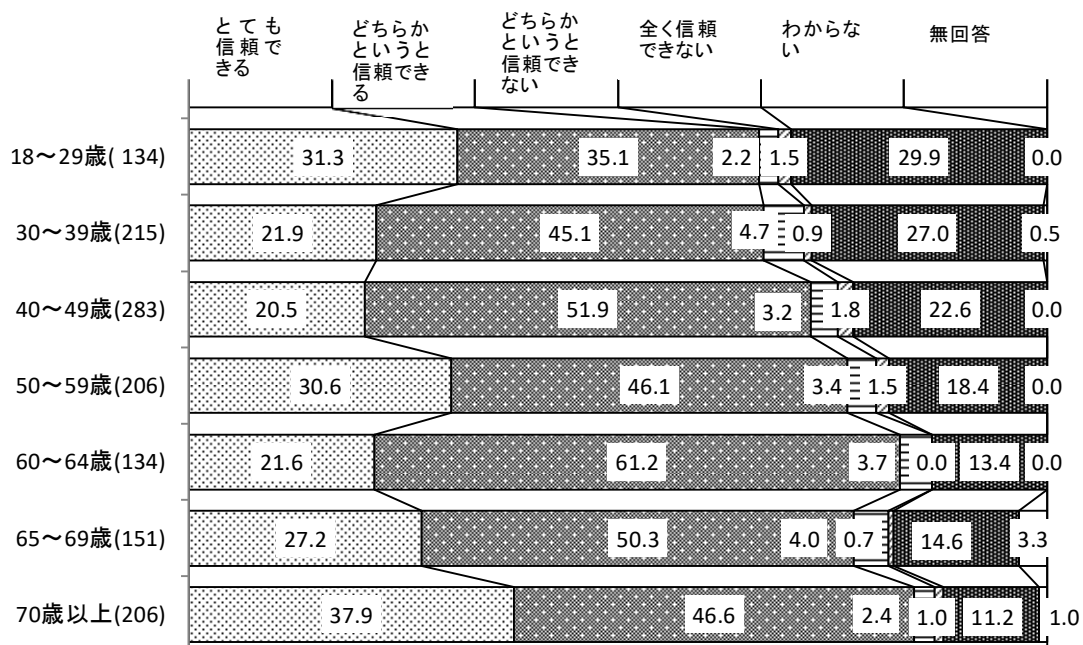
【性別】

●信頼できるという割合は、男性 75.6%、女性 75.1%とほぼ同率となっている。



【年齢別】

●信頼できるという割合は最も低い 20 代以下の若い年齢層では 66.4%となっている。また年齢とともに高くなる傾向が見られ、60 歳以上では 8 割前後となっている。



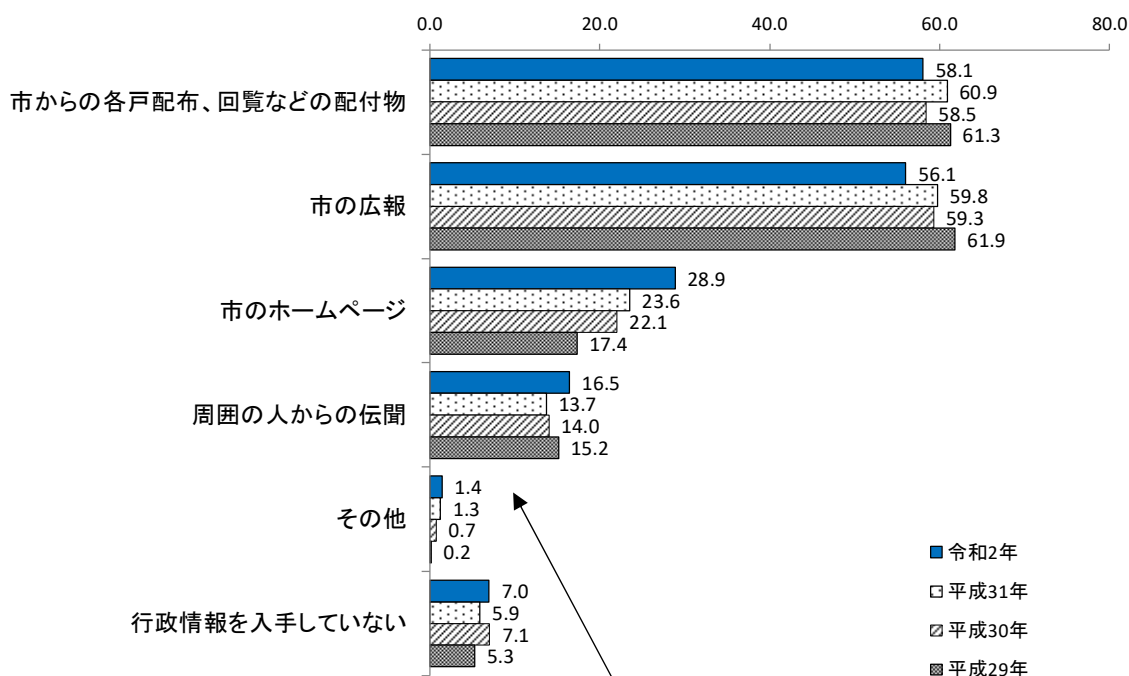
(2) 行政情報の入手 (問59)

あなたは、どのように行政情報を入手していますか？

行政情報の入手については、「行政情報を入手していない」は7.0%となっており、ほとんどの人が情報を入手している。

入手方法としては、「市からの各戸配布、回覧などの配布物」58.1%、「市の広報」56.1%と多く「市のホームページ」が28.9%で続く。

昨年度と比較して上位の項目に違いは見られないが、市のホームページは増加傾向にある。



- ・インターネット(4)
- ・SNS等(2)
- ・家族(2)
- ・フェイスブック
- ・社協、図書館の人から直接
- ・議員さんの情報紙
- ・議員さんからの広報紙便り
- ・直接窓口へ
- ・日頃支所へ市の広報を自ら取りに行く。

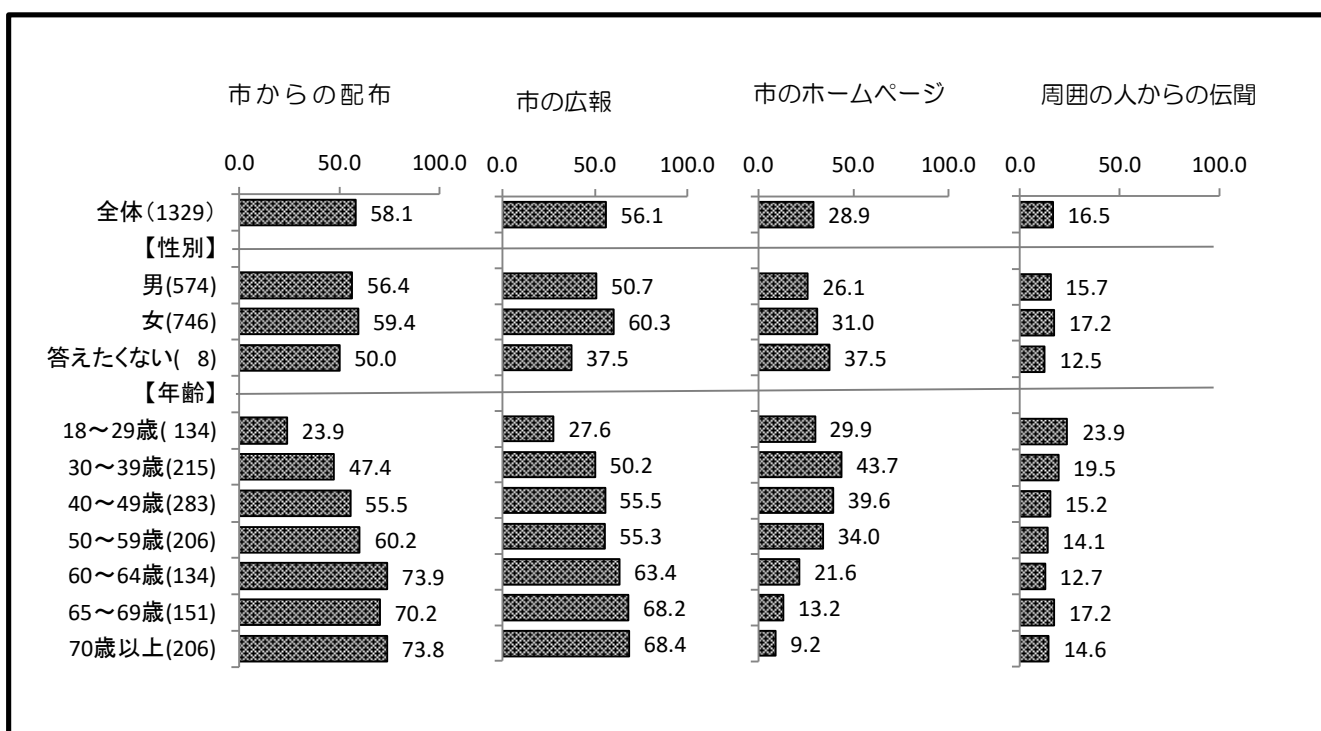
	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 市の広報	745	56.1	667	59.8	554	59.3	702	61.9
2 市のホームページ	384	28.9	263	23.6	206	22.1	197	17.4
3 市からの各戸配布、回覧などの配付物	772	58.1	680	60.9	546	58.5	696	61.3
4 周囲の人からの伝聞	219	16.5	153	13.7	131	14.0	172	15.2
5 その他	19	1.4	14	1.3	7	0.7	2	0.2
6 行政情報を入手していない	93	7.0	66	5.9	66	7.1	60	5.3

【性別】

- 男女で入手方法に違いは見られないものの、いずれの方法についても男性より女性が上回っており、女性は様々な方法で行政情報を入手していることが伺える。

【年齢別】

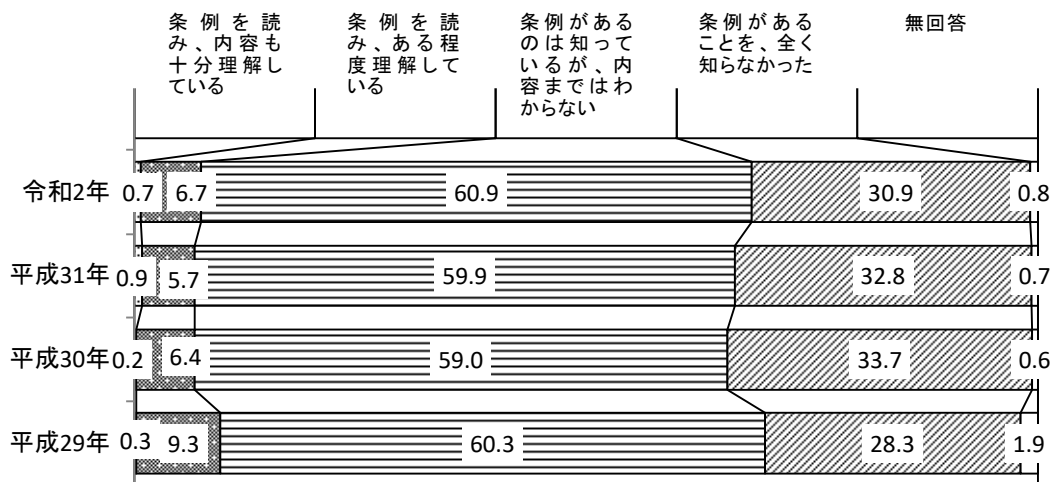
- 「市の広報」「市からの配布物」は年齢が高くなるほど利用している人が多くなる傾向が見られる。
- 他方、30代、40代は4割前後が「市のホームページ」で情報入手している。
- 昨年度と比較すると「市のホームページ」を利用している割合はいずれの年齢でも増加している。



(3) 合志市自治基本条例の認知(問60)

あなたは、合志市自治基本条例を知っていますか？

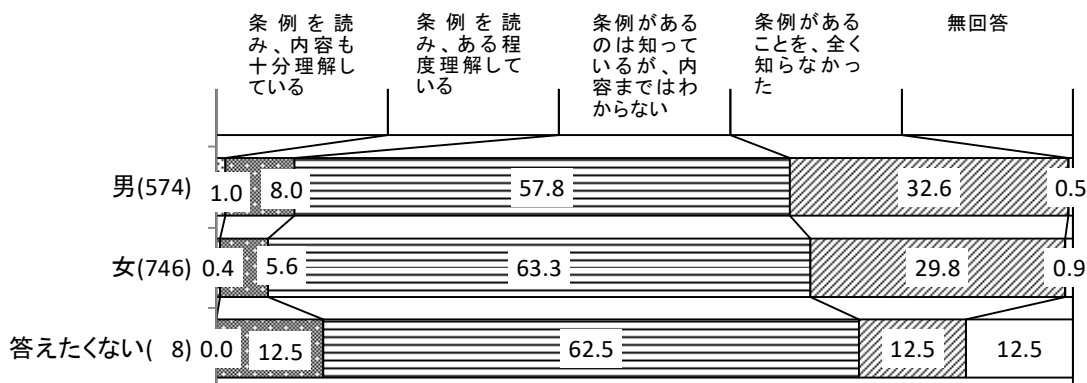
合志市の自治基本条例をほぼ7割が認知しているものの、内容まで理解している人(「内容も十分理解している」+「ある程度理解している」)は1割に満たず、6割は条例の存在は知っていても内容までは理解していない。
 「条例があることを全く知らなかった」は30.9%となっている。
 昨年度と比較して大きな変化は見られず、認知はあまり進んでいない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 条例を読み、内容も十分理解している	9	0.7	10	0.9	2	0.2	3	0.3
2 条例を読み、ある程度理解している	89	6.7	64	5.7	60	6.4	105	9.3
3 条例があるのは知っているが、内容まではわからない	810	60.9	668	59.9	551	59.0	684	60.3
4 条例があることを、全く知らなかった	410	30.9	366	32.8	315	33.7	321	28.3
5 無回答	11	0.8	8	0.7	6	0.6	22	1.9
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

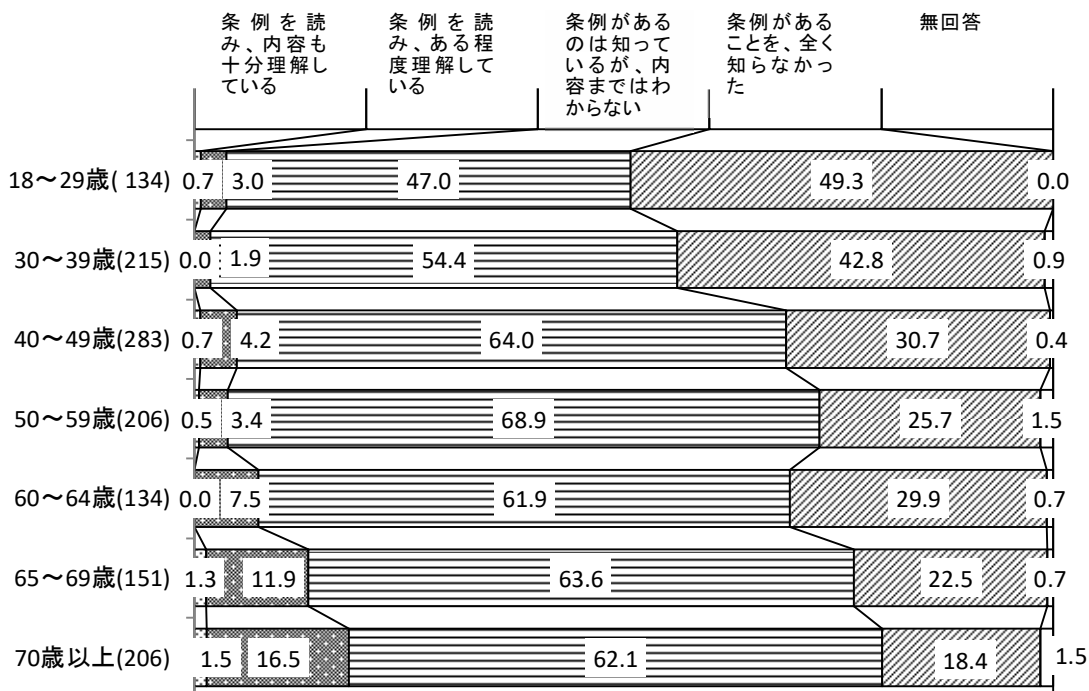
【性別】

- 条例の認知、理解で男女の差はほとんど見られない。



【年齢別】

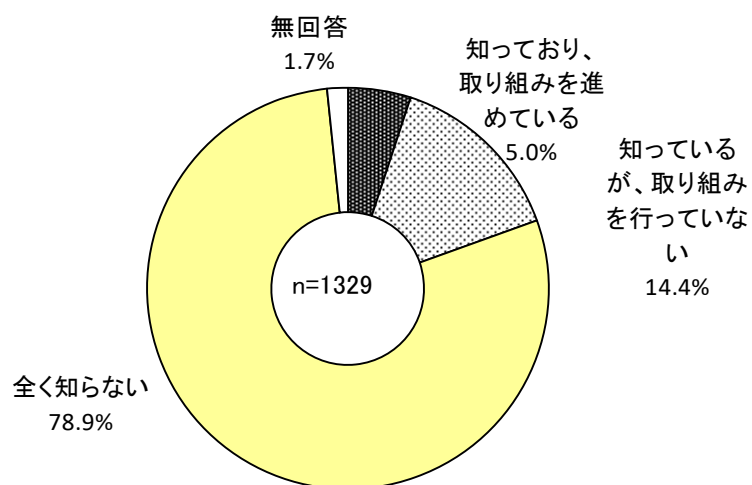
- 年齢が高くなるほど条例の認知は進む傾向が見られ、認知している割合は 20 代以下の若い年齢層では 50.7%だが、65 歳以上の高齢者では 8 割前後となっている。
- しかしながら、内容をある程度理解している割合は最も高い 70 歳以上でも 18.0%にとどまる。



(4) SDGsの認知(問61)

あなたは、SDGsを知っていますか？

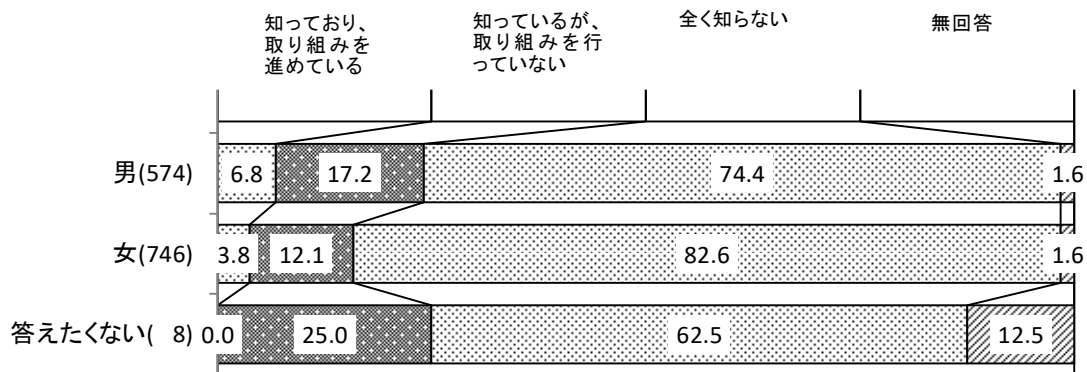
SDGsを知っている人(「知っており、取り組みを進めている」+「知っているが、取り組みを行っていない」)は19.4%であり、「全く知らない」が78.9%と8割を占めている。また実際に取り組んでいる人は5.0%と1割に満たない。



	令和2年度	
	人	%
1 知っており、取り組みを進めている	67	5.0
2 知っているが、取り組みを行っていない	192	14.4
3 全く知らない	1048	78.9
4 無回答	22	1.7
合計	1329	100.0

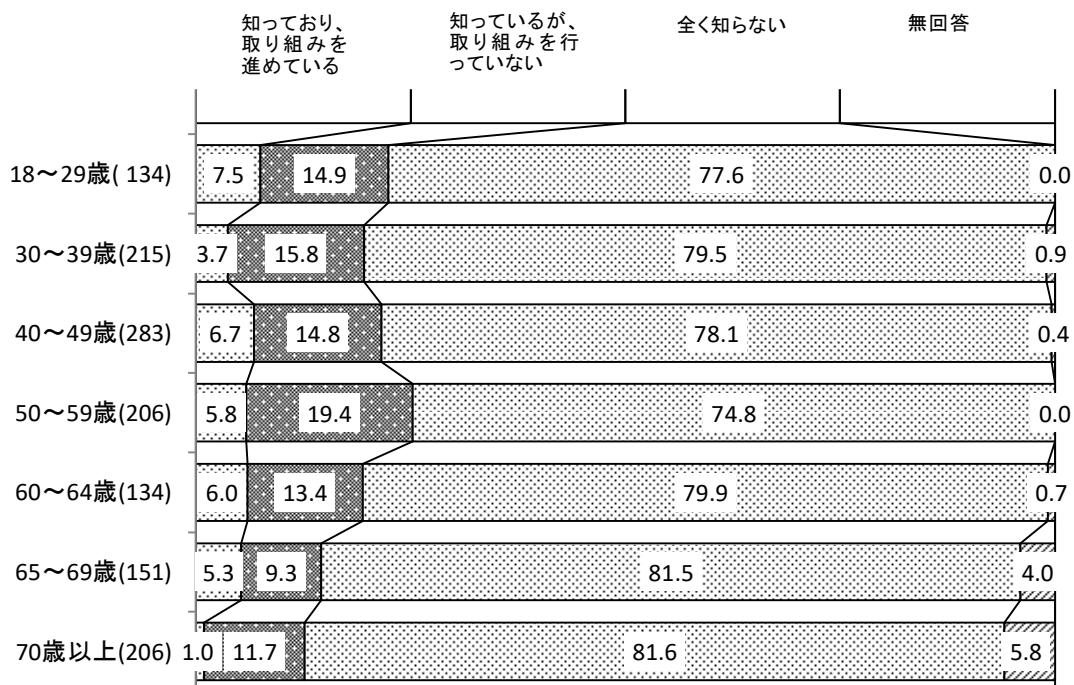
【性別】

●SDGsを認知している割合は、男性 24.0%、女性 15.9%と男性の方がやや高い。



【年齢別】

●SDGsを認知している割合は、最も認知が進んでいる50代でも25.2%にとどまり、65歳以上の高齢者層では15%未満と低い。



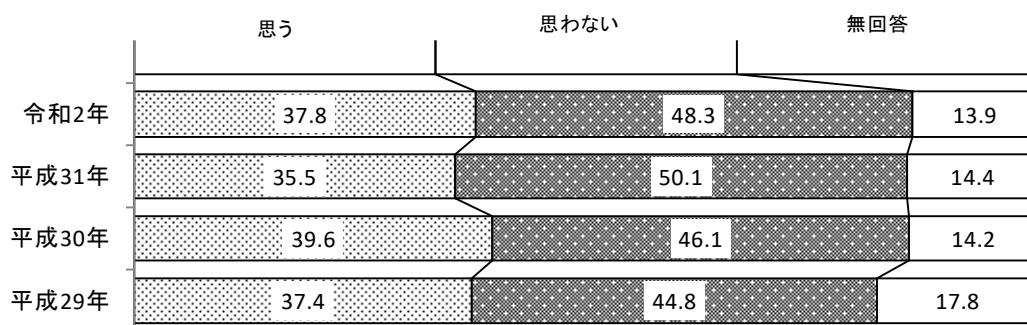
2. 市議会の活動について

(1) 市議会の運営（問62）

あなたは、市議会が市民の意見を反映した運営になっていると思いますか？

市議会が市民の意見を反映した運営になっていると「思う」人は37.8%、「思わない」48.3%と思わないという人が半数となっている。

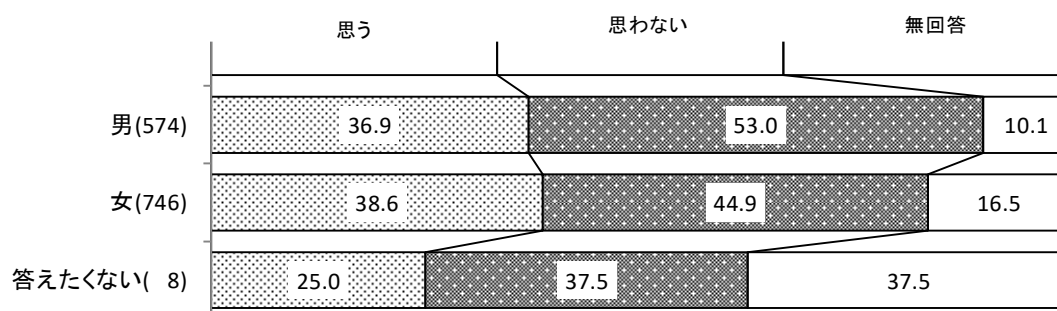
昨年度とほとんど変わらない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 思う	502	37.8	396	35.5	370	39.6	424	37.4
2 思わない	642	48.3	559	50.1	431	46.1	509	44.8
3 無回答	185	13.9	161	14.4	133	14.2	202	17.8
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

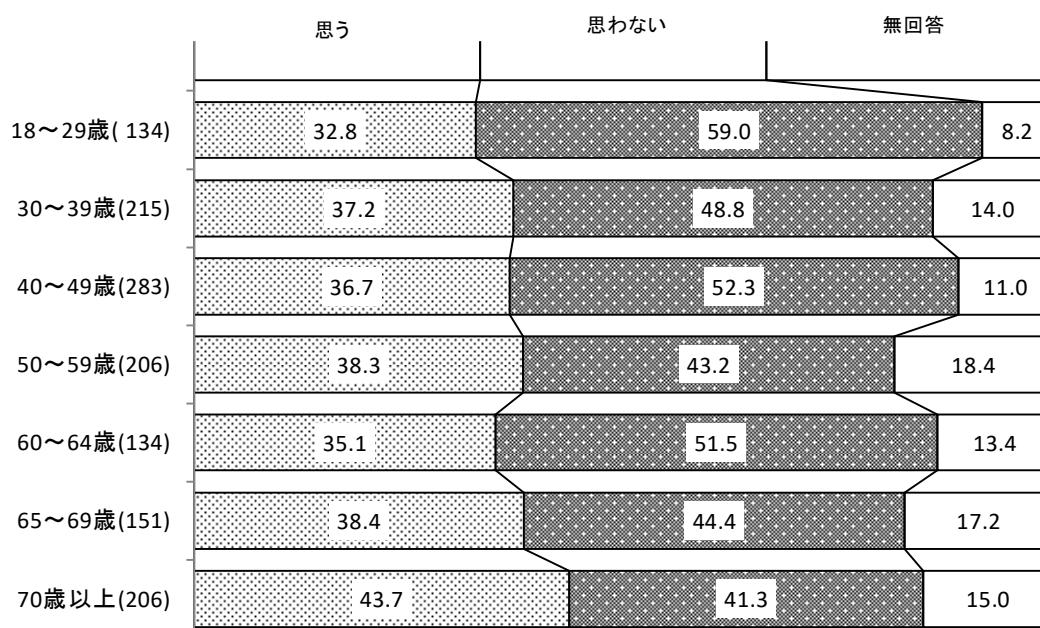
【性別】

- 市議会が市民の意見を反映した運営になっているかについて、男性では「思わない」が53.0%と半数を超えるが、女性は44.9%と男性よりもやや低い。



【年齢別】

- 市民の意見を反映していると「思う」という人は、70歳以上で43.7%とやや高い傾向が見られる。
- 20代以下の若い年齢層では6割が「思わない」としており、他の年代よりも高い。この傾向は昨年度から変わっていない。

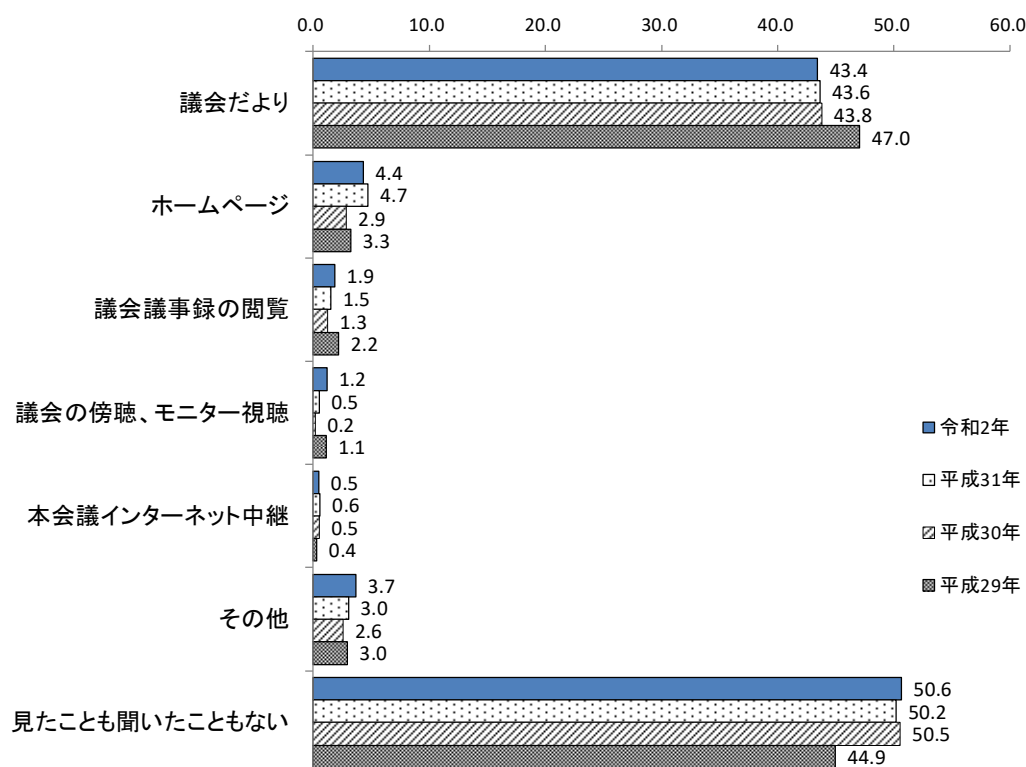


(2) 市議会情報への接触 (問63)

あなたは、過去1年以内に市議会での議論を見た、または聞いたことがありますか？

過去1年以内の市議会での議論について、「見たことも聞いたこともない」という人は50.6%と半数を占めている。何らかの情報と接触している半数の人の具体的な入手方法としては、「議会だよりを読んだ」が43.4%と最も多く、他は5%未満と少ない。

昨年度から大きな変化はない。



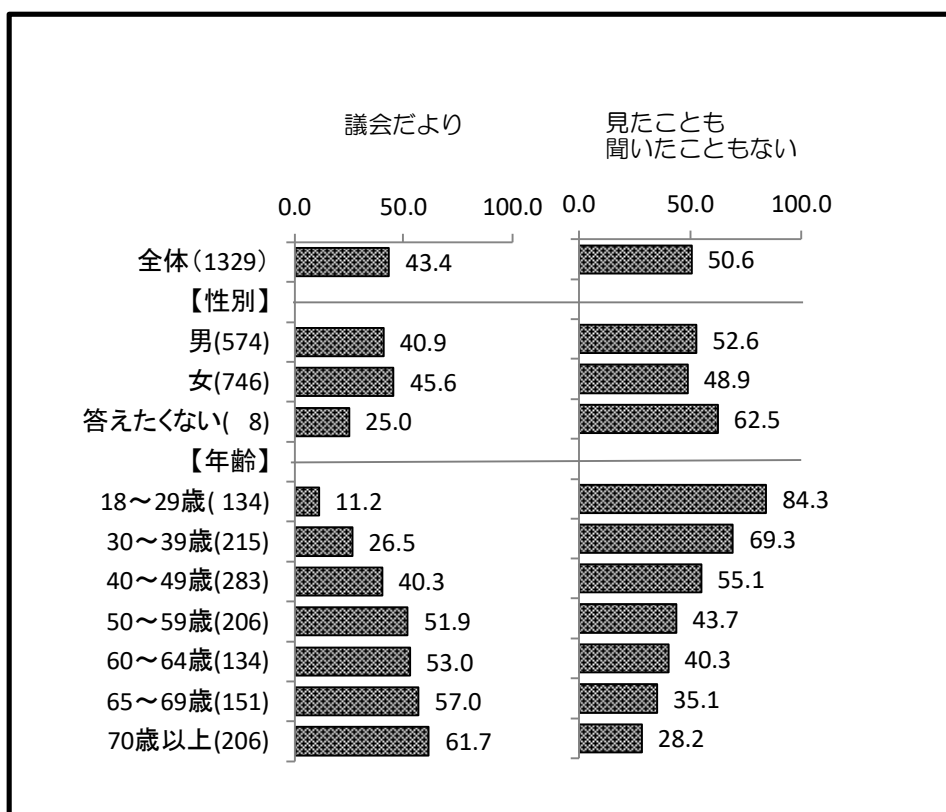
	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	n=1329		n=1116		n=934		n=1135	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 ホームページで公開されている議会情報を見た	58	4.4	53	4.7	27	2.9	37	3.3
2 本会議インターネット中継を見た	7	0.5	7	0.6	5	0.5	4	0.4
3 議会だよりを読んだ	577	43.4	487	43.6	409	43.8	534	47.0
4 議会の傍聴、モニター視聴を行った	16	1.2	6	0.5	2	0.2	13	1.1
5 議会議事録を閲覧した	25	1.9	17	1.5	12	1.3	25	2.2
6 その他(議員や会派が行っている説明会などへの参加等)	49	3.7	34	3.0	24	2.6	34	3.0
7 見たことも聞いたこともない	673	50.6	560	50.2	472	50.5	510	44.9

【性別】

- 市議会の議論について「見たことも聞いたこともない」という割合は、男性 52.6%、女性 48.9%と男性の方がやや高い。
- 入手手段としての「議会だより」は女性の方が接触している割合が高い傾向が見られる。

【年齢別】

- 年齢別に見ると、市議会での議論を「見たことも聞いたこともない」割合は年齢とともに減る傾向が見られ、20代以下若い年齢層では84.3%と高いが、50代以上では半数以下となっている。
- 「議会だより」で議論を知ったという割合は、年齢とともに高くなり、20代以下の若い年齢層では11.2%だが、50代以上では読んでいる人が半数を超えている。
- これらの傾向は昨年度から全く変わっていない。

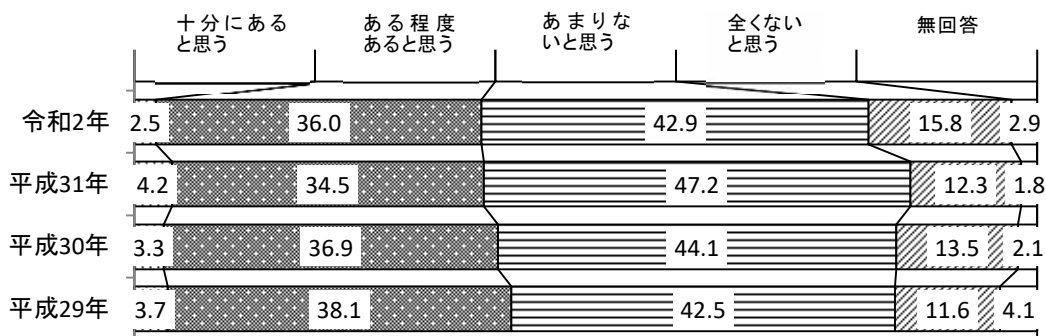


(3) 市議会情報を得る機会（問64）

あなたは、市議会情報を得る機会が十分にあると思いますか？

市議会情報を得る機会がある（「十分にある」+「ある程度ある」）という人は38.5%となっており、58.7%と6割が得る機会がない（「全くない」+「あまりない」）としている。

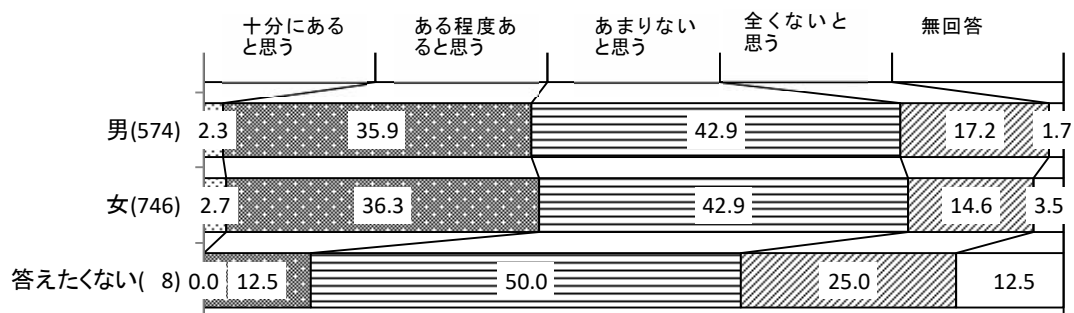
昨年度と比較して大きな違いは見られない。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 十分にあると思う	33	2.5	47	4.2	31	3.3	42	3.7
2 ある程度あると思う	478	36.0	385	34.5	345	36.9	432	38.1
3 あまりないと思う	570	42.9	527	47.2	412	44.1	482	42.5
4 全くないと思う	210	15.8	137	12.3	126	13.5	132	11.6
5 無回答	38	2.9	20	1.8	20	2.1	47	4.1
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0	1135	100.0

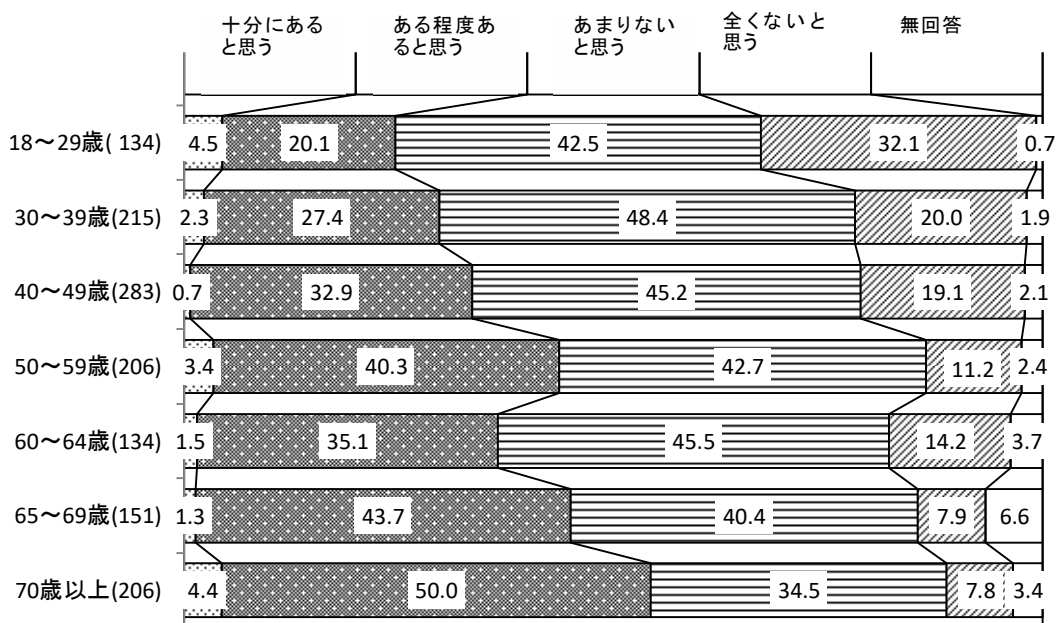
【性別】

- 情報を得る機会があるという割合は、男性 38.2%、女性 39.0%とほぼ同率である。



【年齢別】

- 情報を得る機会があるという割合は、年齢とともに高くなる傾向が見られ、20代以下の若い年齢層では 24.6%だが、70歳以上の高齢者では 54.4%と半数を超える。
- 情報を得る機会がないという割合は 40代以下の若い年齢層では6割以上と高い。



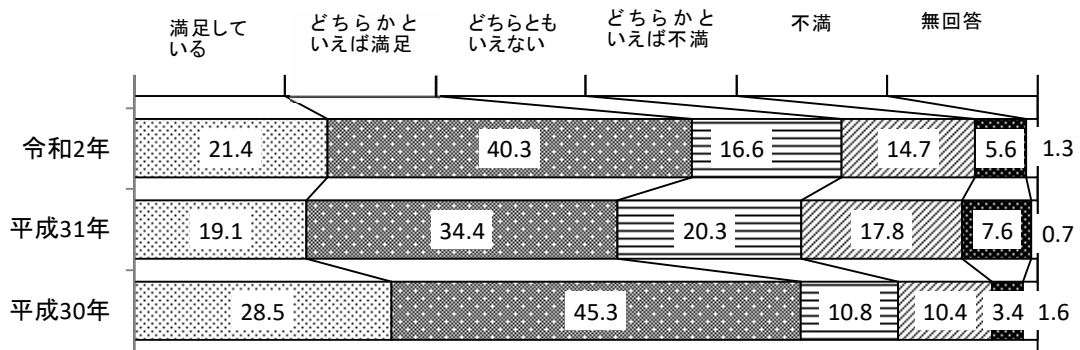
◆買い物事情と土地利用について

1. 買い物利便性について（問65）

合志市において普段の買い物の利便性について満足していますか。

普段の買い物の利便性について満足している（「満足している」+「どちらかといえば満足」）割合は61.7%と6割を超え、不満という人（「不満」+「どちらかといえば不満」）は20.3%となっている。

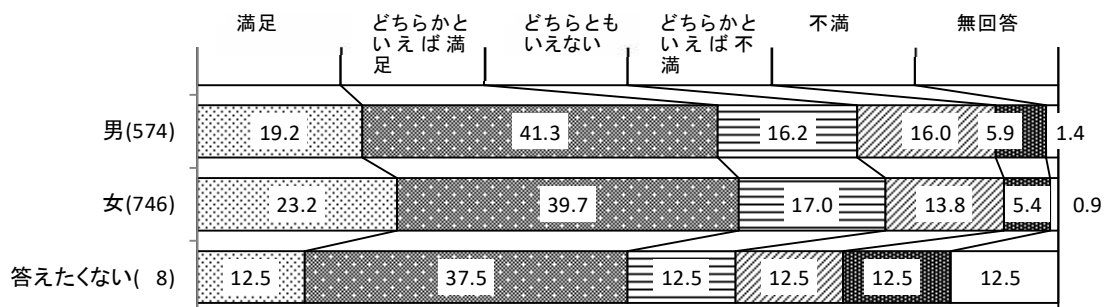
昨年度と比較すると、満足している人は8.2ポイント増加、不満は5.1ポイント減少しており、買い物の利便性の満足度はやや改善が見られる。



	令和2年度		平成31年度		平成30年度	
	人	%	人	%	人	%
1 満足している	284	21.4	213	19.1	266	28.5
2 どちらかといえば満足	536	40.3	384	34.4	423	45.3
3 どちらともいえない	221	16.6	227	20.3	101	10.8
4 どちらかといえば不満	196	14.7	199	17.8	97	10.4
5 不満	75	5.6	85	7.6	32	3.4
6 無回答	17	1.3	8	0.7	15	1.6
合計	1329	100.0	1116	100.0	934	100.0

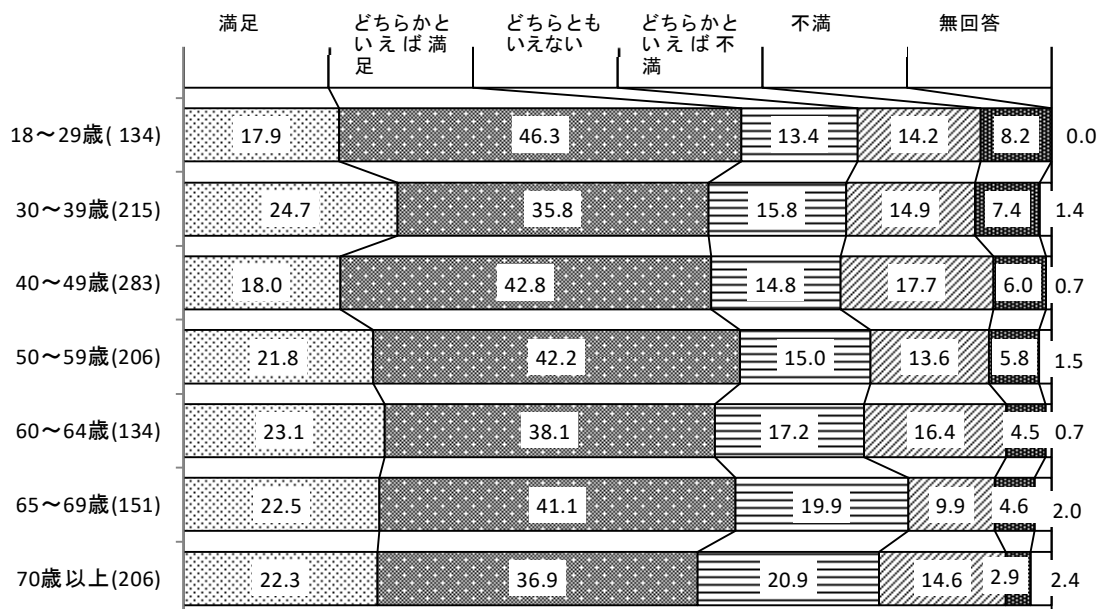
【性別】

●満足している割合は男女で大きな違いは見られない。



【年齢別】

●満足している割合はいずれの年代でも昨年度より高くなっており、改善が見られる。

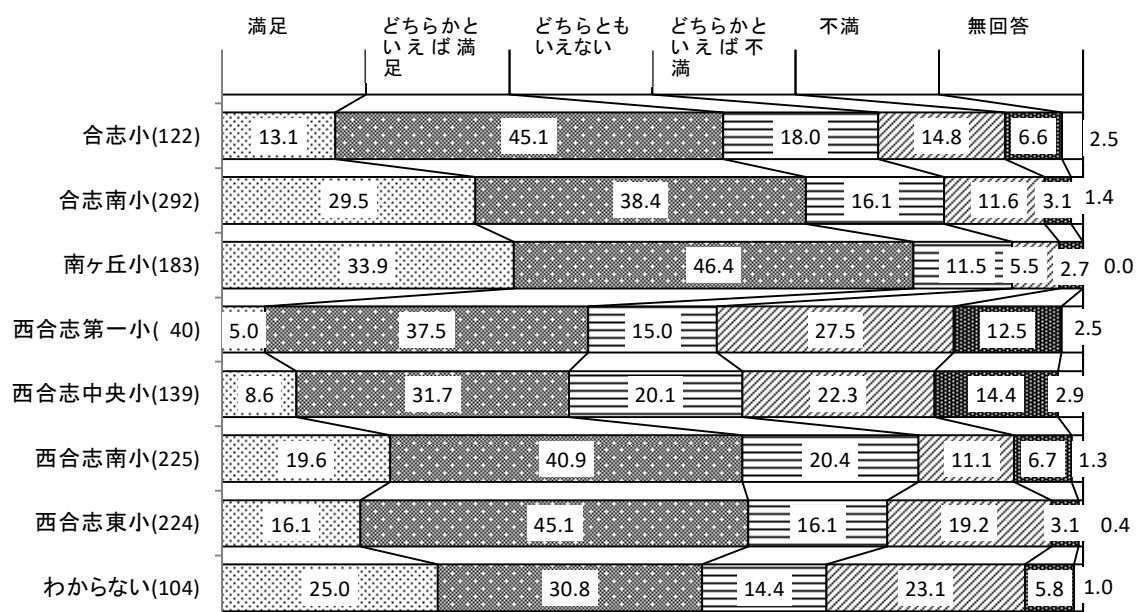


【校区別】

●満足している割合は南ヶ丘小で80.3%と最も高く、合志南小、西合志東小、西合志南小も6割を超えている。

●一方で西合志中央小、西合志第一小では満足している割合は4割前後とやや低く、不満がほぼ同率となっている。

●しかしながら昨年度と比較すると、いずれの校区でも満足の割合は増加傾向にある。



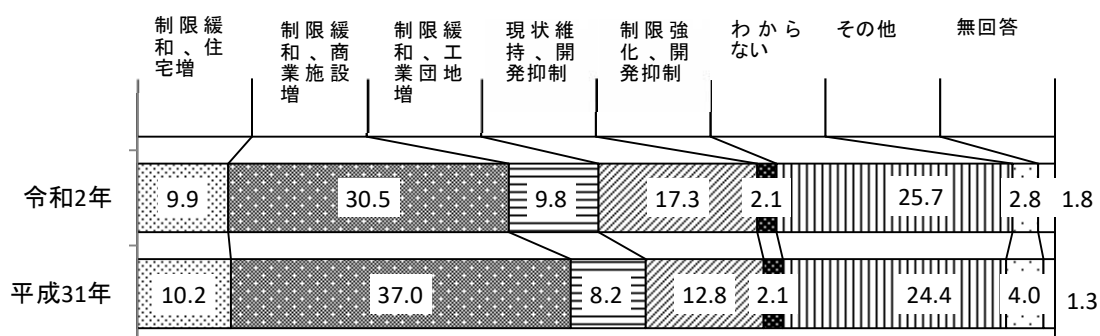
2. 土地利用について（問66）

合志市は、市の南側にある市街化区域を除いて、北側の市街化調整区域では原則的に土地利用が制限されています。今後の本市の発展に必要な対策はどのようなものと思われますか。

今後の市の発展のための土地利用対策については、「制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、商業施設を増やす」が30.5%と最も多く、「現状と同様の制限により、開発を抑制する」が17.3%で続く。

現状の制限を緩和すべきと考える人（「制限を緩和し、住宅を増やす」＋「制限を緩和し、商業施設を増やす」＋「制限を緩和し工業団地を増やす」）は50.2%と半数を占め、現状の制限を維持すべき17.3%、制限を強化すべき2.1%となっている。なお、わからないは25.7%となっている。

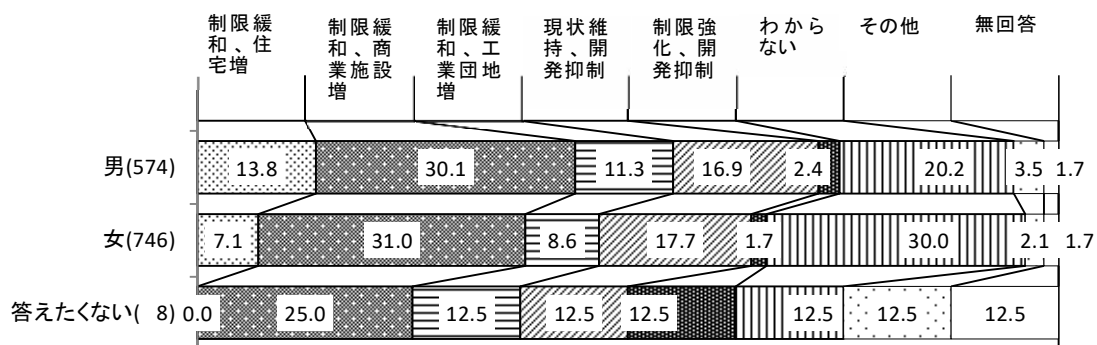
昨年度と比較して制限を緩和すべきと考える人は5ポイント減少、現状の制限を維持すべきが5ポイント上昇している。



	令和2年度		平成31年度	
	人	%	人	%
1 制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、住宅を増やす	132	9.9	114	10.2
2 制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、商業施設を増やす	406	30.5	413	37.0
3 制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、工業団地を増やす	130	9.8	92	8.2
4 現状と同様の制限により、開発を抑制する	230	17.3	143	12.8
5 制限を強化し、開発をさらに抑制する	28	2.1	23	2.1
6 わからない	342	25.7	272	24.4
7 その他	37	2.8	45	4.0
8 無回答	24	1.8	14	1.3
合計	1329	100.0	1116	100.0

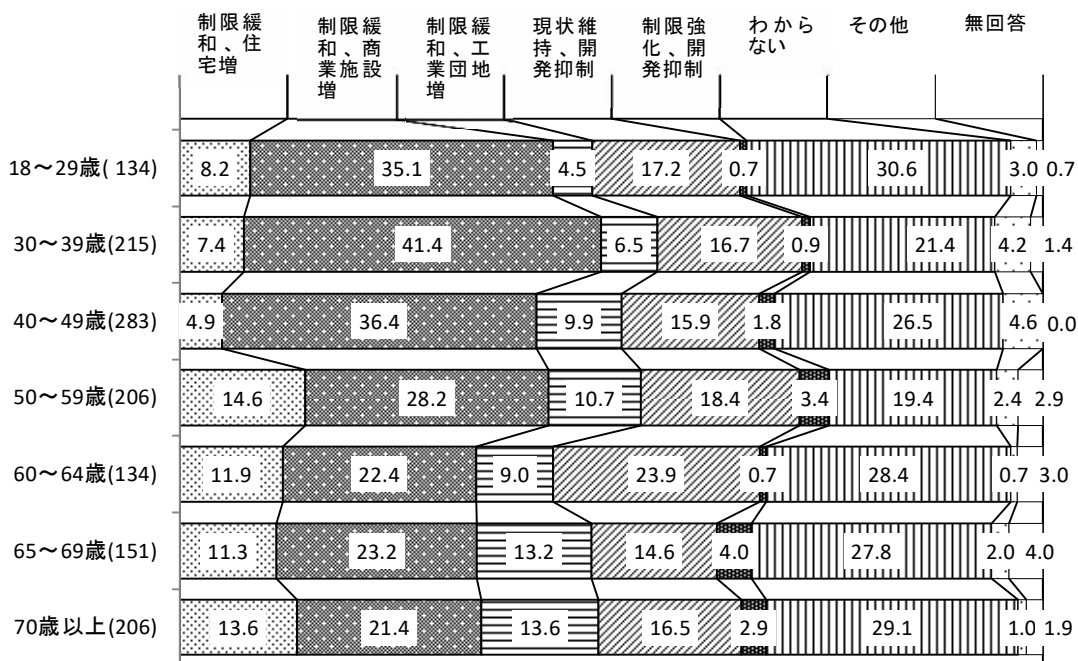
【性別】

- 男女ともに「制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、商業施設を増やす」が3割と最も多い。
- 制限を緩和すべきと考える人は、男性55.2%、女性46.7%と男性の方が多い。制限の強化や現状の制限を維持すべきと考える人に男女で大きな違いは見られない。女性では3割が「わからない」としている。



【年齢別】

- 40代以下の若い層では4割前後が「制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、商業施設を増やす」をあげている。
- 制限を緩和すべきと考える人は20代以下の若い層、60代以上の高齢者層では半数以下となっている。



【校区】

- いずれの校区でも「制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、商業施設を増やす」が最も多い。特に西合志中央小では4割弱と高い。
- 西合志第一小は回答者数が少ないため注意が必要ではあるが、「制限を緩和し、積極的に開発を誘導し、住宅を増やす」が27.5%と他に比べ高い。
- 合志小、合志南小、西合志南小、西合志東小では「現状と同様の制限により、開発を抑制する」が2割前後と他校区よりやや多くあげられている。

